福岡市埋蔵文化財調査報告書　第356集

席田青木遺跡　1

—空港前区画整理に伴う埋蔵文化財の調査—

1993

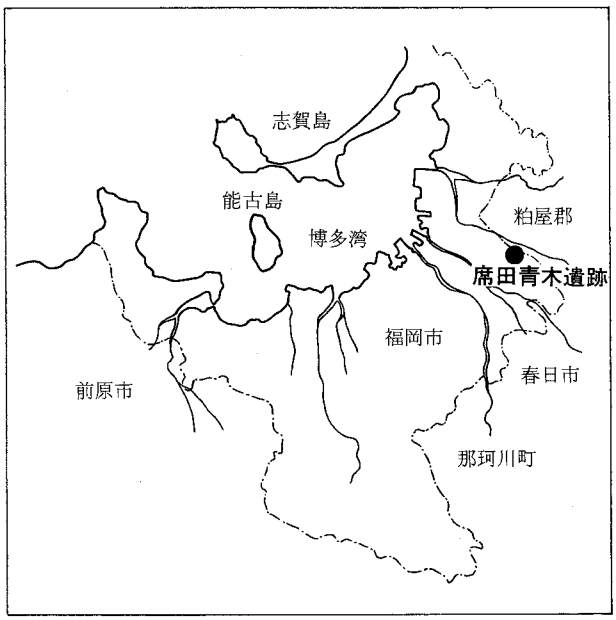
福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第356集

席田青木遺跡　1

むしろだ　あおき

—空港前区画整理に伴う埋蔵文化財の調査—



遺跡調査番号 9206
遺跡略号　MAK－1

1 9 9 3

福 岡 市 教 育 委 員 会

序

福岡平野東縁の月隈丘陵には、弥生時代から古墳時代を中心に、各時代の遺跡が数多く分布しています。本年３月地下鉄空港線が開通し、新交通体系の整備と相俟って、都心部に近い緑豊かなこの地域は住宅開発が活発化しているところです。

このたび、組合施行の空港前土地区画整理事業に先立って席田青木遺跡の一部を発掘調査いたしました。

調査の結果、弥生時代の甕棺墓地群、古墳時代後期の円墳、中世の城址、近世の墓地群など各時期の遺構・遺物が密度濃く発見されました。

本書は、これら発掘調査の成果を収録したものです。

本書が、埋蔵文化財に対する市民の方々のご理解、さらには学術研究上役立つことができれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、発掘調査から整理に至るまで福岡市空港前土地区画整理組合理事長平田泰輔氏、事務長上田昭司氏をはじめ組合員各位、設計・施工の株式会社拓研コンサルタント・株式会社森山組、本市都市整備局区画整理課など、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対し、心より感謝の意を表します。

平成５年８月

福岡市教育委員会

教育長　尾花　剛

例　言

1．本書は、組合施行の土地区画整理事業に伴い、受託及び国庫補助事業として福岡市教育委員会が1992（平成４）年４月６日から同年10月15日にかけて発掘調査を実施した、席田青木遺跡の第１次緊急発掘調査報告書である。

2．国庫補助を受けて発掘調査を実施した範囲は、全調査区の内第１区がこれに相当する。

3．福岡市域内には青木遺跡という名称が２箇所存在するので、混乱を避けるため西区今宿青木遺跡はそのまま青木遺跡（ＡＯＫ）とし、今回調査の博多区（旧席田村）に所在する青木遺跡は席田青木遺跡（ＭＡＫ）とすることにした。

4．遺構の呼称は記号化し、甕棺墓→Ｋ、土壙墓→Ｄ、土坑→SK、溝→SDとした。古墳は１基のみであったので１号墳とし、近世墓は記号を付けずにそのまま号数を付した。弥生墳墓群、土坑・溝、近世墓群はそれぞれで連番となっているが、遺跡全体としては連番となっていない。

5．本書に使用した遺構図作成は、下村　智、大庭康時、上方高弘、黒田和生、英　豪之、奈良康正、小林真由美、吉田香代、豊田記美代が行った。現場写真は、下村、上方が撮影した。遺物実測図は、下村、上方、吉田が作成した。また、整図は、下村、上方、鳥飼悦子、宮原つや子、末次由紀恵、長浦芙美子、茨木式子、塩沢美子、安野　良、福田則子、伊藤美紀が行った。図版作成は室以佐子、酒井香代子があたった。遺物写真の撮影は上方高弘による。

6．本書で用いる遺構の方位は全て磁北である。また、レベル高は席田小学校設置のＨ＝15,6968m（国土地理院高）から移動した。

7．席田青木遺跡第１次調査に係る遺物・記録類（図面、写真、スライドなど）は、報告終了後、福岡市埋蔵文化財センターで収蔵・管理される予定である。なお、本報告では、既に消滅した遺構の図をより多く掲載し、現在保管している遺物の図については代表的なものを掲載している。諸般の都合上、現地で作成した記録類及び整理作業で作成した記録類の掲載を一部割愛せざるを得なかった。これらの記録類も合わせて収蔵する予定であるのでご利用願いたい。

8．弥生墳墓及び近世墓から出土した人骨、近世墓副葬の銭貨についてはそれぞれ専門の立場での分析結果を掲載している。

9．本書の執筆・編集は下村が行った。

遺跡調査番号	9206	遺跡略号	ＭＡＫ			
調査地地籍	博多区空港前３～５丁目，青木１～２丁目			分布地図番号	022－Ａ－２	
開発面積	41,000㎡	調査対象面積	4,830㎡	調査実施面積	5,360㎡	
調査期間	1992年４月６日～1992年10月15日			事前審査番号	3-639	

本　文　目　次

序
Ⅰ　はじめに …… 1
　1　調査に至る経過 …… 1
　2　調査の組織 …… 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 3
Ⅲ　調査の記録 …… 5
　1　調査概要 …… 5
　2　弥生時代の墳墓 …… 8
　　ⅰ）甕棺墓 …… 8
　　ⅱ）土壙墓・木棺墓 …… 26
　　ⅲ）出土遺物 …… 49
　　ⅳ）その他の遺構 …… 49
　3　古墳時代の墳墓 …… 53
　　ⅰ）第１号墳 …… 53
　　ⅱ）石蓋土壙墓 …… 58
　4　中世城・溝 …… 58
　　ⅰ）中世城 …… 58
　　ⅱ）溝 …… 59
　5　近世墓 …… 59
　　ⅰ）第２区の近世墓 …… 59
　　ⅱ）第５区の近世墓 …… 62
Ⅳ　小結 …… 117
席田青木遺跡の六道銭（櫻木晋一　九州帝京短期大学）…… 119
福岡市席田青木遺跡出土の弥生・近世人骨（中橋孝博　九州大学医学部第二解剖）…… 129

挿　図　目　次

Fig. 1　周辺遺跡分布図（1/25,000）…… 2
Fig. 2　席田青木遺跡位置図 …… 4
Fig. 3　調査区採集石器実測図（1/1）…… 6
Fig. 4　第1区遺構分布図（1/200）…… 折込
Fig. 5　K－1～5甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 7
Fig. 6　第2区遺構分布図（1/200）…… 折込
Fig. 7　K－6～11・13～15・17甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 9
Fig. 8　K－12・16・18～20甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 10
Fig. 9　K－22～27・29甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 12
Fig. 10　第3区遺構分布図（1/200）…… 折込
Fig. 11　K－28・34～37甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 13
Fig. 12　K－33・38～40・42甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 14
Fig. 13　K－41・43・46・48甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 15
Fig. 14　K－47・49～52甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 16
Fig. 15　K－53～59甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 17
Fig. 16　K－60～62・64・68甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 18
Fig. 17　K－67・69・71～73甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 19
Fig. 18　K－77～79・81・87甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 20
Fig. 19　K－86・88・113・114甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 21
Fig. 20　第4区・6区遺構分布図（1/200）…… 折込
Fig. 21　K－94・95・97・103・104・111・115甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 23
Fig. 22　K－96・98・101甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 24
Fig. 23　K－99・100・102甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 25
Fig. 24　第5区遺構分布図（1/200）…… 折込
Fig. 25　K－127～130・135・136甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 27
Fig. 26　K－132～134・138・139甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 28
Fig. 27　K－131・137・140・143～145甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 29
Fig. 28　K－121・122・141・146～148・150甕棺墓出土状況実測図（1/30）…… 30
Fig. 29　K－123・D－30甕棺墓・土壙墓出土状況実測図（1/30）…… 31
Fig. 30　D－31・32・44・63土壙墓出土状況実測図（1/30）…… 33
Fig. 31　D－45・66・70・74・75・90土壙墓出土状況実測図（1/30）…… 34
Fig. 32　K－65・76・92土壙墓出土状況実測図（1/30）…… 35
Fig. 33　D－80・82・83・91・118土壙墓出土状況実測図（1/30）…… 36

Fig. 34　D－84・85・89・93・112土壙墓出土状況実測図（1/30）…… 37
Fig. 35　D－105・106・119土壙墓出土状況実測図（1/30）…… 38
Fig. 36　D－108～110土壙墓・木棺墓出土状況実測図（1/30）…… 39
Fig. 37　D－117・120土壙墓出土状況実測図（1/30）…… 40
Fig. 38　D－151～155土壙墓出土状況実測図（1/30）…… 41
Fig. 39　D－156～161土壙墓出土状況実測図（1/30）…… 42
Fig. 40　D－124～126土壙墓出土状況実測図（1/30）…… 43
Fig. 41　SK01・02・11・12土坑出土状況実測図（1/30）…… 44
Fig. 42　K－50・72甕棺実測図（1/10）…… 45
Fig. 43　K－77・100甕棺実測図（1/10）…… 46
Fig. 44　K－38・81・96・99甕棺実測図（1/10）…… 47
Fig. 45　K－59・60・71・78・87甕棺実測図（1/6）…… 48
Fig. 46　弥生墳墓出土遺物実測図（1/2）…… 49
Fig. 47　第1号墳石室実測図（1/60）…… 54
Fig. 48　第1号墳出土遺物実測図(1)（1/3）…… 55
Fig. 49　第1号墳出土遺物実測図(2)（1/2・1/3）…… 56
Fig. 50　D－116・SD03・09・10・13石蓋土壙墓出土状況・
　　溝土層堆積状況実測図（1/30・1/60）…… 57
Fig. 51　第2区近世墓分布図（1/150）…… 60・61
Fig. 52　第5区近世墓分布図（1/150）…… 折込
Fig. 53　近世墓副葬遺物実測図(1)（1/3）…… 76
Fig. 54　近世墓副葬遺物実測図(2)（1/3）…… 77
Fig. 55　近世墓副葬遺物実測図(3)（1/3）…… 78
Fig. 56　近世墓副葬遺物実測図(4)（1/3）…… 79
Fig. 57　近世墓副葬遺物実測図(5)（1/3・1/6）…… 80
Fig. 58　近世墓副葬遺物実測図(6)（1/3・1/6）…… 81
Fig. 59　近世墓副葬遺物実測図(7)（1/3・1/6）…… 82
Fig. 60　近世墓甕棺実測図(1)（1/12）…… 93
Fig. 61　近世墓甕棺実測図(2)（1/12）…… 94
Fig. 62　近世墓甕棺実測図(3)（1/12）…… 95
Fig. 63　近世墓甕棺実測図(4)（1/12）…… 96
Fig. 64　近世墓甕棺実測図(5)（1/12）…… 97
Fig. 65　近世墓甕棺実測図(6)（1/12）…… 98

図　版　目　次

図版 1　（弥生時代）K－77号（♂・熟年）
（江戸時代）357号（♂・成年）
図版 2　（江戸時代）500号（♂・熟年）
（江戸時代）412号（♂・熟年）
図版 3　（江戸時代）12号（♀・成年）
279号（♂・老年）
514号（♂・成年）
図版 4　292号（♂・老年）
147号（♀・老年）
316号（♂・成年）
PL. 1　(1)　調査区鳥瞰（左上は福岡空港ターミナル）
(2)　第 1 区全景（北から）
PL. 2　(1)　第 1 区甕棺群出土状況（北から）
(2)　K－01出土状況（西から）
PL. 3　(1)　K－02出土状況（東から）
(2)　K－03出土状況（東から）
PL. 4　(1)　K－04出土状況（東から）
(2)　K－05出土状況（西から）
PL. 5　(1)　第 2 区遺構検出状況（北から）
(2)　第 2 区甕棺墓分布状況全景（南西から）
PL. 6　(1)　K－06出土状況（南から）
(2)　K－08出土状況（東から）
PL. 7　(1)　K－09出土状況（北から）
(2)　K－11出土状況（南から）
PL. 8　(1)　K－12出土状況（東から）
(2)　K－13出土状況（東から）
PL. 9　(1)　K－15出土状況（東から）
(2)　K－18出土状況（東から）
PL. 10　(1)　第 3 ・ 4 区全景（南から）
(2)　第 3 区全景（北から）
PL. 11　(1)　K－22出土状況（南から）
(2)　K－23出土状況（南西から）
PL. 12　(1)　K－24出土状況（南から）
(2)　K－25出土状況（南から）
PL. 13　(1)　K－26出土状況（南から）
(2)　K－26石戈出土状況（南から）
PL. 14　(1)　K－28出土状況（西から）
(2)　K－33出土状況（南から）
PL. 15　(1)　K－34出土状況（東から）
(2)　K－36出土状況（西から）
PL. 16　(1)　K－38出土状況（西から）
(2)　K－38人骨出土状況（西から）
PL. 17　(1)　K－41出土状況（東から）
(2)　K－43出土状況（西から）
PL. 18　(1)　K－46出土状況（北から）
(2)　K－47出土状況（南西から）
PL. 19　(1)　K－48出土状況（西から）
(2)　K－49出土状況（西から）
PL. 20　(1)　K－50出土状況（西から）
(2)　K－51出土状況（北西から）
PL. 21　(1)　K－52出土状況（南から）
(2)　K－53出土状況（南から）
PL. 22　(1)　K－54出土状況（南から）
(2)　K－55出土状況（北から）
PL. 23　(1)　K－56出土状況（南から）
(2)　K－57出土状況（西から）
PL. 24　(1)　K－58出土状況（北西から）
(2)　K－59・60出土状況（南から）
PL. 25　(1)　K－61出土状況（北東から）
(2)　K－64出土状況（南から）
PL. 26　(1)　K－68出土状況（南西から）
(2)　K－69出土状況（西から）
PL. 27　(1)　K－72出土状況（南から）
(2)　K－77出土状況（東から）
PL. 28　(1)　K－77甕棺埋置状況（南から）
(2)　K－77人骨出土状況（東から）
PL. 29　(1)　K－77人骨出土状況（南から）

(2) K－78出土状況（南から）
PL. 30 (1) K－79出土状況（西から）
(2) K－81出土状況（南から）
PL. 31 (1) K－86出土状況（南から）
(2) K－87出土状況（北から）
PL. 32 (1) K－88出土状況（南から）
(2) K－111出土状況（南から）
PL. 33 (1) K－113出土状況（南から）
(2) K－114出土状況（西から）
PL. 34 (1) 第4区全景（南から）
(2) 第4区全景（北から）
PL. 35 (1) K－96出土状況（南から）
(2) K－97出土状況（北から）
PL. 36 (1) K－98出土状況（東から）
(2) K－99出土状況（南から）
PL. 37 (1) K－100出土状況（東から）
(2) K－100出土状況（南から）
PL. 38 (1) K－101出土状況（南から）
(2) K－102出土状況（南から）
PL. 39 (1) K－103出土状況（東から）
(2) K－104出土状況（東から）
PL. 40 (1) 第5区遠景（東から）
(2) 第5区甕棺墓分布状況全景（西から）
PL. 41 (1) K－127出土状況（西から）
(2) K－128出土状況（南から）
PL. 42 (1) K－129出土状況（南から）
(2) K－130出土状況（南から）
PL. 43 (1) K－131出土状況（南から）
(2) K－132出土状況（南から）
PL. 44 (1) K－134出土状況（南から）
(2) K－135出土状況（南から）
PL. 45 (1) K－136出土状況（南から）
(2) K－137出土状況（南東から）
PL. 46 (1) K－138出土状況（西から）
(2) K－139出土状況（西から）
PL. 47 (1) K－143出土状況（東から）
(2) K－148出土状況（北から）
PL. 48 (1) 第4・6区遠景（南から）
(2) 第6区全景（西から）
PL. 49 (1) K－122出土状況（西から）
(2) K－123出土状況（西から）
PL. 50 (1) D－30出土状況（南から）
(2) D－30人骨出土状況（南から）
PL. 51 (1) D－31出土状況（南から）
(2) D－32出土状況（南から）
PL. 52 (1) D－44出土状況（西から）
(2) D－45出土状況（北から）
PL. 53 (1) D－63出土状況（西から）
(2) D－65出土状況（北から）
PL. 54 (1) D－66出土状況（東から）
(2) D－70出土状況（西から）
PL. 55 (1) D－74出土状況（西から）
(2) D－75出土状況（東から）
PL. 56 (1) D－76出土状況（北から）
(2) D－80出土状況（南から）
PL. 57 (1) D－82出土状況（北から）
(2) D－83出土状況（南から）
PL. 58 (1) D－84出土状況（北から）
(2) D－85出土状況（南東から）
PL. 59 (1) D－89出土状況（北から）
(2) D－90出土状況（東から）
PL. 60 (1) D－92出土状況（東から）
(2) D－93出土状況（東から）
PL. 61 (1) D－112出土状況（南から）
(2) D－118出土状況（北から）
PL. 62 (1) D－116石蓋土壙墓出土状況（北西から）
(2) D－116墓壙出土状況（北西から）
PL. 63 (1) D－105出土状況（西から）
(2) D－106出土状況（北から）
PL. 64 (1) D－107出土状況（北から）
(2) D－108出土状況（東から）

PL. 65 (1) D－109出土状況（東から）
(2) D－109磨製石鏃出土状況（東から）
PL. 66 (1) D－110出土状況（東から）
(2) D－117出土状況（北から）
PL. 67 (1) D－152出土状況（西から）
(2) D－155出土状況（東から）
PL. 68 (1) D－157出土状況（西から）
(2) D－158出土状況（南から）
PL. 69 (1) D－124出土状況（東から）
(2) D－125出土状況（北から）
PL. 70 (1) SK01出土状況（北から）
(2) SK02出土状況（南から）
PL. 71 (1) SD03出土状況（南から）
(2) SD03北側土層堆積状況（北から）
PL. 72 (1) SD09出土状況（西から）
(2) SD09土層堆積状況（東から）
PL. 73 (1) SD10出土状況（西から）
(2) SD10土層堆積状況（南から）
PL. 74 (1) SD13出土状況（北から）
(2) SD13土層堆積状況（東から）
PL. 75 (1) 1号墳出土状況（東から）
(2) 1号墳石室土層堆積状況（東から）
PL. 76 (1) 1号墳奥壁石積状況（南から）
(2) 1号墳東側壁石積状況（西から）
PL. 77 (1) 1号墳遺物出土状況（東から）
(2) 1号墳遺物出土状況（東から）
PL. 78 (1) 1号墳鉄器（F－1）出土状況
(2) 1号墳鉄器（F－2）出土状況
PL. 79 (1) 第2区近世墓分布状況全景（西から）
(2) 1号墓出土状況（西から）
(3) 8号墓出土状況（北から）
PL. 80 (1) 2号墓出土状況（南から）
(2) 2号墓人骨出土状況（南から）
(3) 3号墓出土状況（東から）
(4) 3号墓人骨出土状況（東から）
(5) 4号墓出土状況（西から）
(6) 4号墓人骨出土状況（西から）
PL. 81 (1) 5号墓出土状況（南から）
(2) 5号墓人骨出土状況（西から）
(3) 6号墓石蓋出土状況（北から）
(4) 6号墓出土状況（北から）
(5) 7号墓出土状況（西から）
(6) 7号墓人骨出土状況（西から）
PL. 82 (1) 9号墓出土状況（北から）
(2) 9号墓人骨出土状況（西から）
(3) 10号墓出土状況（東から）
(4) 10号墓人骨出土状況（東から）
(5) 11号墓出土状況（東から）
(6) 11号墓人骨出土状況（東から）
PL. 83 (1) 12号墓出土状況（北から）
(2) 12号墓人骨出土状況（北から）
(3) 13号墓出土状況（東から）
(4) 14号墓出土状況（西から）
(5) 15号墓石蓋出土状況（西から）
(6) 15号墓人骨出土状況（南から）
PL. 84 (1) 20号墓出土状況（北から）
(2) 20号墓人骨出土状況（北から）
(3) 25号墓出土状況（東から）
(4) 25号墓人骨出土状況（東から）
(5) 26号墓出土状況（東から）
(6) 26号墓人骨出土状況（東から）
PL. 85 (1) 27号墓出土状況（南から）
(2) 27号墓人骨出土状況（南から）
(3) 29号墓出土状況（西から）
(4) 29号墓人骨出土状況（西から）
(5) 35号墓石蓋出土状況（西から）
(6) 35号墓出土状況（東から）
PL. 86 (1) 36号墓出土状況（北から）
(2) 36号墓人骨出土状況（北から）

(3) 39号墓上部人骨出土状況（北から）
(4) 39号墓出土状況（西から）
(5) 39号墓下部人骨出土状況（西から）
(6) 40号墓石蓋出土状況（西から）

PL. 87 (1) 44号墓出土状況（東から）
(2) 44号墓人骨出土状況（東から）
(3) 45号墓出土状況（東から）
(4) 45号墓人骨出土状況（東から）
(5) 47号墓出土状況（南から）
(6) 48号墓出土状況（南から）

PL. 88 (1) 49号墓出土状況（北から）
(2) 49号墓人骨出土状況（北から）
(3) 54号墓出土状況（北から）
(4) 54号墓人骨出土状況（北から）
(5) 58号墓出土状況（西から）
(6) 58号墓人骨出土状況（西から）

PL. 89 (1) 64号墓出土状況（東から）
(2) 64号墓人骨出土状況（東から）
(3) 65号墓出土状況（南から）
(4) 65号墓人骨出土状況（南から）
(5) 69号墓出土状況（東から）
(6) 69号墓人骨出土状況（東から）

PL. 90 (1) 79号墓出土状況（西から）
(2) 79号墓人骨出土状況（西から）
(3) 80号墓出土状況（西から）
(4) 80号墓人骨出土状況（西から）
(5) 81号墓石蓋出土状況（北から）
(6) 81号墓人骨出土状況（北から）

PL. 91 (1) 82号墓出土状況（西から）
(2) 82号墓人骨出土状況（西から）
(3) 90号墓出土状況（南から）
(4) 90号墓出土状況（南から）
(5) 100号墓出土状況（西から）
(6) 100号墓人骨出土状況（西から）

PL. 92 (1) 101号墓出土状況（東から）
(2) 101号墓人骨出土状況（東から）
(3) 104号墓出土状況（南から）
(4) 104号墓人骨出土状況（南から）
(5) 115号墓出土状況（東から）
(6) 127号墓出土状況（東から）

PL. 93 (1) 118号墓出土状況（西から）
(2) 118号墓人骨出土状況（西から）
(3) 123号墓石蓋出土状況（東から）
(4) 123号墓出土状況（西から）
(5) 123号墓人骨出土状況（西から）
(6) 142号墓出土状況（南から）

PL. 94 (1) 147号墓石蓋出土状況（北から）
(2) 147号墓出土状況（南から）
(3) 147号墓人骨出土状況（南から）
(4) 157号墓人骨出土状況（西から）
(5) 159号墓石蓋出土状況（西から）
(6) 159号墓人骨出土状況（東から）

PL. 95 (1) 161号墓石蓋出土状況（南から）
(2) 161号墓出土状況（北から）
(3) 161号墓人骨出土状況（北から）
(4) 163号墓出土状況（西から）
(5) 162号墓出土状況（西から）
(6) 162号墓人骨出土状況（西から）

PL. 96 (1) 169号墓出土状況（東から）
(2) 169号墓人骨出土状況（東から）
(3) 178号墓出土状況（東から）
(4) 185号墓出土状況（東から）
(5) 186号墓石蓋出土状況（南から）
(6) 186号墓人骨出土状況（南から）

PL. 97 (1) 191号墓出土状況（北から）
(2) 191号墓人骨出土状況（北から）
(3) 204号墓出土状況（西から）
(4) 222号墓出土状況（西から）
(5) 219号墓出土状況（西から）
(6) 219号墓人骨出土状況（西から）

PL. 98 (1) 233号墓出土状況（南から）
(2) 233墓人骨出土状況（南から）

(3) 238号墓出土状況（西から）
(4) 238号墓人骨出土状況（西から）
(5) 243号墓出土状況（南から）
(6) 243号墓人骨出土状況（南から）
PL. 99 (1) 246号墓出土状況（西から）
(2) 246号墓人骨出土状況（西から）
(3) 249号墓出土状況（東から）
(4) 249号墓人骨出土状況（東から）
(5) 250号墓出土状況（西から）
(6) 250号墓人骨出土状況（西から）
PL. 100 (1) 251号墓出土状況（東から）
(2) 251号墓人骨出土状況（東から）
(3) 254～261号墓出土状況（北から）
(4) 255号墓出土状況（北から）
(5) 257号墓出土状況（北から）
(6) 261号墓出土状況（北から）
PL. 101 (1) 第5区近世墓分布状況全景（南から）
(2) 第5区近世墓分布状況全景（東から）
PL. 102 (1) 270号墓出土状況（南から）
(2) 270号墓人骨出土状況（南から）
(3) 271号墓人骨出土状況（南から）
(4) 272号墓出土状況（東から）
(5) 275号墓出土状況（南から）
(6) 276号墓出土状況（南から）
PL. 103 (1) 278号墓出土状況（南から）
(2) 280号墓出土状況（北から）
(3) 280号墓人骨出土状況（北から）
(4) 280号墓早桶底板出土状況（西から）
(5) 281号墓出土状況（西から）
(6) 281号墓人骨出土状況（西から）
PL. 104 (1) 283号墓出土状況（南から）
(2) 285号墓出土状況（南から）
(3) 286号墓出土状況（南から）
(4) 288号墓出土状況（南から）
(5) 289号墓出土状況（東から）
(6) 290号墓出土状況（南から）
PL. 105 (1) 291号墓出土状況（南から）
(2) 292号墓出土状況（南から）
(3) 294号墓出土状況（南から）
(4) 295号墓出土状況（南から）
(5) 296号墓出土状況（南から）
(6) 296号墓人骨出土状況（南から）
PL. 106 (1) 297号墓出土状況（南から）
(2) 308号墓出土状況（南から）
(3) 311号墓出土状況（東から）
(4) 315号墓出土状況（南から）
(5) 316号墓出土状況（南から）
(6) 316号墓人骨出土状況（北から）
PL. 107 (1) 317号墓出土状況（東から）
(2) 317号墓人骨出土状況（東から）
(3) 318号墓出土状況（南から）
(4) 321号墓出土状況（南から）
(5) 322号墓出土状況（南から）
(6) 322号墓人骨出土状況（南から）
PL. 108 (1) 326号墓出土状況（北から）
(2) 331号墓出土状況（東から）
(3) 332号墓出土状況（西から）
(4) 334号墓出土状況（東から）
(5) 335号墓出土状況（東から）
(6) 335号墓人骨出土状況（東から）
PL. 109 (1) 336号墓出土状況（南西から）
(2) 336号墓人骨出土状況（南西から）
(3) 346号墓石蓋出土状況（南から）
(4) 346号墓人骨出土状況（西から）
(5) 356号墓出土状況（南から）
(6) 356号墓人骨出土状況（南から）
PL. 110 (1) 357号墓出土状況（東から）
(2) 357号墓人骨出土状況（東から）
(3) 358号墓出土状況（南から）

(4) 359号墓出土状況（東から）
(5) 360号墓出土状況（東から）
(6) 360号墓人骨出土状況（東から）
PL. 111 (1) 361号墓出土状況（西から）
(2) 362号墓石蓋出土状況（西から）
(3) 362号墓出土状況（西から）
(4) 362号墓人骨出土状況（西から）
(5) 363号墓出土状況（南から）
(6) 363号墓人骨出土状況（南から）
PL. 112 (1) 364号墓出土状況（南から）
(2) 364号墓人骨出土状況（南から）
(3) 366号墓出土状況（南から）
(4) 366号墓人骨出土状況（南から）
(5) 377号墓出土状況（西から）
(6) 379号墓出土状況（西から）
PL. 113 (1) 382号墓出土状況（南から）
(2) 383号墓出土状況（南から）
(3) 385号墓出土状況（東から）
(4) 391号墓出土状況（南から）
(5) 392号墓出土状況（南から）
(6) 393号墓出土状況（南から）
PL. 114 (1) 395号墓出土状況（南から）
(2) 395号墓人骨出土状況（南から）
(3) 398号墓人骨出土状況（西から）
(4) 399号墓出土状況（北から）
(5) 400号墓石蓋出土状況（南から）
(6) 400号墓人骨出土状況（北から）
PL. 115 (1) 406号墓人骨出土状況（北から）
(2) 407号墓人骨出土状況（北から）
(3) 412号墓出土状況（北から）
(4) 412号墓人骨出土状況（北から）
(5) 448号墓石蓋出土状況（西から）
(6) 448号墓人骨出土状況（北から）
PL. 116 (1) 454号墓出土状況（東から）
(2) 472号墓石蓋出土状況（北から）
(3) 472号墓人骨出土状況（東から）
(4) 475号墓出土状況（南から）
(5) 476号墓人骨出土状況（南西から）
(6) 478号墓出土状況（東から）
PL. 117 (1) 500号墓出土状況（南から）
(2) 500号墓人骨出土状況（南から）
(3) 501号墓出土状況（南から）
(4) 501号墓人骨出土状況（北から）
(5) 502号墓出土状況（西から）
(6) 502号墓人骨出土状況（西から）
PL. 118 (1) 504号墓出土状況（南から）
(2) 524号墓人骨出土状況（南から）
(3) 506号墓出土状況（東から）
(4) 506号墓人骨出土状況（東から）
(5) 507号墓出土状況（南から）
(6) 507号墓人骨出土状況（南から）
PL. 119 (1) 509号墓石蓋出土状況（西から）
(2) 509号墓人骨出土状況（西から）
(3) 514号墓出土状況（南から）
(4) 514号墓人骨出土状況（西から）
(5) 515号墓出土状況（南から）
(6) 523号墓出土状況（南から）
PL. 120 出土遺物(1)弥生墳墓　古墳副葬品
PL. 121 出土遺物(2)近世墓副葬品
PL. 122 出土遺物(3)近世陶磁器
PL. 123 近世墓碑(1)第2区
PL. 124 近世墓碑(2)第2区
PL. 125 近世墓碑(3)第2・5区（上段3基分は第2区）
PL. 126 近世墓碑(4)第5区
PL. 127 近世墓碑(5)第5区（右下4基は近世墓甕棺）
PL. 128 近世墓甕棺(1)
PL. 129 近世墓甕棺(2)
PL. 130 近世墓甕棺(3)刻印・補修・墨書

表　目　次

Tab. 1　甕棺墓一覧表 …… 50・51
Tab. 2　土壙墓一覧表 …… 52
Tab. 3　近世墓一覧表 …… 63～71
Tab. 4　遺物一覧表 …… 79～82
Tab. 5　近世墓甕棺一覧表 …… 90
Tab. 6　数珠玉計測一覧表 …… 91～92
Tab. 7　近世墓碑一覧表 …… 93～98

付　図　目　次

付図 1　席田青木遺跡調査区範囲図（1/1,000）
付図 2　席田青木遺跡遺構配置図（1/400）

Ⅰ　はじめに

1　調査に至る経過

1991（平成３）年６月12日付都整505号で、福岡市都市整備局区画整理課から福岡市博多区空港前３～５丁目、青木１～２丁目地内における土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財事前審査願が市教育委員会埋蔵文化財課に提出された。埋蔵文化財課では、造成予定地が青木遺跡群に隣接していること、過去甕棺群が出土したと伝えられる同一丘陵に位置することなどから、同様な遺構の存在が推察されたため、事前に試掘調査が必要であると判断した。現地伐開後、10月15日に現地踏査を行い、関係者と協議のうえ10月22、23日の両日で試掘調査を実施した。試掘調査の結果、丘陵尾根線を追う形で300ｍ強の試掘溝から、28基の甕棺墓、尾根を切断する方向に掘られた溝２条、その他の溝３条が検出された。また、丘陵上３箇所には近世墓地が営まれ、丘陵頂部の幅広の溝上面からは須恵器片が出土した。弥生時代の甕棺墓、古墳時代の遺構、近世墓地と各時期の遺構が濃密に分布していることが明らかとなった。遺構は、地表下30～50cmの花崗岩風化土及びこれが粘土化した基盤に掘り込まれ、範囲は丘陵尾根上約5,000㎡と推測された。そこで、試掘結果をもとに、関係者と遺跡の取り扱いについて度重なる協議を行い、造成で止む無く破壊される遺構については、事前に記録保存のための発掘調査を実施するということで平成４年３月４日に議決した。発掘調査は、換地分の20％が国庫補助事業、残りが福岡市空港前土地区画整理組合の受託事業として、1992（平成４）年４月６日から着手した。

2　調査の組織

調査委託：福岡市空港前土地区画整理組合　理事長　平田泰輔

調査主体：福岡市教育委員会　教育長　井口雄哉（前任）　　尾花　剛

調査総括：埋蔵文化財課長　折尾　学　埋蔵文化財第２係長　塩屋勝利（前任）　　山崎純男

調査庶務：埋蔵文化財第１係長　飛高憲雄（前任）　　横山邦継
埋蔵文化財第１係総括主任　中山昭則

事前審査：主任文化財主事　井澤洋一　文化財主事　吉武　学

調査担当：井澤洋一　吉武　学（試掘調査）　　埋蔵文化財第２係　文化財主事　下村　智

調査補助：上方高弘　黒田和生　英　豪之　奈良康正（専修大学大学院）　小林真由美（明治大学　現明治大学考古博物館学芸員）　吉田香代（別府大学　現福岡市立西陵高等学校講師）　豊田記美代（別府大学）

調査作業：杉原祐幸　高田　茂　仲田忠孝　徳永榮彦　山部増人　安高精一　永川カツエ　江嶋

1 **席田青木遺跡**
2 博多遺跡群
3 比恵遺跡群
4 那珂遺跡群
5 五十川遺跡群
6 諸岡B遺跡群
7 板付遺跡
8 金隈遺跡
9 席田赤穂ノ浦遺跡
10 席田久保園遺跡
11 席田大谷遺跡
12 宝満尾遺跡
13 下月隈天神森遺跡
14 雀居遺跡(第4・5地点)
15 雀居遺跡(第2・3地点)

Fig. 1　周辺遺跡分布図（1/25,000）

光子　川上すぎえ　黒瀬千鶴　嶋ヒサ子　菅野シゲ　長浦芙美子　永松トミ子　宮原つや子　村田トモヨ　安高久子　山下智子　山村スミ子　本多ナツ子　山本后代　室以佐子　高野瑛子　他

整理作業：上方高弘　広田恭文　安野　良　副田則子　江嶋光子　黒瀬千鶴　高野瑛子　山下智子　長浦芙美子　室以佐子　鳥飼悦子　宮原つや子　末次由紀恵　茨木式子　酒井香代子　持原良子　塩沢美子　吉田香代　他

Ⅱ　遺跡の立地と環境

席田青木遺跡は、福岡平野東縁を南東から北西に延びる月隈丘陵の北端近くに位置する。西側に開けた丘陵尾根上に広がり、標高20～41mを測る。四王寺山から派生する月隈丘陵は開析を多く受けた地形を呈し、幾重にも延びた舌状丘陵や独立丘陵が広がっている。これらの丘陵上には弥生時代を中心とする墓地や集落、古墳群が分布し、春日丘陵や筑紫野・小郡の丘陵部と良く似た地形を呈している。月隈丘陵の西側には福岡平野が広がり、御笠川や那珂川が北流して博多湾に注いでいる。

月隈丘陵に分布する遺跡群には主要なものが多い。弥生時代を中心に見てみると、席田青木遺跡の１km南側には席田大谷遺跡、久保園遺跡、赤穂ノ浦遺跡、宝満尾遺跡などが広がっている。大谷遺跡では、弥生時代後期の住居地内で小型鉄斧と青銅製鋤先が発見されている。また、第２次調査のＡ区から中国舶載鏡と考えられる鏡片も出土している。久保園遺跡は、大谷遺跡のすぐ西側にあたり、丘陵裾部に位置している。弥生時代から古墳時代の竪穴住居址５軒、掘立柱建物２棟、祭祀遺構と見られる土器溜などが発見されている。中でも弥生時代の大型建物跡は梁行が8.50～8.74m、桁行が14.10mと規模が非常に大きく、梁行側の柱間が５間（ま）、桁行側の柱間が８間（ま）で、建物中央部に棟持柱を持つという構造になっている。全く同様の建物が御笠川と那珂川に挟まれた那珂遺跡の第23次調査で出土しており注目される。那珂遺跡の建物の時期は弥生時代中期後半であった。久保園遺跡の南側隣接地には赤穂の浦遺跡が位置し、鹿の文様を持つ横帯文銅鐸の鋳型が出土している。さらに南側丘陵上には宝満尾遺跡が広がり、弥生時代の甕棺墓・土壙群が調査されている。その中の４号土壙墓から舶載の内行花文明光鏡が完形で発見されている。宝満尾遺跡の１km南側には下月隈Ｂ（宮ノ後）遺跡、上月隈遺跡などの甕棺墓地が分布し、さらに２km南側には金隈遺跡が位置している。450基を越える土壙墓・甕棺墓・石棺墓が発見され、1972（昭和47）年に国の史跡に指定されている。弥生時代前期から後期にかけての墓地の変遷が明らかになり、ゴホウラ製貝輪の副葬は弥生時代における南西諸島との繋がりを解き明かす重要な発見になった。

最近、福岡空港内の整備に伴う発掘調査が行われ、これまで遺跡の空白地帯であった空港内の

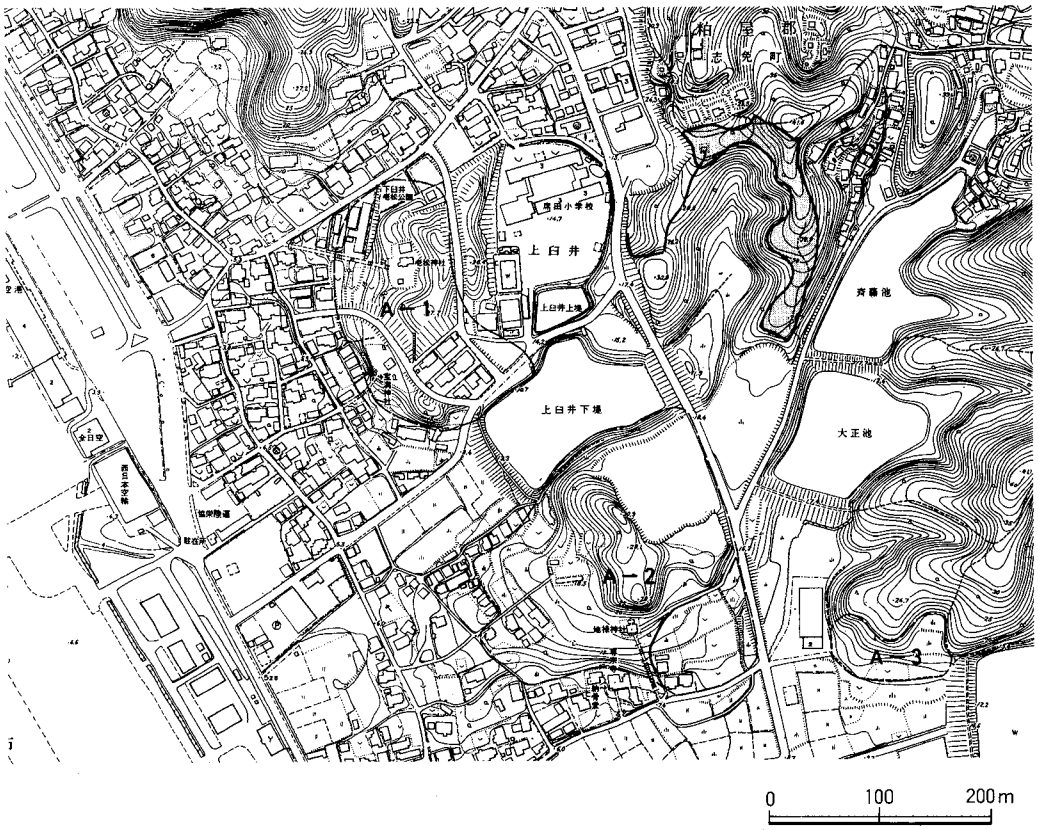


Fig. 2　席田青木遺跡位置図

遺跡の様子が一部明らかになった。福岡空港は、1944（昭和19）年旧陸軍の席田飛行場として開港したが、その造成工事にあって土器が多量に散布する地域が確認されており、遺跡の存在は早くから指摘されているところであった。空港東側はなだらかな舌状台地が削平されて造成されているので遺跡の存在は容易に想像つくが、西側の低い沖積地にも各時期の遺跡の広がりが明らかになったことは非常に重要である。因に、空港西側で発見された雀居（ささい）遺跡の内容は、縄文時代晩期終末期の夜臼式土器とそれに伴う木製の平鍬、諸手鍬、鋤、竪杵、磨製石斧柄などの農・工具が完形でしかもセットで発見されたこと、弥生時代後期の環濠を伴う掘立柱建物群と多量の木製農・工具、短甲、銅鏃、木鏃などの武器、小銅鐸の鋳造に使用する中子、儀式の時に使用したと考えられる組合式案や刳抜式案などがまとまって出土していることである。調査地点は標高6.5mの沖積微高地の一部で、遺跡自体は東側に大きく拡大するものと考えられる。つまり、丘陵部に展開する主要な遺跡群は、広大な平野部の遺跡群と何らかの形で連動して展開しているものと推察されるのであり、今後の検討が必要になろう。

Ⅲ　調査の記録

1　調査概要

先ず、簡単に調査の経過について触れておきたい。協議の過程で発掘調査は造成工事と並行して行うということになっていたので、全調査区を大きく6区に区分し、調査が終了した時点で工事側に引き渡すという方法を採ることにした。したがって、全調査区の全景は残念ながら撮影することができなかった。

第1区は4月6日から着手した。重機による表土剝ぎを行い、その後、人力による遺構確認を行った。甕棺墓5基、土坑1基、その他段落ちの溝などが確認された。調査はほぼ4月一杯で終了し、6月6日に引き渡した。その間4月13日に引越を実施し、現場設営を行った。

第2区は、第1区表土剝ぎの連続で4月9日から着手した。試掘で散乱した弥生時代の甕棺を集め、頂部にある近世墓碑・甕の移動を行う。表土剝ぎで逃げ場を失ったマムシや青大将が墓石の下に隠れていた。調査現場は既に近くまで切り土が行われており、周囲は数mから10数mの法面になっていたので、表土剝ぎと並行して安全ネットの外棚を設けた。4月16日から人力による遺構確認を行う。頂部には弥生時代の甕棺墓と近世墓壙が分布し、南側斜面には大きな溝が検出できた。6月17日には16基の弥生時代の甕棺墓と4条の溝、261基の近世墓が掘り上がり、記録をとって7月6日に引き渡した。その間、5月22日から6月3日の間に墓碑銘の読み取りを行い、古い墓碑については5月27日に個別写真を撮影した。江戸初期から中期にかけての墓石が多数確認され、近世墓の造営開始時期を示していると考えられた。各墓壙には人骨が残存しており、九州大学医学部第2解剖の中橋孝博先生に取り上げをお願いし、形質人類学上の計測に耐える人骨については分析を依頼した。

第3区の表土剝ぎは、第2区の表土剝ぎ終了後引き続き4月15日から着手した。浅い表土を除去すると半截された小児棺が現われ、その下に成人棺と考えられる墓壙が次々に確認された。4月22日から人力による遺構確認を行い、60基以上の墓壙が確認できた。試掘調査の結果通りかなりの数の甕棺墓が存在すると推測された。5月22日甕棺墓の墓壙と考えて調査を進めていた壙が木蓋の土壙墓と判明し、月隈丘陵で発見された他の遺跡と同様に土壙墓も存在することが明らかとなった。6月11日にはK－26から石戈の先端部が出土し、8月にはいってK－77に保存良好な人骨の遺存が分かり8月6日に取り上げを行った。第3区には古墳時代後期の円墳が1基発見されたので甕棺墓と並行して調査を進めた。これより先の8月1日に第3区の南側10m分を工事工程上引き渡してほしい旨の要請があり、それに応じたためバックフォーのバケットが1～2mまで迫った中で実測を余儀なくさせられた。第3区からは甕棺墓55基、土壙墓24基、石蓋土壙墓1

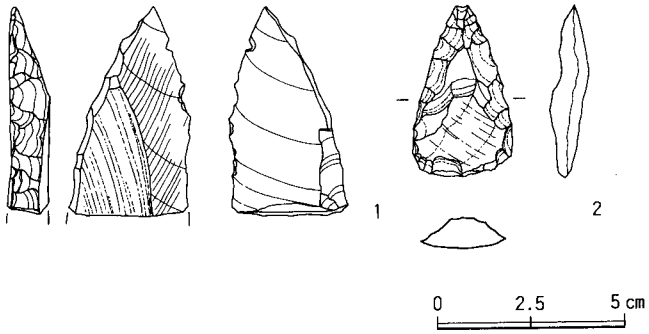


Fig. 3　調査区採集石器実測図（1/1）

基、古墳1基、溝3条の遺構が発見され、8月20日に調査終了し工事側に引き渡した。

第4区は4月18日に表土剝ぎを開始し、遺構確認はやや遅れて6月12日から実施した。削り出しで方形の墳丘墓状に整形しており、中心部に大型の掘方を持つ甕棺が存在した。周りの土壙墓・木棺墓も規則正しく配列されていた。調査終了は第3区と同じ8月20日であった。遺構は、甕棺墓11基、土壙墓8基である。全体的に調査区の中では古手に属する甕棺群が多かった。

第5区は、7月14日から人力による遺構確認を開始した。第5区は第2区と同様頂部に近世墓壙が数多く発見され、墓碑も西側の斜面にに散乱していた。墓壙は、長方形と円形が存在し、西側段下は激しい切り合いになっていた。7月25日に長方形墓壙のひとつを掘り下げたところ、北頭顔西向の右側臥屈葬の人骨が残っており小柄が副葬されていた。時期的に古い墓の存在が明らかとなり、中世末から江戸初期には既に墓地の造営が始まっていたものと推察される。8月28日から9月23日にかけては時間を見付けて墓碑銘の読み取り調査を行い、9月30に弥生時代の甕棺墓の調査を終了した。その後、全体的な記録をとって10月4日に現地調査を終了した。調査遺構は甕棺墓24基、土壙墓11基、溝4条、近世墓306基であった。

第6区は、第4区と第5区に挟まれた最高所に位置し、8月10日から調査に着手した。頂部は中世城の跡と考えられ方形に整形が施されている。甕棺墓3基、木棺墓3基、溝・土坑が合わせて5基出土している。9月8日に調査を終了して工事関係者に引き渡している。

10月5日には機材の撤収を開始し、10月9日にはプレハブの調査事務所を解体した。その間、10月1日から近世墓に使用された大甕の実測を行っており、最終的には10月15日で終了し全調査を完了した。なお、調査期間中、九州帝京短期大学助教授櫻木晋一氏、愛媛大学助教授田崎博之氏、文化庁調査官松村恵司氏、奈良国立文化財研究所工楽善通氏、韓国国立文化財研究所鄭桂玉女史、韓国国立環境研究院呉壽太氏、九州大学講師中橋孝博氏、慶應義塾大学教授鈴木公雄氏、港区教育委員会高山優氏、別府大学教授賀川光夫氏、九州大学教授西谷正氏、日本考古学協会委員長横山浩一氏他委員20名の御来訪を受け御指導を賜わった。また、福岡県教育委員会をはじめ近隣市町村教育委員会の文化財担当者の御来跡を受け暖かい励ましを頂いた。6月10日には席田小学校5年生全員の見学があり、夜須町で開催された全国植樹祭に際し、空港警備の山狩が4月20日から4回に亘り、県警機動隊によって実施された。

弥生時代の項目にはいる前に調査区内で採集した石器を紹介しておきたい。Fig. 3－1はナイ

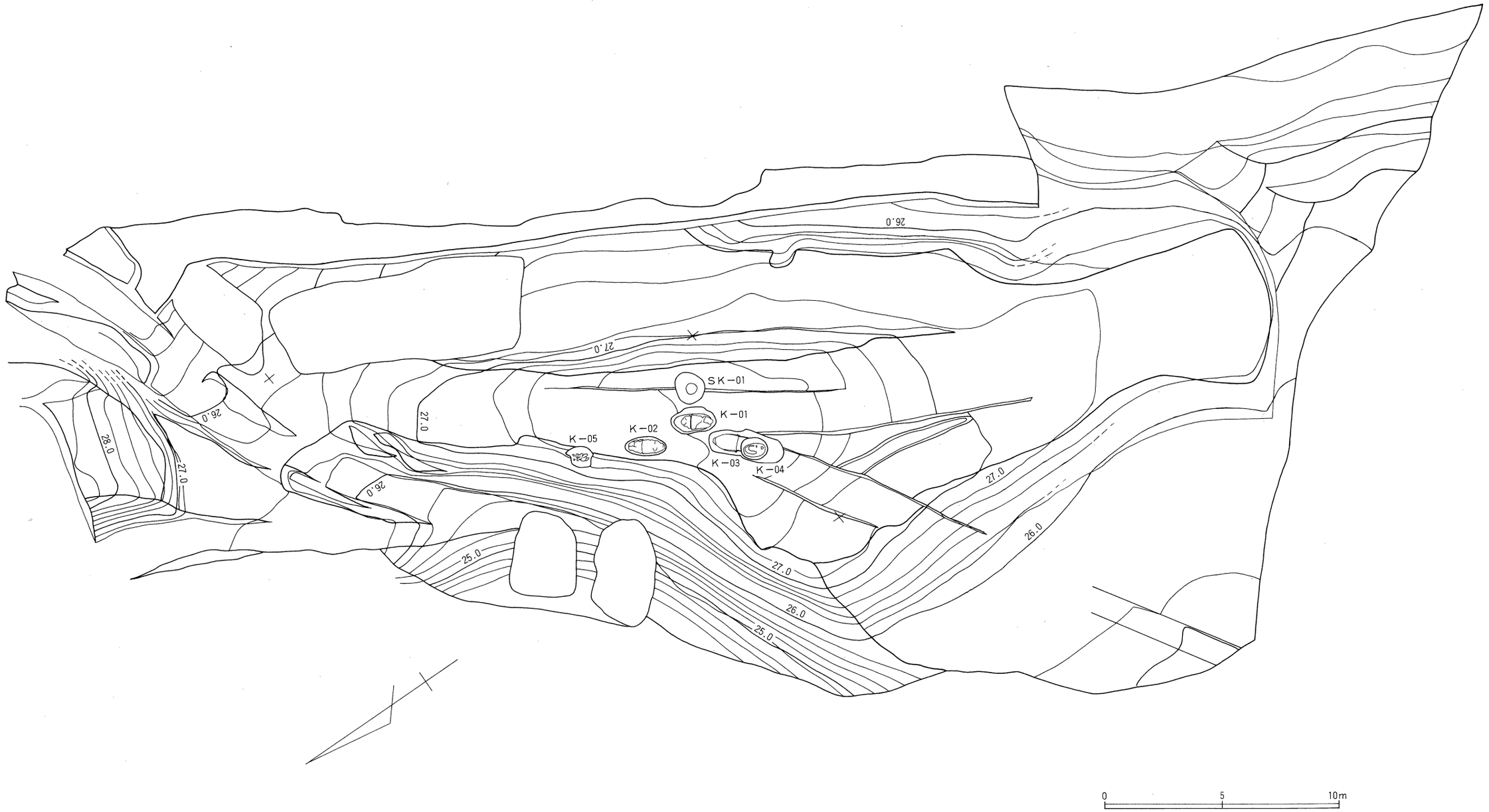


Fig. 4　第１区遺構分布図（１/200）

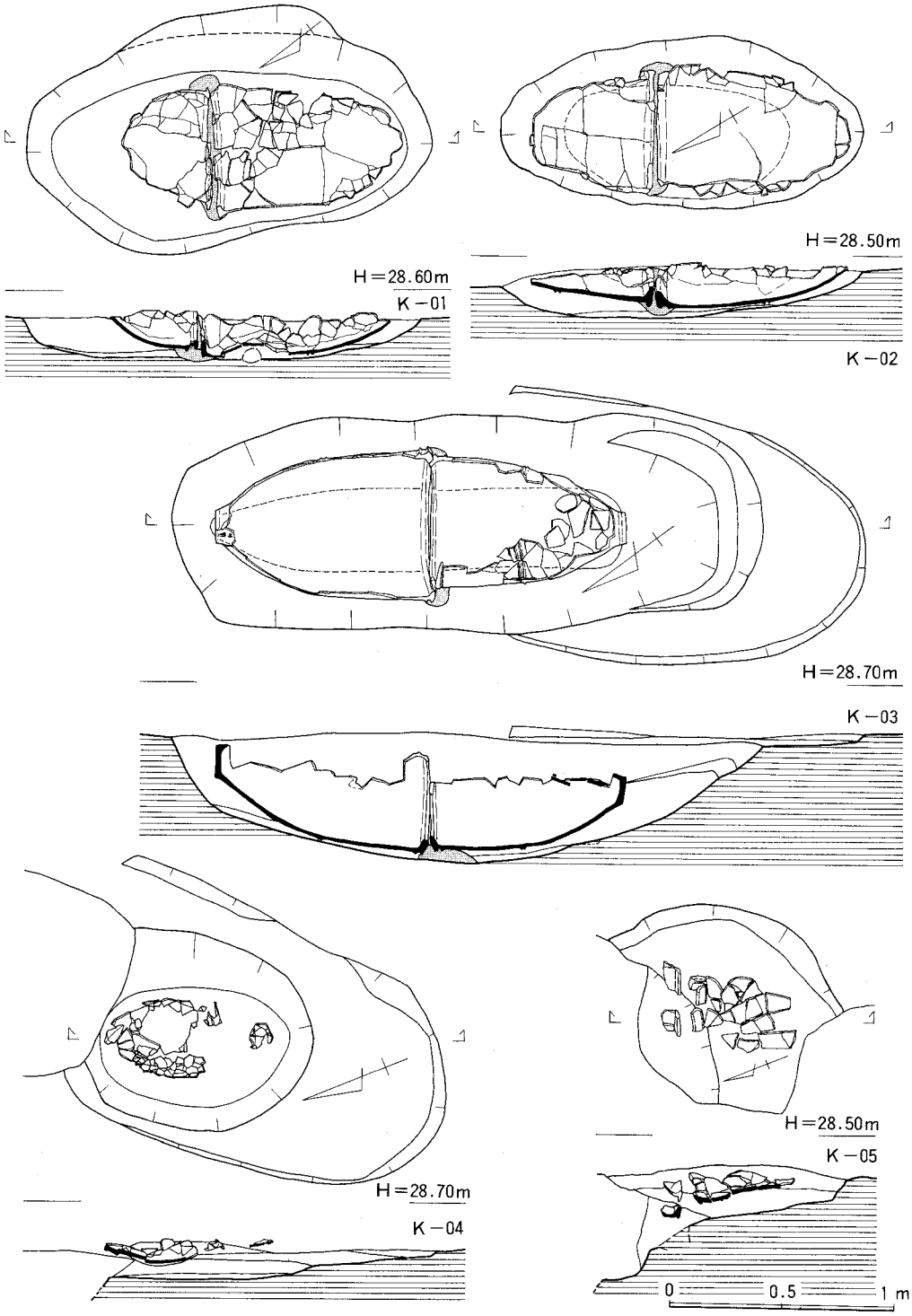


Fig. 5　K－1～5甕棺墓出土状況実測図（1/30）

フ形石器である。残長2.7cm、幅1.5cm、厚さ0.45cmを測り、脈の多い黒曜石が用いられている。縦長剝片の基部側から側縁に向かってブランティング加工が施されている。表面の一部には礫面を残す。このナイフ形石器の発見で月隈月陵にも後期旧石器時代の遺跡が存在する可能性が高くなり、今後注意する必要がある。2は打製石鏃である。全長2.2cm、最大幅1.3cm、最大厚0.4cmを測り、流理の多いサヌカイト製である。基部側はやや外弯し、両面に主要剝離面を残す。弥生時代に属するものであろう。

2　弥生時代の墳墓

i）　甕棺墓

（第1区）

甕棺墓は、土壙墓と共に尾根の頂部に多く分布している。微地形は6区の丘陵頂上部が最も高く、6区を基点として南側に延びる丘陵と西側に延びる丘陵とに分かれている。墳墓分布域は、長く延びた尾根の部分的に高まった所に集中する。

第1区は南側に延びる丘陵の南端部にあたり、今回調査した中では最も南に位置する。標高は24.4～27.6mで、略三角形を呈する細い尾根である。西側は急峻な傾斜面になっており、下に防空濠が2箇所作られていた。甕棺の破片が散乱しており、斜面が改変されているものと推察された。防空濠は東側にも大型のものが掘削されている。甕棺墓は5基出土した。主軸を尾根の長軸線に揃えて配列されている。K－1は、接口式の甕と甕とを組み合わせるものである。K－2も接口式で甕と甕とを組み合わせる。ともに口縁部が内側に肥厚する弥生中期前半から中葉の時期である。K－3はT字状口縁を有するもので、甕棺の残りが良く、胴部に三角突帯が2条巡る。中期中葉である。K－4はK－3の上に作られた小児用の甕棺墓である。小型の甕と壺とを組み合わせる。時期は中期中葉から後半代に属すると考えられる。K－5は一番北に位置し、接口式の成人用甕棺墓である。残りが悪く全体の形状は把握できなかった。口縁部の形態から弥生時代中期前半代に属するものであろう。第1区は単位集団の墓地と考えられ、中期前半から中期中葉にほぼまとまってしまう時期のものである。

（第2区）

第1区の北側に位置し、尾根が急に大きく広がる頂部に分布する。外見上は独立丘状を呈し円形に近い形をとる。始めは墳丘墓か古墳ではないかとみられたが、表土除去後直ぐ基盤土が現われ甕棺墓が掘り込まれていた。標高は26.8～33.8mで、甕棺群は尾根の長軸線上に分布している。主軸は、尾根の長軸方向を採るものが多いが必ずしも一定しない。第2区は甕棺群と分布域を全く同じくする近世墓261基が重複しており、近世墓の調査が進まないと甕棺墓の調査ができないという状況であった。しかも、大部分の甕棺墓は近世墓に切られており、部分的にしか残存していないものが多かった。最も残りの良いK－12は、北側に位置し大型の墓壙掘方を持っている。

Fig. 6　第２区遺構分布図（１/200）

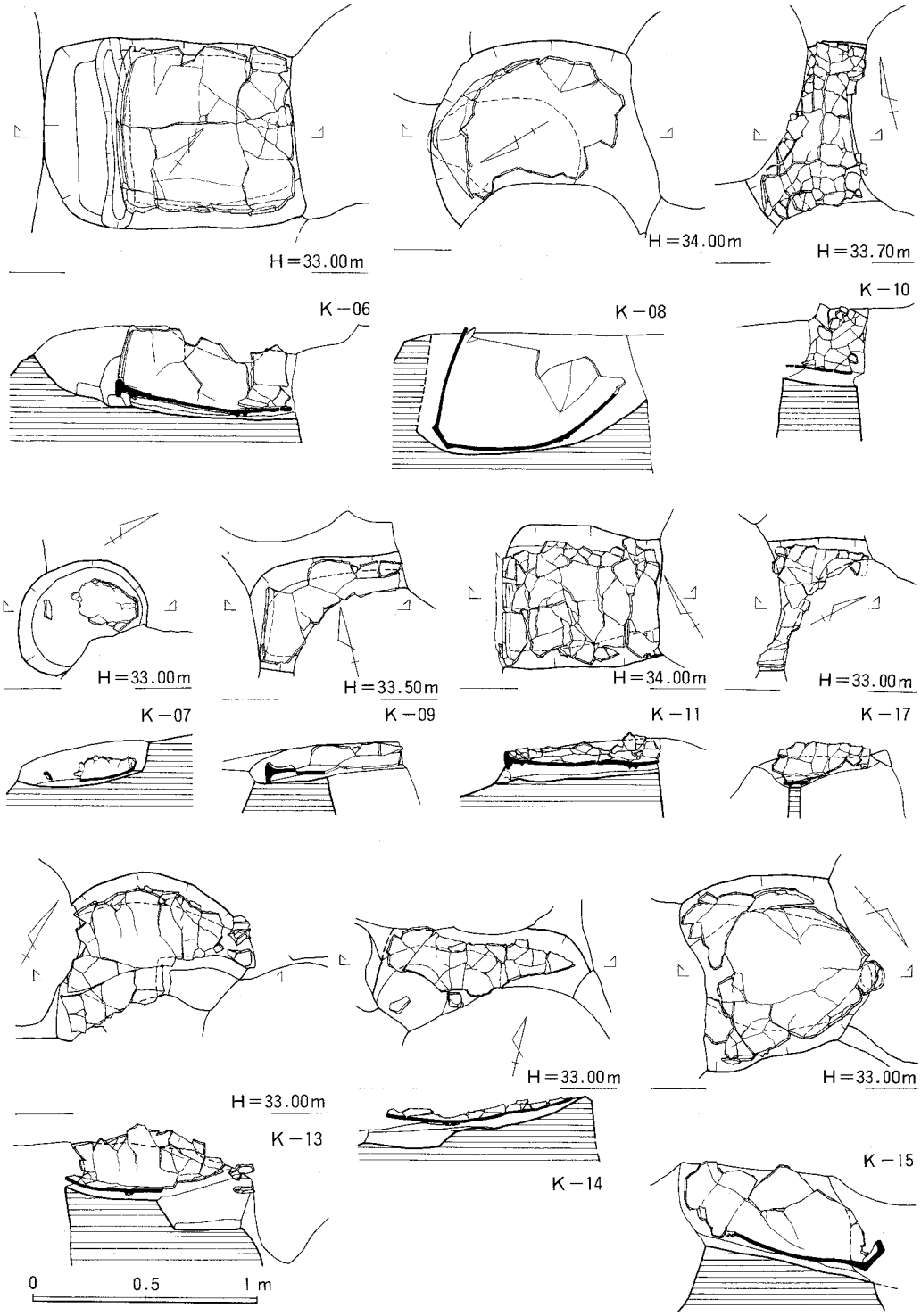


Fig. 7　K－6～11・13～15・17甕棺墓出土状況実測図（1/30）

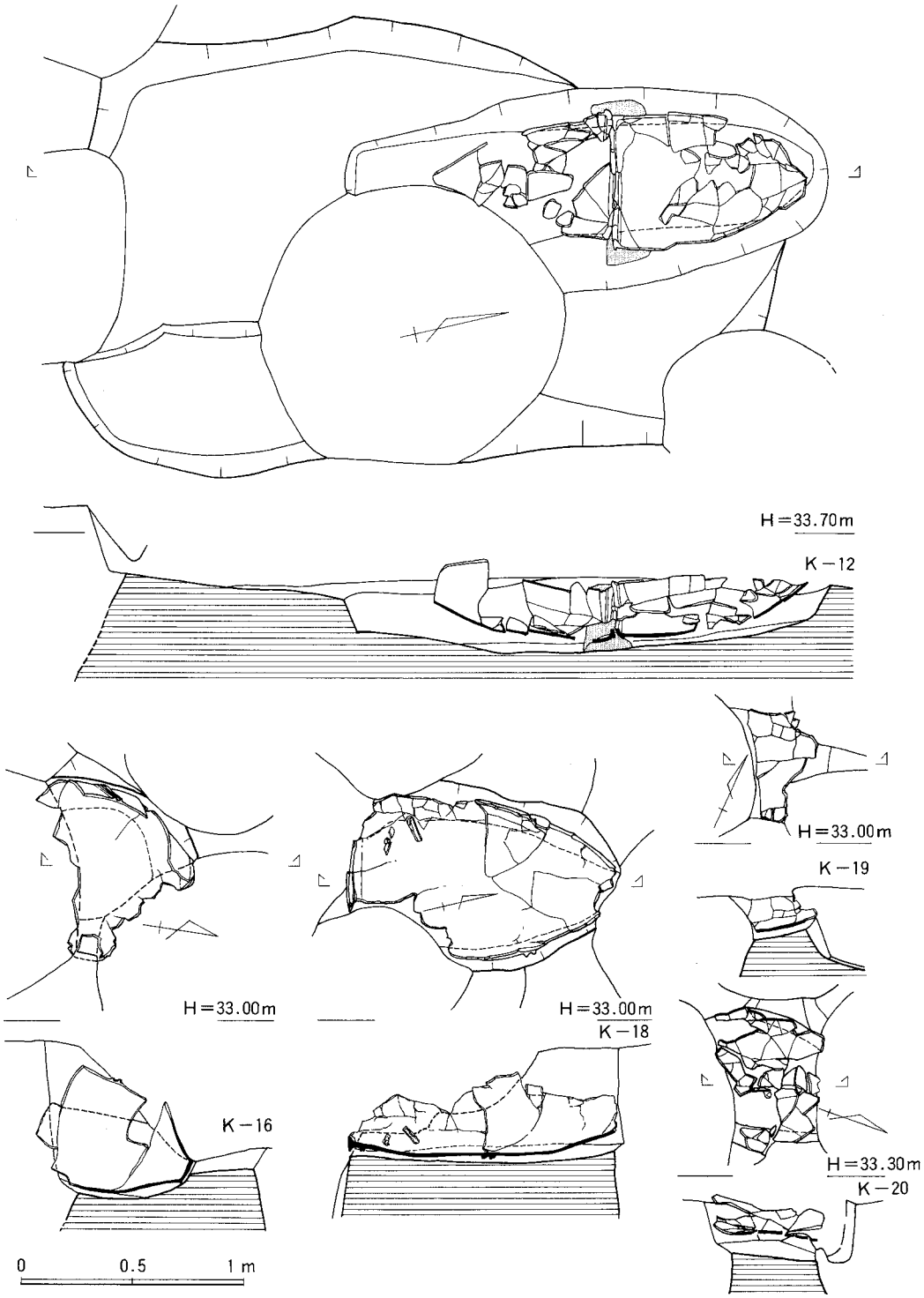


Fig. 8　K－12・16・18～20甕棺墓出土状況実測図（1/30）

甕の形態から中期前半の新しい時期と考えられるが、他の甕棺墓は中期中葉から後半にかけてのものが主体である。甕棺墓よりも古い土壙墓は発見されなかった。

（第３区）

第２区と第４区の細い尾根の部分である。この部分に今回調査した甕棺墓の約半数が埋葬されていた。標高は30.8～36.2ｍで、33.5～36.2ｍの範囲内に墳墓群が分布する。主軸は尾根の長軸線と同じ方向かそれに直交する方向を採るものが多いが、必ずしも一定しない。尾根は東側及び西側が急峻な傾斜地になっており、ある程度削平されていると考えられるが、甕棺の挿入は東側は東側から、西側は西側からとなっているので、本来に近い状態を保っているのではないかと考えられる。第３区には分布状況、切り合い関係から甕棺墓よりも古い土壙墓の分布が認められる。土壙墓の分布と甕棺墓の分布状況を合わせて考えると、第３区には少なくとも７群の単位集団の墓地が集合しているとみられる。時期は中期前半から後期初頭に及ぶ。

Ｋ－38は南側西寄りに位置する単棺である。口径74cm、胴径73.9cm、底径13cm、器高108.2cmを測る大型の甕である。口縁部はＴ字状で外端部がやや傾斜する。胴部やや下位にコの字状突帯を２条巡らす。胎土には２mm前後の石英・長石砂を少量含む。内外面とも明茶褐色を呈する。焼成はやや不良である。胴部に大きな黒斑が認められる。Ｋ－50は調査区のほぼ中央部に位置し、Ｋ－51の下に掘り込まれている。上甕はくの字口縁を持ち、口径44.6cm、胴径47.2cm、底径9.8cm、器高62.2cmを測る。内外面とも明茶褐色を呈し、胎土に３mm前後の石英・長石粒や金雲母の微粒子をやや多く含む。焼成は良好である。外面に刷毛目調整痕が観察される。下甕は口径58.4cm、胴径64.5cm、底径12.3cmで器高は推定１ｍ近くになるものとみられる。口縁部はやや厚手の作りで端部に段を有する。胴中央部にはコの字状突帯が２条巡る。色調はくすんだ茶褐色で、胎土に３～９mm大の石英・長石・金雲母を多く含む。焼成はやや不良である。Ｋ－59は３区北寄りの東斜面で検出した。胴上半を打ち欠いた甕を上甕とする中型棺である。上甕は残高24.9cm、底径10.3cmで、くすんだ茶褐色を呈する。胎土には３mm大の石英・長石粒を少量含む。焼成はやや不良である。外面に刷毛目調整が残る。下甕は頸部の締った甕で、口径35.4cm、底径11.3cm、胴径47.6cm、器高57.3cmである。淡茶褐色を呈し、胎土に３mm大の石英・長石粒を含む。焼成はやや不良である。外面には刷毛目調整が施され、黒斑が認められる。Ｋ－60は59の北側に隣接して発見された。図化したのは下に置かれた壺である。口径22.4cm、胴径39cm、残高25.4cmを測り、色調は淡茶褐色～茶褐色を呈する。胎土には２mm大の石英、長石粒及び金雲母の微粒子を少量含む。焼成は良好である。外面に刷毛目調整が施される。Ｋ－71はさらに北側に位置する小型棺である。甕蓋と樽型壺が組み合わさる。甕蓋は口径26.6cm、撮み径4.0cm、器高10.2cmである。茶褐色を呈し、胎土は粒子細かく精良である。焼成も良好である。樽型壺は、口径18.8cm、鍔径27.6cm、胴径33.3cmで、器高は全破片が接合せず確定できなかった。色調は茶褐色で、胎土に２mm前後の石英・長石粒を僅かに含む。焼成はやや不良である。Ｋ－72は71の西側に隣接している大型

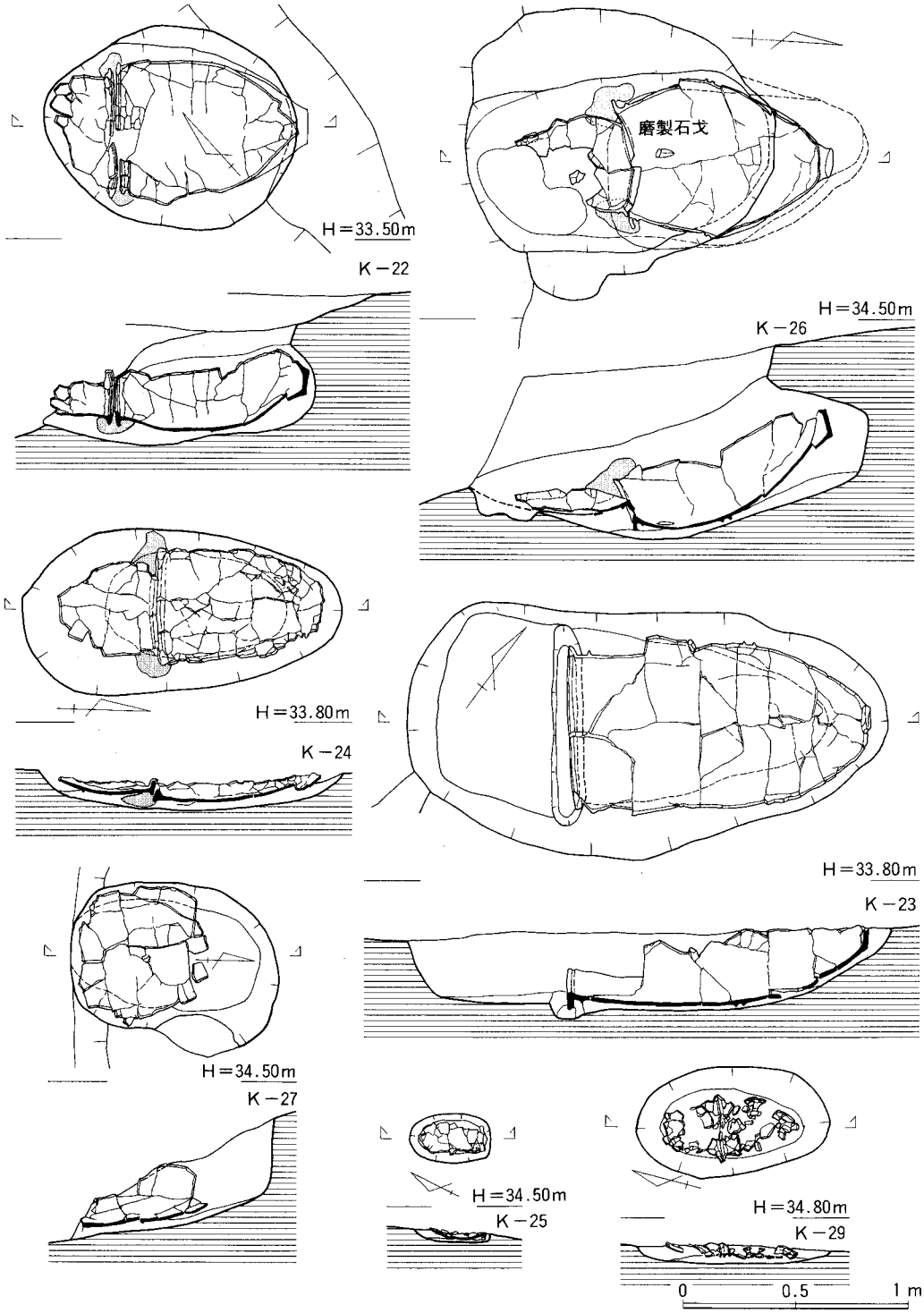


Fig. 9　K－22～27・29甕棺墓出土状況実測図（1/30）

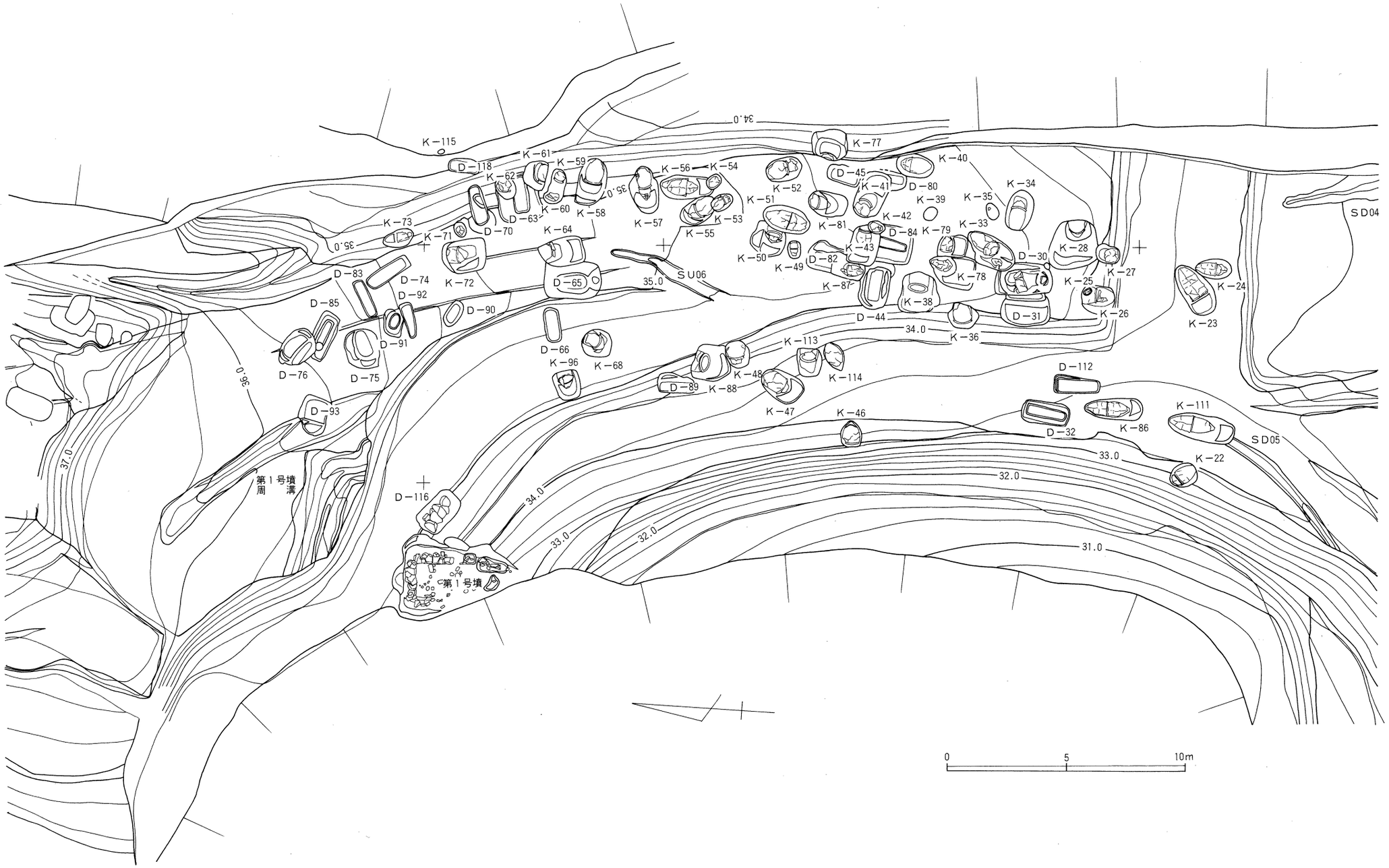


Fig. 10　第3区遺構分布図（1/200）

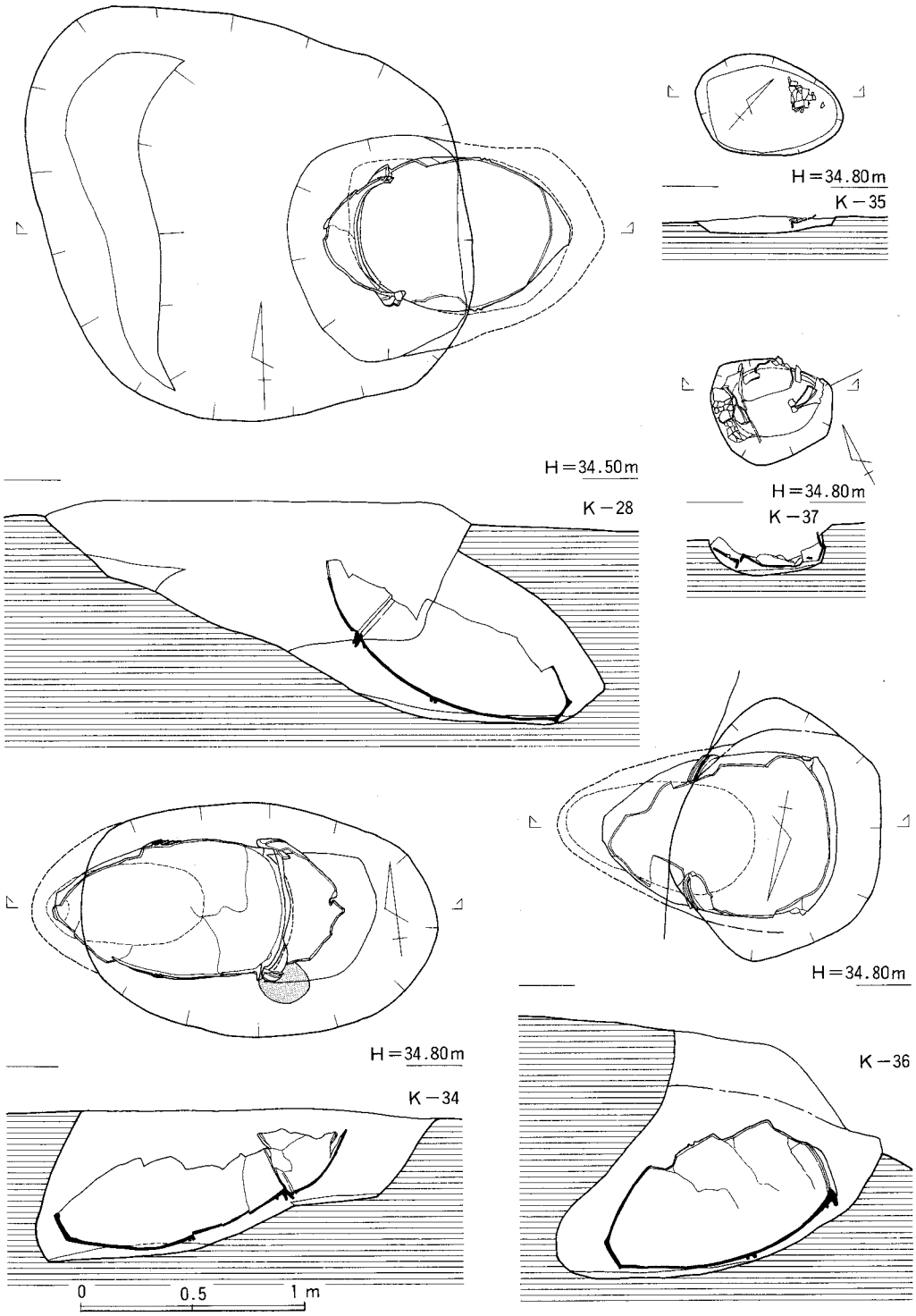


Fig. 11　K－28・34～37甕棺墓出土状況実測図（1/30）

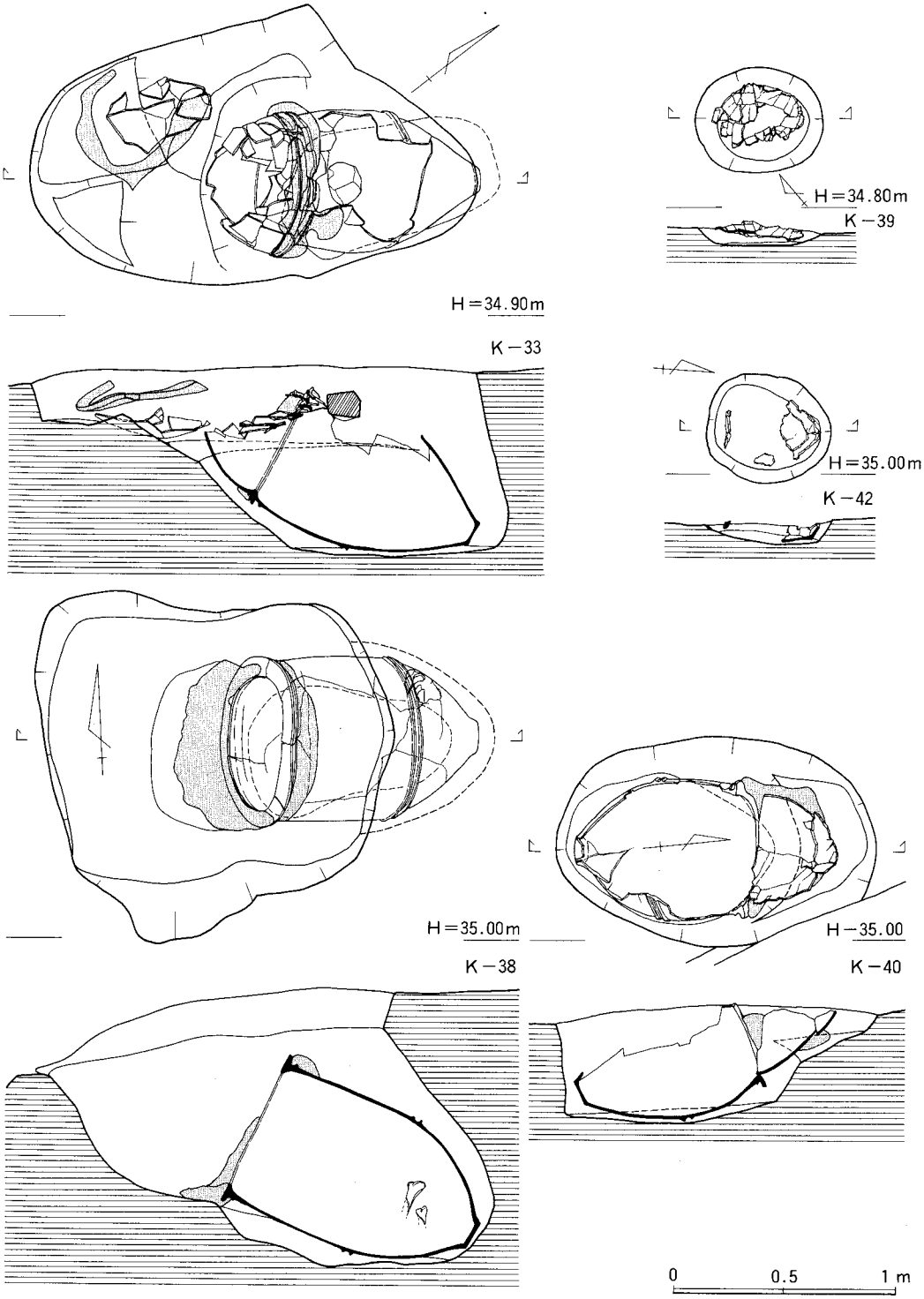


Fig. 12　K－33・38～40・42甕棺墓出土状況実測図（1/30）

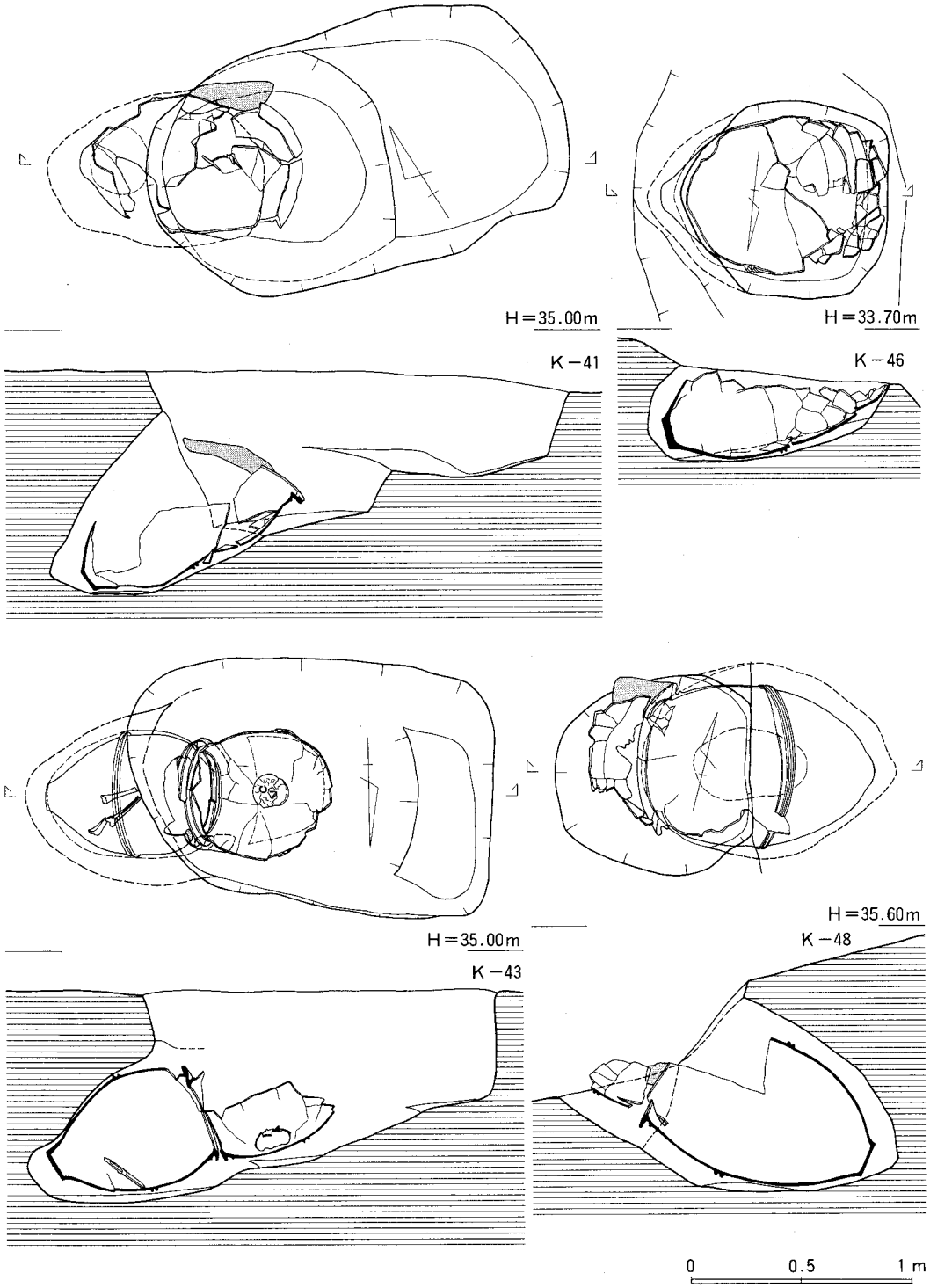


Fig. 13　K－41・43・46・48甕棺墓出土状況実測図（1/30）

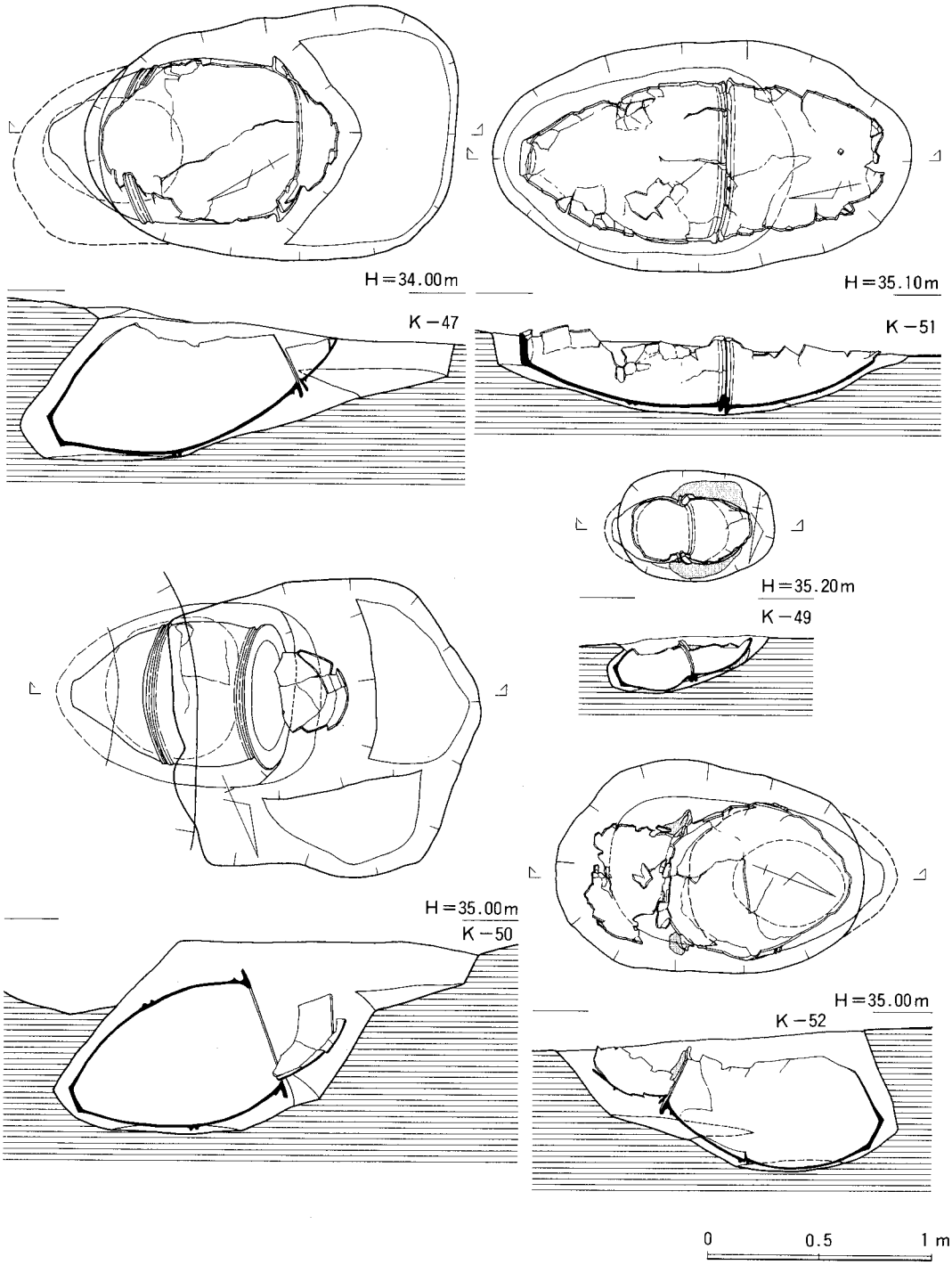


Fig. 14　K－47・49～52甕棺墓出土状況実測図（1/30）

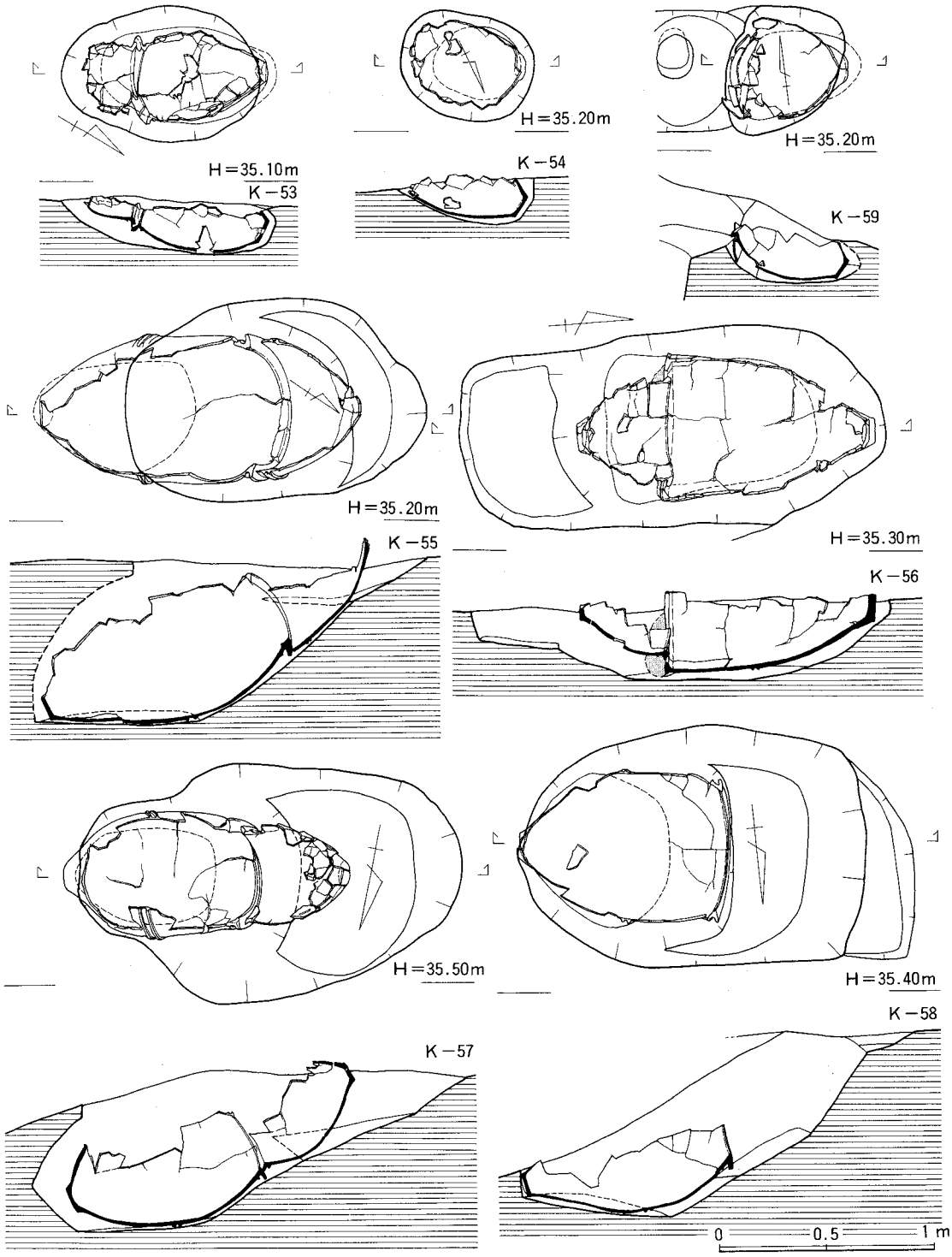


Fig. 15　K－53～59甕棺墓出土状況実測図（1/30）

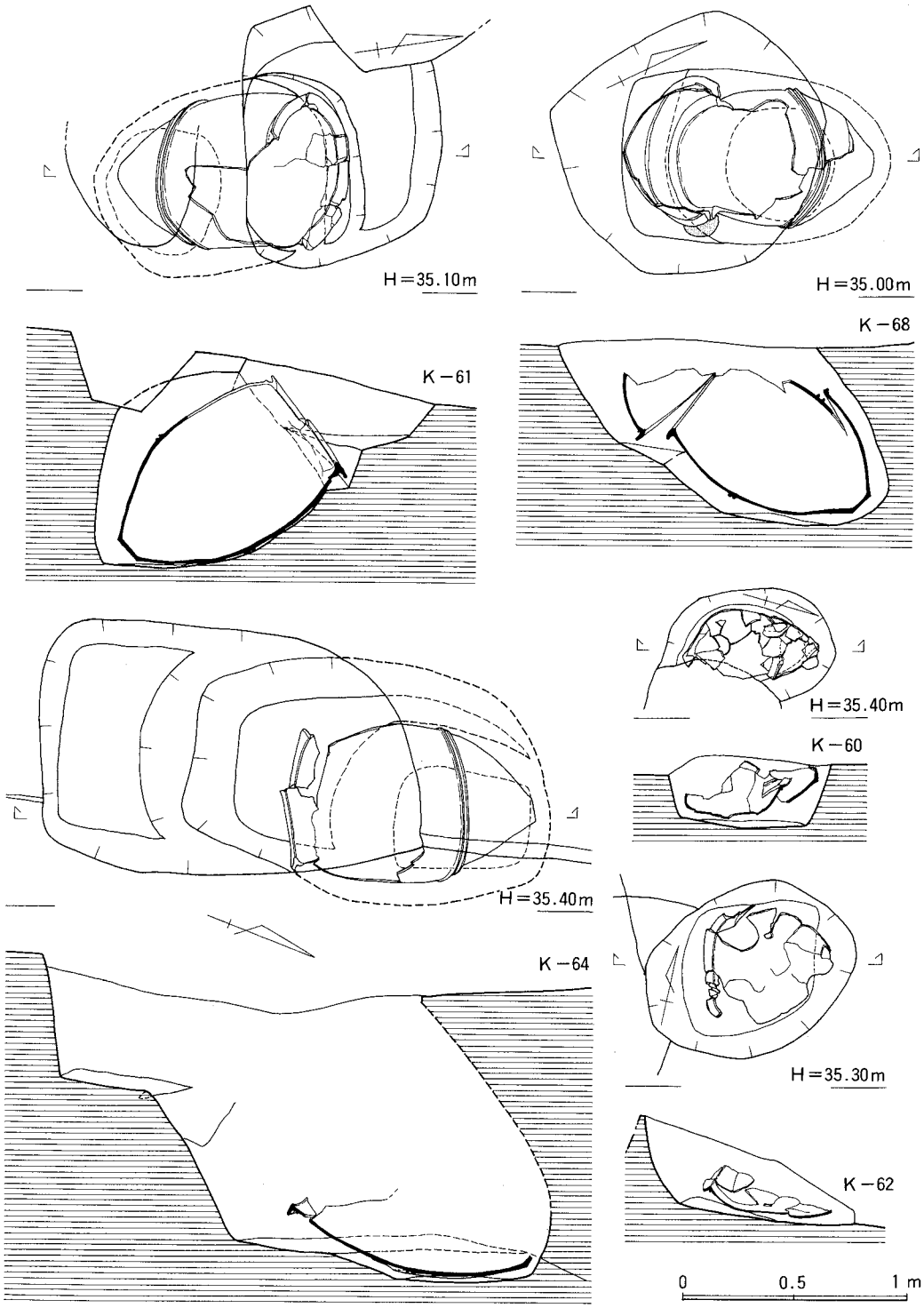


Fig. 16　K－60～62・64・68甕棺墓出土状況実測図（1/30）

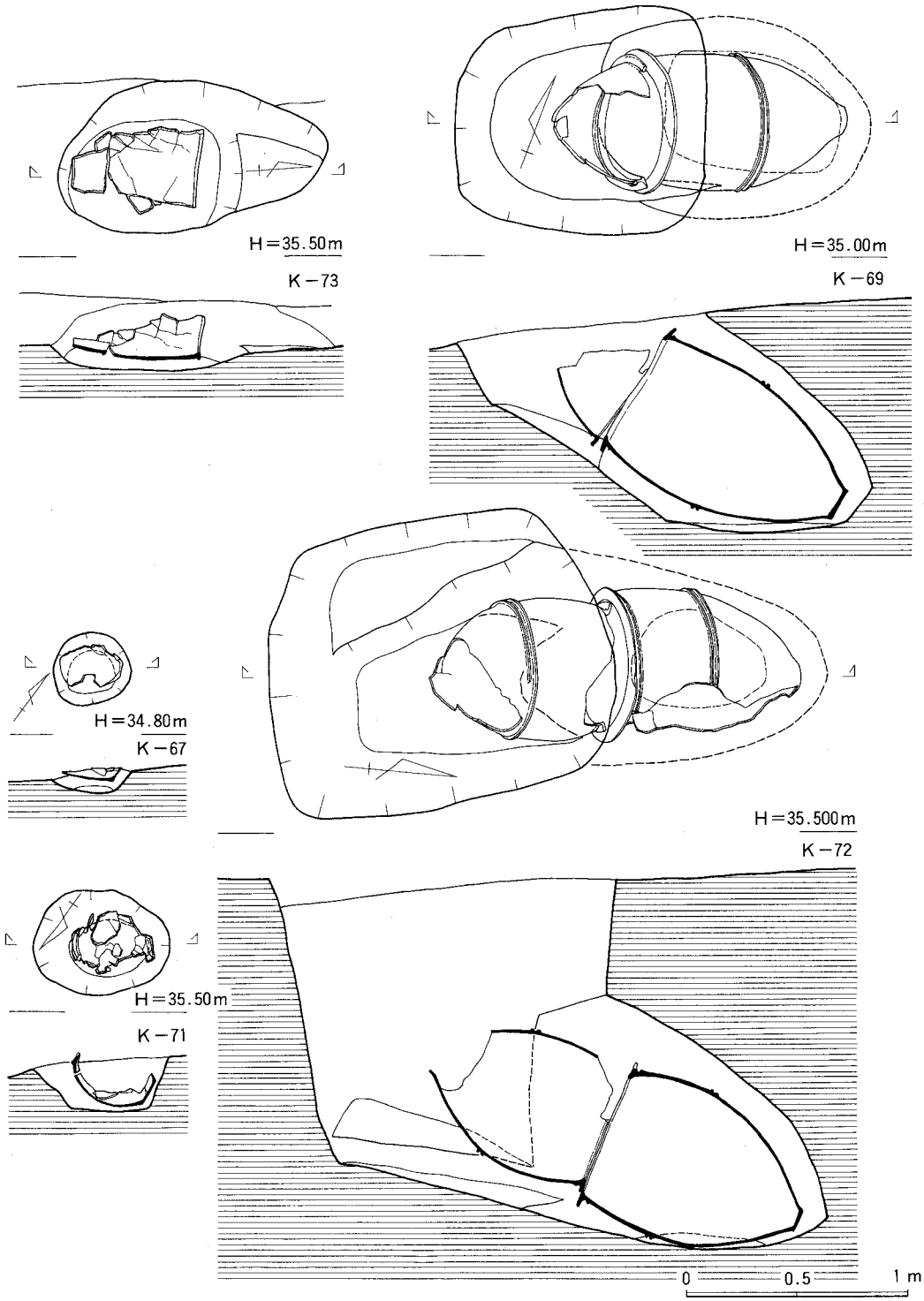


Fig. 17　K－67・69・71～73甕棺墓出土状況実測図（1/30）

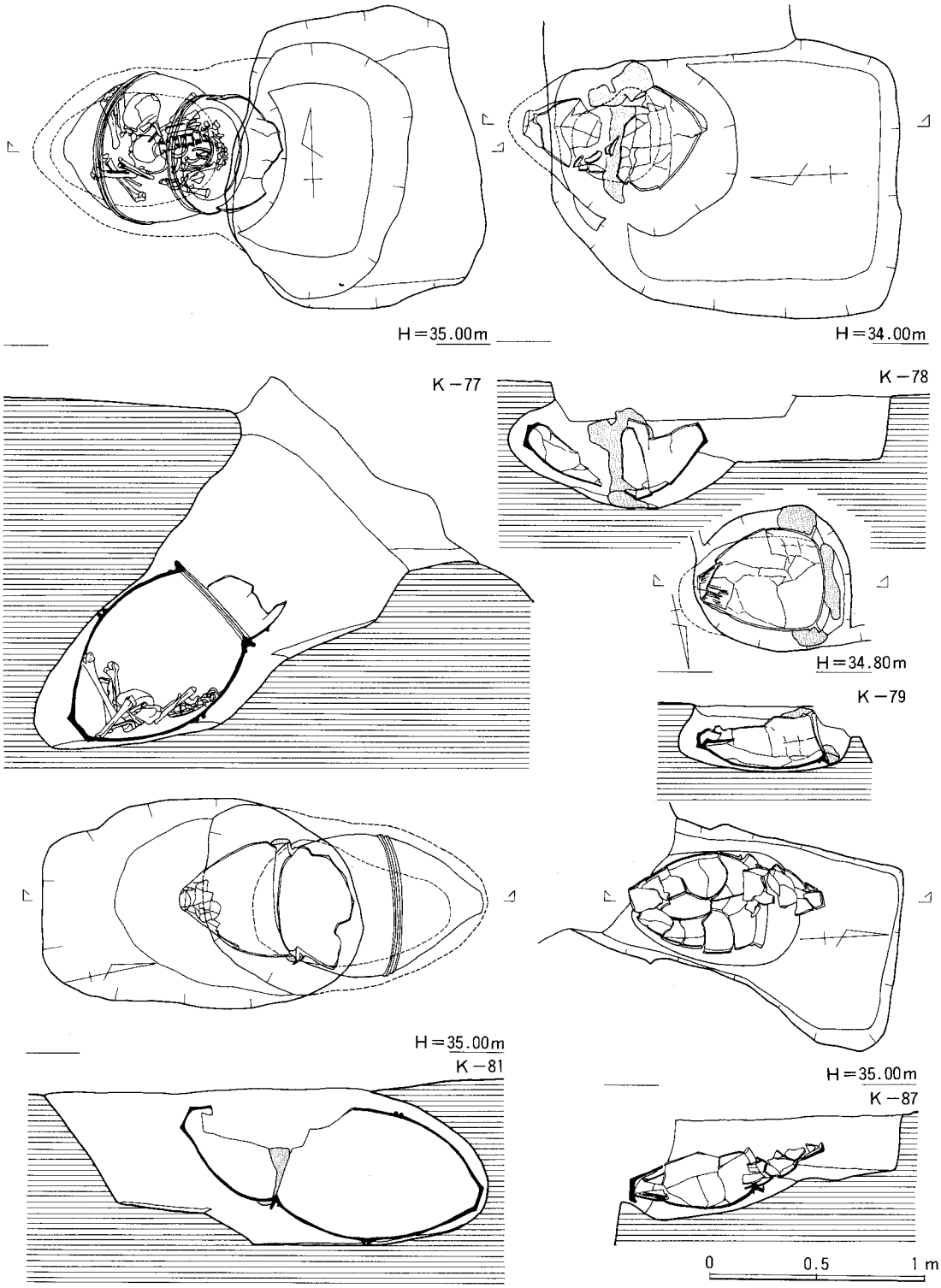


Fig. 18　K－77～79・81・87甕棺墓出土状況実測図（1/30）

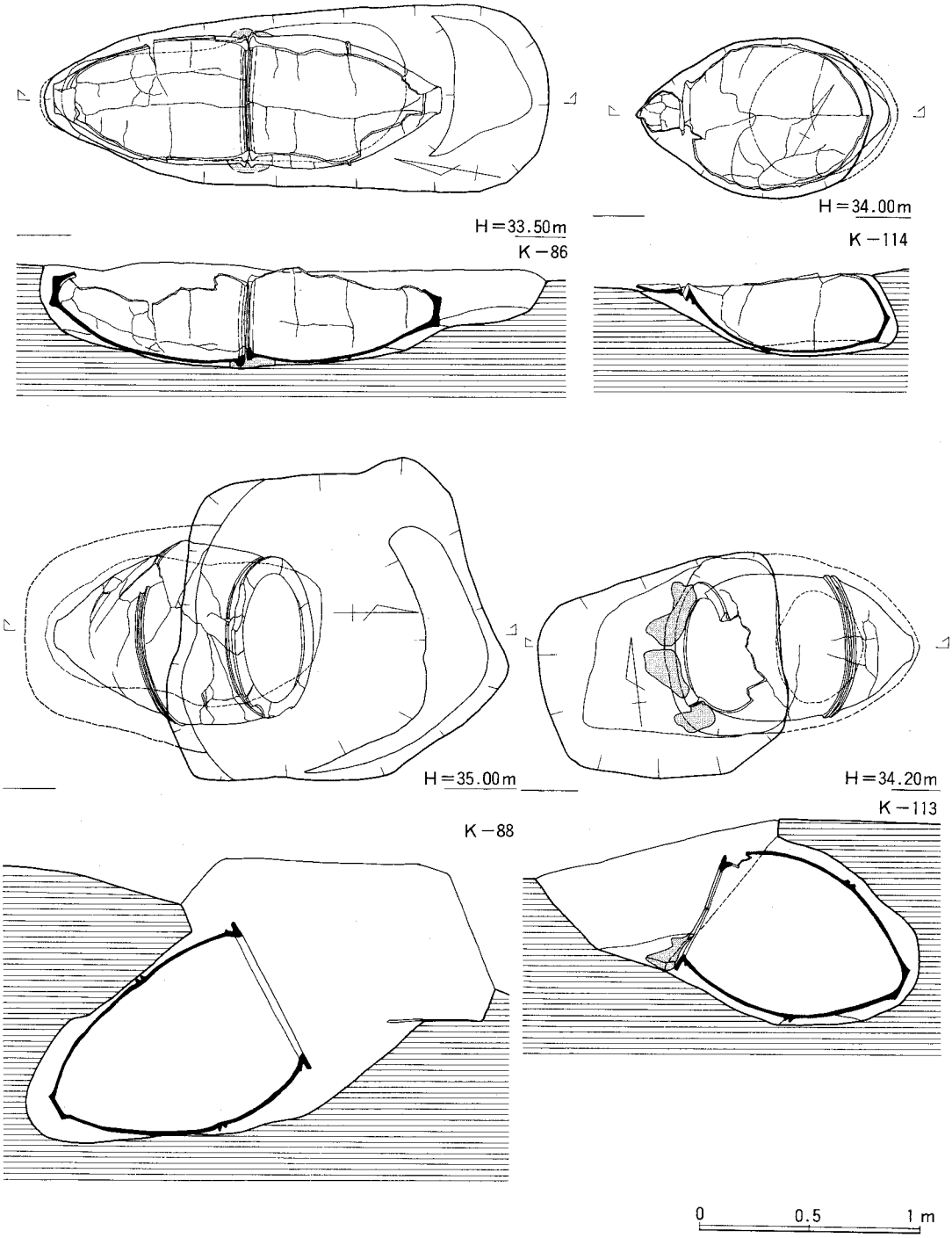


Fig. 19　K－86・88・113・114甕棺墓出土状況実測図（1/30）

の甕棺墓である。墓壙の残りが非常に良く、長さ1.56m、幅1.3m、深さ1.3mを測る。さらに甕を埋置するため1m強の横穴を掘っている。上甕は口径58.1cm、胴径65cm、底径11.6cm、器高86.2cmを測る。口縁端部はやや段を有し、胴部下半に狭いコの字状突帯を2条巡らす。色調は明茶褐色を呈し、胎土に2～4mm大の石英・長石粒をやや多く含む。焼成はあまり良くない。外面には刷毛目調整痕と黒斑が観察される。下甕は、口径67.2cm、胴径74.2cm、底径11.8cm、器高95.5cmを測る大型の甕で、胎土は精良、焼成も良好である。口縁部は端部がやや尖り、胴部にコの字状突帯を2条巡らす。外面には大きな黒斑が認められる。K－77は東側斜面で墓壙を検出し、西側に挿入された甕棺を確認し調査したものである。上甕は胴部上半を打ち欠いたもので、胴径52.3cm、底径11.1cm、残高50.5cmを測る。明茶褐色を呈し、胎土は精良、焼成はやや不良である。外面にタテ方向の刷毛目調整と黒斑が認められる。胴部にはコの字状突帯が1条巡る。下甕は口径54.7cm、胴径66.8cm、底径12.3cm、器高86.4～87.1cmを測る。明茶褐色を呈し、胎土に3mm前後の石英・長石粒子を少量含む。焼成はあまり良くない。全体的に頸部がやや締った器形を有し、胴部にコの字状突帯が2条巡る。外面には明瞭な刷毛目調整痕と黒斑が認められる。棺内からは熟年男性の全身骨格が1体分出土している。K－78は調査区南寄りに位置する小型棺である。下甕の口径36.2cm、胴径35.3cmで、底部まで復元できなかったので器高が分からない。淡茶褐色を呈し、胎土は精良、焼成はやや不良である。K－81は調査区中央部に位置する。図化したのは下甕で、口径55.5cm、胴径65.3cm、底径11.8cm、器高90.7cmを測る。胎土に石英・長石を僅かに含み、焼成は良好である。口縁部はT字状に近く、胴部には三角形に近いコの字状突帯が2条巡る。K－87は調査区中央部やや南寄りに位置する。下甕はくの字状口縁を有し、口径39cm、胴径42cm、底径10cm、器高58.2cmを測る。色調は茶褐色を呈し、胎土に石英・長石粒を含む。焼成はやや不良である。外面には刷毛目調整痕と黒斑が認められる。K－69は調査区西側に位置し、鉢と甕とを組み合わせる成人棺である。下甕は口径63.4cm、底径13cm、器高107cmで、胎土には4mm以上の石英・長石粒及び金雲母の微粒を多く含み粗い。色調は茶褐色を呈し、焼成は良くない。外面に刷毛目調整痕と黒斑が観察される。

（第4区）

第3区のさらに北側に位置し、長方形状に残った丘陵頂部に分布する。標高は36.2～38.40mを測る。墳墓の主軸は丘陵の長軸方向と同一かそれに直交する方向を採るものが殆どである。墳墓の組み合わせから3群のグループがある。中央部には大型の墓壙を持つK－100が配置され、北に土壙墓・木棺墓が3基並列、東に小児棺2基、西に土壙墓1基、南側に甕棺2基と整然と配列されている。段落南側には主軸をやや東に振るが甕棺群、土壙墓群が並んで配列されている。時期的には中期前半から中葉までで、それ以後の埋葬は行われていない。棺内に赤色顔料を持った墳墓が集中するのも他の群には見られないことである。第4区の墳墓群は特別な意味を持って作られたものと考えられる。なお、調査の過程では第4区が墳丘墓であったかどうかは判断できな

Fig. 20　第４区・６区遺構分布図（1/200）

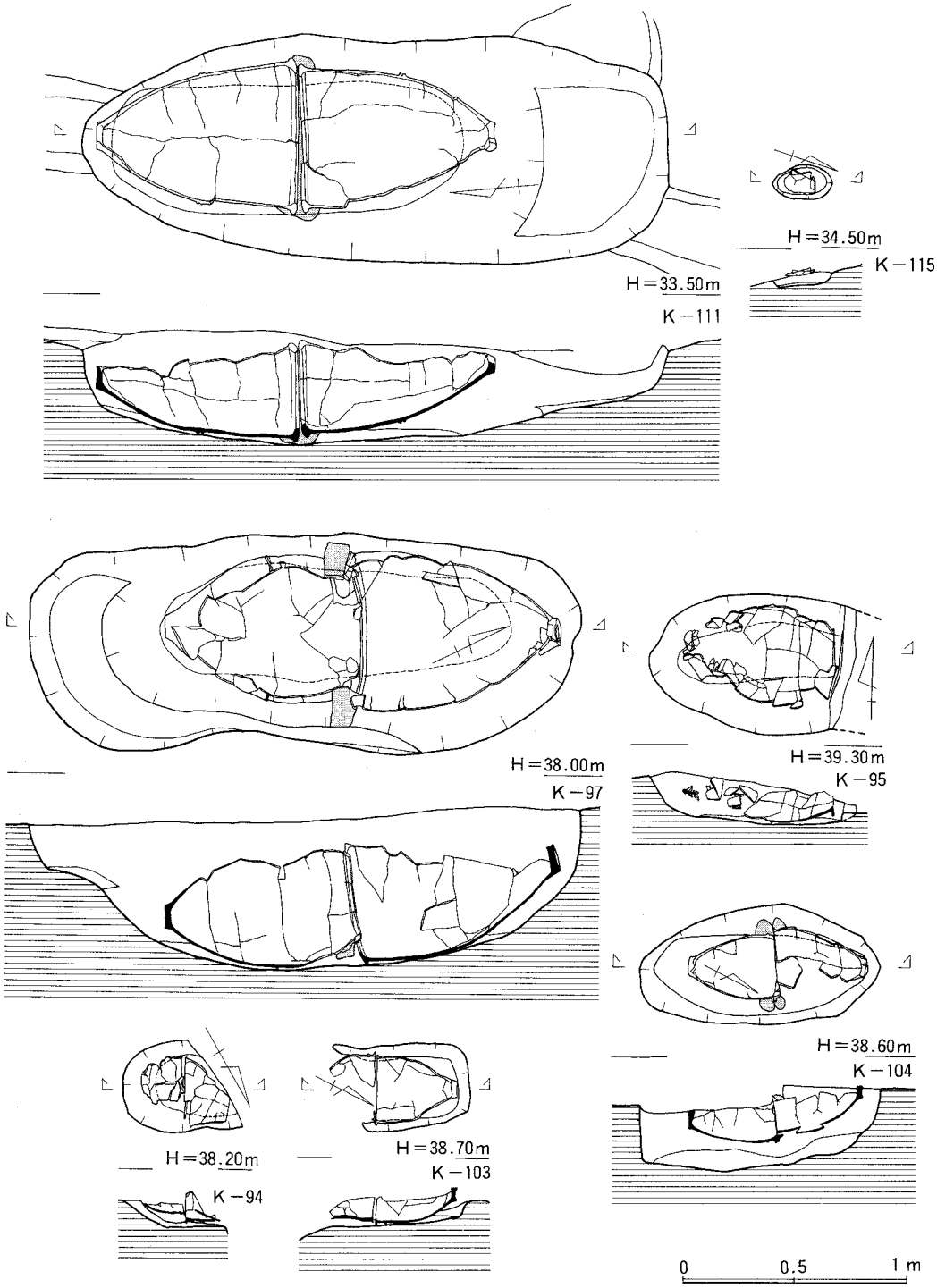


Fig. 21　K－94・95・97・103・104・111・115甕棺墓出土状況実測図（1/30）

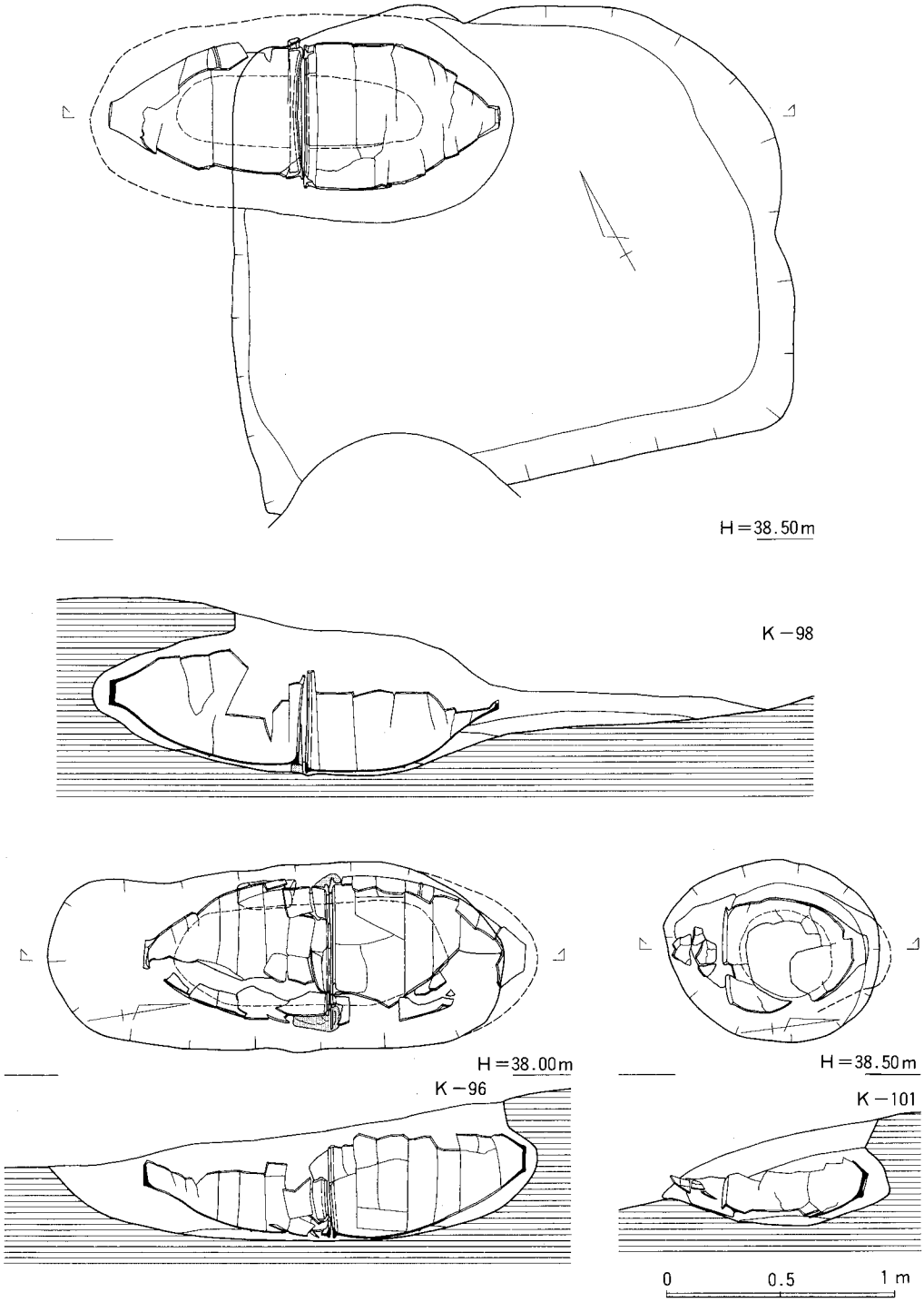


Fig. 22　K－96・98・101甕棺墓出土状況実測図（1/30）

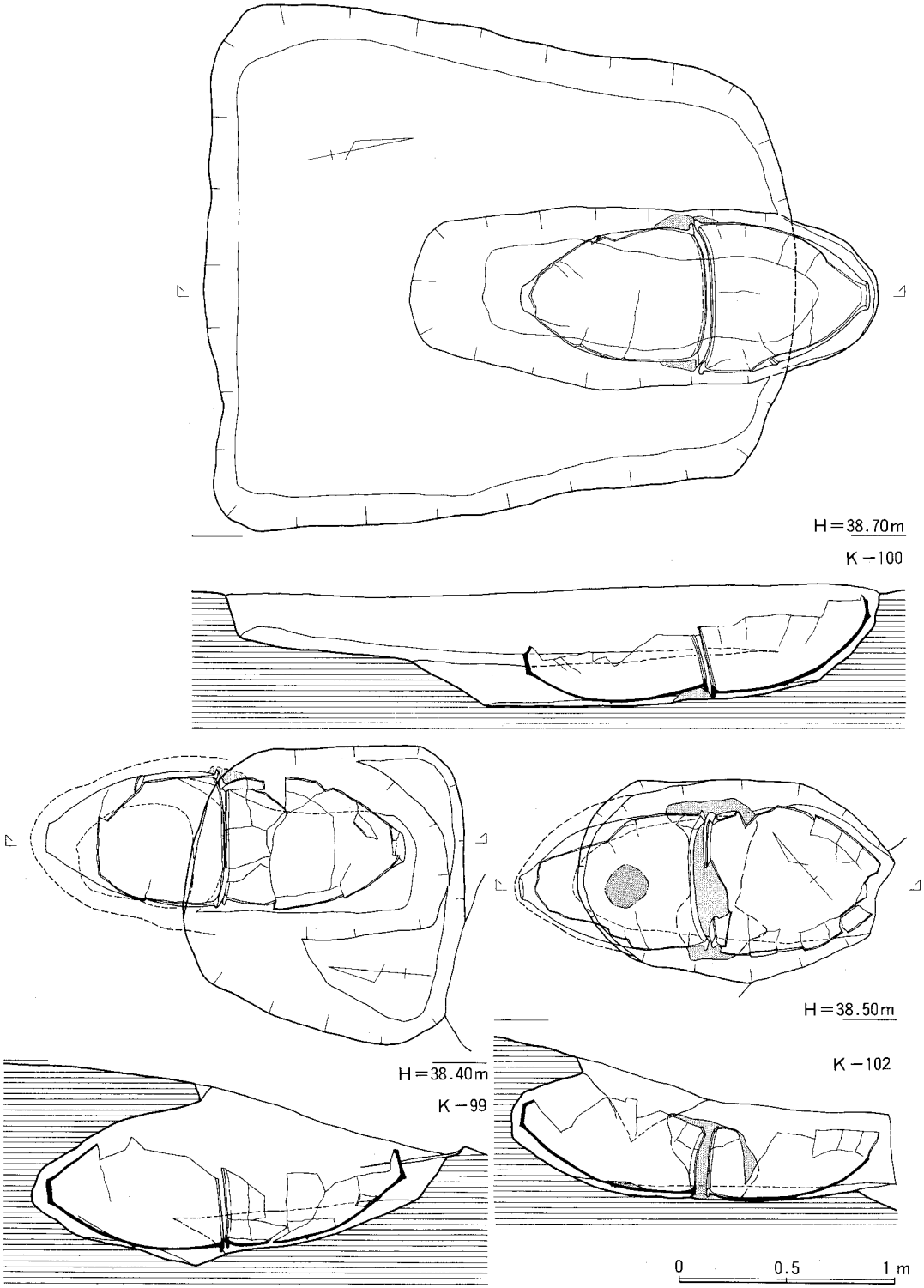


Fig. 23　K－99・100・102甕棺墓出土状況実測図（1/30）

かった。薄い表土の下は真砂土の基盤であったし、周縁は後世の削平を受けていると判断されたからである。北側の大きな溝は中世末期のものである。

K－99は中央部やや南寄りに位置する成人棺である。下甕は、口径65.8cm、胴径64.3cm、底径11.8cm、器高79.7cmを測る。口縁部はT字状を呈し、外端部がやや肥厚する。胴部には三角突帯が1条巡り、底部は比較的厚く作られ中央部がやや窪む。色調は淡茶褐色を呈し、胎土には3mm前後の石英・長石粒及び金雲母の微粒をやや多く含むがよく締っている。焼成は良好である。外面に黒斑が認められる。K－100は、中央部に位置し、墓壙長2.75m、幅2.43m、深さ0.3mを測り、さらに甕を埋置するため、長さ2.17m、幅0.85m、深さ0.2m掘り下げている。棺は甕と甕との接口式で、白粘土による厚い目貼りが施されていた。棺内には土が充満していたが、赤色顔料で赤く染まっていた。副葬遺物は出土しなかった。上甕は、口径57.7cm、胴径59.5cm、底径10.2cm、器高81.5cmを測る。淡茶褐色を呈し、胎土には1～3mm大の石英・長石粒を少量含むが精良である。焼成は良好である。口縁部はT字状に近く、胴下半に三角突帯を1条巡らす。底部は厚い作りになっている。下甕は、口径59.4cm、胴径62.4cm、底径11.2cm、器高80.5cmを測る。淡茶褐色を呈し、胎土には長石・石英・金雲母、角閃石の微粒子を少量含む程度で、精良である。焼成は良好。口縁部はT字状を呈し、内側がやや肥厚する。胴部には、三角突帯が近接して2条巡り、底部はやや上げ底となる。外面胴下半には黒斑が認められる。第4区の甕棺は時期的に近いこともあって特徴が良く類似している。なお、K－102からは赤色顔料が出土していることを付け加えておきたい。

（第5区）

丘陵最頂部から西へ延びる丘陵の先端部にあたり、頂部は略三角形の独立丘陵状を呈している。初めは墳丘墓ではないかとみられていたが、表土下直に基盤土となり、周りも後世に削られていることが明らかとなった。標高は32～35.8mを測り、甕棺群は丘陵付け根から頂部にかけて分布している。頂部に分布するものが時期的に古くなる。主軸はほぼ尾根長軸線に並行か、それと直交する方向を採るものが多い。第5区では時期的に古い土壙墓も分布しており、土壙墓の分布と合わせて考えると少なくとも4つの単位集団の墳墓が集合しているとみられる。墳墓の開始時期は中期前半で、中期一杯継続している。しかし、第5区は第2区と同様306基の近世墓と重複しているので破損しているものが多く、全体の様子は摑みにくいところがある。

（第6区）

北側最頂部に位置し、一部しか調査していない。大部分は未調査区に延びている。中期前半から中葉にかけての土壙墓、甕棺墓がある。標高35～40.8mで、主軸は東西方向を採るものが多い、K－122は小型棺、K－123は成人棺である。K－121からは管玉が出土している。

ii）　土壙墓・木棺墓

第3区から第6区まで合わせて46基の土壙墓・木棺墓が出土している。内訳は3区が24基、4

Fig. 24　第５区遺構分布図（1/200）

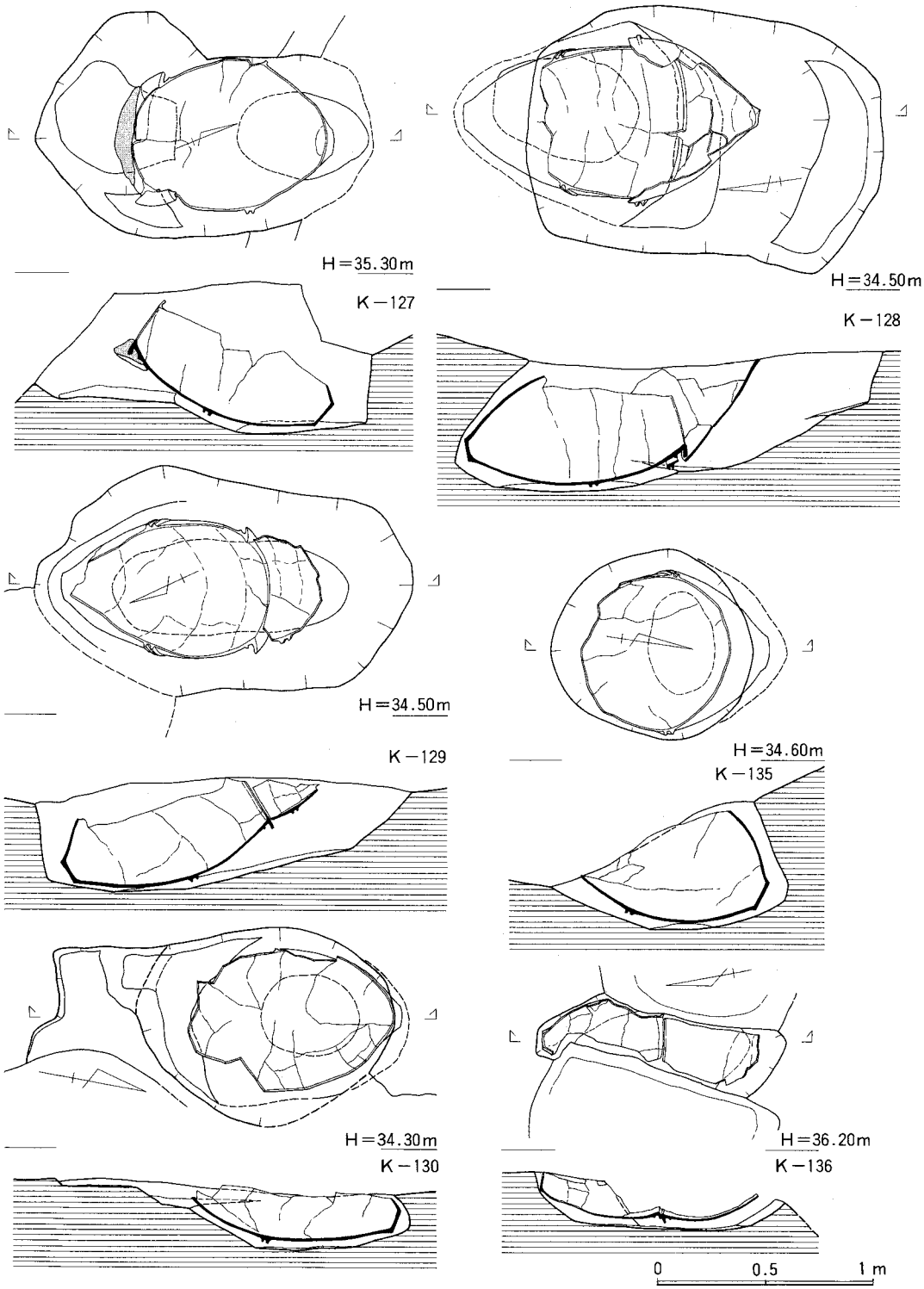


Fig. 25　K－127～130・135・136甕棺墓出土状況実測図（1/30）

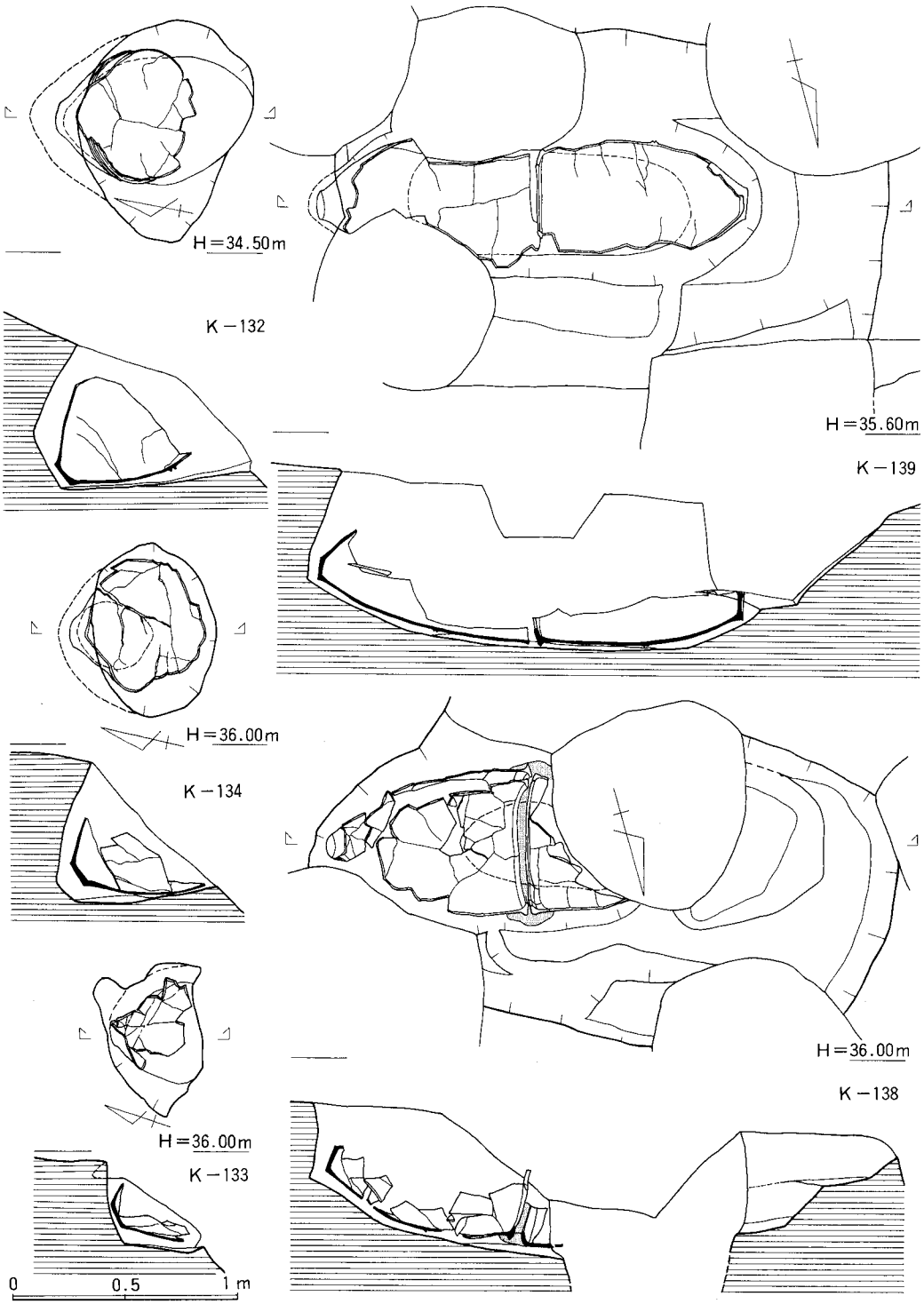


Fig. 26　K－132～134・138・139甕棺墓出土状況実測図（1/30）

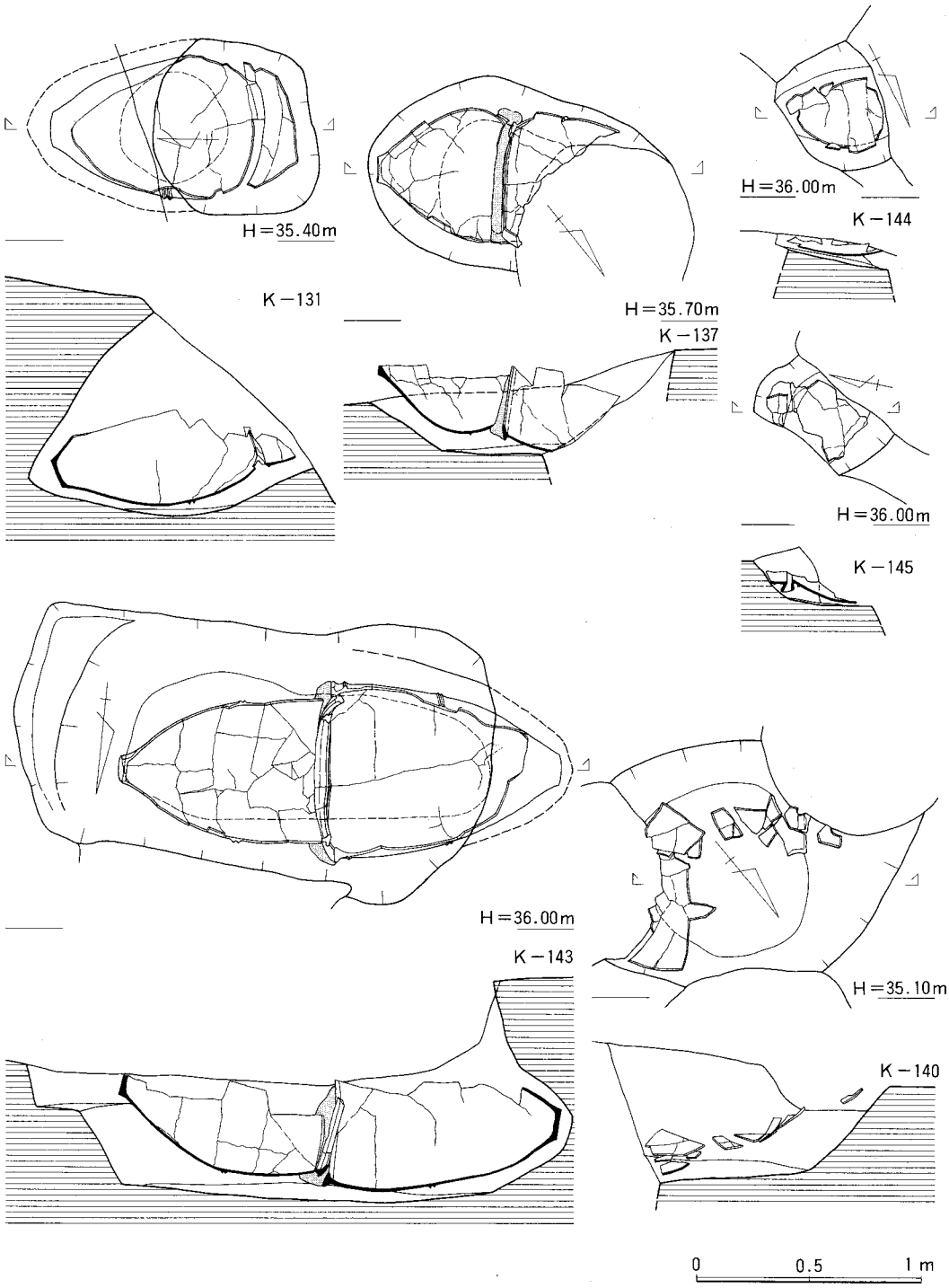


Fig. 27　K－131・137・140・143～145甕棺墓出土状況実測図（1/30）

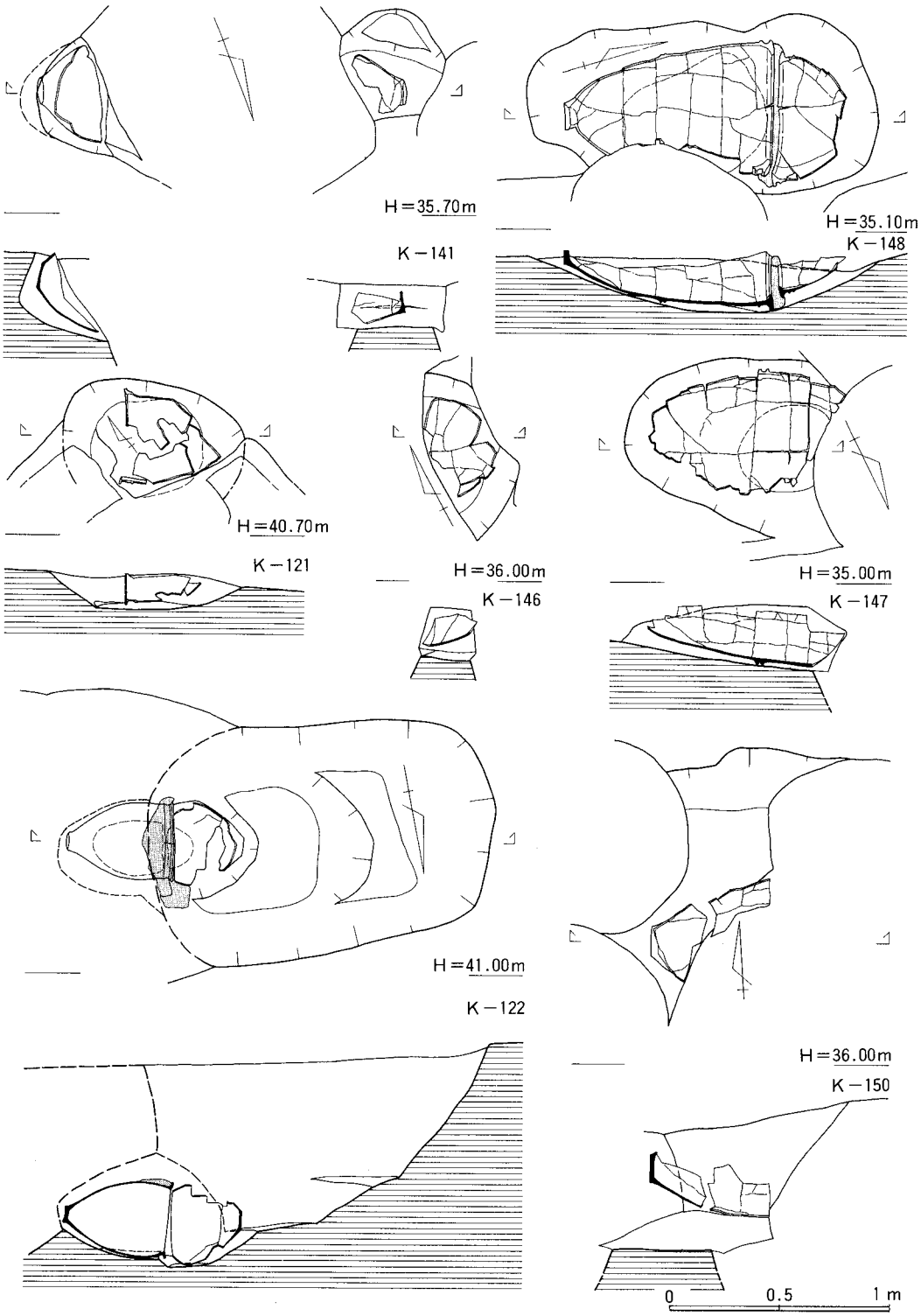


Fig. 28　K－121・122・141・146～148・150甕棺墓出土状況実測図（1/30）

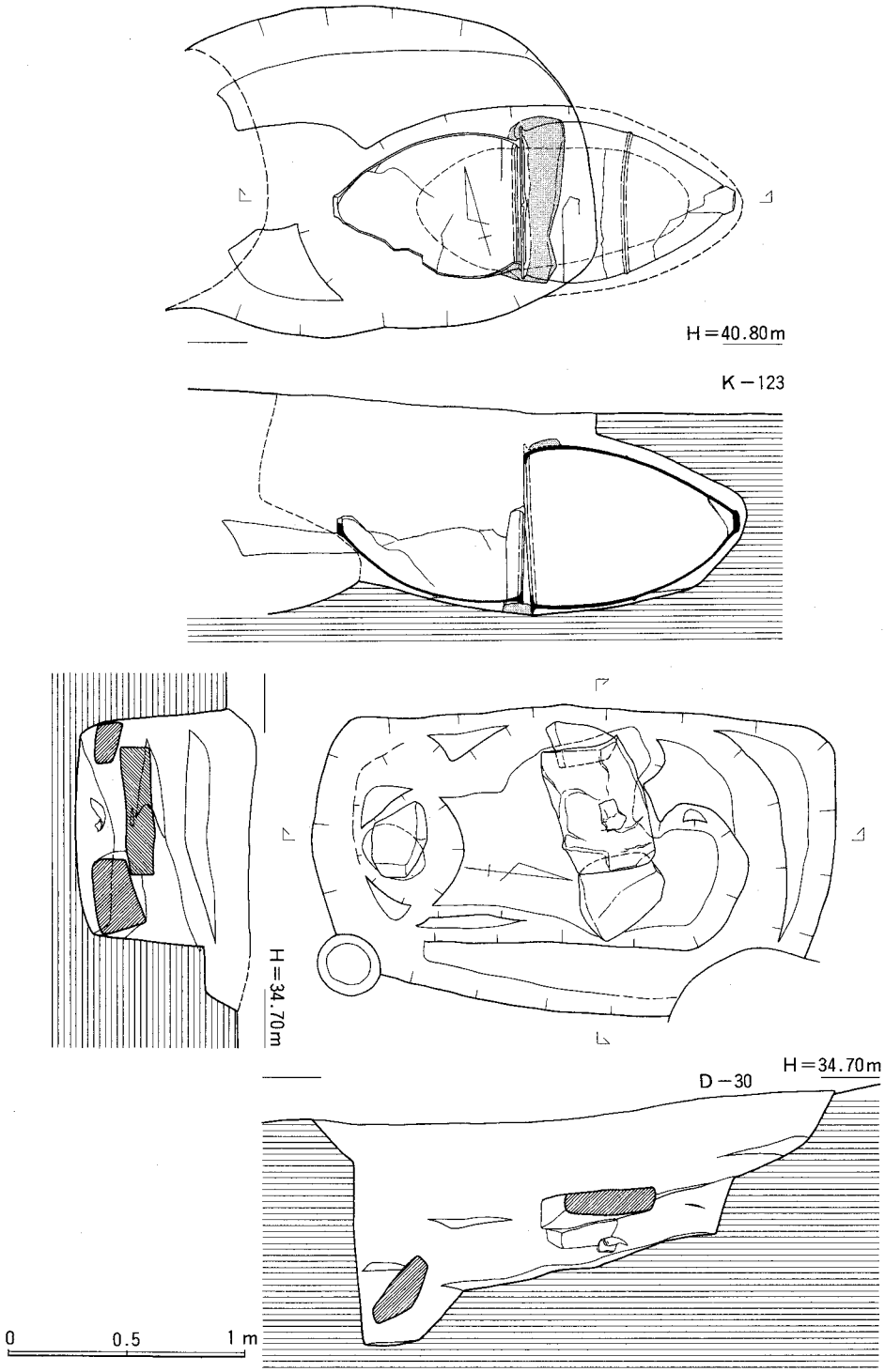


Fig. 29　K－123・D－30甕棺墓・土壙墓出土状況実測図（1/30）

区が８基、５区が11基、６区が３基となっている。基本的な形態は隅丸長方形か略長方形の墓壙の中央部に、同様な形の埋葬主体を掘り込むもので、残りの良いものは２段掘りになっている。埋葬主体の土壙の周りには木蓋を固定密閉したと考えられる白粘土が分布している場合がある。甕棺墓との切り合いは明らかに土壙墓の方が古く、中期前半の時期までは遡れるが、内部から時期の確定できる副葬遺物が殆ど出土しないので、どこまで遡れるかは判断できない。しかし、墳墓の配列から考えると次に埋葬される甕棺墓と連動しているように観察されるので極端に古い時期まで遡るとは考え難い。甕棺墓の古いものが中期前半の新しい時期に相当するとみられるので、それ以前ということになろう。他の遺跡では、弥生前期から土壙墓が出現するが、席田青木遺跡では中期になってから墓地造営が始まり、最初に土壙墓が作られ、その後、甕棺墓へと変化していったと考えられる。ただ、第３区の最も北側に分布する土壙墓群は土壙墓どおしで切り合いになっているので、甕棺墓と並行して土壙墓が一部造営（Ｄ－76）され続けていたと推察される。それでは、今回の調査で出土した土壙墓の幾つかについて説明を行っておきたい。

Ｄ－30は第３区南側中央部に位置する土壙墓である。２段掘りになっており、北側に塊石を２個数並べ、その上に長さ55cm、幅38cm、厚さ10～14cmの平石を載せて頭蓋の保護施設としている。平石の下には若年女性の頭蓋骨が一部残存していた。足元の部分は長さ45cm、幅50cm、深さ25cmにわたって床面からさらに窪み、塊石が１個落ち込んでいる。足を入れたものであろうか。Ｄ－31は埋葬主体部が東側に寄っている。Ｄ－44・63は木蓋の周りを固めた白色粘土が広がっている。Ｄ－75・76・93は第３区最北部に分布する土壙墓群である。最北部のグループは土壙墓９基で構成され、その内３基はやや異なった墓壙を有している。遺構確認時点では甕棺の墓壙と考えられる楕円形から略方形を呈していたが、調査を進めると片方に寄った土壙の埋葬主体が明らかになった。しかも、Ｄ－76は長方形墓壙のＤ－85を切っており時期的に新しい。本来は甕棺墓の墓壙として準備されたのに甕が使用されなかったか、あるいは甕棺葬と並行の時期に土壙墓として埋葬されたため墓壙の形状が異なるのか興味深いところである。このグループにはＤ－92のように小型の土壙墓も存在する。Ｄ－110は第４区北側にＤ－108・109と三基並列して存在する墳墓の内、最北端に位置する木棺墓である。両端に小口部の掘り込みがみられ、粘土巻の白粘土が残っている。明らかに木棺墓と確認できるのは、今回の調査ではＤ－1101基のみである。墓壙幅は東側が広く、頭位は東側であったと考えられる。東側には径17cmの範囲内に赤色顔料の分布が確認された。また、墓壙上部からは弥生中期前半代の壺と甕の破片が検出された。Ｄ－108・109は西側の墓壙幅が広く、Ｄ－110とは反対にこれらは西頭位に埋葬されたと推測される。Ｄ－109には磨製石鏃が副葬されていた。第４区の中ではこの３基の土壙墓・木棺墓は意識的に配列されたと考えられ、弥生時代の葬送儀礼を検討する上で重要な出土例になろう。第５区の土壙墓は近世墓に切られており、残りが良くない。概して小型の土壙墓が多いように見受けられる。第６区のＤ－124・125は遺存状態が良好である。特にＤ－124は埋葬主体部の土壙がシャープに掘

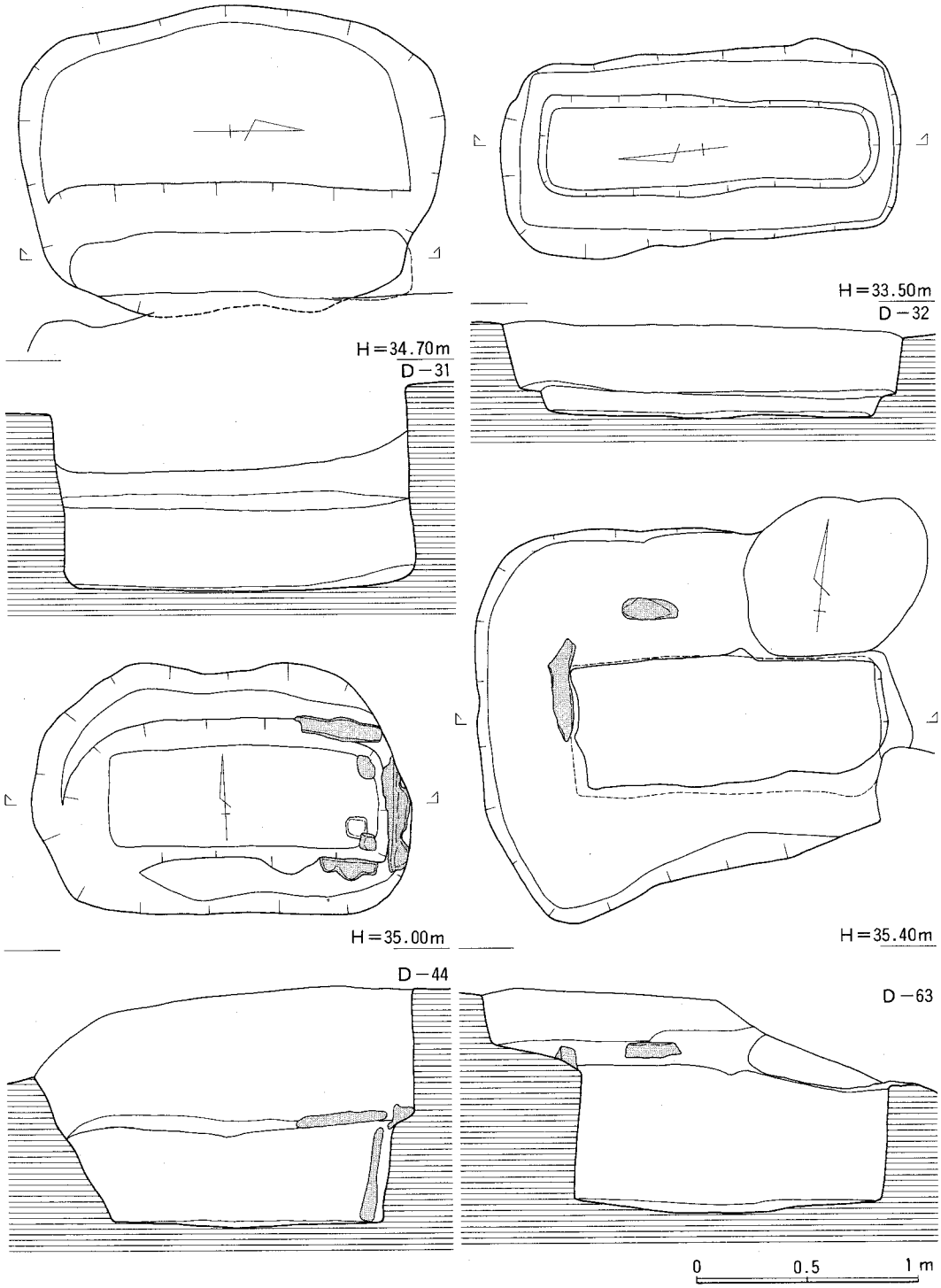


Fig. 30　D－31・32・44・63土壙墓出土状況実測図（1/30）

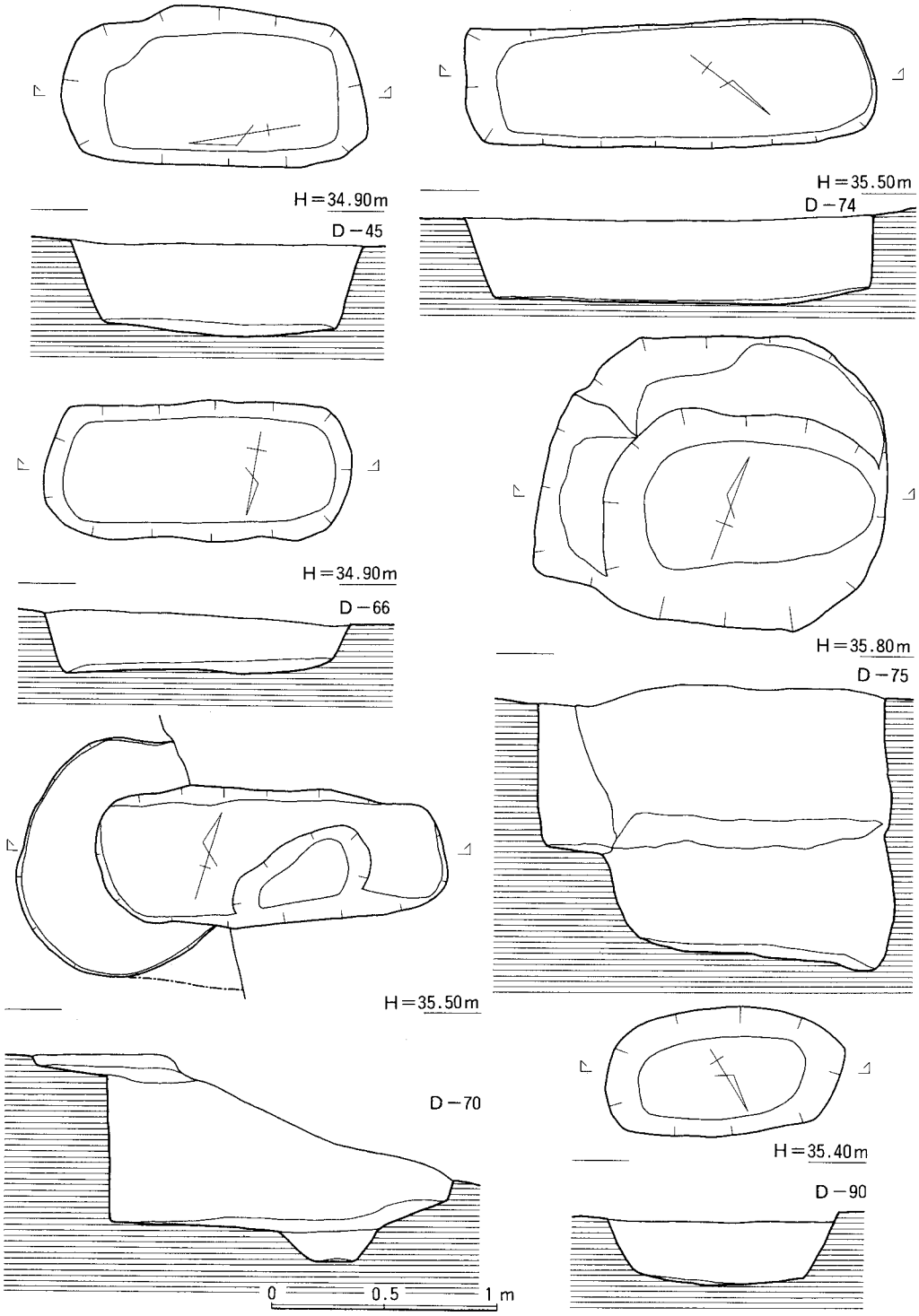


Fig. 31　D－45・66・70・74・75・90土壙墓出土状況実測図（1/30）

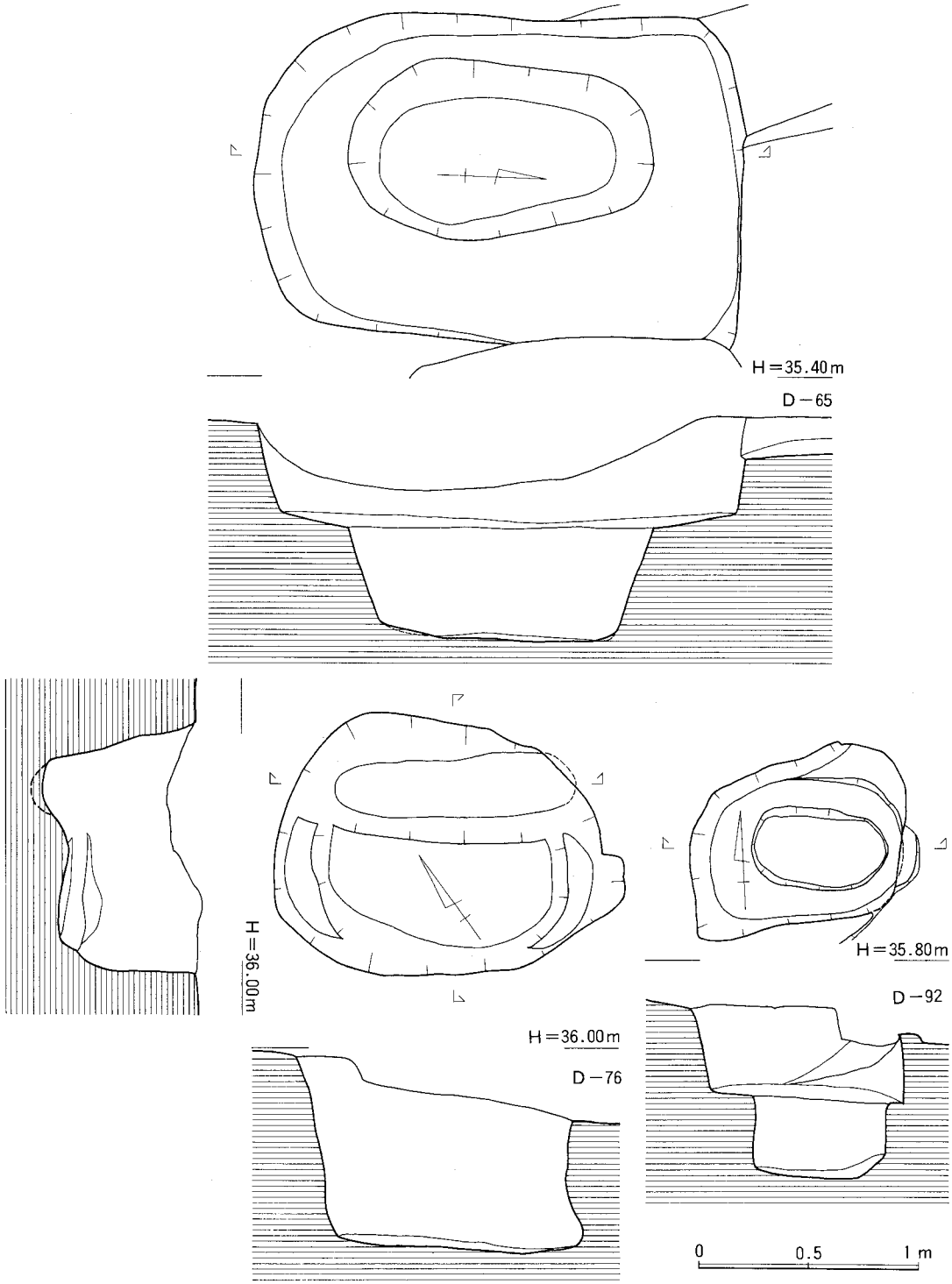


Fig. 32　D－65・76・92土壙墓出土状況実測図（1/30）

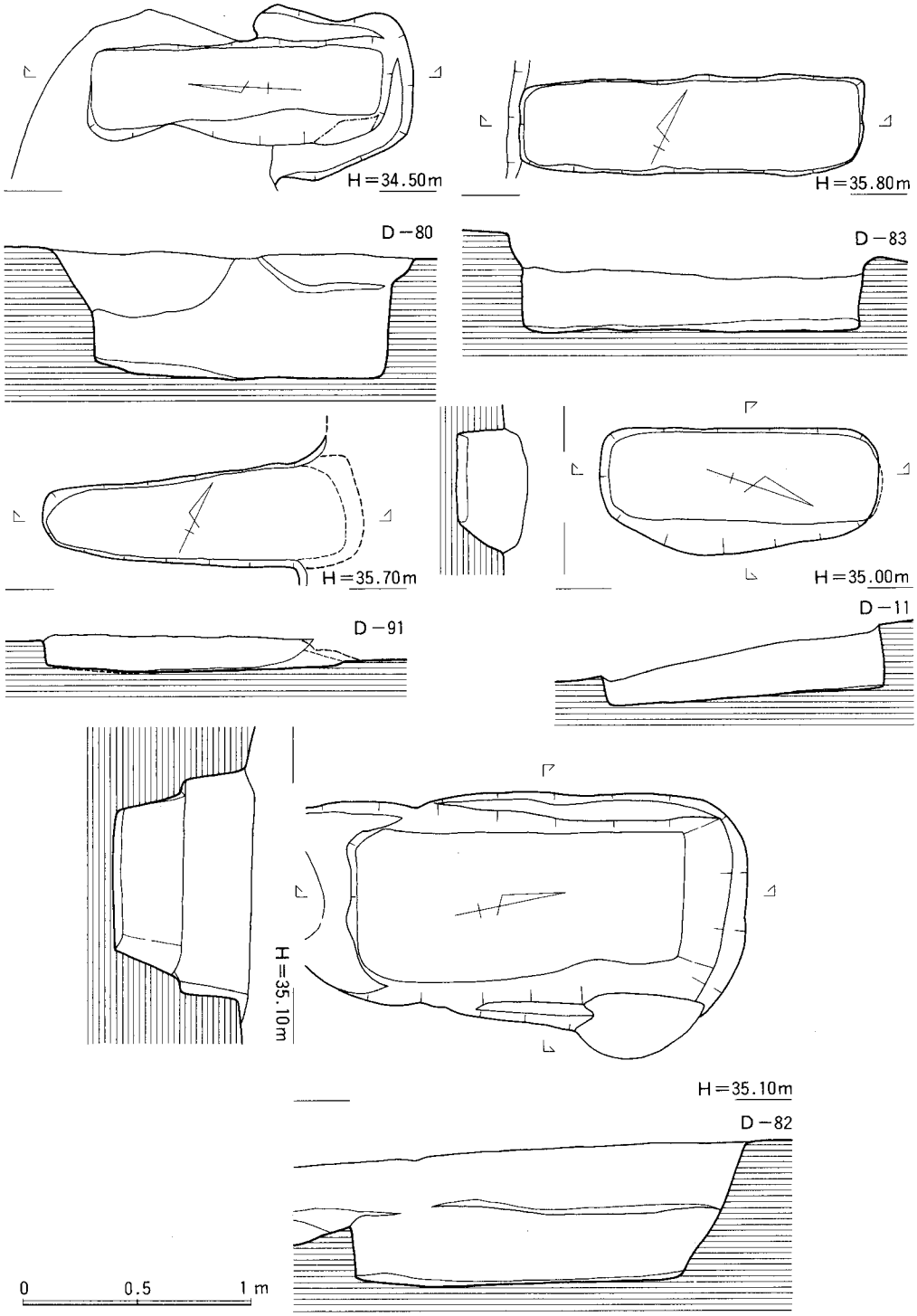


Fig. 33　D－80・82・83・91・118土壙墓出土状況実測図（1/30）

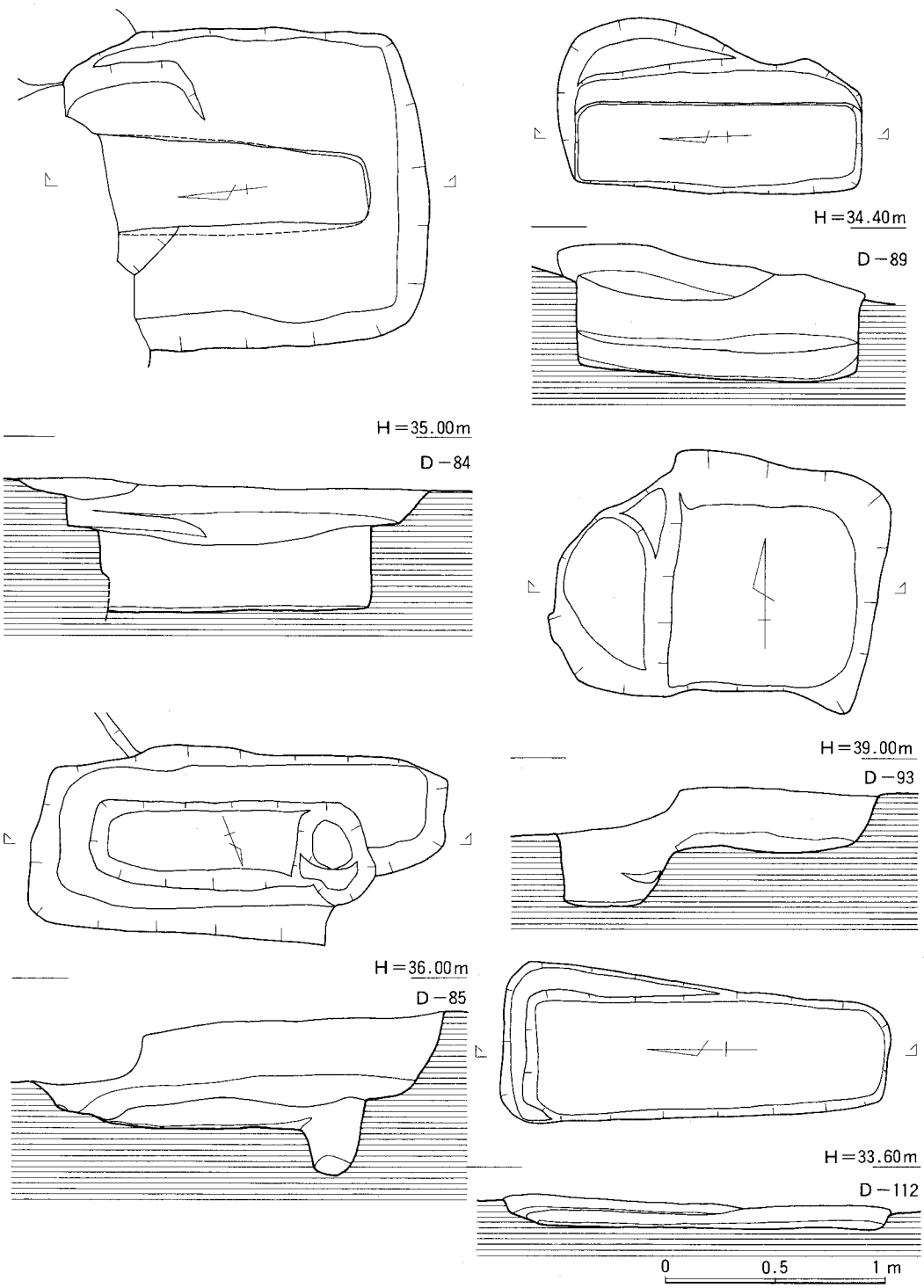


Fig. 34　D－84・85・89・93・112土壙墓出土状況実測図（1/30）

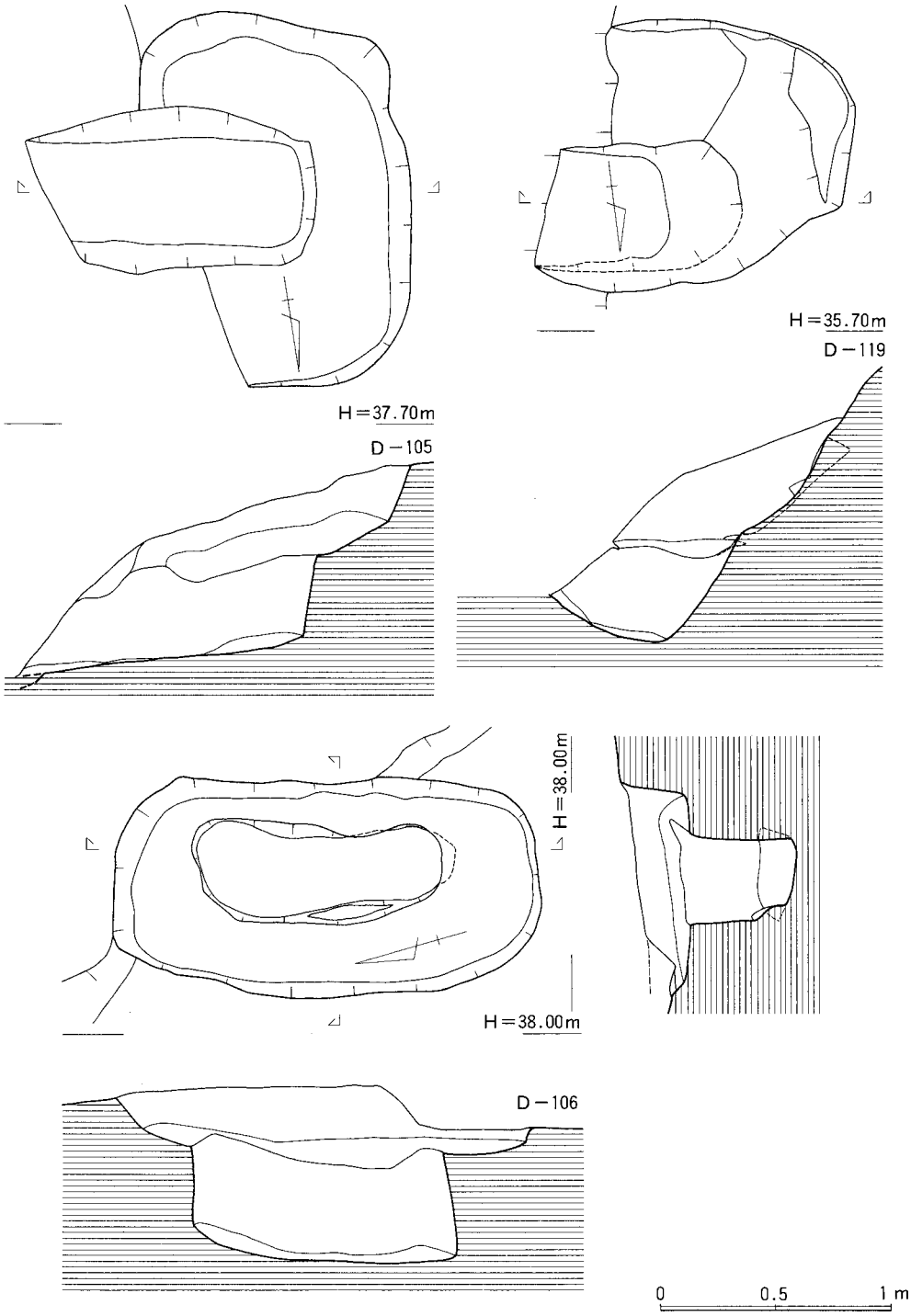


Fig. 35　D－105・106・119土壙墓出土状況実測図（1/30）

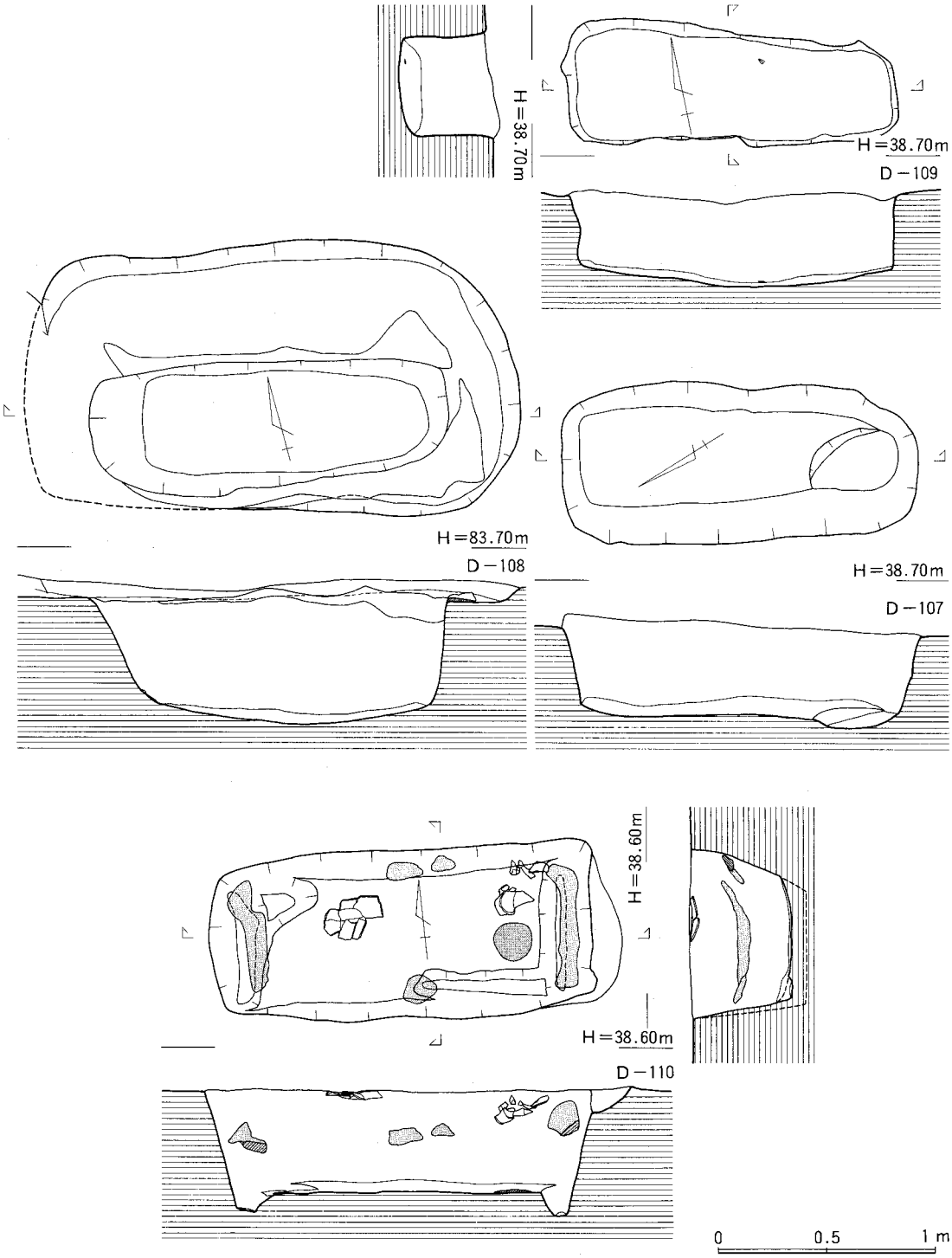


Fig. 36　D－108～110土壙墓・木棺墓出土状況実測図（1/30）

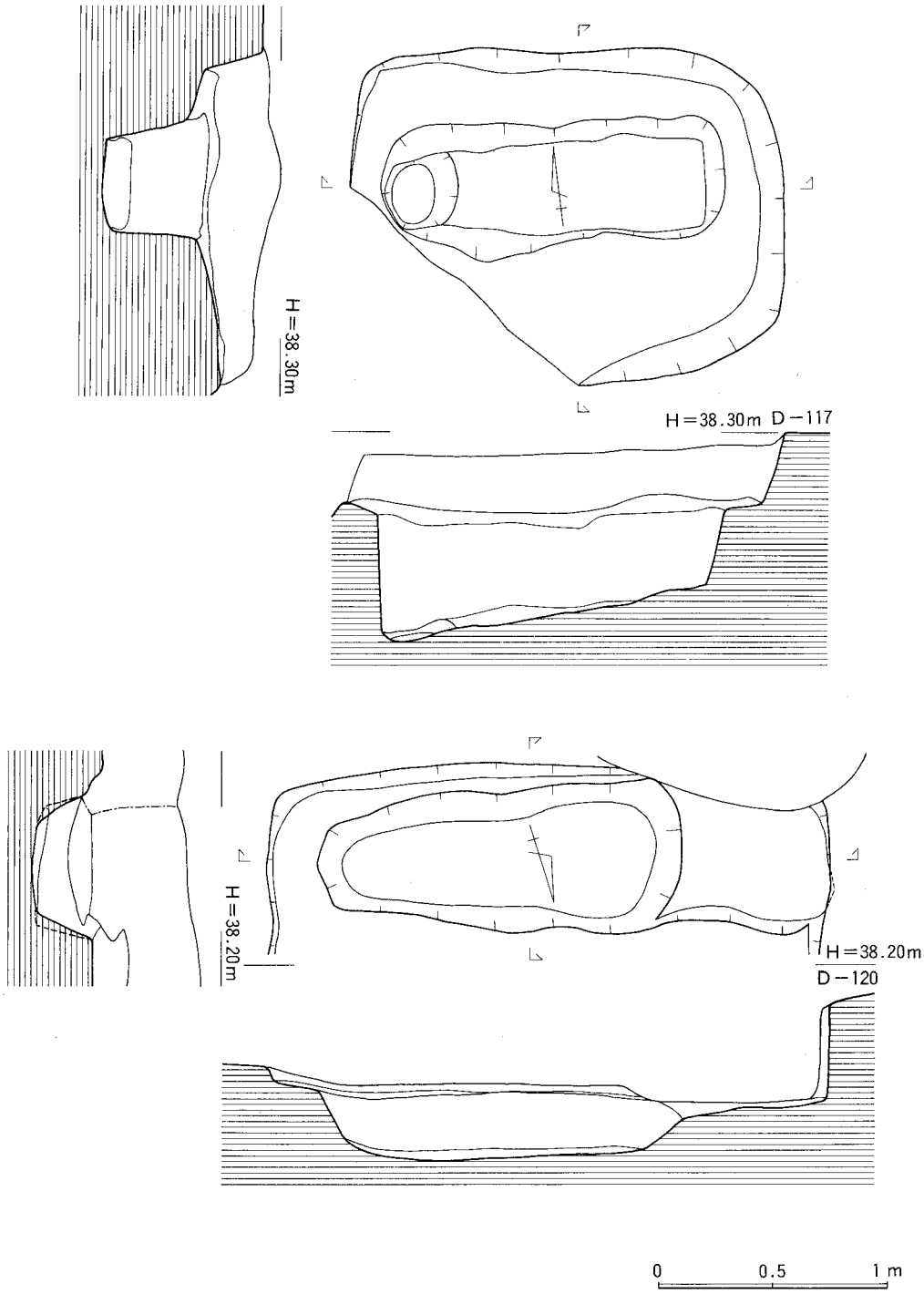


Fig. 37　D−117・120土壙墓出土状況実測図（1/30）

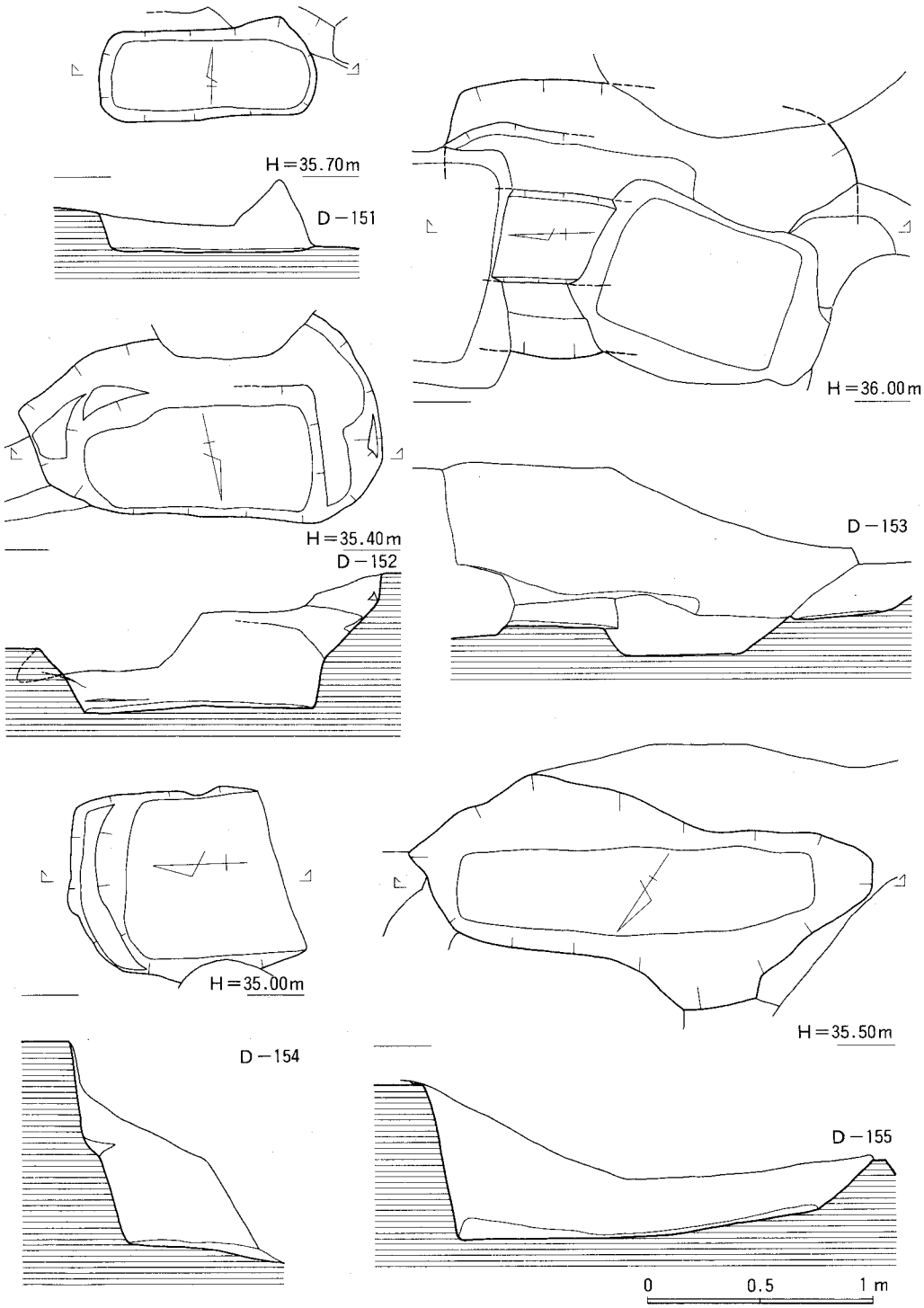


Fig. 38　D－151～155土壙墓出土状況実測図（1/30）

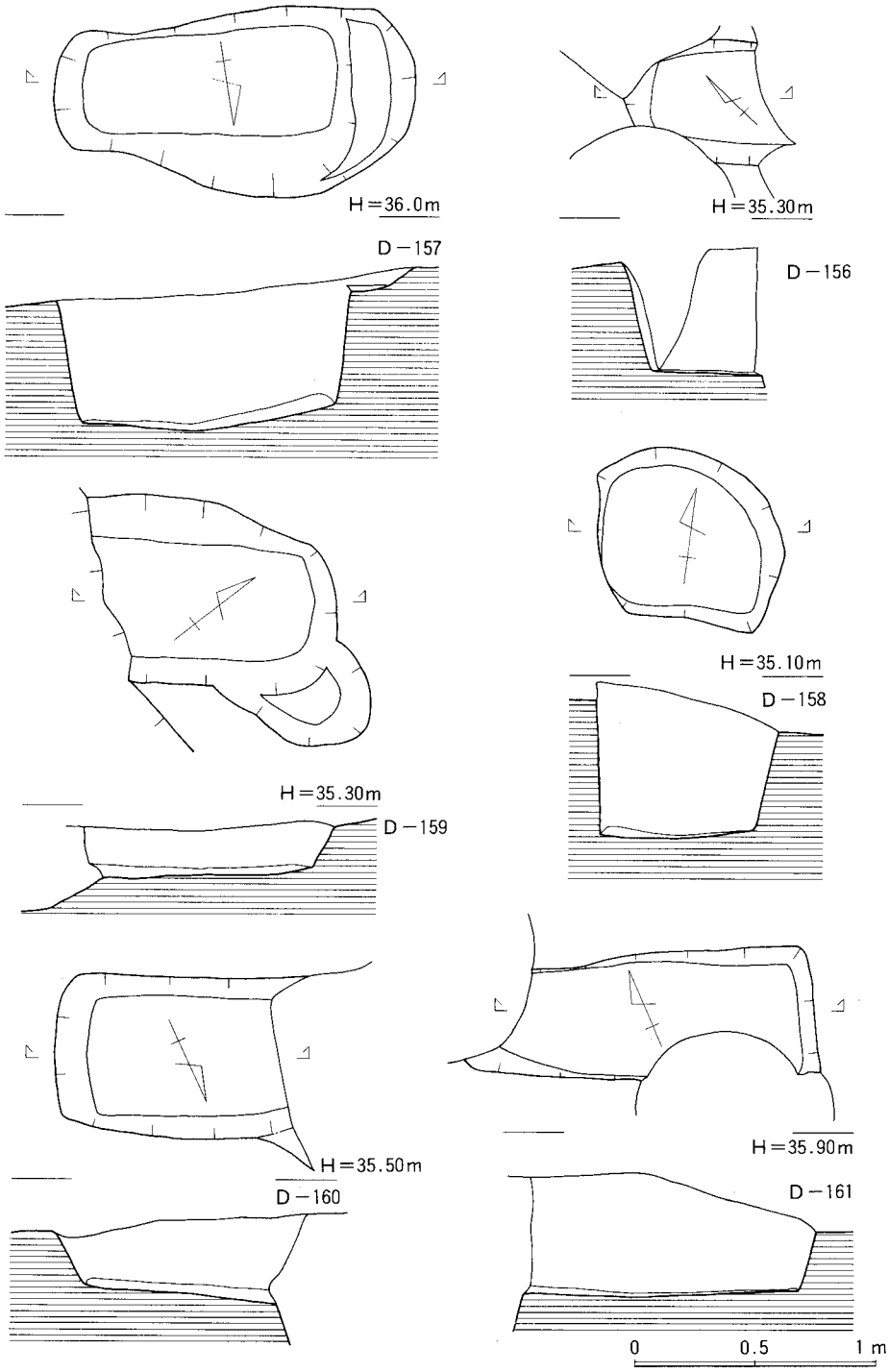


Fig. 39　D－156～161土壙墓出土状況実測図（1/30）

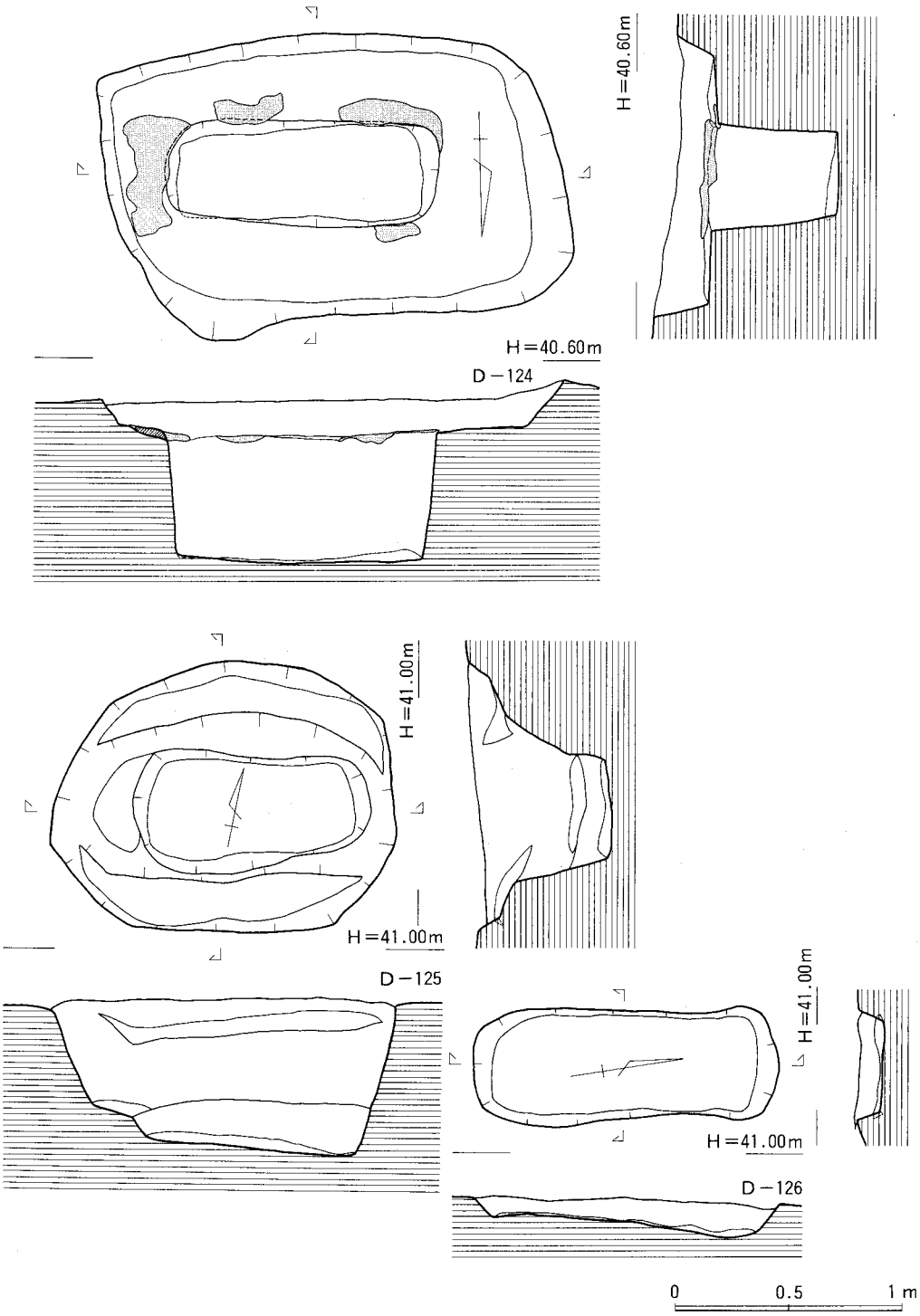


Fig. 40　D－124～126土壙墓出土状況実測図（1/30）

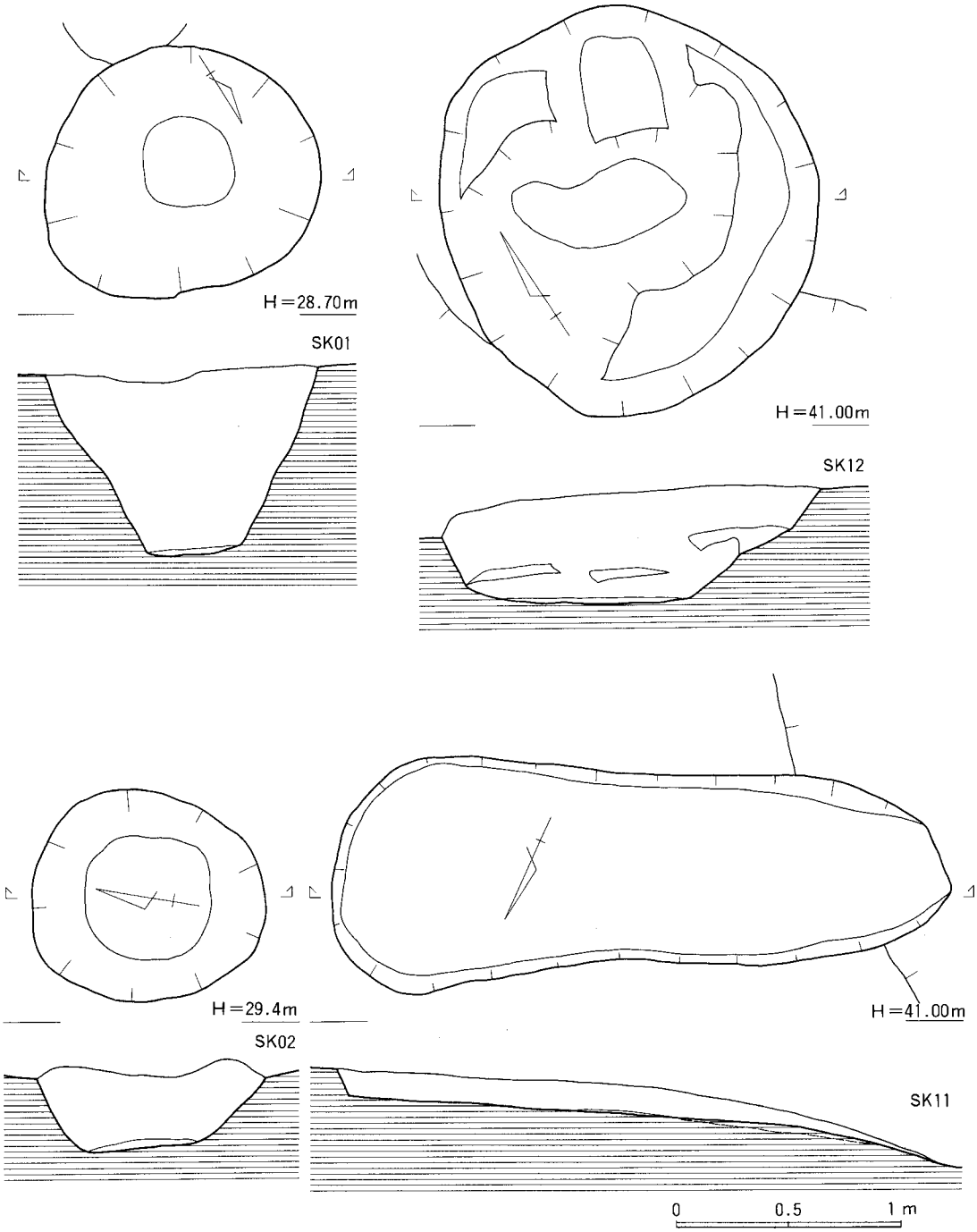


Fig. 41　ＳＫ01・02・11・12土坑出土状況実測図（1/30）

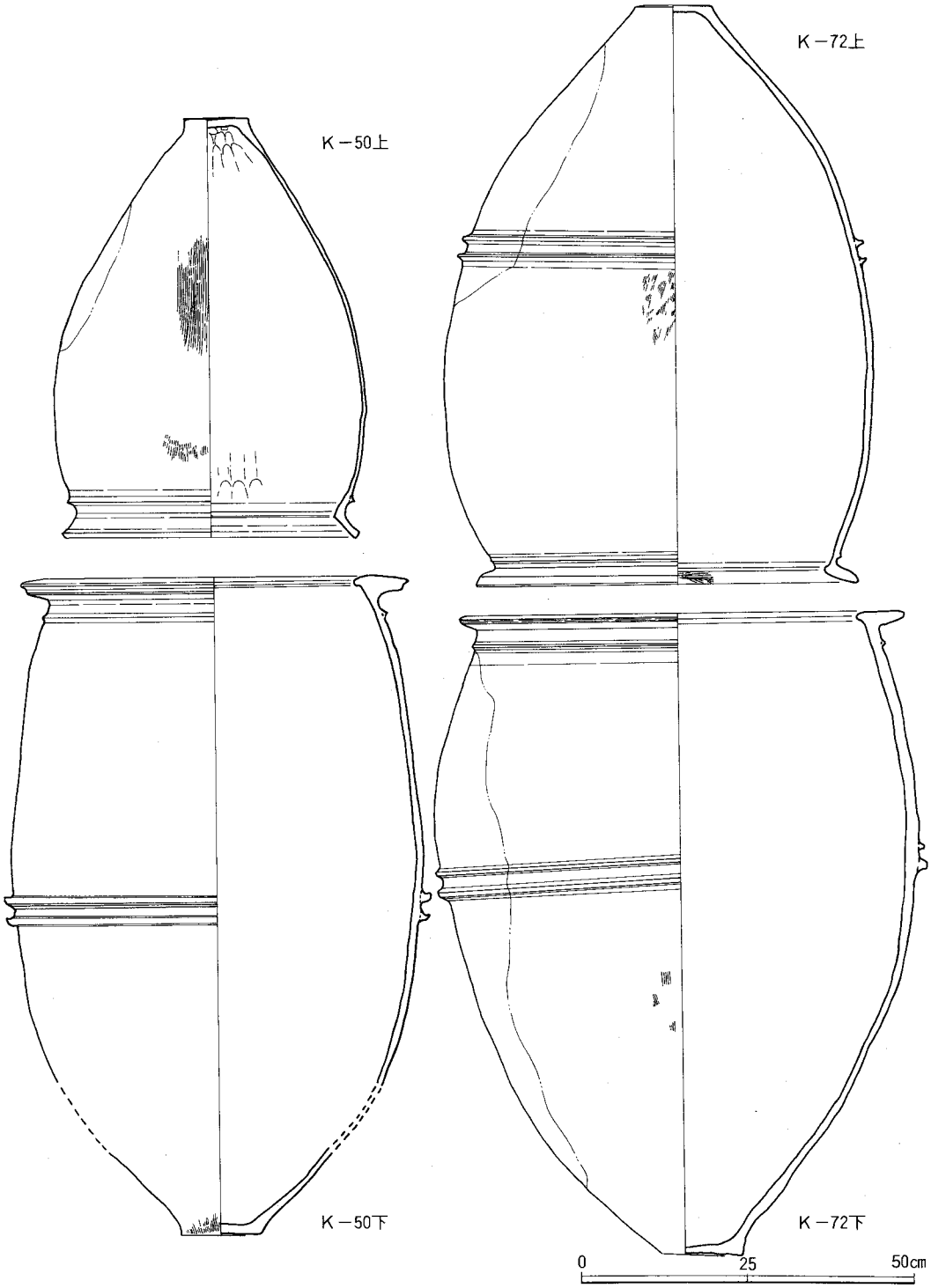


Fig. 42　K－50・72 甕 棺 実 測 図（1/10）

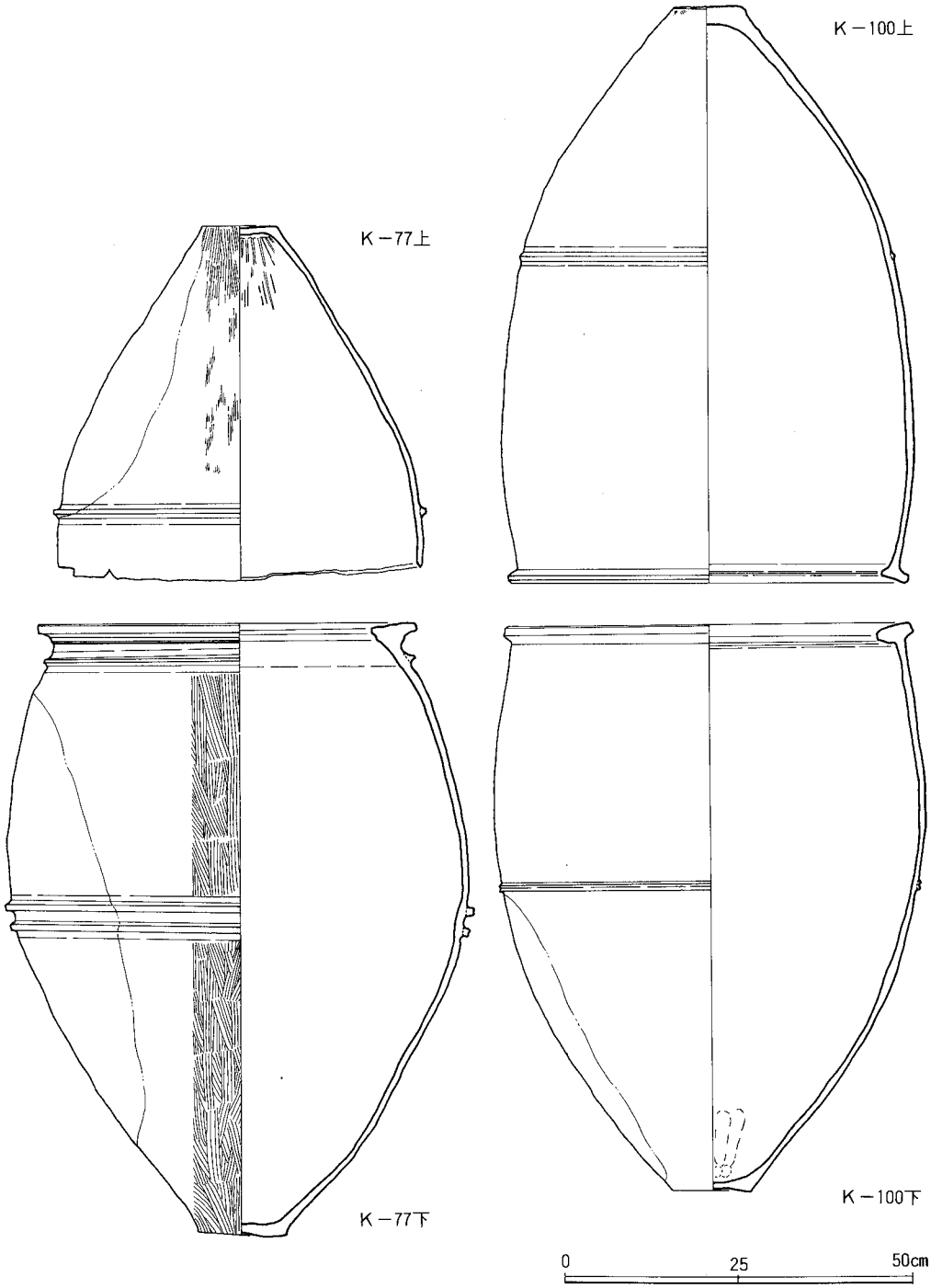


Fig. 43　K－77・100 甕 棺 実 測 図（1/10）

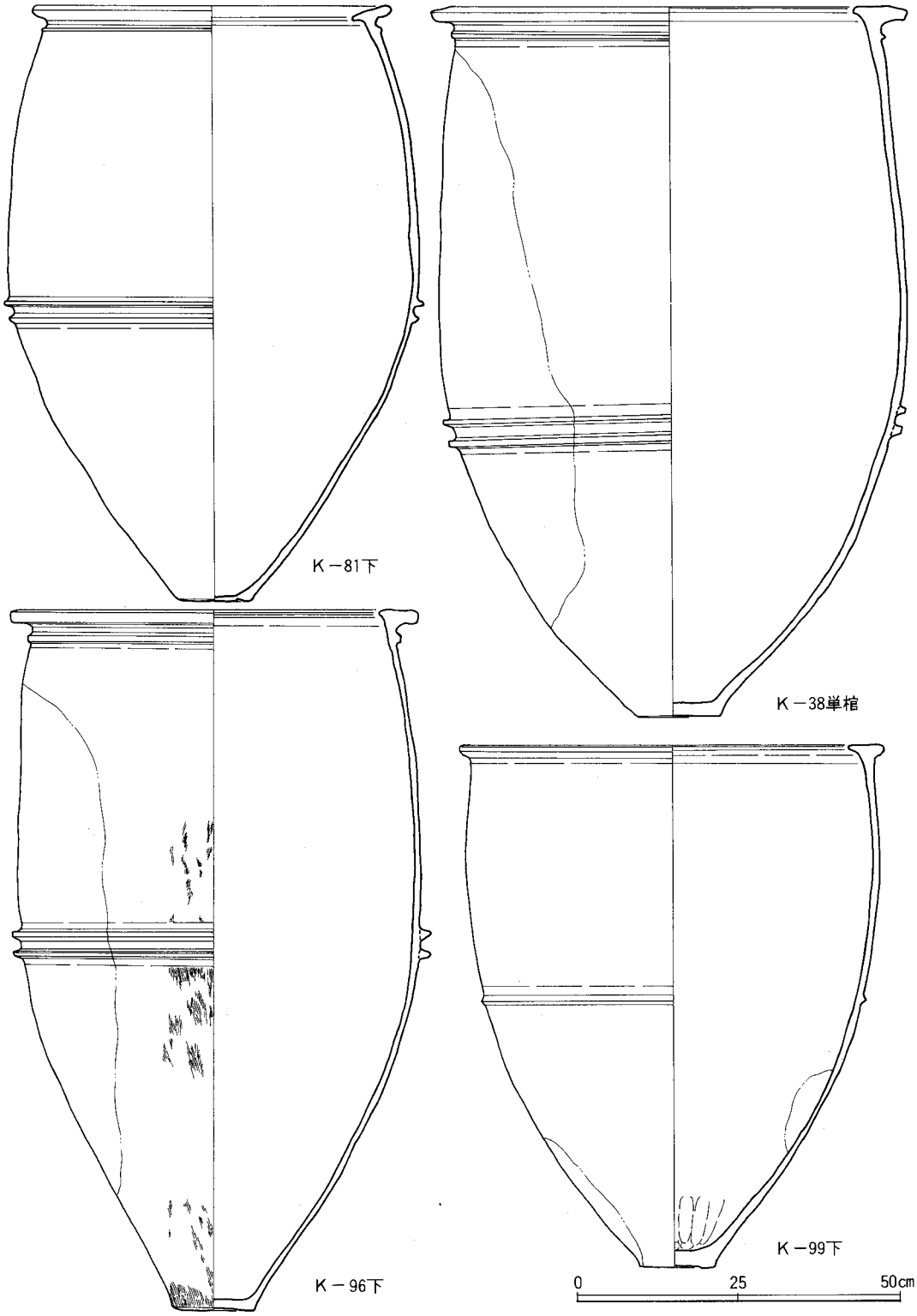


Fig. 44　K－38・81・96・99 甕 棺 実 測 図（1/10）

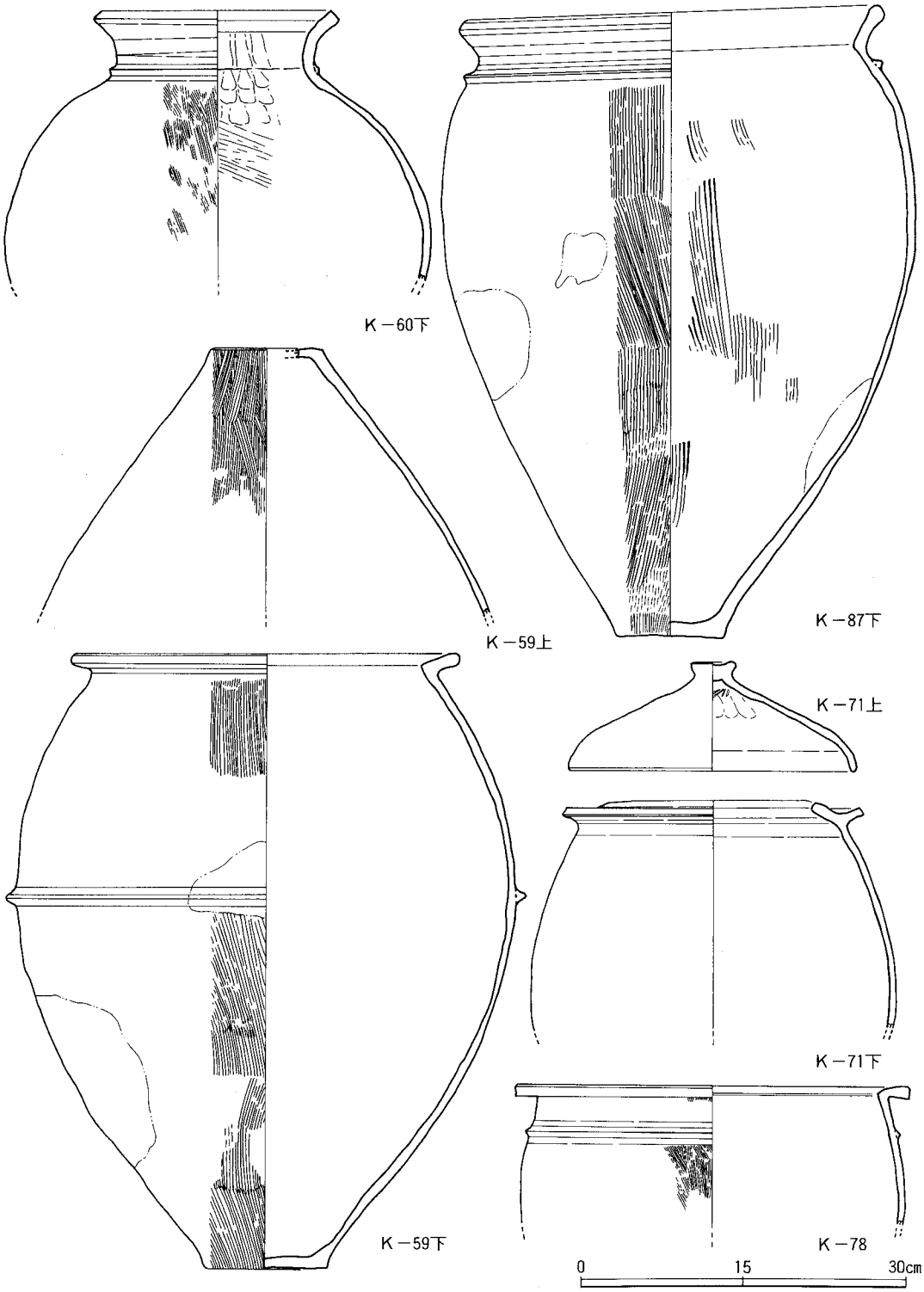


Fig. 45　K－59・60・71・78・87 甕棺実測図（1/6）

り込まれ、上面には木蓋を固める白粘土が周囲に広がっている。

iii）　出土遺物

弥生時代の墳墓内からFig. 46に示す遺物が出土した。明確な副葬土器や祭祀土坑などは出土しなかった。3はK－26の下甕から出土した磨製石戈の先端部である。頭初、磨製石剣の先端部と考えていたが、幅が広いこと、下半がやや裾広がりに広がることなどから石戈と判断した。濃灰緑色の蛇紋岩製で、残長8.3cm、最大幅4.0cm、最大厚1.05cm測る。両面は平滑に研磨され、明瞭な研磨痕は観察されない。中央部には鎬が研ぎ出されている。断面はやや丸味のある菱形で、刃部には細かな刃毀れがみられる。K－26は甕の形態から中期末の時期と考えられるので、この石戈は最も新しい時期の折損石器出土例になろう。4はD－109から出土した磨製石鏃である。墓壙底北側のほぼ中央部で、先端を南側に向けて出土した。頁岩製とみられ、表面は風化して灰色を呈している。全長3.6cm、最大幅2.0cm、最大厚0.2cmを測る。先端部が少し欠損するが、両面とも平滑に研磨仕上げが施されている。基部と表面の一部には研磨痕が少し残る。朝鮮半島で出土するのと同じタイプである。5はK－121の小型棺から出土した管玉である。甕棺が大きく破損しており1個だけしか出土しなかった。灰緑色を呈し、年輪みたいな脈がはいる。石材は碧玉ではなく硬質の頁岩であろうか。全長1.4cm、径0.6cm、孔径0.25cmである。孔は両面から穿孔されている。甕の形態から中期中葉とみられる。

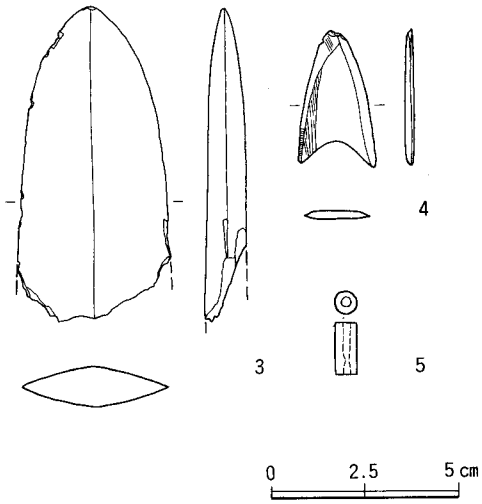


Fig. 46　弥生墳墓出土遺物実測図（1/2）

iv）その他の遺構

Fig. 41は各区から出土した墳墓以外の土坑である。SK01は第1区中央部で出土したもので、径1.22m、深さ0.82mである。黒曜石片が出土しているが、覆土は灰褐色で新しい時期のものであろう。SK02は第2区の南端部で単独に出土した円形の土坑である。径1.03m、深さ0.37mを測る。出土遺物は確認していない。SK11と12は第6で出土した土坑である。SK11は長楕円形を呈し、全長2.75m、最大幅1.03m、深さ0.13mを測る。遺物は出土していない。SK12は円形を呈し、径1.82m、深さ0.5mを測る。底面は狭い長楕円形となっており、階段状に窪んでいる。茶褐色土が覆土になっていたが、はっきりした時期が決め難い。

Tab. 1　席田青木遺跡甕棺墓一覧表 ①

番号	地区	接合形式	器種 上甕	器種 下甕	主軸方向	埋置角度	時期	種図・写真番号 Fig.	種図・写真番号 PL.	備考
K-001	Ⅰ	接口	鉢	甕	N37° E	0°	中期中葉	5	2	粘土目貼り有り
K-002	Ⅰ	接口	甕	甕	N30° E	0°	中期中葉	5	3	粘土目貼り有り
K-003	Ⅰ	接口	甕	甕	S30° W	0°	中期中葉	5	3	粘土目貼り有り
K-004	Ⅰ	不明	壺	甕	S20° W	ほぼ水平	中期	5	4	K-003の上に乗る
K-005	Ⅰ	接口	甕	甕	N20° E	0°	中期前半	5	4	
K-006	Ⅱ	単棺	—	甕	S53° W	12°	中期後半	7	6	木蓋の痕跡有り
K-007	Ⅱ	不明	—	甕	S33° W	ほぼ水平	中期後半	7		
K-008	Ⅱ	不明	—	甕	S30° W	34°	中期後半	7	6	
K-009	Ⅱ	不明	—	甕	N75° W	ほぼ水平	中期中葉	7	7	
K-010	Ⅱ	不明	—	甕	N77° W	ほぼ水平	中期中葉	7		
K-011	Ⅱ	不明	—	甕	N58° W	ほぼ水平	中期中葉	7	7	粘土目貼り有り
K-012	Ⅱ	接口	甕	甕	S13° W	0°	中期前半	8	8	粘土目貼り有り
K-013	Ⅱ	不明	—	甕	S61° W	ほぼ水平	中期後半	7	8	
K-014	Ⅱ	不明	—	甕	S77° W	0°	中期後半	7		
K-015	Ⅱ	不明	—	甕	S49° E	45°	中期後半	7	9	
K-016	Ⅱ	不明	—	甕	S10° E	28°	中期後半	8		
K-017	Ⅱ	不明	—	甕	N27° E	ほぼ水平	中期	7		
K-018	Ⅱ	不明	—	甕	S12° W	0°	中期後半	8	9	人骨一部（大腿骨）出土
K-019	Ⅱ	不明	—	甕	S65° W	不明	中期	8		胴部の一部残存
K-020	Ⅱ	不明	—	甕	N19° W	ほぼ水平	中期	8		胴部の一部残存
K-021	Ⅱ	不明	—	甕	不明	不明		未図化		胴部の一部残存
K-022	Ⅲ	接口	甕	甕	N48° W	0°	中期中葉	9	11	粘土目貼り有り
K-023	Ⅲ	単棺	—	甕	S54° W	0°	中期中葉	9	11	木蓋痕跡有り
K-024	Ⅲ	接口	甕	甕	S1° E	0°	中期中葉	9	12	粘土目貼り有り
K-025	Ⅲ	単棺	—	甕	S27° E	ほぼ水平	中期	9	12	
K-026	Ⅲ	接口	甕	甕	S4° E	-14°	中期末	9	13	石戈切先出土。粘土目貼り有り
K-027	Ⅲ	不明	—	甕	S1° E	ほぼ水平	中期	9	13	
K-028	Ⅲ	接口	鉢	甕	N88° W	40°	中期後半	11	14	粘土目貼り有り
K-029	Ⅲ	接口	甕	甕	N16° W	ほぼ水平	中期後半	9		
K-033	Ⅲ	接口	鉢	甕	S40° W	27°	中期後半	12	14	粘土目貼り有り
K-034	Ⅲ	接口	鉢	甕	S83° E	25°	中期後半	11	15	粘土目貼り有り
K-035	Ⅲ	不明	—	甕	S48° W	不明	中期	11		一部のみ残存
K-036	Ⅲ	単棺	—	甕	S80° W	33°	中期後半	11	15	
K-037	Ⅲ	接口	甕	甕	N60° W	17°	中期	11		
K-038	Ⅲ	単棺	—	甕	N87° W	26°	中期後半	12. 44	16	人骨一部（左右大腿骨）残存
K-039	Ⅲ	不明	—	甕	N50° W	不明	中期	12		
K-040	Ⅲ	接口	甕	甕	N5° E	25°	中期後半	12		上甕口縁打ち欠き、粘土目貼り有り
K-041	Ⅲ	単棺	—	甕	S57° E	38°	中期後半	13	17	口縁部内側が薄く伸びる
K-042	Ⅲ	不明	—	甕	S5° W	30°	中期後半	12		
K-043	Ⅲ	接口	甕	甕	N89° W	26°	中期後半	13	17	頭蓋骨、大腿骨の一部出土 粘土目貼り有り
K-046	Ⅲ	不明	—	甕	S83° W	16°	中期後半	13	18	
K-047	Ⅲ	接口	鉢	甕	S31° W	24°	中期後半	14	18	
K-048	Ⅲ	接口	甕	甕	S76° W	23°	中期後半	13	19	上甕口縁打ち欠き。粘土目貼り有り
K-049	Ⅲ	接口	甕	甕	S82° W	22°	中期後半	14	19	上甕を粘土で固定、目貼りを兼ねる
K-050	Ⅲ	接口？	甕	甕	N65° W	19°	中期末	14. 42	20	上甕口縁打ち欠き
K-051	Ⅲ	接口	甕	甕	S12° W	0°	中期前半	14	20	
K-052	Ⅲ	接口	甕	甕	S20° E	24°	中期後半	14	21	粘土目貼り有り
K-053	Ⅲ	接口	甕	甕	S31° E	24°	後期初頭	15	21	下甕低部穿孔
K-054	Ⅲ	不明	—	甕	S65° E	33°	中期後半	15	22	
K-055	Ⅲ	接口	甕	甕	N30° W	28°	中期後半	15	22	上甕突帯から上を打ち欠き
K-056	Ⅲ	接口	鉢	甕	S5° W	0°	中期前半	15	23	粘土目貼り有り
K-057	Ⅲ	接口	甕	甕	N33° W	25°	中期末	15	23	
K-058	Ⅲ	単棺	—	甕	N84° W	17°	中期後半	15	24	
K-059	Ⅲ	覆口	甕	甕	N83° W	19°	中期後半	15. 45	24	上甕口縁打ち欠き
K-060	Ⅲ	覆口	甕	壺	N16° W	19°	中期末	16. 45	24	上甕突帯から上を打ち欠き、丹塗り

Tab. 1　席田青木遺跡甕棺墓一覧表 ②

番号	地区	接合形式	器種 上甕	器種 下甕	主軸方向	埋置角度	時期	種図・写真番号 Fig.	種図・写真番号 PL.	備考
K-061	Ⅲ	単棺	—	甕	N9° E	36°	中期後半	16	25	
K-062	Ⅲ	単棺	—	甕	S83° W	不明	中期末	16		
K-064	Ⅲ	単棺	—	甕	S20° E	25°	中期後半	16	25	調査中崩壊
K-067	Ⅲ	不明	—	甕	S54° W	35°	中期後半	17		下甕の一部のみ残存
K-068	Ⅲ	接口	鉢	甕	S30° W	36°	中期後半	16	26	粘土目貼り有り
K-069	Ⅲ	接口	鉢	甕	S69° W	29°	中期後半	17	26	
K-071	Ⅲ	接口	甕蓋	樽型壺	N53° E	30°	中期後半	17. 45		
K-072	Ⅲ	接口	甕	甕	S5° E	24°	中期後半	17. 42	27	
K-073	Ⅲ	不明	—	甕	N4° E	ほぼ水平	中期前半	17		
K-077	Ⅲ	接口	甕	甕	S88° E	42°	中期後半	18. 43	27～29	上甕口縁打ち欠き。人骨一体分出土
K-078	Ⅲ	接口？	壺	甕	S3° W	ほぼ水平	中期前半	18. 45	29	上口縁打ち欠き。粘土目貼り有り
K-079	Ⅲ	接口？	—	甕	N79° W	10°	中期末	18	30	粘土目貼り有り
K-081	Ⅲ	接口	甕	甕	S10° W	15°	中期後半	18	30	上甕口縁打ち欠き。粘土目貼り有り
K-086	Ⅲ	接口	甕	甕	S10° E	0°	中期前半	19	31	粘土目貼り有り
K-087	Ⅲ	呑口	甕	甕	N4° E	17°	中期末	18. 45	31	上甕口縁打ち欠き
K-088	Ⅲ	単棺	—	甕	N0°	28°	中期後半	19	32	
K-094	Ⅳ	接口	甕	甕	S61° E	ほぼ水平	中期中葉	21		
K-095	Ⅳ	不明	—	甕	N87° E	ほぼ水平	中期中葉	21		粘土目貼り有り
K-096	Ⅳ	接口	甕	甕	S10° W	0°	中期前半	22. 44	35	粘土目貼り有り
K-097	Ⅳ	呑口	甕	甕	S25° W	-9°	中期前半	21	35	粘土目貼り有り
K-098	Ⅳ	接口	甕	甕	S62° E	0°	中期前半	22	36	粘土目貼り有り
K-099	Ⅳ	接口	甕	甕	S5° E	6°	中期前半	23. 44	36	粘土目貼り有り
K-100	Ⅳ	接口	甕	甕	S11° W	-10°	中期前半	23. 43	37	粘土目貼り有り。赤色顔料分布
K-101	Ⅳ	接口？	甕	甕	S5° W	13°	中期前半	22	38	上甕口縁打ち欠き。粘土目貼り有り
K-102	Ⅳ	接口	甕	甕	S50° E	0°	中期前半	23	38	粘土目貼り有り。赤色顔料分布
K-103	Ⅳ	接口	甕	甕	N27° W	0°	中期前半	21	39	
K-104	Ⅳ	接口	甕	甕	S27° E	11°	中期前半	21	39	粘土目貼り有り
K-111	Ⅲ	接口	甕	甕	S6° W	3°	中期前半	21	32	粘土目貼り有り
K-113	Ⅲ	単棺	—	甕	N83° W	25°	中期後半	19	33	粘土目貼り有り
K-114	Ⅲ	接口	甕	甕	S60° W	25°	中期後半	19	33	
K-115	Ⅲ	不明	—	甕	S23° E	不明	中期	21		
K-121	Ⅵ	単棺？	—	甕	N52° W	ほぼ水平	中期中葉	28		管玉出土
K-122	Ⅵ	接口	壺	甕	N78° W	0°	中期前半	28	49	粘土目貼り有り。上甕頭部から上を打ち欠き
K-123	Ⅵ	接口	甕	甕	N74° W	0°	中期前半	29	49	粘土目貼り有り
K-127	Ⅴ	単棺？	—	甕	S22° W	34°	中期後半	25	41	粘土目貼り有り
K-128	Ⅴ	覆口	甕	甕	S8° W	13°	中期後半	25	41	上甕突帯から上を打ち欠き
K-129	Ⅴ	接口	甕	甕	S25° W	30°	中期後半	25	42	上甕口縁打ち欠き
K-130	Ⅴ	不明	—	甕	S11° E	19°	中期後半	25	42	
K-131	Ⅴ	覆口	甕	甕	S2° E	22°	中期後半	27	43	上甕口縁打ち欠き
K-132	Ⅴ	不明	—	甕	S11° E	36°	中期後半	26	43	
K-133	Ⅴ	不明	—	甕	S19° E	24°	中期後半	26		
K-134	Ⅴ	不明	—	甕	S14° E	31°	中期後半	26	44	
K-135	Ⅴ	不明	—	甕	S8° E	35°	中期後半	25	44	
K-136	Ⅴ	接口	甕	甕	N10° E	9°	中期中葉	25	45	
K-137	Ⅴ	接口	壺	甕	S50° E	10°	中期前半	27	45	上甕頭部から上を打ち欠き粘土目貼り有り
K-138	Ⅴ	接口	甕	甕	N74° W	0°	中期前半	26	46	粘土目貼り有り
K-139	Ⅴ	接口	甕	甕	N75° W	-4°	中期前半	26	46	
K-140	Ⅴ	不明	—	甕	N47° W	不明	中期後半	27		
K-141	Ⅴ	不明	—	甕	N68° W	ほぼ水平	中期	28		
K-142	Ⅴ	不明	—	甕	不明	不明			未図化	胴部破片のみ残存
K-143	Ⅴ	接口	甕	甕	N83° E	5°	中期	27	47	粘土目貼り有り
K-144	Ⅴ	不明	—	甕	N62° W	ほぼ水平	中期	27		
K-145	Ⅴ	接口	甕	甕	N11° W	ほぼ水平	中期後半	27		粘土目貼り有り
K-146	Ⅴ	不明	—	甕	N60° W	不明	中期	28		
K-147	Ⅴ	不明	—	甕	N63° W	ほぼ水平	中期後半	28	47	

Tab. 1　席田青木遺跡甕棺墓一覧表 ③

番号	地区	接合形式	器種 上甕	器種 下甕	主軸方向	埋置角度	時期	種図・写真番号 Fig.	種図・写真番号 PL.	備考
K-148	V	接口	鉢	甕	N18° E	0°	中期中葉	28	47	粘土目貼り有り
K-149	V	不明	不明	不明	不明	不明	中期後半			未図化
K-150	V	不明	—	甕	S86° E	ほぼ水平	中期	28		

Tab. 2　席田青木遺跡土壙墓一覧表 ①

番号	地区	墓壙の形態	墓壙の規模	深さ(m)	主体部の規模 (m)		主軸	時期	Fig.	PL.	備考
D-030	Ⅲ	隅丸長方形	2.22×1.31	0.36	1.68×1.00	0.70	N6° W	弥生中期前半	29	50	一部に石組を持つ。二段掘。頭蓋骨片出
D-031	Ⅲ	隅丸長方形	1.91×1.4	0.53	1.63×0.6	0.39	N1° W	弥生中期前半	30	51	二段掘。主体部は東側に寄る
D-032	Ⅲ	隅丸長方形	1.81×0.85	0.30	1.53×0.45	0.11	N6° E	弥生中期前半	30	51	二段掘
D-044	Ⅲ	隅丸長方形	1.70×1.12	0.60	1.46×0.63	0.49	S88° E	弥生中期前半	30	52	二段掘。木棺の痕路有り
D-045	Ⅲ	隅丸長方形	1.85×0.71	0.41	1.35×0.71	0.41	N10° E	弥生中期前半	31	52	
D-063	Ⅲ	隅丸長方形	1.96以上×1.76	0.33	1.38×0.53	0.66	S84° W	弥生中期前半	30	53	二段掘。木蓋の痕跡有り
D-065	Ⅲ	隅丸長方形	2.23×1.50	0.50	1.38×0.83	0.51	N3° W	弥生中期前半	32	53	二段掘
D-066	Ⅲ	隅丸長方形			1.35×0.63	0.28	N80° E	弥生中期前半	31	54	
D-070	Ⅲ	隅丸長方形	1.90以上×1.07	0.12	1.56×0.64	0.67	S73° W	弥生中期前半	31	54	二段掘
D-074	Ⅲ	隅丸長方形			1.83×0.57	0.38	N36° W	弥生中期前半	31	55	
D-075	Ⅲ	略方形	1.57×1.31	0.72	1.25×0.98	0.54	N70° E	弥生中期	31	55	二段掘
D-076	Ⅲ	楕円形	1.58×1.19	0.54	1.26×0.60	0.25	N55° W	弥生中期	32	56	二段掘
D-080	Ⅲ	隅丸長方形	1.42以上×0.76以上	0.17	1.32×0.48	0.37	N4° W	弥生中期前半	33	56	二段掘
D-082	Ⅲ	隅丸長方形	1.77以上×1.04	0.30	1.77×0.82	0.35	N6° E	弥生中期前半	33	57	二段掘
D-083	Ⅲ	略長方形			1.55×0.45	0.28	N64° E	弥生中期前半	33	57	
D-084	Ⅲ	長方形	1.66以上×1.44	0.17	1.25以上×0.44	0.39	N6° E	弥生中期前半	34	58	二段掘
D-085	Ⅲ	長方形	1.88×0.90	0.36	1.25×0.40	0.14	N68° W	弥生中期前半	34	58	二段掘
D-089	Ⅲ	隅丸長方形	1.39×0.79	0.46	1.30×0.41	0.14	N1° W	弥生中期前半	34	59	二段掘
D-090	Ⅲ	楕円形			1.05×0.58	0.31	N58° W	弥生中期前半	31	59	
D-091	Ⅲ	長楕円形			1.25以上×0.46	1.16	N64° E	弥生中期前半	33		
D-092	Ⅲ	隅丸長方形	0.98×0.80	0.41	0.62×0.73	0.36	N87° W	弥生中期前半	32	60	二段掘
D-093	Ⅲ	略方形	1.45×1.08	0.29	0.55×1.00	0.35	N90° W	弥生中期	34	60	二段掘
D-105	Ⅳ	隅丸長方形	1.67以上×1.62	0.39	1.26以上×0.70	0.40	N81° W	弥生中期前半	35	63	二段掘
D-106	Ⅳ	隅丸長方形	1.85×0.95	0.25	1.08×0.44	0.47	N16° E	弥生中期前半	35	63	二段掘
D-107	Ⅳ	略長方形			1.64×0.75	0.44	N31° E	弥生中期前半	36	64	
D-108	Ⅳ	隅丸長方形	2.20以上×1.26	0.10	1.65×0.60	0.60	N74° W	弥生中期前半	36	64	二段掘。粘土目貼り有り
D-109	Ⅳ	略長方形			1.52×0.58	0.46	N79° W	弥生中期前半	36	65	磨製石鏃出土
D-110	Ⅳ	隅丸長方形			1.76×0.78	0.46	S84° E	弥生中期前半	36	66	木棺墓。赤色顔料分布小口部有り
D-112	Ⅲ	隅丸長方形	1.76以上×0.73以上	0.10	1.66×0.56	0.10	N1° W	弥生中期前半	34	61	二段掘
D-116	Ⅲ	隅丸長方形	1.79×1.07	0.42	1.52×0.56	0.18	N58° W	古墳時代	50	62	石蓋土壙墓。二段掘
D-117	Ⅳ	隅丸長方形	1.90×1.47	0.28	1.51×0.60	0.55	N83° W	弥生中期前半	37	66	二段掘
D-118	Ⅲ	略長方形			1.22×0.55	0.27	N20° W	弥生中期前半	33	61	
D-119	Ⅳ	隅丸長方形	1.40以上×1.18以上	0.60	0.90以上×0.55	0.36	N83° W	弥生中期前半	35		二段掘
D-120	Ⅳ	長方形	2.46×0.74以上	0.4	1.60×0.66	0.29	N75° W	弥生中期前半	37		二段掘
D-124	Ⅵ	隅丸長方形	2.10×1.27	0.23	1.20×0.47	0.55	S88° E	弥生中期前半	40	69	二段掘。粘土目貼り有り
D-125	Ⅵ	楕円形	1.52×1.19	0.45	1.50×0.55	0.22	S78° W	弥生中期前半	40	69	二段掘
D-126	Ⅵ	隅丸長方形			1.35×0.47	0.15	N8° E	弥生中期前半	40		
D-151	Ⅴ	隅丸長方形			0.97×0.43	0.31	N88° E	弥生中期前半	38		
D-152	Ⅴ	隅丸長方形	1.60×0.93以上	0.25	1.13×0.58	0.57	S83° E	弥生中期前半	38	67	二段掘
D-153	Ⅴ	隅丸長方形	1.82×1.23	0.57	不明×0.40	0.13	N1° E	弥生中期前半	38		二段掘
D-154	Ⅴ	隅丸長方形	1.0 以上×0.85以上	0.51	0.93以上×0.85	0.41	N2° E	弥生中期前半	38		二段掘。南半部削平
D-155	Ⅴ	隅丸長方形			2.05×1.05	0.68	N55° E	弥生中期前半	38	67	
D-156	Ⅴ	略長方形			0.72以上×0.51	0.53	N44° W	弥生中期前半	39		南半部削平
D-157	Ⅴ	略長方形	1.50以上×0.80以上	0.10	1.23×0.80	0.56	N81° W	弥生中期前半	39	68	二段掘
D-158	Ⅴ	隅丸方形			0.78×0.77	0.63	N83° E	弥生中期前半	39	68	
D-159	Ⅴ	隅丸長方形			1.04以上×0.78	0.20	N37° E	弥生中期前半	39		南半部削平
D-160	Ⅴ	隅丸長方形			1.05以上×0.67	0.37	N65° W	弥生中期前半	39		
D-161	Ⅴ	長方形			1.46以上×0.52以上	0.51	S67° E	弥生中期前半	39		

3　古墳時代の墳墓

i）第１号墳

第３区西側斜面で出土した小型の横穴式石室を持つ古墳である。墳丘は全く失われ、石室北側に周溝の一部が検出されたのみである。石室中心部から周溝端までは約６ｍあるので、墳丘は12ｍ前後に復元できるのではなかろうか。ただし北側の周溝はやや直線的な形状を呈することから正円の墳丘にはならないと考えられる。石室は、無袖型と推測され、大部分の石が抜き取られている。石室の主軸はＮ１°Ｗでほぼ磁北をとる。石室の掘方は幅3.1m、長さ4.85mまで確認できる。石室幅は1.4mで、長さは1.6mまでしか確認できない。土層堆積状況は、１灰褐色砂質土、２灰黄褐色砂質土で上面は焼土化しており赤変から黒変した硬質の層となっている。３は灰色砂質土で、カーボンや焼土粒子、焼骨など含んだ層となっている。石室構造は、奥壁側が、横位置と縦位置の大石を組み合わせて腰石としている。横位置の大石の下には３石の根固め石を噛ませる。腰石の上にはやや扁平な壁石をレンガ積状に積み上げる。左側壁は腰石１石しか残っておらず、殆ど破壊されている。右側壁は３石の腰石の上に小振りの壁石を積み上げる。裏込めには白粘土を多用し目貼りを行っている。石室内の腰石上半部は強い熱を受けて赤変し、２石・３石目の石まで赤変している。使用石材は殆どが堆積岩で、一部に花崗岩が使用されている。敷石は原位置を保っておらず移動している。敷石の下及び覆土には焼けた人骨が混入しており、石室内の赤変と何らかの関係があるものと推察される。石室内から龍泉窯系の青磁皿が出土しているのはそのためであろう。中世に石室内で火葬が行われていた可能性が高い。古墳時代の遺物は石室西壁側と前面側に集中して発見された。

Fig. 48・49は第１号墳から出土した遺物である。６～13は須恵器の小型坏蓋である。９・10・12にはヘラ記号が付き、13には釦状の摘みが付く。14～20は小型の坏身である。上記の蓋とセットになると考えられる。無高台で、口縁内面が沈線状に窪むものが多い。14・18～20にはヘラ記号が付く。21～27は内側に返りを持つ坏蓋である。22～26には天井部に摘みが付く。この蓋と対になる坏身が28～30である。底部にハの字状に広がった高台を持つ。31は無蓋高坏である。脚部を欠損している。32は土師器の坏、33・34は土師器の皿である。35は青磁皿、36～38は糸切り底の土師皿である。青磁皿や土師皿は後世に混入したものであろう。39から53は鉄製の角釘である。10cmを越える大型のものをＡ類、８～10cm大をＢ類、７cm前後をＣ類として分類した。木棺に使用されたものである。54～56は棺飾りである。径6.7cmの座金に径5.0cmの遊環が付く。遊環は割釘で座金の上に固定される。３個体分出土しているので、本来は１つの棺に４個取り付けられたと考えられる。

第１号墳は、出土した須恵器の特徴から、造営時期を７世紀中葉から後半代としておきたい。古墳時代最終末に相当し、これ以来、古墳造営は終焉を迎えるのである。

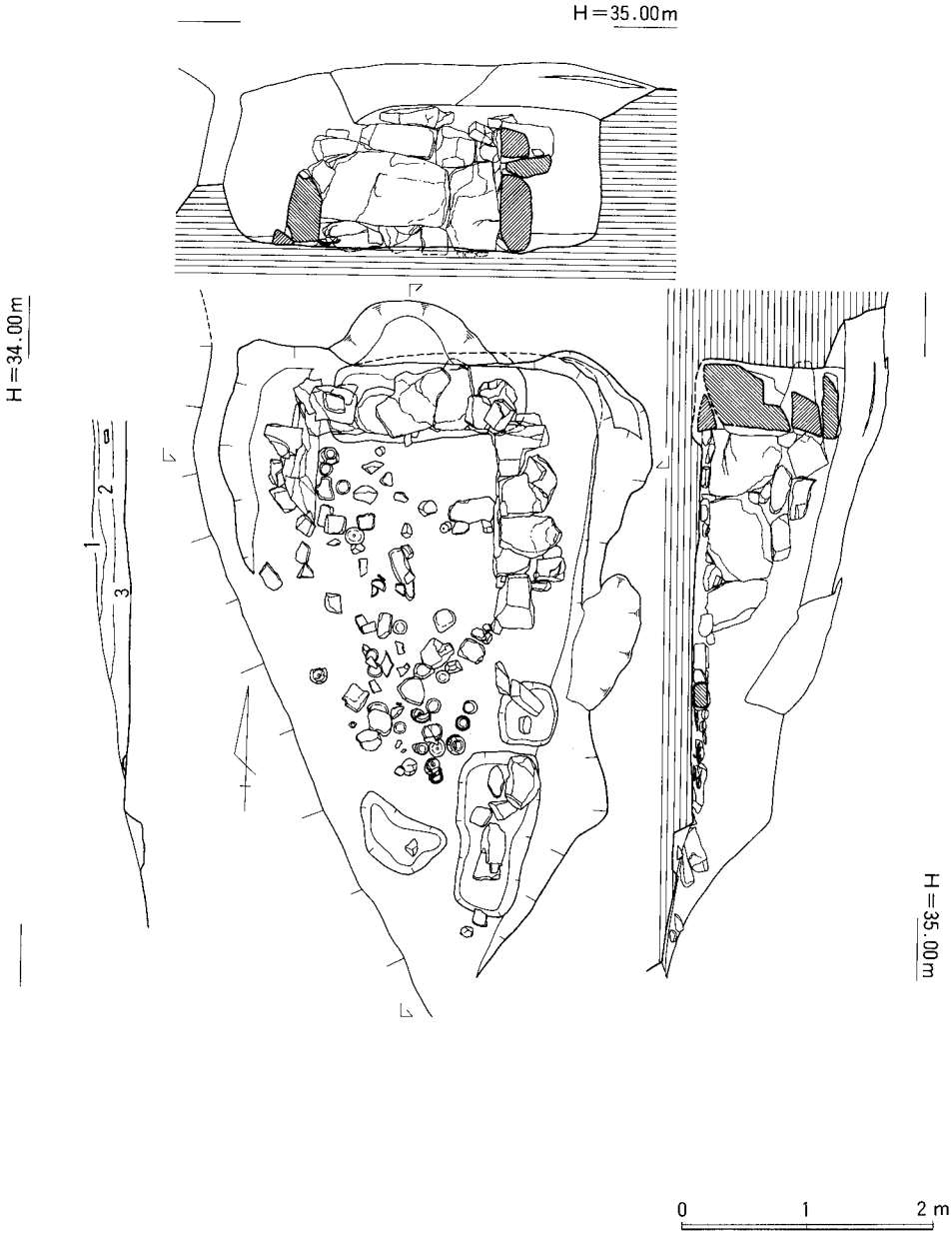


Fig. 47　第１号墳石室実測図（１/60）

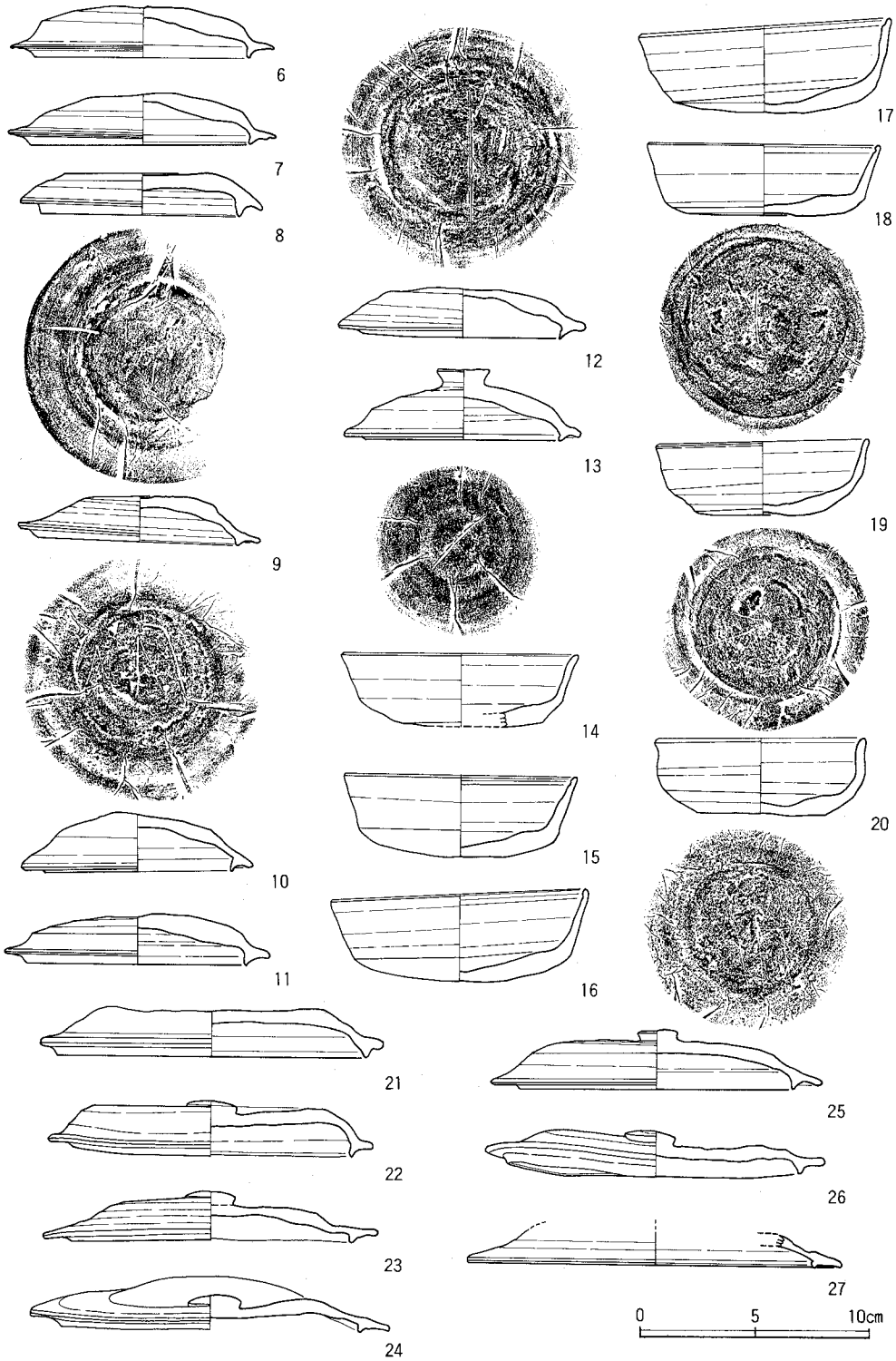


Fig. 48　第１号墳出土遺物実測図(1)（１／３）

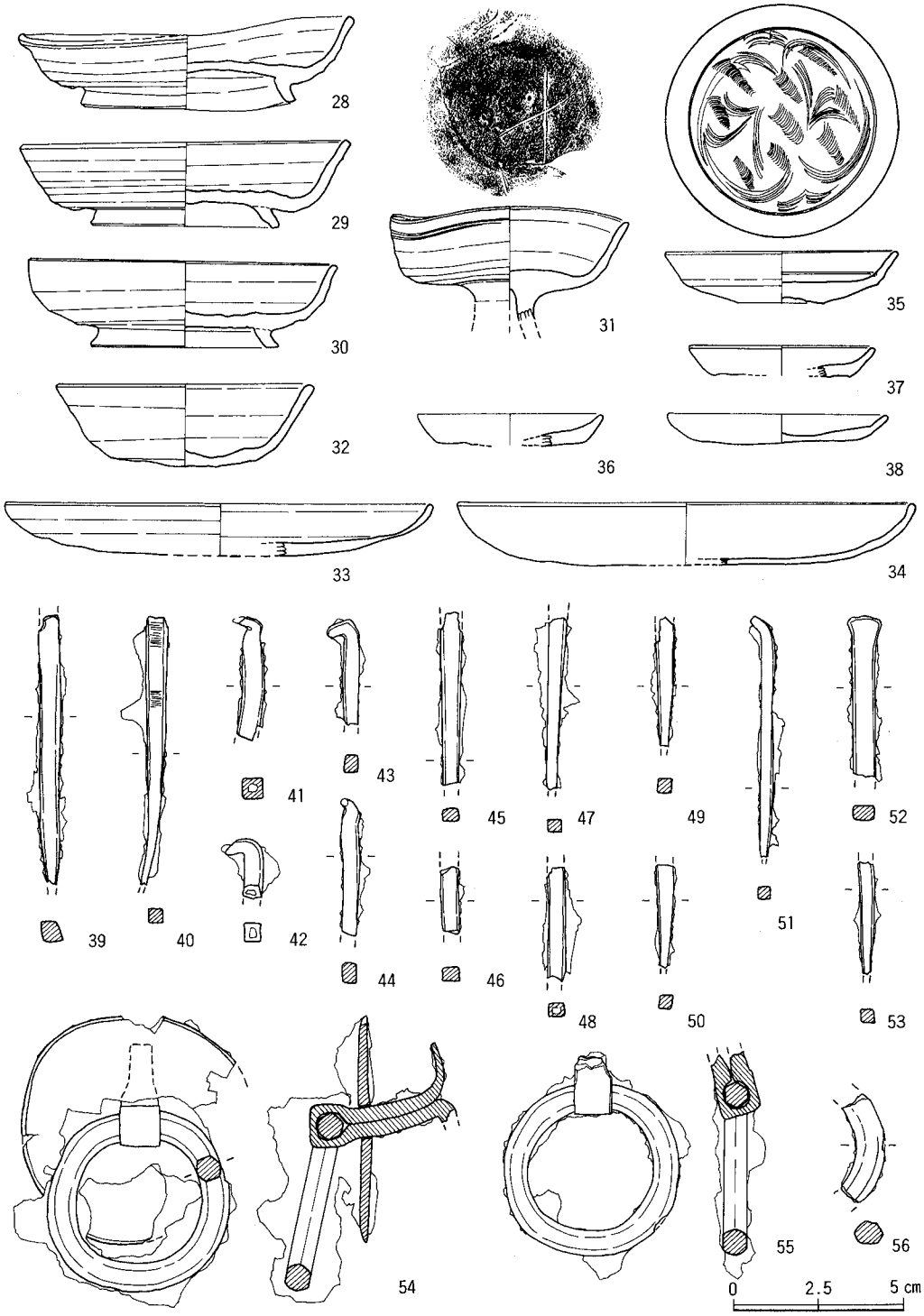


Fig. 49　第１号墳出土遺物実測図(2)（１／２・１／３）

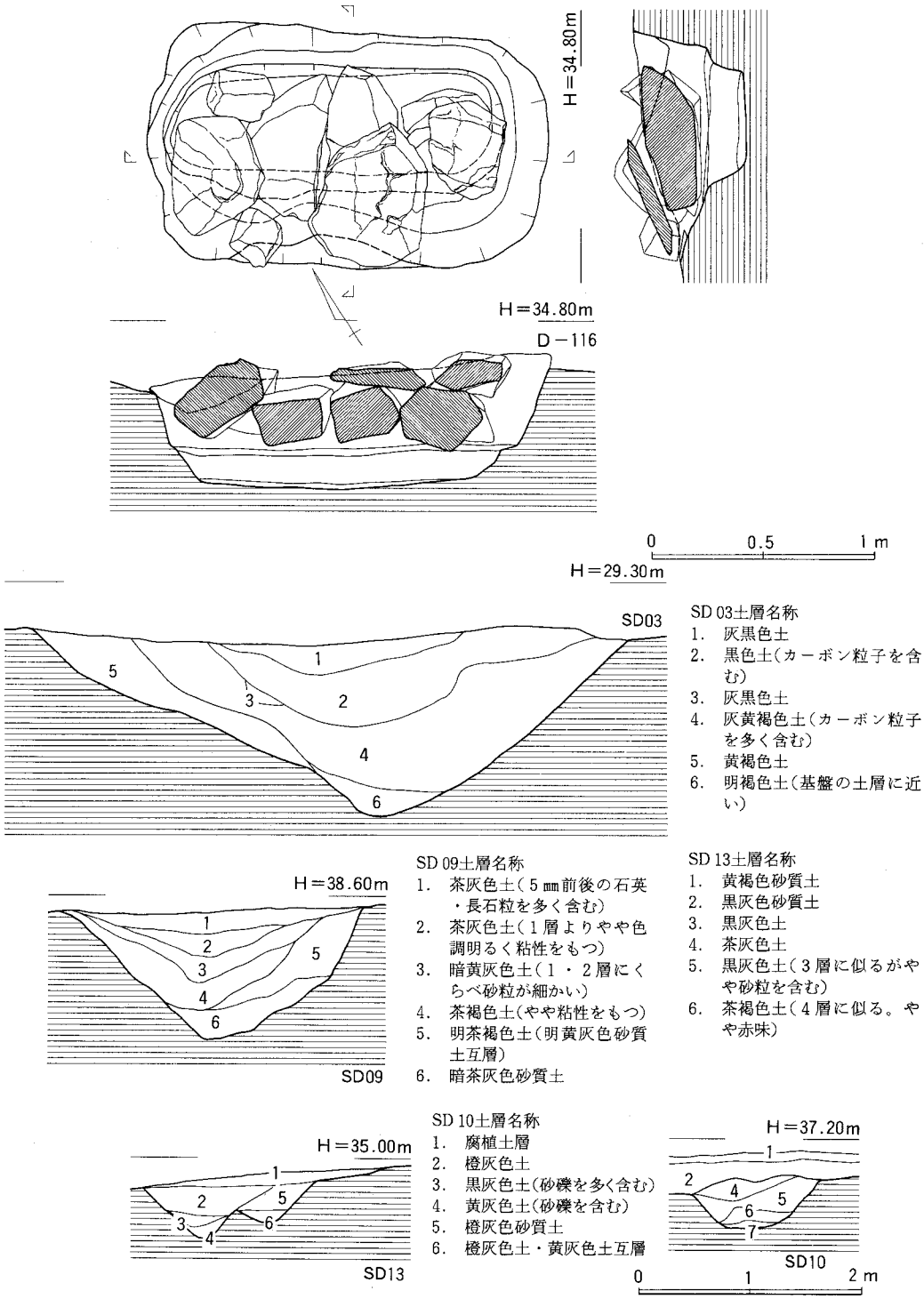


Fig. 50　D－116・SD03・09・10・13石蓋土壙墓出土状況・溝土層堆積状況実測図（1/30・1/60）

ii） 石蓋土壙墓

第３区第１号墳の東隣りで出土したＤ－116である。主軸はＮ58°Ｗで、墓壙長1.79ｍ、幅1.07ｍ、深さ0.42ｍを測る。埋葬主体の土壙規模は長さ1.52ｍ、幅0.56ｍ、深さ0.18ｍである。蓋石は厚味のある塊石で、蓋というよりも墓壙内に並べ込んだという感じである。出土遺物は無く、細かな時期判定はできないが、石蓋土壙墓の形状、配置の状況から古墳時代のものと考えておきたい。

4　中世城・溝

i） 中世城

試掘調査で弥生時代以外の大溝が確認されていたので、調査を進めていったところ、丘陵尾根を切断するＶ字溝であることが判明した。もともと着手前の現況図では、第６区としている丘陵最頂部は方形の平坦地となっており、人工的に改変された可能性が高いことが容易に推測できた。地元でも中世にお城があったという言い伝えは残っているが、具体的にどこであるか誰も知らない。今回の調査では、最頂部の一部しか調査していないので全体の様子は知り得ないが、中世城の一郭ではないかと想定される状況であった。

先ず、最頂部の現況は、標高41.86ｍで、40ｍの等高線が方形に巡り、南北36ｍ、東西33～38ｍの方形台状を呈している。この最頂部から東西南北に尾根が延びており、南側と西側の尾根は今回の調査の対象になっている。この最頂部から周辺を見渡せば、博多湾、粕屋平野、福岡平野を一望に望むことができる。つまり、志賀島、立花山（立花城）、若杉山、宝満山、四王寺山（大野城）、基肄城、九千部山、脊振山、油山、飯盛山、能古島、糸島半島の柑子岳城などが容易に見渡すことができるのである。立地の上では非常に良好な場所である。

次に、調査で明らかになったことは、６日の表土剝ぎで確認したのだが、最頂部は整形・盛土が行われていることである。深さ約60㎝の幅で、花崗岩風化土とは異なる頁岩の風化土が盛られていた。一部には列石が残り土留に使用されたものとみられた。丘陵南側の第４区との境にはＳＤ09がＶ字状に掘り込まれ、丘陵を切断している。幅2.9ｍ、深さ1.1ｍで20.6ｍに亘って確認された。溝内からは糸切りの土師皿や見込に目跡のある李朝青磁碗などが出土している。16世紀代のものであろう。さらに第３区と第４区との境東側にＶ字溝（ＳＤ07）を１条検出している。幅1.7ｍ、深さ0.6ｍで、10.5ｍ分だけ調査したが、北側の未調査区へ延びているとみられる。排水溝であろうか。室町後期の瓦質の捏鉢が出土している。ＳＤ10は６区の西側に位置するＵ字溝である。幅2.3ｍ、深さ0.6ｍで、長さ18.3ｍまで調査した。谷部へ流れ込む排水溝であろう。ＳＤ13は西側に延びる丘陵を切断するＶ字溝である。削平されて浅くなっているが、幅1.2ｍ、深さ0.6ｍ、長さ8.3ｍであった。

以上、これらの溝は、第６区丘陵最頂部を廓とする中世城の一部を形成する溝であると推察す

ることができる。城跡かどうかは、文献等を含めて今後の検討に俟たれるが、発掘調査の結果は上記の通りである。

ii） 溝

全調査区から各時期の溝が出土しているので簡単に触れておきたい。ＳＤ03は第２区南側東寄りの斜面で検出した幅の広いＶ字溝である。幅2.8m、深さ1.4mを測り、長さは21m分確認できた。黒色土を主体とした覆土で、弥生墳墓群への通路ではないかと推測される。ＳＤ04は第２区東側の端部で検出したＶ字状溝で、幅１m、深さ0.4mを測り、11.3m分確認できた。時期は土器の細片が出土したのみで判然としない。ＳＤ05は第２区北側で検出した浅い溝である。幅0.6m、深さ0.1mで、6.5m分確認した。逆台形を呈し、近世に属するものであろう。ＳＤ06は第３区中央部で出土した逆台形の浅い溝である。幅0.6m、深さ0.1mで、5.5m分確認した。近世のものであろう。ＳＤ08は第３区北端部で出土した断面逆台形の溝である。幅1.3m、深さ0.2mを測り、11m分確認した。覆土から近世に属するものであろう。ＳＤ14は第５区南側斜面で検出した幅の広いＶ字溝である。幅2.8m、深さ0.6mで、11m分確認した。排水用か、近世墓地への通路の一部ではなかったかと考えられる。ＳＤ15は第５区の丘陵頂部を南側からＬ字状に折れて西に延びるＶ字状溝である。幅2.8m、深さ0.56mを測り、延長20mまで確認できた。黒色土が覆土になっており、弥生土器が出土したことから弥生時代に属する可能性が高い。弥生時代墳墓との関係は判然としなかった。

5 近 世 墓

i） 第２区の近世墓

造成区域内には４箇所の近世墓地が存在したが、その中で、調査範囲に含まれる第２区と第５区の近世墓地については考古学的な調査の対象とした。頭初、墓石の分布状況から数は100基程度と推測していたが、遺構確認を進めたところかなりの数にのぼり、最終的には改葬墓も含めて261基に達した。既に改葬が実施されていたので、明治・大正期の墓地は殆ど残っていなかった。改葬もれは埋葬位置の分からない江戸時代のものであった。改葬は昭和初期に実施され、それ以後は火葬になったようである。第２区の近世墓は通称平田墓地と呼ばれ、平田家御一統の墓地である。家系は現在も存続し、菩提寺は志免町南里の観音寺である。

先ず、墓壙の形態は、長方形墓壙と円形墓壙のふたつのタイプに分けられる。長方形墓壙は木棺に仰臥屈葬、円形墓壙はさらにふたつに分けられ、早桶の座葬と甕の座葬とがある。

次に副葬品は各墓とも非常に高い確立で出土している。改葬墓を除く副葬率は94％である。腐朽する副葬品の見落しなども考慮すると殆ど100％に近い。基本的な副葬品の組み合わせは鋏、横櫛、毛抜、六道銭で、これらをまとめて粗い織布の頭陀袋に入れたらしい。その他、煙管、数珠、剃刀、漆椀、陶磁器、土師器、鳩笛、土製人形、型起しの土製品、貝殻などがある。その

Fig. 51　第２区近世墓分布図（1/150）

29.0
30.0
31.0
32.0
31.0
32.0
33.0
31.0

他、棺材、棺飾、鉄釘なども出土している。鋏は大きいものから、ミニチュアまで大まかに4類に分けられる。A類は全長15cm以上、刃部長6cm以上のものである。B類は、全長13～15cm、刃部長4～6cm、C類は全長9～11cm、刃部長4cm前後、D類は全長7cm以下、刃部長2～3cmのミニチュアである。ミニチュアには刃が付いていないものがある。毛抜も大まかに4類に分類できる。体部の幅が基部側と先端部側があまり変わらないA類、断面蒲鉾状で先端が撥形に広がるB類、青銅製で先端が撥形に広がるC類、小型のD類がある。A類はさらに細かく細分することができる。横櫛は梳櫛と解櫛がある。煙管も大きく2種類に区別することができる。角釘は6cm以上がA類、5cm前後がB類、3cm前後がC類と3類に区分できる。六道銭については後編を参照されたい。

円形墓壙の中で、大甕を棺として用いるものがある。内外面とも叩き調整の後、ナデかカキ目調整が施される。口縁部の形態、全体的なプロポーションから幾つかのタイプに分けられる。

第2区の近世墓地には147基の墓石が散乱していた。全て移動しており、下部構造と対応するものはなかった。江戸時代108基、明治35基、大正2基、昭和2基である。最も古いものは万治三（1660）年である。形態は、自然石がA類、丸頭方柱状に加工し、正面銘帯が窪むものがB類、圭頭方柱状のものがC類、自然石で特に大きいものがD類と区分した。最も多いA類は、さらに形態上細分が可能である。

ii）　第5区の近世墓

第2区の北西100mに位置する。通称古賀墓地と呼ばれ、古賀家御一統の墓地である。家系は現在も存続し、菩提寺は東平尾の大円寺である。新しい墓地は改葬済みで、近世の墓地は未改葬であった。改葬墓まで含めると調査した墓数は306基である。

先ず、墓壙の形態は長方形墓壙と円形墓壙のふたつのタイプに分けられる。長方形墓壙はさらに木棺に右側臥屈葬と木棺に仰臥屈葬するタイプに細分できる。円形墓壙は、早桶を使用するものと甕を使用するものに細分される。方形墓壙に箱形棺を用いるものは両墓地とも確認することができなかった。

副葬品は、長方形墓壙のタイプが殆ど副葬品を持たないので、全体の副葬比率は36.5％と下がるが、円形墓壙だけの副葬比率は57.5％と約6割に近くなる。種類は、鋏、毛抜、横櫛、漆椀、煙管、数珠、陶磁器、土師皿、小柄、六道銭などであり、棺飾りや棺釘なども出土している。基本的には第2区と同じ組み合わせであるが、種類が少なかったり、組み合わせに変化があったりしている。中には頭に鉄鍋を被せた例も存在する。

円形墓壙には大甕を棺として使用するものが多くある。形態的には第2区と同様であるが、種類が豊富である。中には「ヲシ川」の刻印が口縁部にあるものがあり、佐賀県相知町の押川窯で焼かれたものであろう。墓碑は75基確認している。江戸時代が68基、明治時代が7基存在する。最も古いものは延宝2（1674）年である。昭和初期の改葬で墓碑は散乱していた。

Fig. 52　第５区近世墓分布図（１/150）

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ①

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
001	Ⅱ	円形	0.85	0.5	0.71	早桶	座位	東向	♂	成人	釘、棺金具
002	Ⅱ	円形	1.3	0.95	1.36桶0.6	早桶	座位	東向	♂	成人	櫛、鋏、六道銭
003	Ⅱ	長方形	1.2 ×0.95	0.9 ×0.55	1.09	木棺	仰臥	北東頭	♀	熟年	漆椀、櫛、鋏、数珠、六道銭
004	Ⅱ	長方形	1.05×0.8	0.8 ×0.65	0.47	木棺	仰臥	北頭	♂	成人	
005	Ⅱ	円形	1.4	0.95	1.33桶0.65	早桶	座位	南西向	♂	熟年	漆椀、数珠、六道銭
006	Ⅱ	円形	1.0	0.65	1.12	甕	座位	西向	♀	?	鋏、六道銭
007	Ⅱ	円形	1.3	0.75	1.25	早桶	座位	南向	♂	熟年	染付碗、櫛、鋏、煙管、数珠六道銭
008	Ⅱ	円形	0.75	0.5	0.49	早桶	座位	西向	♂	成人	
009	Ⅱ	円形	1.0	0.85	1.34桶0.65	早桶	座位	北東向	♂	熟年	漆椀、櫛、鋏、数珠、六道銭
010	Ⅱ	円形	1.05	0.55	1.63	甕	座位	西向	♂	?	櫛
011	Ⅱ	円形	1.05	0.75	1.63	早桶	座位	西向	♀	若年	漆椀、鋏、毛抜き、六道銭、数珠
012	Ⅱ	円形	1.05	0.8	1.14桶0.65	早桶	座位	南東向	♀	成人	染付碗、櫛、鋏、毛抜き、六道銭
013	Ⅱ	円形	0.85	0.7	0.91	早桶	座位	西向	?	7～8才	漆椀、鋏、毛抜き、六道銭
014	Ⅱ	円形	1.9	0.45	1.86	—	改葬	——	—	——	
015	Ⅱ	円形	0.95	0.45	1.21	早桶	座位	北向	♀	老年	六道銭
016	Ⅱ	円形	0.85	0.45	0.99	—	改葬	——	—	——	六道銭
017	Ⅱ	円形	1.1	0.55	0.95	—	改葬	——	—	——	墓石（文化四卯年）、土鈴
018	Ⅱ	円形	0.95	0.35	0.76	甕	火葬	——	—	——	
019	Ⅱ	円形	1.1	0.4	1.17	—	改葬	——	—	——	
020	Ⅱ	円形	0.7	0.4	0.75	甕	座位	西向	?	1才位	六道銭
021	Ⅱ	円形	0.6	0.35	0.54	甕	改葬	——	—	——	
022	Ⅱ	円形	0.65	0.5	0.22	甕	改葬	——	—	——	
023	Ⅱ	円形	0.9	0.55	1.14	—	改葬	——	—	——	
024	Ⅱ	円形	0.85	0.4	1.22	—	改葬	——	—	——	
025	Ⅱ	円形	0.95	0.65	1.47	甕	座位	北西向	♂	老年	漆椀、櫛、鋏、毛抜き、六道銭
026	Ⅱ	円形	1.0	0.85	1.4 桶0.58	早桶	座位	北向	♀	熟年	鋏、毛抜き、六道銭
027	Ⅱ	円形	1.15	0.75	1.74	甕	座位	?	♀	老年	漆椀、櫛、鋏、毛抜き、数珠六道銭
028	Ⅱ	円形	0.95	0.8	1.21	—	改葬	——	—	——	
029	Ⅱ	円形	1.05	0.75	1.56桶0.55	早桶	座位	西向	♀	成人	染付碗、櫛、鋏、毛抜き、六道銭
030	Ⅱ	——		——	——	甕	改葬	——	—	——	
031	Ⅱ	円形	0.75	0.35	1.36	—	改葬	——	—	——	板状鉄製品、六道銭
032	Ⅱ	円形	0.9	0.65	1.26	—	改葬	——	—	——	
033	Ⅱ	円形	1.05	0.5	0.95	—	改葬	——	—	——	
034	Ⅱ	円形	1.0 ×1.0	0.7 ×0.7	0.57	—	改葬	——	—	——	
035	Ⅱ	円形	1.0	0.7	1.93	甕	座位	北向	♂	熟年	櫛、鋏、毛抜き
036	Ⅱ	円形	1.0	0.7	0.81	早桶	座位	西向	♂	成人	漆椀、櫛、鋏、六道銭、青銅製棺金具
037	Ⅱ	円形	1.25	0.75	1.05	—	改葬	——	—	——	鋏
038	Ⅱ	——		——	——	—	改葬	——	—	——	
039上	Ⅱ	円形	1.15	0.75	1.24	直葬	?	南西向	?	1～2才	漆椀、六道銭
039下	Ⅱ					早桶	座位	北向	♀	熟年	鋏
040	Ⅱ	円形	0.95	0.5	1.23	甕	改葬	——	—	——	
041	Ⅱ	円形	0.95	0.55	1.25	—	改葬	——	—	——	
042	Ⅱ	円形	1.05	0.55	1.63	—	改葬	——	—	——	
043	Ⅱ	円形	1.0	0.5	0.79	—	改葬	——	—	——	
044	Ⅱ	円形	0.8	0.55	1.03	早桶	座位	北東向	?	小児	漆椀、櫛、鋏、煙管、六道銭

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ②

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
045	Ⅱ	円形	0.8	0.35	1.1	早桶	座位	?	?	熟年	
046	Ⅱ	円形	0.9	0.35	1.04	甕	改葬	——	—	——	
047	Ⅱ	円形	1.05	0.7	1.01	早桶	座位	西向	♀	成人	青銅製毛抜き、六道銭
048	Ⅱ	円形	1.2	0.55	0.89	早桶	座位	東向	♀	成人	漆椀、櫛、鋏、毛抜き、数珠
049	Ⅱ	円形	1.2	1.0	1.03桶0.6	早桶	座位	西向	♂	成人	漆椀、毛抜き、数珠、六道銭
050	Ⅱ	——		——	1.2	甕	改葬	——	—	——	
051	Ⅱ	円形	0.8	0.5	0.82	—	改葬	——	—	——	六道銭
052	Ⅱ	円形	0.6	0.25	0.29	甕	改葬	——	—	——	
053	Ⅱ	長方形	1.0 ×0.75	0.6 ×0.55	0.73	—	改葬	——	—	——	土鈴
054	Ⅱ	円形	1.0	0.7	0.78	早桶	座位	?	?	乳児	青磁染付蓋
055	Ⅱ	楕円形	1.0 ×0.75	0.45	109	—	改葬	——	—	——	
056	Ⅱ	円形	0.85	0.5	1.58	—	改葬	——	—	——	
057	Ⅱ	円形	0.8	0.5	0.42	—	改葬	——	—	——	
058	Ⅱ	円形	0.95	0.75	1.0	早桶	座位	西向	♂	成年	漆椀、鋏、櫛
059	Ⅱ	楕円形	1.0 ×1.15以上	0.65×1.1 以上	0.96	—	改葬	——	—	小児	
060	Ⅱ	円形	0.75	0.3	1.13	甕	改葬	——	—	——	染付碗
061	Ⅱ	円形	1.0	0.75	0.9	—	改葬	——	—	——	
062	Ⅱ	円形	0.8	0.55	0.35	—	改葬	——	—	——	
063	Ⅱ	円形	0.9	0.4	1.24	—	改葬	——	—	——	
064	Ⅱ	円形	1.05	0.75	1.6	早桶	座位	北東向	♂	熟年	鋏、六道銭
065	Ⅱ	円形	1.05	0.5	1.06	甕	座位	西向	♀	老年	
066	Ⅱ	円形	1.0	0.5	1.2	—	改葬	——	—	——	
067	Ⅱ	円形	0.75	0.4	1.03	—	改葬	——	—	——	
068	Ⅱ	円形	0.8	0.4	0.51	—	改葬	——	—	——	
069	Ⅱ	円形	0.95	0.75	1.25桶0.6	早桶	座位	西向	♂	熟年	漆椀、櫛、鋏、毛抜き、環、六道銭、土師皿
070	Ⅱ	円形	0.95	0.75	1.4	—	改葬	——	—	——	不明鉄製品、染付皿
071	Ⅱ	円形	0.95	0.45	1.16	—	改葬	——	—	——	
072	Ⅱ	——		——	1.2	—	改葬	——	—	——	
073	Ⅱ	円形	0.95	0.5	1.54	—	改葬	——	—	——	染付碗
074	Ⅱ	円形	0.9	0.55	1.35	—	改葬	——	—	——	染付皿、白磁坏
075	Ⅱ	円形	0.9	0.45	1.03	—	改葬	——	—	——	
076	Ⅱ	円形	0.55	0.45	0.3	—	改葬	——	—	——	
077	Ⅱ	円形	0.65	0.25	0.51	—	改葬	——	—	——	
078	Ⅱ	円形	0.6	0.5	0.4	—	改葬	——	—	——	
079	Ⅱ	円形	——	0.45	1.28	甕	座位	南西向	♂	老年	染付碗、染付蓋、櫛、数珠、六道銭
080	Ⅱ	円形	——	0.35	1.25	早桶	座位	西向	?	5～6才	貝殻（蛤）、六道銭
081	Ⅱ	楕円形	0.95×1.2	0.6	1.34	—	改葬	——	—	——	
082	Ⅱ	円形	0.95	0.5	1.1	甕	座位	西向	♂	?	毛抜き、六道銭、櫛
083	Ⅱ	——	——	0.3	0.51	—	改葬	——	—	——	スコップ刃先
084	Ⅱ	円形	1.1	0.3	1.02	—	改葬	——	—	——	
085	Ⅱ	円形	0.85	0.55	1.34	—	改葬	——	—	——	釘
086	Ⅱ	円形	1.15	0.7	0.91	—	改葬	——	—	——	
087	Ⅱ	円形	1.2	0.55	1.02	—	改葬	——	—	——	
088	Ⅱ	円形	1.0	0.4	0.95	—	改葬	——	—	——	
089	Ⅱ	円形	1.3	0.75	0.6	—	改葬	——	—	——	漆椀

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ③

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
090	Ⅱ	円形	0.95	0.55	1.09	早桶	座位	北西向	♂	老年	漆椀、鋏、毛抜き、数珠、六道銭
091	Ⅱ	円形	0.8	0.45	0.77	—	改葬	—	—	—	
092	Ⅱ	円形	0.95	0.55	1.09	—	改葬	—	—	—	
093	Ⅱ	—		—	—	—	改葬	—	—	—	
094	Ⅱ	—		—	—	—	改葬	—	—	—	
095	Ⅱ	円形	0.95	0.7	0.69	—	改葬	—	—	—	漆椀
096	Ⅱ	円形	0.95	0.55	1.02	—	改葬	—	—	—	
097	Ⅱ	円形	1.0	0.55	1.17	—	改葬	—	—	—	染付碗４、染付皿、白磁皿、土師皿、鋏、硝子小瓶、六道銭
098	Ⅱ	—	—	—	—	—	改葬	—	—	—	
099	Ⅱ	円形	0.8	0.4	1.47	—	改葬	—	—	—	
100	Ⅱ	円形	—	0.4	0.89	早桶	座位	北西向	♀	熟年	漆椀、白磁、鋏、櫛、毛抜き 房金具、六道銭
101	Ⅱ	円形	0.9	0.75	0.84	早桶	座位	西向	♀	成年	漆椀、櫛、鋏、毛抜き、六道銭
102	Ⅱ	円形	0.75	0.6	0.57	—	火葬	—	—	—	
103	Ⅱ	円形	0.8	0.45	0.79	—	改葬	—	—	—	
104	Ⅱ	円形	1.15	0.8	1.01	早桶	座位	北向	♂	熟年	漆椀、櫛、毛抜き、数珠、六道銭
105	Ⅱ	円形	0.9	0.3	0.4	—	改葬	—	—	—	白磁碗、櫛、鋏、毛抜き、六道銭
106	Ⅱ	円形	0.9	0.45	1.22	—	改葬	—	—	—	
107	Ⅱ	円形	0.85	0.45	1.38	—	改葬	—	—	—	
108	Ⅱ	円形	1.0	0.65	1.37	—	改葬	—	—	—	
109	Ⅱ	円形	1.1	0.75	1.41	—	改葬	—	—	—	
110	Ⅱ	円形	0.9	0.45	1.07	—	改葬	—	—	—	
111	Ⅱ	円形	0.85	0.45	1.14	—	改葬	—	—	—	
112	Ⅱ	円形	1.0	0.35	1.0	—	改葬	—	—	—	
113	Ⅱ	—		—	—	—	改葬	—	—	—	六道銭
114	Ⅱ	円形	0.9	0.6	0.85	—	改葬	—	—	—	
115	Ⅱ	円形	0.75	0.6	0.55	早桶	座位	?	?	幼児	漆椀、貝柄（蛤）、六道銭
116	Ⅱ	円形	1.25	0.8	0.55	—	改葬	—	—	—	漆椀、鋏、数珠、釘
117	Ⅱ	円形	0.85	0.35	0.79	—	改葬	—	—	—	哺乳瓶
118	Ⅱ	円形	1.05	0.7	1.33	早桶	座位	北西向	♂	熟年	漆椀、櫛、鋏、毛抜き（赤漆塗）、六道銭
119	Ⅱ	円形	0.9	0.34	0.76	—	改葬	—	—	—	
120	Ⅱ	円形	0.7	0.4	0.68	—	改葬	—	—	—	
121	Ⅱ	円形	0.8	0.65	0.41	—	改葬	—	—	—	
122	Ⅱ	円形	0.7	0.25	0.48	—	改葬	—	—	—	
123	Ⅱ	円形	0.9	0.35	1.0	甕	改葬	—	—	—	
123	Ⅱ	円形				甕	座位	西向	♀	老年	染付碗、六道銭
124	Ⅱ	円形	0.95	0.4	1.08	甕	改葬	—	—	—	
125	Ⅱ	楕円形	1.05×1.25	0.55	1.16	—	改葬	—	—	—	
126	Ⅱ	円形	0.95	0.55	0.72	—	改葬	—	—	—	
127	Ⅱ	円形	0.75	0.55	0.72	—	改葬	—	—	—	六道銭
128	Ⅱ	楕円形	0.85×1.0	0.2	1.38	—	改葬	—	—	—	
129	Ⅱ	円形	0.7	0.3	0.37	—	改葬	—	—	—	
130	Ⅱ	円形	0.85	0.3	0.93	—	改葬	—	—	—	
131	Ⅱ	円形	1.05	0.55	0.77	—	改葬	—	—	—	
132	Ⅱ	円形	0.95	0.45	1.17	—	改葬	—	—	—	瑠璃釉仏飯器、棺釘
133	Ⅱ	円形	0.95	0.4	0.96	—	改葬	—	—	—	六道銭１枚

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ④

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
134	Ⅱ	円形	0.7	0.35	0.36	—	改葬	——	—	——	
135	Ⅱ	円形	0.9	0.5	1.41	—	改葬	——	—	——	
136	Ⅱ	円形	1.0	0.5	1.07	—	改葬	——	—	——	六道銭３枚
137	Ⅱ	円形	1.15	0.3	1.24	甕	改葬	——	—	——	紅皿
138	Ⅱ	楕円形	1.05×0.8	0.4	1.12	—	改葬	——	—	——	
139	Ⅱ	楕円形	——	0.35以上×0.25	0.21	—	改葬	——	—	——	
140	Ⅱ	円形	0.95	0.4	0.99	—	改葬	——	—	——	
141	Ⅱ	円形	0.85	0.3	0.73	—	改葬	——	—	——	
142	Ⅱ	円形	0.85	0.3	1.11	甕	改葬	西向	♂	成人	染付皿
143	Ⅱ	円形	0.9	0.45	1.02	—	改葬	——	—	——	陶器花生
144	Ⅱ	円形	0.7	0.3	0.47	甕	座位	?	?	2～3才	紅皿、六道銭、土瓶
145	Ⅱ	円形	0.98	0.35	0.84	甕	改葬	——	—	——	染付碗、染付蓋
146	Ⅱ	円形	0.9	0.45	0.97	—	改葬	——	—	——	
147	Ⅱ	円形	0.8	0.2	1.33	甕	座位	西向	♀	老年	染付碗、六道銭５枚
148	Ⅱ	円形	0.95	0.4	0.84	—	改葬	——	—	——	染付碗、土師皿、煙管、六道銭10枚
149	Ⅱ	円形	0.6	0.45	0.31	—	改葬	——	—	——	煙管、六道銭、鉄
150	Ⅱ	円形	0.9	0.45	0.64	—	改葬	——	—	——	青磁香炉
151	Ⅱ	円形	0.85	0.25	0.7	—	改葬	——	—	——	
152	Ⅱ	円形	1.1	0.5	1.38	—	改葬	——	—	——	
153	Ⅱ	円形	1.0	0.35	0.89	—	改葬	——	—	——	甕片多数、染付碗３枚、土師皿、銭甕
154	Ⅱ	円形	1.0	0.5	1.04	甕	改葬	——	—	——	甕３個体、染付碗２、白磁坏煙管、六道銭
155	Ⅱ	円形	0.95	0.6	0.79	—	改葬	——	—	——	
156	Ⅱ	円形	1.0	0.4	0.9	—	改葬	——	—	——	
157	Ⅱ	円形	0.55	0.4	0.34	甕	座位	西向	?	2～3才	紅皿
158	Ⅱ	円形	0.85	0.35	0.96	—	改葬	——	—	——	
159	Ⅱ	楕円形	0.55×0.4	0.25	0.59	甕	座位	西向	?	乳児	六道銭
160	Ⅱ	円形	0.9	0.3	1.16	—	改葬	——	—	——	
161	Ⅱ	円形	0.95	0.5	1.11	甕	座位	西向	♂	熟年	鉄、櫛、毛抜き、釘、六道銭
162	Ⅱ	円形	1.05	0.75	1.34	早桶	座位	東向	♂	成年	漆椀、櫛、鉄、毛抜き、煙管砥石、人形、六道銭
163	Ⅱ	円形	0.75	0.35	1.37	—	改葬	——	—	——	六道銭２枚
164	Ⅱ	円形	0.95	0.35	1.21	—	改葬	——	—	——	染付碗３・蓋、色絵碗、青磁皿、紅皿、哺乳瓶、煙管、数珠、釘、六道銭
165	Ⅱ	円形	0.75以上	0.35	1.15	—	改葬	——	—	——	
166	Ⅱ	円形	1.0	0.55	1.21	—	改葬	——	—	——	
167	Ⅱ	円形	0.8	0.35	1.25	—	改葬	——	—	——	染付碗、青磁薬鈷、紅皿、六道銭
168	Ⅱ	円形	1.05	0.6	1.25	—	改葬	——	—	——	
169	Ⅱ	円形	1.35	0.85	1.7	早桶	座位	東向	♂	熟年	漆椀、鉄、毛抜き、六道銭
170	Ⅱ	円形	1.0	0.55	1.37	—	改葬	——	—	——	
171	Ⅱ	円形	0.8	0.4	1.52	—	改葬	——	—	——	剃刀
172	Ⅱ	円形	0.95	0.45	1.72	—	改葬	——	—	——	
173	Ⅱ	円形	0.85	0.65	0.51	—	改葬	——	—	——	染付碗、染付皿、肥前系陶器皿
174	Ⅱ	——		——	0.59	—	改葬	——	—	——	
175	Ⅱ	円形	0.8	0.35	0.48	—	改葬	——	—	——	
176	Ⅱ	円形	0.9	0.5	0.81	—	改葬	——	—	——	
177	Ⅱ	円形	0.9	0.5	0.81	—	改葬	——	—	——	
178	Ⅱ	円形	0.8	0.6	1.08	早桶	座位	北向	?	3才位	漆椀、貝殻（蛤）

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ⑤

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
179	Ⅱ	円形	0.75	0.35	0.91	—	改葬	——	—	——	紅皿、刀子柄（骨製）、六道銭
180	Ⅱ	円形	1.0	0.6	0.95	—	改葬	——	—	——	
181	Ⅱ	円形	0.95	0.35	0.82	甕	座位	——	?	幼児	革靴、ハーモニカ、六道銭その他
182	Ⅱ	円形	0.75	0.35	0.8	—	改葬	——	—	——	
183	Ⅱ	円形	0.75	0.45	1.28	—	改葬	——	—	——	六道銭1枚
184	Ⅱ	円形	0.95	0.4	1.43	—	改葬	——	—	——	陶器碗
185	Ⅱ	円形	1.0	0.45	1.09	—	改葬	——	♀	成人	
186	Ⅱ	円形	0.95	0.35	1.52	甕	座位	北西向	♀	熟年	数珠、煙管、煙管入れ、財布六道銭
187	Ⅱ	円形	0.8	0.5	0.92	—	改葬	——	—	——	
188	Ⅱ	円形	0.75	0.3	0.52	—	改葬	——	—	——	
189	Ⅱ	円形	0.85	0.45	1.09	—	改葬	——	—	——	
190	Ⅱ	不整形	——	——	——	—	改葬	——	—	——	骨壺片多数、煙管
191	Ⅱ	円形	1.1	0.6	0.81	甕	座位	北向	♂	成年	漆椀、染付碗
192	Ⅱ	円形	0.95	0.55	0.87	—	改葬	——	—	——	六道銭
193	Ⅱ	円形	0.55以上	0.4	0.18	—	改葬	——	—	——	
194	Ⅱ	円形	0.95以上	0.45	0.98	—	改葬	——	—	——	
195	Ⅱ	円形	0.95	0.4	1.01	—	改葬	——	—	——	
196	Ⅱ	円形	0.45	0.25	0.22	—	改葬	——	—	——	
197	Ⅱ	円形	0.9	0.6	1.13	—	改葬	——	—	——	
198	Ⅱ	円形	0.45	0.25	0.19	甕	改葬	——	—	——	
199	Ⅱ	円形	0.95	0.25	1.23	—	改葬	——	—	——	
200	Ⅱ	円形	0.95	0.55	1.25	—	改葬	——	—	——	
201	Ⅱ	円形	0.9	0.6	0.88	—	改葬	——	—	——	
202	Ⅱ	円形	0.95	0.5	1.34	—	改葬	——	—	——	
203	Ⅱ	円形	0.8	0.4	1.58	—	改葬	——	—	——	
204	Ⅱ	円形	1.1	0.4	1.44	甕	改葬	——	—	——	鋏、毛抜き、釘、六道銭
205	Ⅱ	円形	1.05	0.4	1.4	—	改葬	——	—	——	染付碗
206	Ⅱ	円形	0.8	0.4	1.27	—	改葬	——	—	——	
207	Ⅱ	円形	0.9	0.5	1.02	—	改葬	——	—	——	六道銭2枚
208	Ⅱ	円形	1.25	0.65	1.3	—	改葬	——	—	——	
209	Ⅱ	円形	——	0.35	0.88	—	改葬	——	—	——	
210	Ⅱ	円形	0.8	0.35	0.79	—	改葬	——	—	——	
211	Ⅱ	円形	0.75	0.55	0.81	—	改葬	——	—	——	
212	Ⅱ	円形	0.95	0.4	0.95	—	改葬	——	—	——	
213	Ⅱ	——	——	——	——	—	改葬	——	—	——	
214	Ⅱ	円形	0.85	0.45	1.0	—	改葬	——	—	——	
215	Ⅱ	円形	0.45	0.3	0.25	—	改葬	——	—	——	
216	Ⅱ	円形	1.0	0.7	1.19	—	改葬	——	—	——	
217	Ⅱ	円形	0.75	0.35	0.73	—	改葬	——	—	——	
218	Ⅱ	円形	1.1	0.7	1.1	—	改葬	——	—	——	
219	Ⅱ	円形	1.15	0.9	0.6	甕	座位	北向	♂	熟年	漆椀、櫛、鋏、六道銭、釘
220	Ⅱ	円形	0.95	0.65	0.71	—	改葬	——	—	——	
221	Ⅱ	円形	0.9	0.6	0.67	—	改葬	——	—	——	
222	Ⅱ	円形	0.8	0.7	0.75	早桶	座位	西向	♂	成人	六道銭
223	Ⅱ	円形	0.95	0.45	1.01	—	改葬	——	—	——	

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ⑥

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
224	Ⅱ	円形	1.05	0.8	0.68	甕	改葬	——	—	——	
225	Ⅱ	方形	1.1 ×0.6	0.85×0.85	0.65	—	改葬	——	—	——	
226	Ⅱ	円形	0.8	0.35	0.49	—	改葬	——	—	——	
227	Ⅱ	円形	1.05	0.6	1.24	—	改葬	——	—	——	
228	Ⅱ	——	——	——	——	—	改葬	——	—	——	
229	Ⅱ	長方形	1.3 ×1.0	1.0 ×0.7	0.99	—	改葬	——	—	——	
230	Ⅱ	円形	1.1	0.65	1.09	—	改葬	——	—	——	
231	Ⅱ	——	——	——	——	甕	改葬	——	—	——	六道銭
232	Ⅱ	円形	0.9	0.45	1.17	—	改葬	——	—	——	
233	Ⅱ	円形	1.0	0.7	0.92	早桶	座位	東向	♂	熟年	櫛、鋏、煙管、六道銭
234	Ⅱ	円形	0.95	0.4	0.98	—	改葬	——	—	——	
235	Ⅱ	円形	0.95	0.45	0.74	甕	改葬	——	—	——	
236	Ⅱ	楕円形	0.75×0.5	0.4 ×0.2	1.05	—	改葬	——	—	——	
237	Ⅱ	円形	0.85	0.45	1.28	甕	座位	北向	♀	老年	鋏、六道銭
238	Ⅱ	円形	1.1	0.4	1.12	早桶	座位	南向	♀	熟年	漆椀、鋏、六道銭
239	Ⅱ	円形	0.9	0.35	0.88	—	改葬	——	—	——	
240	Ⅱ	円形	0.7	0.35	0.55	甕	改葬	——	—	——	
241	Ⅱ	楕円形	0.75×0.9 以上	0.45	1.01	—	改葬	——	—	——	
242	Ⅱ	円形	0.9	0.4	0.75	甕	改葬	——	—	——	
243	Ⅱ	円形	0.9	0.6	0.73	早桶	座位	西向	?	?	鋏、毛抜き、数珠、六道銭
244	Ⅱ	円形	0.55	0.35	0.24	甕	改葬	——	—	——	
245	Ⅱ	円形	0.45	0.25	0.12	—	改葬	——	—	——	
246	Ⅱ	——	——	——	0.69	早桶	座位	南西向	♀	成年	数珠
247	Ⅱ	円形	0.7	0.3	0.49	—	改葬	——	—	——	
248	Ⅱ	円形	0.5	——	0.42	—	改葬	——	—	——	
249	Ⅱ	円形	0.9	0.35	0.75	甕	座位	北向	?	2～3才	染付碗、紅皿、鋏、毛抜き、六道銭、釘
250	Ⅱ	円形	1.1	0.45	1.08	甕	座位	西向	♀	熟年	染付碗、紅皿、六道銭
251	Ⅱ	長方形	1.2 ×0.7	0.95×0.5	0.98	木棺	仰臥	西頭	♀	?	鋏、毛抜き、六道銭
252	Ⅱ	——	——	——	1.39	早桶	座位	?	?	?	紅皿、六道銭
253	Ⅱ	——	——	——	0.35	—	改葬	——	—	——	鳩笛２個
254	Ⅱ	円形	1.2	0.9	1.51桶0.68	早桶	座位	?	?	?	
255	Ⅱ	円形	0.85	0.6	0.65	早桶	座位	?	?	?	
256	Ⅱ	長方形	1.3 ×0.75	0.8 ×0.5	0.57	木棺	仰臥？	北北東	?	?	
257	Ⅱ	長方形	1.3 ×1.1	1.02×0.7	0.77	木棺	仰臥？	北頭	?	?	
258	Ⅱ	長方形	1.3 ×1.1	0.95×0.72	0.77	木棺	仰臥？	北向	?	?	
259	Ⅱ	長方形	0.9 以上1.1	0.8 以上×0.65	0.58	木棺	仰臥？	東向	?	?	
260	Ⅱ	長方形	1.3 ×0.8	0.85×0.5	0.16	木棺	仰臥？	東向	?	?	
261	Ⅱ	長方形	1.5 ×1.1	1.2 ×0.75	0.95	木棺	仰臥？	北北東向	?	?	
262	Ⅴ	長方形	1.35×0.85	0.95×0.64	0.8	木棺	右側臥	北北東頭	♀	成人	棺釘、土師皿
263	Ⅴ	長方形	1.2 ×0.86	0.8 ×0.55	0.76	木棺	右側臥	北北東頭	♀	熟年	
264	Ⅴ	略方形	1.15×1.01	0.9 ×0.85	0.71	木棺	右側臥	北頭	♂	成年	棺釘、漆椀
265	Ⅴ	円形	0.95	0.75	1.4 桶0.5	早桶	座位	西向	♀	熟年	漆椀、鋏、毛抜き、六道銭
266	Ⅴ	長方形	1.36×1.0	0.7 ×0.65	1.25	木棺	?	?	♀	成人	土師皿
267	Ⅴ	長方形	1.4 ×0.9	1.0 ×0.63	0.88	木棺	仰臥？	北北西頭	?	熟年	
268	Ⅴ	方形	0.94×0.94	0.75×0.76	0.65	木棺	仰臥	北北東頭	♂	熟年	

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ⑦

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
269	V	長方形	1.14×0.68	0.99×0.6	0.96	木棺	仰臥	北北東頭	♀	成人	
270	V	円形	0.88	0.7	1.44	早桶	座位	南南東向	♂	成年	
271	V	円形	1.0	0.5	1.36	甕	座位	西向	♂	老年	漆椀、六道銭
272	V	円形	0.76	0.6	0.66	早桶	座位	南西向	♀	老年	
273	V	長方形	0.92×0.71	0.8 ×0.6	0.34	木棺	仰臥	北北西頭	♀	熟年	
274	V	円形	0.8	0.47	0.85	早桶	座位	西向？	♂	熟年	
275	V	長方形	1.25×0.78	0.85×0.55	0.86	木棺	仰臥	北頭	♂	熟年	
276	V	長方形	1.16×0.76	0.9 ×0.7	1.15	木棺	右側臥	北北東頭	♂	熟年	
277	V	円形	1.16	0.7	1.9	早桶	座位	北向	♀	老年	
278	V	長方形	1.3 ×0.95	1.0 ×0.7	0.95	木棺	右側臥	北北西頭	♂	熟年	青銅製棺金具
279	V	円形	0.85	0.75	1.6	早桶	座位	東向	♀	老年	
280	V	円形	1.02	0.7	1.95	早桶	座位	西向	♂	熟年	六道銭
281	V	円形	0.98	0.6	1.45桶0.5	早桶	座位	東向	♂	熟年	
282	V	円形	1.02	0.6	1.25	早桶	座位	北向	♀	老年	数珠、銅製環
283	V	長方形	1.6 ×1.4	1.2 ×0.9	1.1	木棺	右側臥	北頭	♂	熟年	
284	V	長方形	1.1 ×0.9	0.73×0.46	0.85	木棺	仰臥？	南東頭	？	成人	
285	V	長方形	1.5 ×0.9	0.9 ×0.65	1.12	木棺	右側臥？	北北東頭	♀	成人	鉄製品片
286	V	長方形	1.15×0.85	0.85×0.55	0.66	木棺	仰臥	北北東頭	♂	熟年	
287	V	円形	0.79	0.33	0.63	甕	座位	？	？	幼児	
288	V	長方形	1.5 ×0.85	1.15×0.7	0.98	木棺	右側臥	北頭	♂	熟年	
289	V	円形	0.92	0.4	1.45	甕	座位	東向	♂	熟年	六道銭
290	V	円形	0.9	0.45	1.32	甕	座位	南南西向	♂	熟年	
291	V	円形	1.13	0.45	1.65	甕	座位	北西向	♂	熟年	棺釘
292	V	長方形	1.4 以上×0.9	1.05×0.8	1.3	木棺	仰臥	北頭	♂	熟年	
293	V	長方形	1.6 ×1.1	1.35×0.85	1.15	木棺	右側臥	北頭	♀	熟年	
294	V	長方形	1.43×1.05	0.9 ×0.6	1.3	木棺	右側臥	北頭	♂	成年	小柄、数珠
295	V	長方形	1.3 ×0.85	0.9 ×0.6	1.36	木棺	右側臥	北頭	♂	熟年	
296	V	長方形	1.55×1.15	0.95×0.7	1.4	木棺	右側臥	北頭	♀	熟年	数珠
297	V	長方形	1.25×0.8	0.9 ×0.6	1.1	木棺	右側臥	北頭	♂	成年	
298	V	長方形	1.43×1.0	1.0 ×0.75	1.2	木棺	右側臥？	北頭	♀	熟年	漆椀片、六道銭
299	V	方形	0.99×0.88	0.8 ×0.59	0.45	木棺？	？	北向	？	？	
300	V	長方形	1.35×0.96	1.1 ×0.67	0.5	木棺？	？	北東向	？	？	
301	V	円形	0.57	0.38	0.28	早桶？	？	？	？	？	
302	V	円形	0.98	0.79	0.47	早桶？	？	？	？	？	
303	V	円形	0.9 以上	0.81	0.7	早桶	座位	西向	♂	成人	
304	V	円形	0.9	0.57	0.8	早桶？	座位？	？	♀	成人	紅皿２枚
305	V	長方形	0.96以上×0.84	0.93×0.68	1.36	木棺	仰臥？	？	？	成人	六道銭
306	V	長方形	1.4 ×1.08	1.08×0.73	0.85	木棺？	？	北北東頭	？	？	
307	V	長方形	1.3 ×0.82	1.0 ×0.65	1.0	木棺	右側臥	北北東頭	？	若年	
308	V	長方形	1.7 ×1.05	1.25×0.93	1.1	木棺	右側臥	北北東頭	♀	熟年	
309	V	長方形	1.3 ×0.9	0.9 ×0.62	0.72	木棺？	？	北向	？	？	
310	V	長方形	1.4 ×0.9	0.92×0.6	0.93	木棺	仰臥	北北西頭	♀	成年	
311	V	長方形	0.98×0.58	0.8 ×0.95	0.57	木棺	仰臥	西北西頭	♀	熟年	棺釘
312	V	長方形	1.2 ×0.8	0.94×0.55	0.95	木棺	仰臥	北頭	♀	熟年	
313	V	円形	0.95	0.45	1.05	早桶？		？	？	？	六道銭

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ⑧

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
314	V	長方形	1.55×1.3	1.1 ×0.85	0.9	木棺	右側臥	北北東頭	♂	成人	
315	V	円形	0.9	0.58	0.98桶0.6	早桶	座位	西向	?	?	
316	V	円形	0.9	0.45	1.36	甕	座位	西向	♂	熟年	
317	V	円形	1.1	0.65	1.36	甕	座位	南西向	♀	熟年	棺釘、櫛、鋏、六道銭
318	V	長方形	1.4 ×1.0	0.95×0.85	1.15	木棺	右側臥	北北東頭	♂	熟年	
319	V	長方形	1.05以上×0.71	0.75以上×0.6	0.78	木棺	右側臥	北北東頭	♀	熟年	
320	V	円形	0.63	0.3	0.7	甕	座位	西北西向	?	幼児	六道銭
321	V	円形	0.82	0.56	1.2	早桶	座位	南西向	♀	成年	六道銭
322	V	円形	1.0	0.65	2.02桶0.55	早桶	座位	西向	♂	成年	
323	V	円形	0.92	0.77	1.42	早桶	座位	南向	?	幼児	
324	V	円形	0.92	0.6	1.32	早桶	座位	西向	♂	熟年	六道銭
325	V	円形	0.79	0.22	0.75	甕	座位	西向	?	幼児	
326	V	円形	1.13	0.55	1.7	早桶	座位	北北西向	♂	熟年	
327	V	長方形	?×0.95	?×0.7	1.0	木棺?	?	北向	?	?	染付碗
328	V	略方形	1.3 ×1.25	0.9 ×0.9	——	早桶?	座位	北西向?	♂	成人	
329	V	方形	1.0 ×0.9	0.8 ×0.75	——	早桶?	座位	?	♂	成人	
330	V	円形	0.82	0.7	0.22	早桶?	?	?	?	?	
331	V	円形	1.2	0.87	1.7	早桶	座位	北西向	♂	老年	
332	V	円形	1.04	0.7	1.6 桶0.65	早桶	座位	北西向	♀	熟年	六道銭
333	V	円形	1.0	0.8	1.26	早桶	座位	西向	♀	熟年	
334	V	円形	0.93	0.55	1.56	早桶	座位	北西向	♂	老年	
335	V	円形	0.9	0.55	0.66	木棺?	仰臥?	南西向	♂	成年	棺釘
336	V	円形	0.95	0.73	1.7	早桶	座位	南東向	♀	成年	六道銭
337	V	円形	0.72	0.6	0.81	早桶	座位	南東向	♂	熟年	
338	V	円形	1.0	0.75	1.5	早桶	座位	北向	♀	熟年	土師皿2枚
339	V	長方形	1.0 以上×0.85	——	0.46	木棺	右側臥	南頭	♂	小児	棺釘2本
340	V	長方形	1.45×1.0	1.1 ×0.751	0.74	木棺	右側臥?	北北西頭	?	成人	
341	V	円形	0.85	0.64	0.38	?	?	?	?	?	
342	V	長方形	1.02×0.71	0.93×0.53	0.48	木棺	右側臥	南頭	♂	成人	
343	V	長方形	1.51×0.98	1.35×0.75	0.63	木棺	仰臥	北北西頭	?	?	土師皿
344	V	長方形	1.12×0.83	1.0 ×0.68	0.56	木棺	右側臥?	北頭	♂	熟年	
345	V	長方形	0.63×0.44	0.46×0.33	0.18	?	?	北向	?	?	
346	V	円形	1.0	0.5	1.35	甕	座位	南向	♀	老年	六道銭
347	V	長方形	1.3 ×0.82	1.0 ×0.6	0.87	木棺	右側臥	北頭	♂	熟年	漆椀、数珠
348	V	長方形	1.26×0.9	0.9 ×0.7	0.92	木棺	仰臥	北北西頭	♀	熟年	
349	V	長方形	?×0.85	?×0.6	0.67	木棺?	仰臥?	北西頭	?	?	
350	V	長方形	0.6 以上×0.7	0.55以上×0.6	0.52	木棺	仰臥?	北西頭	♂	熟年	
351	V	長方形	1.1 ×0.76	0.41以上×0.6	0.6	木棺	仰臥	西南西頭	♂	熟年	
352	V	長方形	1.2 ×0.85	0.94×0.57	0.87	木棺	右側臥?	北頭	♀	熟年	
353	V	長方形	1.23×1.6	0.75×1.0	0.7	木棺	右側臥?	北東頭	?	熟年	
354	V	長方形	1.36×0.8	0.9 ×0.5	1.13	木棺	仰臥	北西頭	♂	熟年	棺釘
355	V	円形	0.85	0.5	0.85	早桶	座位	西向	?	幼児	六道銭
356	V	円形	1.15	0.9	1.21	早桶	座位	北北西向	♂	老年	
357	V	円形	0.95	0.55	1.22	甕	座位	西向	♂	成年	棺釘、鉄鍋、六道銭
358	V	円形	1.26	0.6	1.7	早桶	座位	北東向	♂	熟年	

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ⑨

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
359	V	円形	1.3	1.0	1.9	早桶	座位	東向	♀	老年	
360	V	円形	1.0	0.45	1.2	甕	座位	北西向	♂	熟年	木製品、棺飾、煙管、数珠、六道銭、染付碗
361	V	円形	0.95	0.55	0.9	甕	座位	西北西向	♂	老年	六道銭、釘
362	V	円形	0.95	0.45	1.1	甕	座位	西向	♀	成年	土師皿
363	V	長方形	1.42×1.02	0.9 ×0.75	0.89	木棺	右側臥	北頭	♀	熟年	
364	V	円形	1.01	0.53	1.23	甕	座位	西向	♂	熟年	煙管、環、木製房飾、櫛、六道銭、不明鉄製品
365	V	長方形	1.25×0.84	0.93×0.65	0.5	木棺	右側臥	北北西頭	♂	熟年	
366	V	円形	0.9	0.58	0.88	甕	座位	西北西向	♂	成年	六道銭1枚
367	V	長方形	1.28×0.9	0.9 ×0.68	0.4	木棺	右側臥	北東頭	♀	成人	
368	V	円形	0.73	0.5	0.25	?	?	?	?	?	
369	V	長方形	1.62×0.95	1.08×0.67	0.95	木棺	右側臥	北頭	♀	熟年	
370	V	長方形	?×0.72	?×0.61	0.55	木棺?	?	東頭	?	?	
371	V	長方形	0.9 ×?	0.6 ×?	0.9	木棺?	?	東頭	?	?	
372	V	長方形	0.76×0.56	0.56×0.38	0.4	木棺?	?	北北東頭	?	?	
373	V	長方形	1.4 ×1.03	0.93×0.7	0.71	木棺	左側臥?	北北東頭	♀	熟年	
374	V	長方形	1.6 ×1.15	1.23×0.85	1.07	木棺	右側臥?	北頭	♀	成年	
375	V	方形?	0.92×1.05	0.4 ×0.45以上	0.5	木棺?	仰臥?	南南西?	♀	熟年	
376	V	長方形	1.2 ×0.84	0.75×0.5	0.9	木棺	右側臥	北頭	♀	成年	土師皿2枚
377	V	円形	0.68	0.5	0.6	早桶	座位	西向	♂	成年	
378	V	円形	0.85	0.62	1.36	早桶	座位	西向?	?	幼児	
379	V	長方形	1.0 ×0.6	0.9 ×0.55	0.65	木棺	仰臥	南西頭	♂	熟年	
380	V	円形	0.85	0.75	0.75	早桶	座位	北西向?	?	若年	
381	V	円形	1.05	0.7	0.5	?	?	?	?	成人	
382	V	円形	0.85	0.72	1.2 桶0.4	早桶	座位	西向	♂	老年	六道銭
383	V	長方形	1.35×1.0	1.2 ×0.56	0.82	木棺	右側臥	北北西頭	♂	熟年	土師皿
384	V	長方形	?×1.0	?×0.6	0.83	木棺?	?	北頭	?	?	紅皿2枚、土師皿片
385	V	方形	1.05×1.18	——	1.3 桶0.57	早桶	?	?	?	?	
386	V	長方形	0.9 ×0.6	0.5 ×0.43	0.8	木棺?	?	?	?	?	
387	V	円形	0.87	0.76	1.25	早桶	座位	?	♀	熟年	六道銭12枚
388	V	円形	0.85	0.53	0.73	早桶	座位	南西向	♀	成人	数珠
389	V	円形	0.85	0.72	1.22	早桶?	?	?	?	?	
390	V	円形	0.7	0.45	0.38	早桶?	?	?	?	?	
391	V	長方形	1.25以上×1.1	1.0 ×0.75	0.92	木棺	右側臥	北北西頭	♀	熟年	数珠
392	V	円形	0.92	0.62	0.8	早桶	座位	西向	♀	成年	銅製針金、六道銭
393	V	円形	1.07	0.6	1.35	早桶	座位	北西向	♀	熟年	棺釘、鉄製品
394	V	楕円形	0.53×0.4	0.33×0.3	0.16	?	?	?	?	乳児	
395	V	円形	0.92	0.45	1.1	甕	座位	西向	♀	老年	六道銭2枚
396	V	長方形	1.1 ×0.75	0.65×0.5	0.65	木棺	仰臥	北北西頭	♀	成人	
397	V	長方形	0.85以上×0.95	0.5 以上×0.65	0.9	木棺?	?	?	?	成人	
398	V	円形	0.9	0.7	1.23桶0.5	早桶	座位	西北西向	♂	熟年	
399	V	円形	1.05	0.45	0.95	甕	座位	西向	♀	熟年	釘、六道銭
400	V	円形	0.95	0.45	1.2	甕	座位	西北西向	♀	成年	六道銭、鋏、櫛
401	V	円形	——	——	——	早桶?	座位	北向	♂	成年	
402	V	円形	1.0	0.4	1.25	甕	座位	北西向	♂	熟年	六道銭
403	V	円形	0.97	0.55	1.2	早桶?	座位	西向	♂	熟年	釘、六道銭

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ⑩

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
404	V	円形	0.91	0.45	1.08	甕	座位	西向	♂	老年	棺蓋、棺釘、櫛、六道銭
405	V	円形	0.8	0.35	0.95	甕	座位	西向	♀	老年	六道銭
406	V	円形	0.94	0.4	0.9	甕	座位	西向	♂	熟年	六道銭
407	V	円形	0.82	0.35	1.25	甕	座位	西向？	♀	熟年	棺釘、六道銭
408	V	円形	0.93	0.35	1.15	甕	座位	西向	♂	老年	六道銭
409	V										
410	V	円形	0.83	0.5	0.8	甕	座位	南西向	♀	成人	煙管
411	V	円形	0.5	0.2	0.24	—	改葬	—	—	—	
412	V	円形	0.91	0.45	1.25	甕	座位	南東向	♂	熟年	煙管
413	V	—		—	—	—	改葬	—	—	—	
414	V	円形	0.8	0.4	1.09	—	—	—	—	—	
415	V	円形	0.8	0.3	1.06	—	改葬	—	—	—	煙管、六道銭、鉄滓、土瓶3 染付碗、土師皿2
416	V	円形	0.9	0.4	1.63	—	改葬	—	—	—	鉄、土師皿片
417	V	円形	0.9	0.37	0.83	—	改葬	—	—	—	
418	V	円形	0.9	0.3	1.1	甕	改葬	—	—	—	六道銭、土師皿
419	V	円形	—	0.6	1.4	—	改葬	—	—	—	土師皿片
420	V	円形	1.3	0.37	1.39	—	改葬	—	—	—	
421	V	円形	0.72	0.34	0.61	—	改葬	—	—	—	
422	V	円形	0.5	0.4	0.35	—	改葬	—	—	—	
423	V	円形	0.86	0.4	1.15	甕	改葬	—	♂	成人	六道銭
424	V	円形	0.6	0.35	0.37	—	改葬	—	—	—	
425	V	円形	—	0.5	1.64	—	改葬	—	—	—	
426	V	円形	0.7	0.3	0.3	—	改葬	—	—	—	
427	V	円形	1.1	0.6	0.63	—	改葬	—	—	—	
428	V	円形	1.1	0.5	1.0	甕	改葬	—	—	—	六道銭
429	V	円形	—	0.5	1.07	—	改葬	—	—	—	六道銭、土師皿2枚
430	V	円形	0.9	0.4	0.61	—	改葬	—	—	—	
431	V	—		—	—	甕	改葬	—	—	—	染付大皿
432	V	円形	1.0	0.4	1.3	甕	改葬	—	♂	熟～老年	
433	V	円形	0.7	0.42	0.73	—	改葬	—	—	—	
434	V	円形	—	—	0.29	甕	改葬	—	—	—	
435	V	円形	0.7	0.3	0.61	—	改葬	—	—	—	
436	V	円形	0.6	0.35	1.4	—	改葬	—	—	—	
437	V	円形	1.16	0.4	1.5	甕	改葬	—	—	—	六道銭、土師皿、染付碗2、数珠、甕3
438	V	円形	0.7	0.4	0.33	—	改葬	—	—	—	
439	V	円形	0.9	0.45	1.2	甕	改葬	—	♀	成人	六道銭、煙管
440	V	円形	—	—	—	甕	改葬	—	—	—	六道銭
441	V	円形	—	0.5	1.06	—	改葬	—	—	—	
442	V	円形	—	0.6	1.84	—	改葬	—	—	—	
443	V	円形	—	—	—	—	改葬	—	—	—	
444	V	円形	1.1	0.4	1.42	—	改葬	—	—	—	
445	V	円形	—	0.5	1.12	—	改葬	—	—	—	
446	V	円形	0.7	0.5	1.19	—	改葬	—	—	—	
447	V	円形	1.3	0.4	1.0	甕	改葬	—	—	—	染錦大皿
448	V	円形	0.9	0.35	1.45	甕	座位	南西向	♀	熟年	六道銭

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ⑪

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
449	V	円形	1.15	0.5	1.17	—	改葬	—	—	—	
450	V	円形	0.88	0.65	1.5	早桶	座位	?	?	幼児?	
451	V	円形	0.9	0.6	0.5	—	改葬	—	—	—	
452	V	円形	1.2	0.5	1.69	—	改葬	—	—	—	
453	V	円形	—	0.3	1.3	—	改葬	—	—	—	
454	V	円形	0.95	0.57	1.25	早桶?	座位	?	?	幼児	櫛、灯明皿2枚、染付紅皿、鉄片、六道銭
455	V	円形	1.0	0.6	1.18	—	改葬	—	—	—	
456	V	円形	1.05	0.4	2.05	甕	改葬	北向	♀	熟年	土師皿、六道銭
457	V	円形	—	—	—	甕	改葬	—	—	—	染付大皿
458	V	円形	1.07	0.3	1.4	甕	改葬	—	—	—	六道銭
459	V	円形	0.8	0.4	0.62	甕	改葬	—	—	—	
460	V	円形	—	0.3	0.72	—	改葬	—	—	—	
461	V	円形	—	0.35	0.57	甕	改葬	—	—	—	
462	V	円形	1.3	0.5	1.13	—	改葬	—	—	—	
463	V	円形	1.1	0.6	1.06	—	改葬	—	—	—	
464	V	円形	1.1	0.6	0.82	—	改葬	—	—	—	
465	V	円形	1.0	0.4	1.54	—	改葬	—	—	—	
466	V	円形	0.8	0.5	1.12	甕	改葬	—	—	—	
467	V	円形	0.8	0.45	0.8	—	改葬	—	—	—	
468	V	円形	0.9	0.6	0.96	—	改葬	—	—	—	
469	V	円形	0.8	0.4	0.6	—	改葬	—	—	—	
470	V	円形	1.0	0.7	1.02	—	改葬	—	—	—	
471	V	円形	—	0.5	1.03	—	改葬	—	—	—	
472	V	円形	—	—	1.0	甕	座位	西向?	?	幼児	漆皿、櫛、茶碗、貝釦、ゴム鞠、六道銭
473	V	円形	0.6	0.27	0.75	—	改葬	—	—	—	
474	V	円形	0.6	0.4	0.76	—	改葬	—	—	—	
475	V	円形	0.95	0.4	1.2	甕	座位	?	?	幼児	紅皿、六道銭
476	V	円形	1.05	0.8	1.92桶0.5	早桶	座位	西向	♀	老年	
477	V	長方形	1.15×0.74	0.91×0.54	1.02	木棺	右側臥?	北頭	♂	熟年	
478	V	長方形	1.15×0.8	0.75×0.45	1.04	木棺	右側臥?	北頭	♂	熟年	
479	V	円形	0.9	0.5	1.22	—	改葬	—	—	—	
480	V	円形	—	0.5	1.61	—	改葬	—	—	—	
481	V	円形	0.95	0.85	1.3 桶0.45	早桶	座位	西向	♂	成人	
482	V	円形	1.1	0.6	1.67	不明	不明	不明	?	不明	
483	V	円形	0.8	0.5	1.45	—	改葬	—	—	—	
484	V	円形	—	0.38	1.42	—	改葬	—	—	—	
485	V	円形	—	0.75	0.89	—	改葬	—	—	—	土師皿2枚
486	V	長方形	不明×0.9 以上	0.6 以上×0.6	1.05	木棺	不明	不明	?	不明	
487	V	円形	—	0.55	1.69	—	改葬	—	—	—	
488	V	—	—	—	—	—	改葬	—	—	—	
489	V	円形	0.95	0.52	1.3	早桶?	改葬	?	♂	熟年	
490	V	円形	0.6	0.25	0.38	—	改葬	—	—	—	
491	V	円形	0.85	0.4	1.19	—	改葬	—	—	—	
492	V	円形	0.7	0.4	1.19	—	改葬	—	—	—	
493	V	円形	0.6	0.4	0.27	—	改葬	—	—	—	

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ⑫

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
494	V	円形	——	0.62	1.57	—	改葬	——	—	——	煙管、六道銭
495	V	円形	0.9	0.45	1.15	甕	座位	?	♀	熟年	煙管、六道銭
496	V	円形	——	0.5	1.05	—	改葬	——	—	——	
497	V	円形	0.9	0.3	1.23	—	改葬	——	—	——	六道銭
498	V	——	——	——	——	—	改葬	——	—	——	
499	V	円形	0.95	0.5	1.47	—	改葬	——	—	——	
500	V	円形	0.88	0.6	1.75桶0.5	早桶	座位	南南東向	♂	熟年	六道銭
501	V	円形	0.95	0.36	1.1	甕	座位	東向	♀	熟年	六道銭5枚
502	V	円形	0.9	0.55	1.93	甕	座位	西向	?	若年	六道銭
503	V	円形	0.9	0.6	1.4	早桶	座位	南西向?	♂	熟年	
504	V	長方形	0.9 以上×0.94	0.87×0.56	0.95	木棺	仰臥?	北北西頭	♂	老年	漆椀、土師皿2枚
505	V	長方形	1.3 ×0.8	——	0.55	木棺	右側臥	北頭	♂	成人	
506	V	円形	0.85	0.4	1.35	甕	座位	西向	♀	老年	釘、数珠、六道銭
507	V	円形	0.9	0.65	1.43桶0.5	早桶	座位	南西向	♂	老年	
508	V	長方形	——	——	0.9	木棺?	?		♂	熟年	
509	V	円形	0.9	0.45	1.25	甕	座位	西向	♀	老年	釘、六道銭
510	V	円形	1.03	0.65	0.4	?	?	?	?	?	
511	V	長方形	0.7 以上×0.6	以上0.85以上×0.6	0.5	木棺	右側臥	北頭	♀	成人	
512	V	長方形	1.45×1.0	1.05×0.65	0.95	木棺	?	南南西頭	♀	熟年	
513	V	円形	0.85	0.7	0.8	早桶?	?	?	?	小児	
514	V	円形	0.9	0.65	1.15	甕	座位	西向	♂	成年	棺釘、紅皿、六道銭
515	V	長方形	1.55×0.85	1.2 ×0.65	1.03	木棺	仰臥	北頭	♀	成年	棺釘3本
516	V	長方形	1.3 ×?	——	0.73	木棺?	仰臥	北東頭	♂	成人	
517	V	長方形	——	——	0.74	木棺?	仰臥	北東頭	♂	成人	
518	V	長方形	0.6 以上×0.6	以上0.5 以上×0.6	0.5	木棺	仰臥?	北北東頭	?	?	
519	V	円形	0.6	0.5	0.33	早桶?	座位?	?	?	4～5才	
520	V	長方形	——	0.7 以上×0.4	0.2	木棺	?	北西頭	?	成人	
521	V	長方形	1.15×0.7	0.9 ×0.55	0.65	木棺	?	北頭	?	小児以上	
522	V	長方形	1.55×?	1.0 ×?	0.8	木棺	?	北頭	?	?	
523	V	長方形	1.55×1.0	1.5 ×0.8	1.15	木棺	右側臥	北北西頭	♀	熟年	
524	V	円形	0.95	0.65	1.17	早桶	座位	南西向	♀	熟年	
525	V	長方形	?×0.7	?×0.55	0.8	木棺?	?	北頭	?	?	紅皿
526	V	長方形	0.6 以上×0.5	0.45以上×0.35	0.2	木棺?	?	北北東頭	?	?	
527	V	長方形	0.8 以上×0.93	0.9 以上×0.7	0.6	木棺?	?	北北西頭	?	?	
528	V	円形	0.7	0.35	0.55	早桶?	?	?	?	?	
529	V	長方形	1.05×0.83	0.92×0.62	0.45	木棺?	?	北頭	?	?	
530	V	長方形	0.4 以上×0.8	0.4 以上×0.53	0.6	木棺	?	北頭	?	?	
531	V	円形	0.85	0.35	1.09	—	改葬	——	—	——	
532	V	円形	0.6	0.35	1.2	—	改葬	——	—	——	
533	V	円形	0.85	0.43	0.98	—	改葬	——	—	——	
534	V	円形	0.7	0.45	0.61	—	改葬	——	—	——	
535	V	円形	——	0.3	0.43	—	改葬	——	—	——	
536	V	円形	——	0.3	0.42	—	改葬	——	—	——	
537	V	円形	0.7	0.4	0.42	—	改葬	——	—	——	
538	V	円形	0.95	0.65	0.97	—	改葬	——	—	——	

Tab. 3　席田青木遺跡近世墓一覧表 ⑬

番号	地区	形態	上径	底径	深さ（単位m）	棺	葬位	方向	性別	年齢	出土遺物
539	V	円形	0.9	0.5	1.42	—	改葬	—	—	—	
540	V	円形	1.0	0.55	1.26	—	改葬	—	—	—	
541	V	円形	0.5	0.3	0.56	—	改葬	—	—	—	
542	V	円形	0.8	0.3	0.61	—	改葬	—	—	—	
543	V	円形	0.95	0.55	1.18	—	改葬	—	—	—	
544	V	円形	1.0	0.45	1.64	—	改葬	—	—	—	
545	V	円形	0.9	0.6	0.44	—	改葬	—	—	—	
546	V	円形	1.1	0.55	1.24	—	改葬	—	—	—	
547	V	円形	—	—	—	—	改葬	—	—	—	
548	V	円形	1.0	0.65	1.73桶0.45	早桶	座位	南向	?	小児	六道銭、土師皿
549	V	円形	—	0.4	1.4	—	改葬	—	—	—	
550	V	円形	1.3	0.6	1.36	—	改葬	—	—	—	
551	V	円形	—	0.4	1.12	—	改葬	—	—	—	
552	V	円形	0.8	0.45	0.8	—	改葬	—	—	—	六道銭
553	V	円形	1.0	0.5	0.7	—	改葬	—	—	—	
554	V	円形	1.1	0.4	1.33	—	改葬	—	—	—	
555	V	円形	0.8	0.4	0.52	—	改葬	—	—	—	
556	V	円形	0.75	0.52	0.92	早桶	座位	?	?	小児？	釘、べっ甲製櫛
557	V	円形	0.9	0.55	1.09	—	改葬	—	—		灯明皿、土師皿
558	V	円形	0.55	0.25	0.67	—	改葬	—	—	—	
559	V	円形	0.9	0.5	0.79	—	改葬	—	—	—	
560	V	円形	0.9	0.5	1.74	—	改葬	—	—	—	染付碗、土師皿、白磁坏
561	V	円形	—	0.4	1.42	—	改葬	—	—	—	
562	V	円形	—	0.5	1.46	—	改葬	—	—	—	
563	V	円形	0.75	0.3	0.57	—	改葬	—	—	—	
564	V	円形	0.5	0.3	0.67	—	改葬	—	—	—	
565	V	円形	0.55	0.3	0.45	—	改葬	—	—	—	
566	V	円形	0.35	—	0.4	?	?	?	?	小児？	
567	V	円形	0.87	0.52	1.14	早桶	座位	?	?	幼児	土師皿3枚、染付紅皿、六道銭5枚

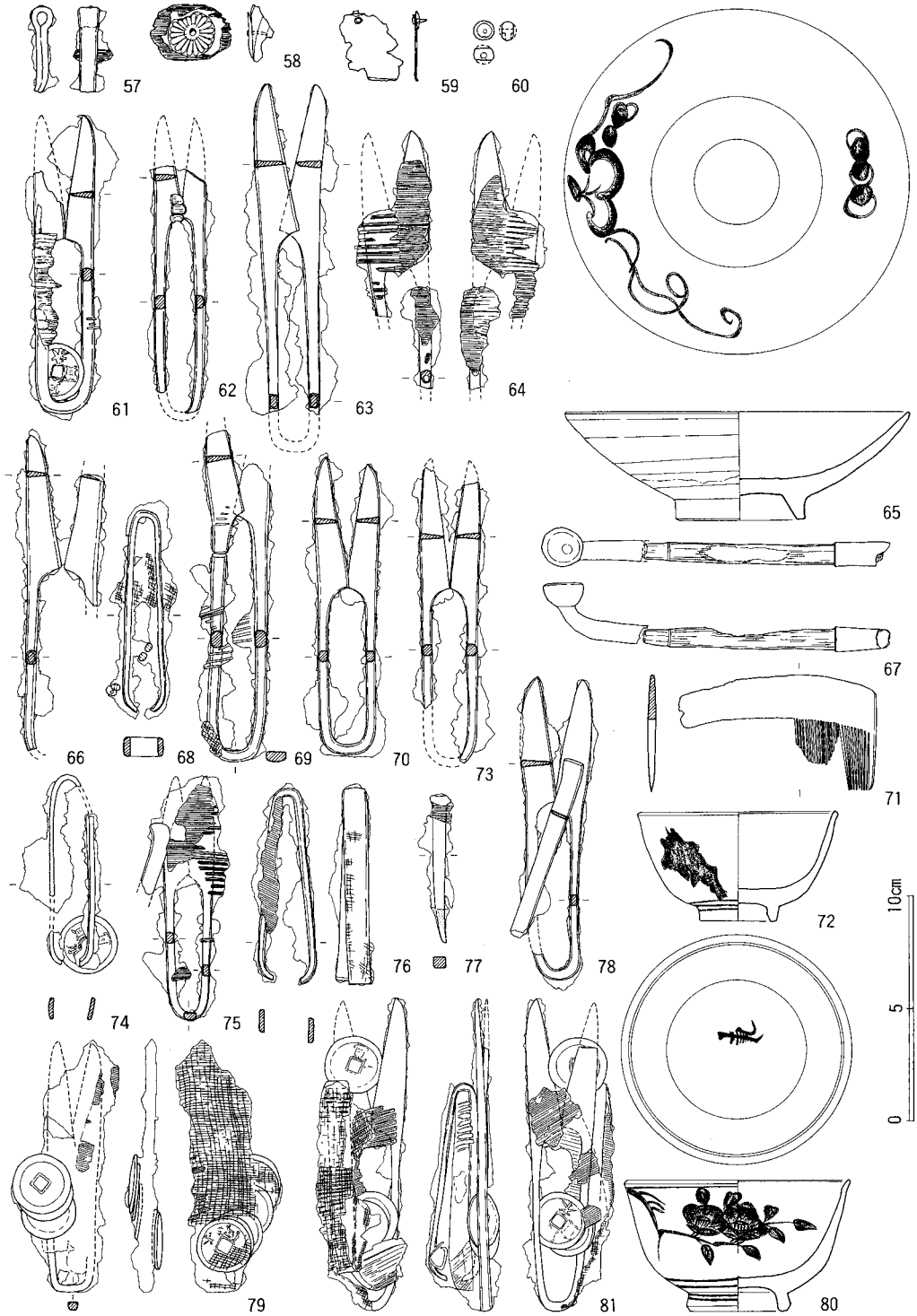


Fig. 53　近世墓副葬遺物実測図(1)（1／3）

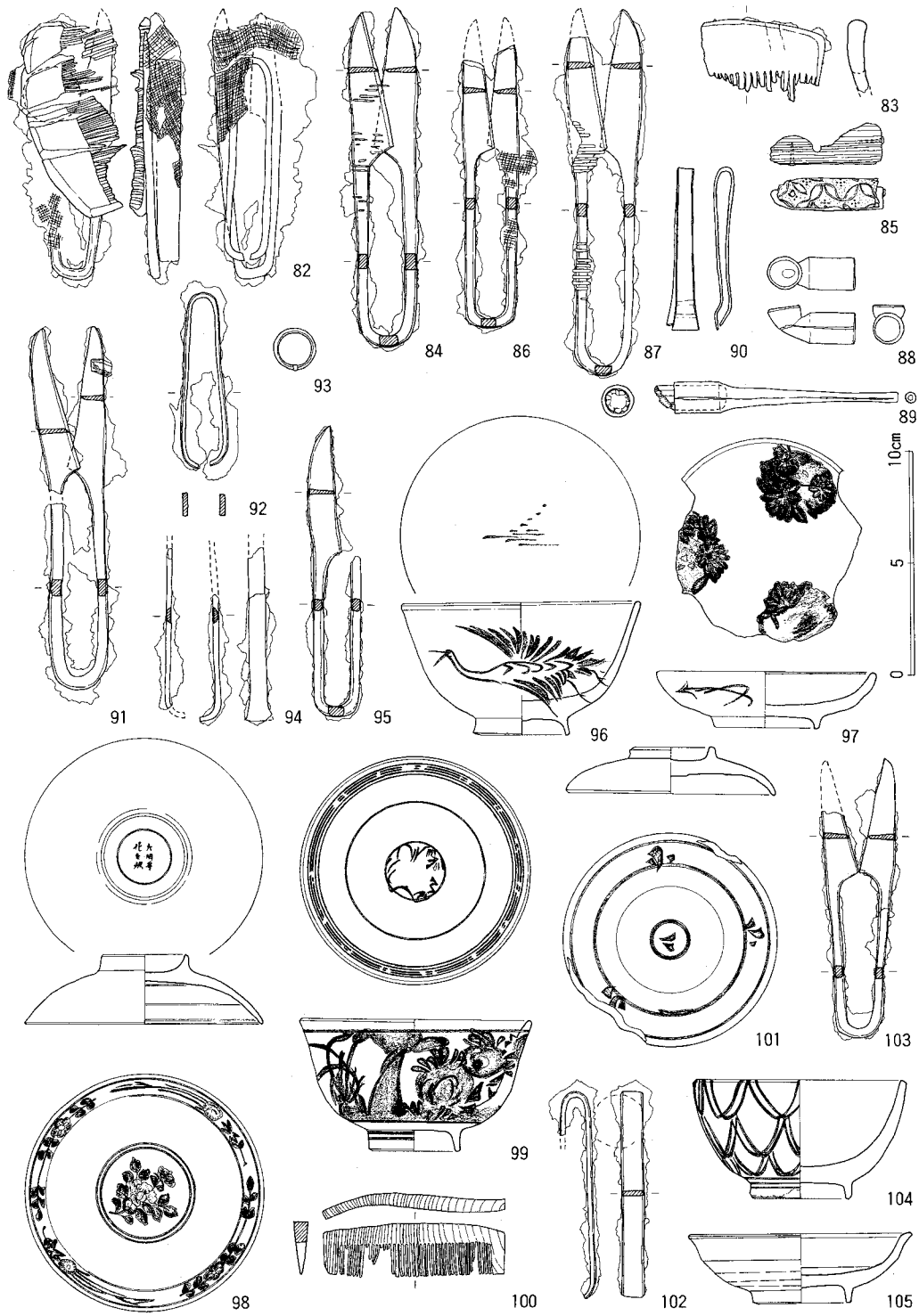


Fig. 54　近世墓副葬遺物実測図(2)（1／3）

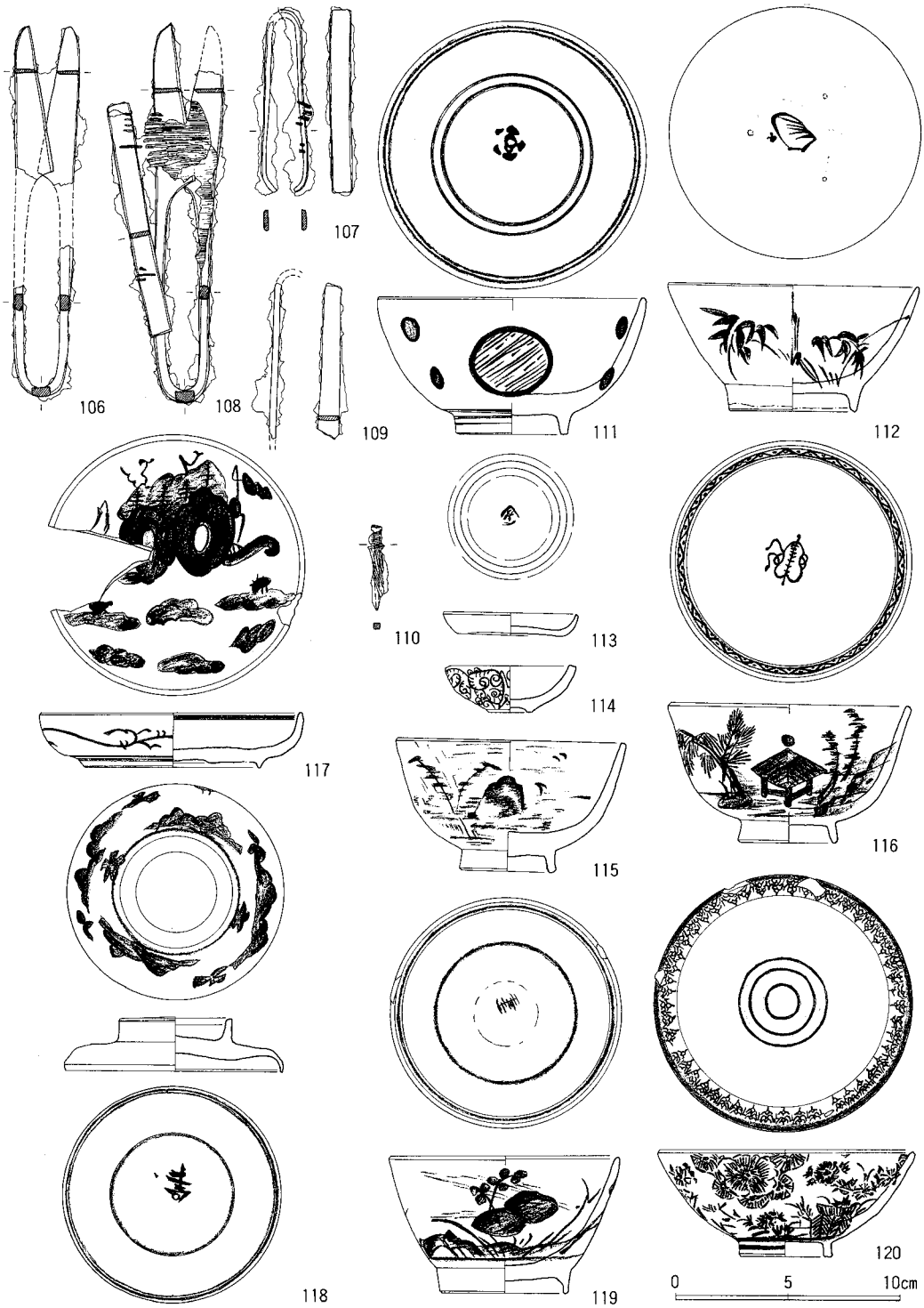


Fig. 55　近世墓副葬遺物実測図(3)（1／3）

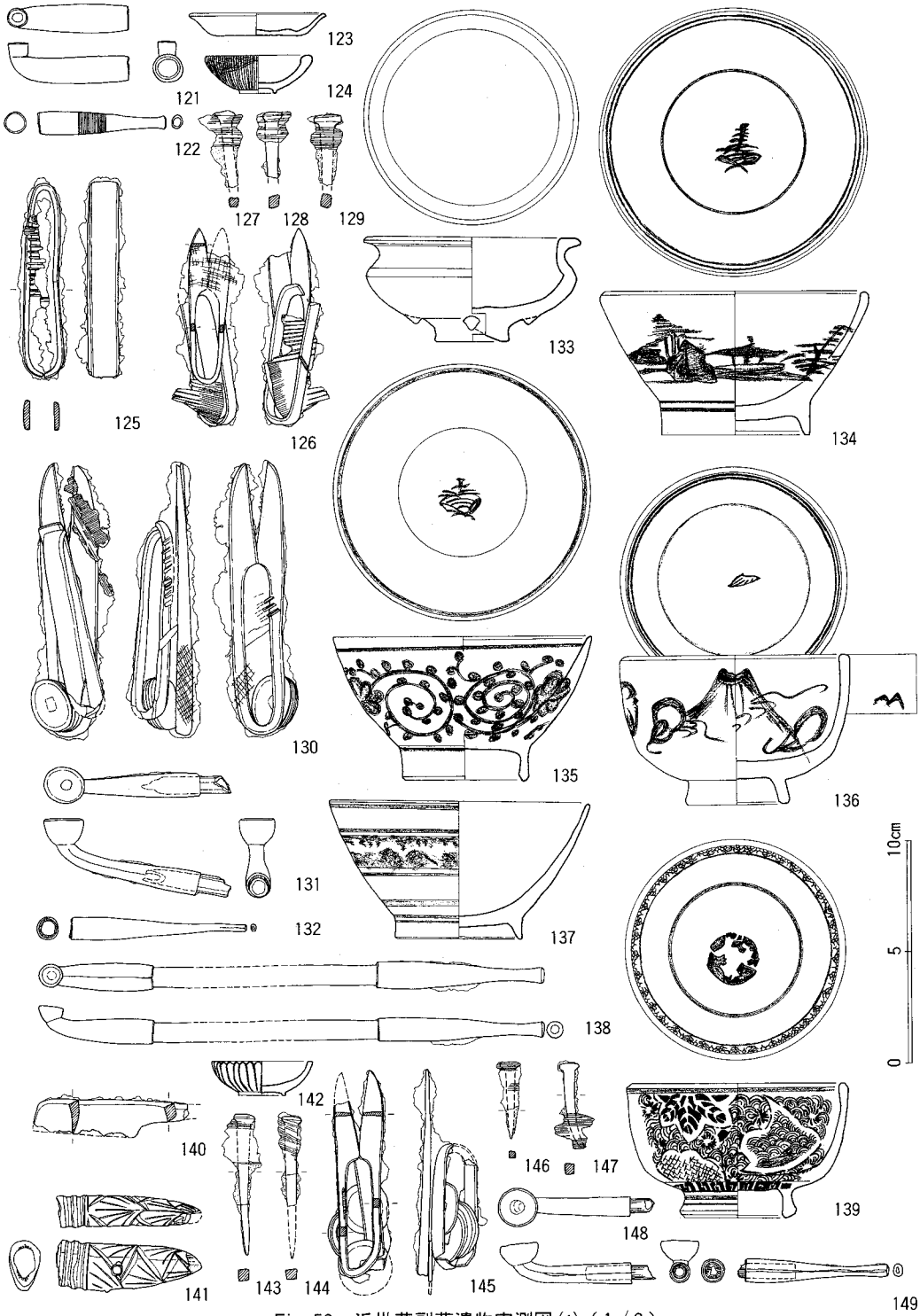


Fig. 56　近世墓副葬遺物実測図(4)（1／3）

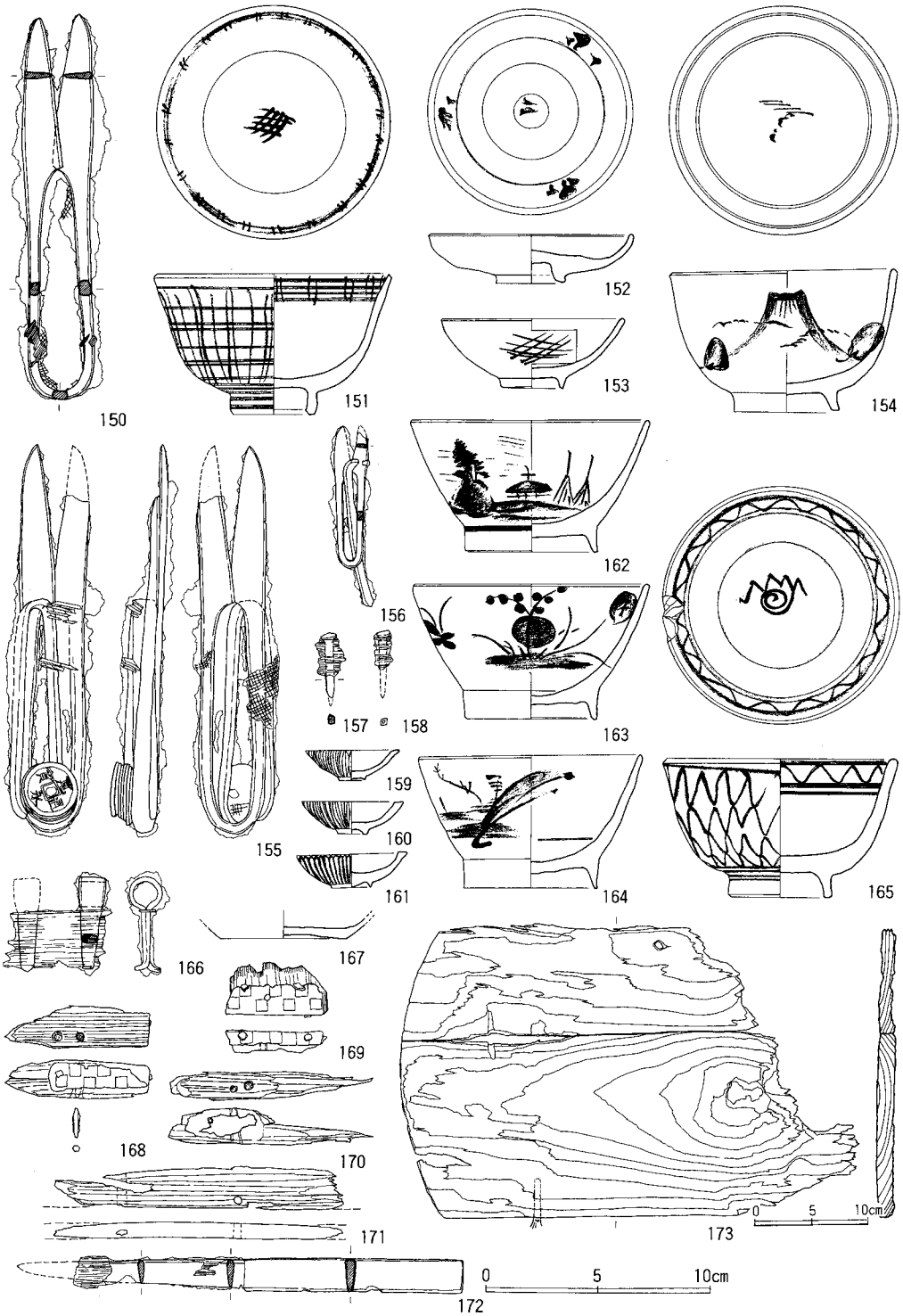


Fig. 57　近世墓副葬遺物実測図(5)（1／3・1／6）

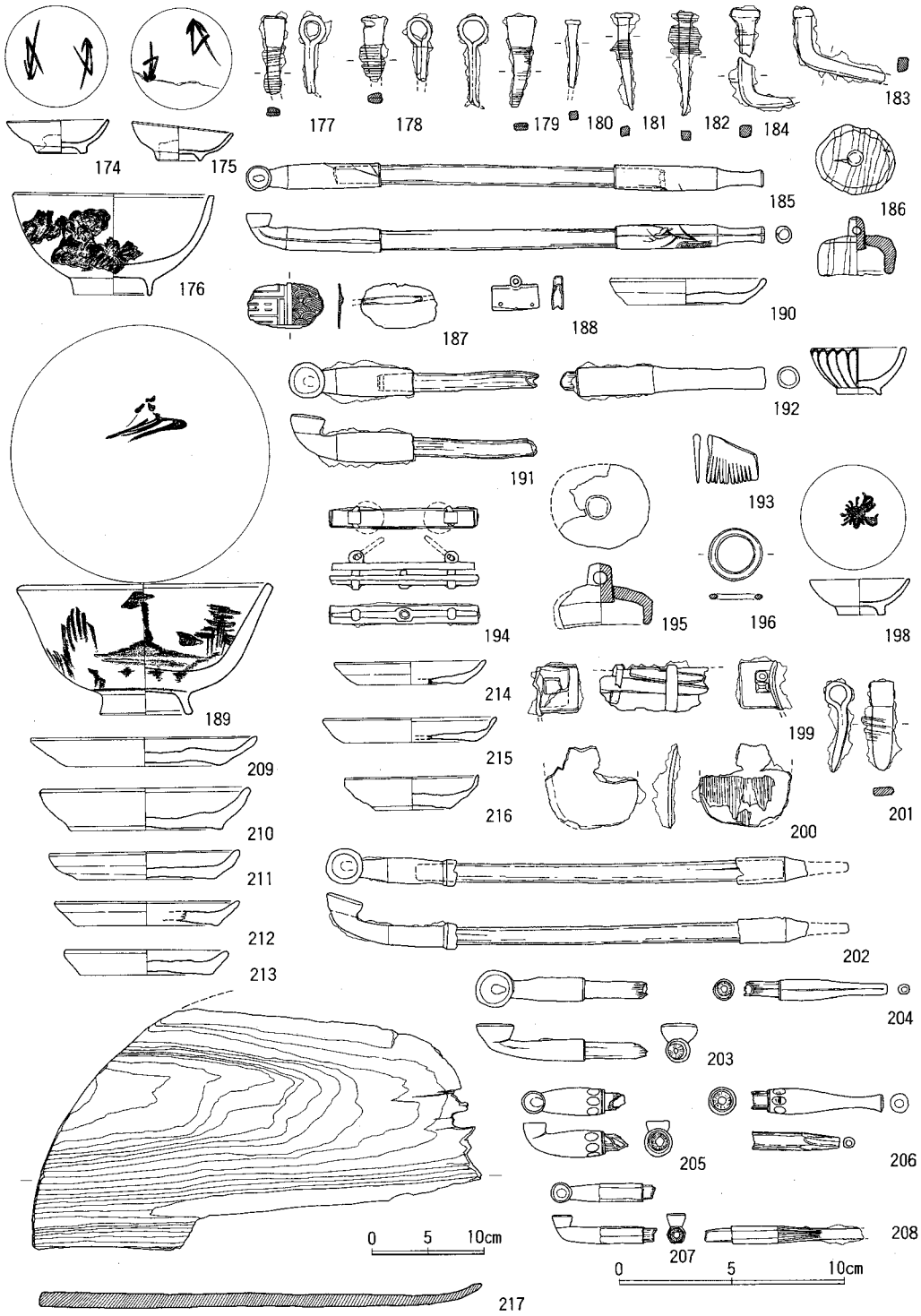


Fig. 58　近世墓副葬遺物実測図(6)（1/3・1/6）

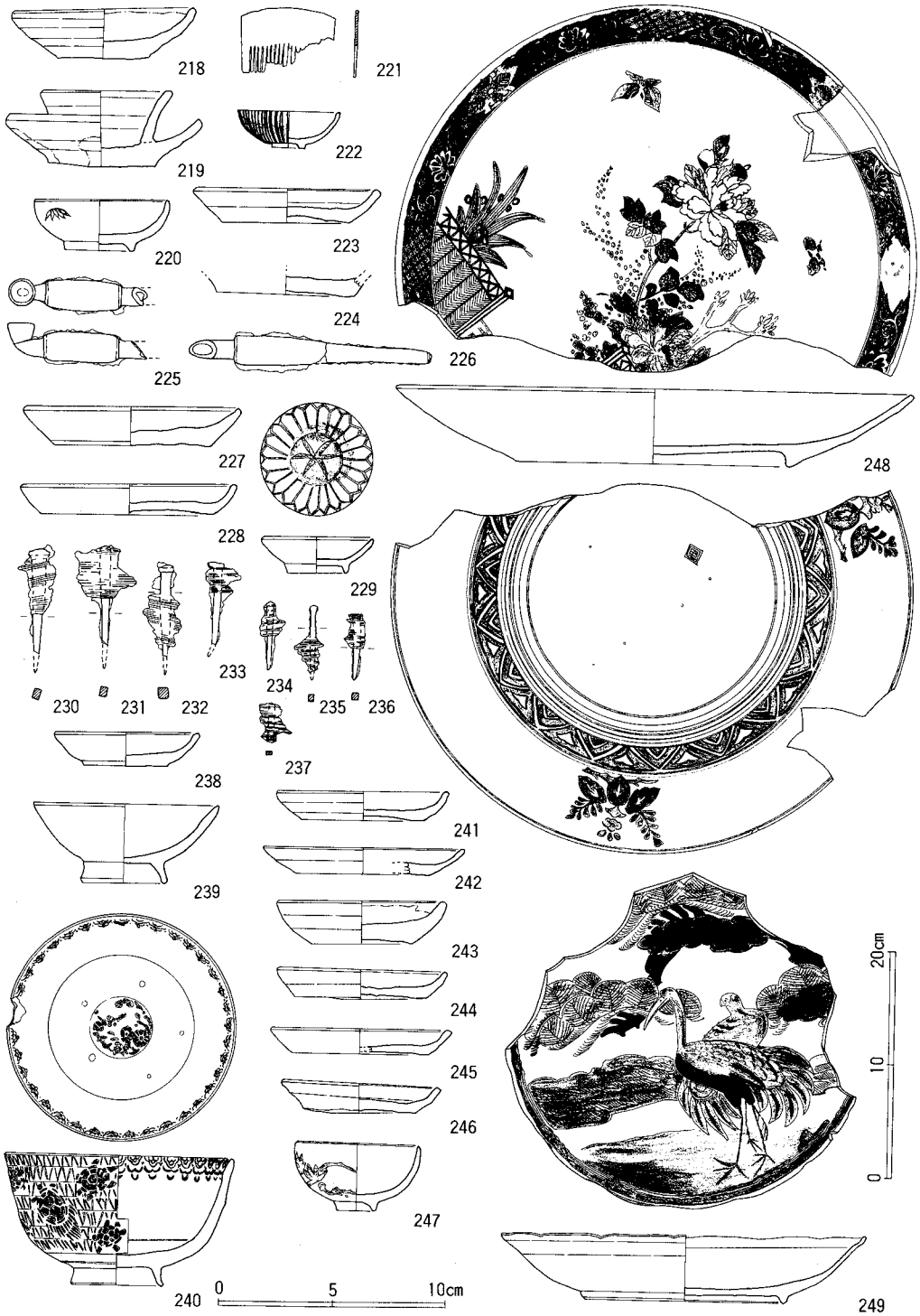


Fig. 59　近世墓副葬遺物実測図(7)（1/3・1/6）

Tab. 4 遺　物　一　覧　表①

No.	名称	法量(cm)	形態・特徴など	型式	出土区・遺構	Fig・PL		備考
1	ナイフ形石器	残長: 2.7　幅 : 1.5 厚 : 0.45	縦長剥片使用、背にブランテイング加工、礫面残す		3区　採集	3	120	黒曜石製
2	打製石鏃	全長: 2.2　最大厚: 0.4 最大幅: 1.3	基部は外弯、内面に主要剥離面を残す		6区　表採	3	120	サヌカイト製
3	磨製石戈	残長: 8.3　最大厚: 1.05 最大幅: 4.0	折損した先端部		3区　K- 26	46	120	蛇紋岩製
4	磨製石鏃	全長: 3.6　最大厚: 0.2 最大幅: 2.0	先端部わずかに欠損		4区　D-109	46	120	頁岩
5	管　玉	全長: 1.4　径 : 0.6 孔径: 0.25	年輪状の脈が入る、両面から穿孔		6区　K-121	46	120	硬質の頁岩か？
6	須恵器 坏蓋	口径: 9.3　受部径:11.4 天井径:8.7　器高: 2.3	色調：明灰色、胎土：2～5㎜の石英・長石粒含む、焼成：良好	須恵V	3区　1号墳	48	120	P－3
7	須恵器 坏蓋	口径: 9.5　受部径:11.5 器高: 2.3	色調：灰色、胎土：精良、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48		P－4
8	須恵器 坏蓋	口径: 8.6　受部径:10.5 天井径:6.3　器高: 1.9	色調：暗灰色、胎土：1～3㎜の石英・長石粒含む、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－7
9	須恵器 坏蓋	口径: 8.7　受部径:10.5 天井径:5.7　器高: 2.1	ヘラ記号有、色調：灰色、胎土：1～3㎜の石英・長石粒含む、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－8
10	須恵器 坏蓋	口径: 8.1　器高: 2.4 受部径:10.05	天井部ヘラ記号有、色調：明灰色、胎土：2㎜大の石英・長石粒含む、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－22
11	須恵器 坏蓋	口径: 9.4　器高: 3.2 受部径:11.4	色調：淡灰色、胎土：精良、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－23
12	須恵器 坏蓋	口径: 8.4　器高: 3.2 受部径:10.7	天井部にヘラ記号有、色調：暗青灰色、胎土：精良、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48		P－14
13	須恵器 坏蓋	口径: 8.3　器高: 3.1 受部径:10.2	内面にヘラ記号有、色調：淡灰色、胎土：精良、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	ボタン状ツマミ P－20
14	須恵器 坏	口径:10.2　底径: 6.1 器高: 3.2	色調：くすんだ茶褐色、焼成：やや不良、胎土：3㎜大の石英・長石粒含む	〃	3区　1号墳 玄室上層	48		
15	須恵器 坏	口径:10.1　底径: 8.6 器高: 3.6	色調：灰色、胎土：2㎜大の石英・長石少し含む、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－1
16	須恵器 坏	口径:11.1　底径: 9.3 器高: 4.1	色調：淡黄灰色、胎土：精良、焼成：不良	〃	3区　1号墳	48	120	P－11
17	須恵器 坏	口径:11.0　底径: 7.8 器高: 4.2	色調：明灰色、胎土：精良、焼成：やや不良	〃	3区　1号墳	48	120	P－25
18	須恵器 坏	口径:10.1　底径: 8.7 器高: 3.2	底部にヘラ記号有、色調：灰色、胎土：2㎜大の石英・長石含む、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－9
19	須恵器 坏	口径: 9.3　底径: 6.0 器高: 3.3	底部にヘラ記号有、色調：灰色、胎土：精良、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－10
20	須恵器 坏	口径: 9.2　底径: 5.7 器高: 3.4	底部にヘラ記号有、色調：灰色、胎土：1～3㎜大石英・長石粒含む、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－17
21	須恵器 坏蓋	口径:13.3　受部径:14.8 器高: 2.15　天井径: 9.9	色調：淡灰色、胎土：精良、焼成：やや不良	Ⅵ	3区　1号墳	48		P－28
22	須恵器 坏蓋	口径:12.1　受部径:14.1 器高: 3.4	外面一部灰かぶり、色調：黒灰色、胎土：精良、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－6 やや焼ひずみ有
23	須恵器 坏蓋	口径:11.2　受部径:14.5 器高: 3.3	外面わずかに灰かぶり、色調：黒灰色、胎土：2～4㎜の石英・長石粒含む、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－16 焼けひずみ有
24	須恵器 坏蓋	口径:12.9　受部径:15.5 器高: 2.4	色調：灰色、胎土：3㎜大の石英・長石粒含む、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－12 焼けひずみが激しい
25	須恵器 坏蓋	口径:11.8　受部径:14.4 器高: 3.6	色調：灰色、胎土：1～3㎜の石英・長石粒含む、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－5
26	須恵器 坏蓋	口径:12.6　受部径:14.7 器高: 2.0	色調：明黒灰色、胎土：精良、焼成：良好	〃	3区　1号墳	48	120	P－19 焼けひずみが激しい

Tab. 4 遺　物　一　覧　表②

No.	名　称	法　　量（cm）	形　態　・　特　徴　な　ど	型　式	出土区・遺構	Fig・PL		備　　考
27	須恵器 坏蓋	口径:16.3　残高: 1.4	色調：暗灰色、胎土：２～３mmの石英・長石粒含む、焼成：良好	須恵Ⅵ	３区　１号墳 玄室上層	48		天井部全欠損
28	須恵器 高台付坏	口径:14.5　底径: 9.2 器高: 4.2	色調：黒灰色、胎土：２～５mmの石英・長石粒含む、焼成：良好	〃	３区　１号墳	49	120	Ｐ－26 焼けひずみが激しい
29	須恵器 高台付坏	口径:14.3　底径: 8.2 器高: 3.9	色調：暗黒灰色、胎土：精良、焼成：良好	〃	３区　１号墳	49	120	Ｐ－13
30	須恵器 高台付坏	口径:13.4　底径: 8.1 器高: 3.9	色調：黒色、胎土：精良、焼成：良好	〃	３区　１号墳	49	120	Ｐ－18
31	須恵器 高坏	口径:10.5　残高: 4.7	内面にヘラ記号有、外面灰かぶり、色調：明灰色、胎土：精度、焼成：良好	Ⅴ	３区　１号墳	49	120	Ｐ－15、坏部のみ残存、焼けひずみ激しい
32	土師器 坏	口径:11.2　底径: 6.2 器高: 3.7	色調：淡茶褐色、胎土：精良 焼成：やや不良、底部ヘラ切		３区　１号墳	49	120	Ｐ－27、口縁部黒変 灯明皿に使用か
33	土師器 皿	口径:18.6　器高: 2.2	色調：明褐色、胎土：精良、 焼成：やや不良		３区　１号墳	49		Ｐ－24
34	土師器 皿	口径:19.0　底径:16.3 器高: 2.7	色調：淡茶灰色、胎土：精良 焼成：やや不良		３区　１号墳	49		Ｐ－２
35	青磁　皿	口径:10.2　底径: 3.6 器高: 2.3	底部露胎、内面櫛描文		３区　１号墳 玄室上層	49	120	
36	土師器 皿	口径: 8.1　底径: 6.2 器高: 1.35	色調：淡茶灰色、胎土：精良、焼成：やや不良、底部糸切の後板状圧痕		３区　１号墳 玄室上層	49		
37	土師器 皿	口径: 8.2　底径: 6.0 器高: 1.2	色調：淡茶褐色、胎土：精良、焼成：やや不良、底部糸切		３区　１号墳 玄室上層	49		
38	土師器 皿	口径: 9.7　底径: 7.1 器高: 1.2	色調：淡茶褐色、胎土：精良、焼成：良好		３区　１号墳 玄室上層	49		
39	鉄釘 （角釘）	残長: 7.9 最大辺: 0.7×0.6	頭部、先端部欠損推定長10cm以上	Ａ　類	３区　１号墳 玄室下層	49	120	
40	鉄釘 （角釘）	残長: 7.8 最大辺: 0.6×0.65	木質残る、頭部、先端部の一部欠損	〃	３区　１号墳 玄室下層	49	120	
41	鉄釘 （角釘）	残長: 3.6 最大辺: 0.65×0.65	下半部欠損	〃	３区　１号墳 玄室下層	49	120	
42	鉄釘 （角釘）	残長: 1.7　最大辺: 0.55	頭部のみ	Ｂ　類	３区　１号墳 玄室下層	49		
43	鉄釘 （角釘）	残長: 3.0 最大辺: 0.5×0.5	下半欠失	〃	３区　１号墳 玄室下層	49	120	
44	鉄釘 （角釘）	残長: 4.0 最大辺: 0.45×0.55	下半欠失	〃	３区　１号墳 玄室下層	49	120	
45	鉄釘 （角釘）	残長: 5.1　最大辺: 0.55	頭部、先端部欠損	〃	３区　１号墳 玄室下層	49	120	
46	鉄釘 （角釘）	残長: 2.0　最大辺: 0.55	体部の一部のみ、両端は新しい割れで、どれとも接合しない	〃	３区　１号墳 玄室下層	49		
47	鉄釘 （角釘）	残長: 5.0　最大辺: 0.45	頭部欠損	〃	３区　１号墳 玄室下層	49	120	
48	鉄釘 （角釘）	残長: 3.3　最大辺: 0.55	胴部のみ	〃	３区　１号墳 玄室下層	49		
49	鉄釘 （角釘）	残長: 3.8　最大辺: 0.55	下半部のみ	〃	３区　１号墳 玄室下層	49		
50	鉄釘 （角釘）	残長: 3.0　最大辺: 0.55	先端部	〃	３区　１号墳 玄室下層	49		
51	鉄釘 （角釘）	残長: 7.0　最大辺: 0.4	先端部を少し欠く	Ｃ　類	３区　１号墳 玄室下層	49	120	
52	鉄釘 （角釘）	残長: 4.7 最大辺: 0.7×0.6	下半部欠失、53と同一個体か	Ａ　種	３区　１号墳 玄室下層	49		

Tab. 4　遺　物　一　覧　表③

No.	名　称	法　量（cm）	形態・特徴など	型　式	出土区・遺構	Fig・PL		備　考
53	鉄釘（角釘）	残長：3.3 最大辺：0.5×0.45	先端部近く、52と同一個体か	A　類	3区　1号墳 玄室下層	49		
54	鉄製棺飾（F－1）	座金径：6.7　厚さ：0.3 遊環径：5.0 厚さ：0.7 幅：0.8 割釘全長：5.4　最大幅：1.0	遊環は両端を平坦にし、六角形に近い形状を呈する。		3区　1号墳 玄室下層	49	120	
55	鉄製棺飾（F－2）	遊環径：5.0 厚さ：0.7 幅：0.7 割釘残長：1.7　最大幅：1.0	F－1と対になるものであろう		3区　1号墳 玄室下層	49	120	
56	鉄製遊環（F－3）	残長：3.2　厚さ：0.55 幅　：0.8			3区　1号墳 玄室下層	49		環体には、クラックがはいり破損が激しい
57	鉄製環頭釘	残長：3.8　幅　：0.8	割ピン状になる		2区　1号墓	53		木質部が残る遊環が付くかどうか不明
58	銅製菊花飾金具	径：1.9　釘頭径：0.2×0.25 長さ：0.85	菊花20弁、釘も銅製（頭、略方形）		2区　1号墓	53		
59	銅製飾金具	高さ：3.0　残幅：2.8 厚さ：0.05 釘頭径：0.25×0.3 全長：0.6	釘も銅製（頭、略方形）		2区　1号墓	53		
60	木製数珠	径　：0.9	母珠		2区　5号墓	53		両端は剝落破損
61	鉄	全長：13.1　刃部長：5.5	握り部の断面はD字に近い	B　類	2区　2号墓	53	121	表面に横櫛、六通銭付着、裏面には粗い織りの布痕付着
62	鉄	残長：11.0（推定13.5） 刃部長（推定 4.3）	握り部の断面はD字に近い	〃	2区　3号墓	53		表面には木製数珠漆椀の添付着、裏面に横櫛付着
63	鉄	残長：16.6　刃部長：6.6	握り部の断面は長方形	〃	2区　6号墓	53		裏面に粗い目が詰った織布付着
64	鉄	残長：8.3+4.5 刃部長：6.1	銹着が激しく全体の様子が分からない	〃	2区　9号墓	53		横櫛が2枚以上両面に付着
65	染付碗	口径：15.3　底径：5.7 器高：4.85	内面釉カキトリ、外面下半露胎	中国製か	2区　7号墓	53	122	
66	鉄	残長：14.1　刃部長：6.0	裏面に2個体分の横櫛付着	A　類	2区　7号墓	53		破損の断口は古いものであるが本来は完形であったと考える
67	煙管	残長：15.4　火皿径：1.7 雁首径：0.9　吸口径：1.0 羅宇径：0.85	雁首の一部と吸口先端部欠損、真鍮製		2区　7号墓	53		
68	毛抜	長さ：9.0　環体幅：0.8 環体厚：0.25	基部側、先端部側幅同一	A　類	2区　11号墓	53	121	裏に織布布着、鉄は一部残存、ガラス数珠付着
69	鉄	残長：14.7	先端部欠損	〃	2区　12号墓	53	121	櫛歯の一部が残存、粗い織布付着
70	鉄	全長：13.1　刃部長：5.8	細い作りの鉄である	B　類	2区　12号墓	53	121	基部の部分に和紙が残る。和紙に巻かれていたものと考える
71	横櫛	残幅：8.7　高さ：5.2 最大厚：0.4	精巧な作りの櫛である（鼈甲製）		2区　12号墓	53	121	裏に木製の櫛の歯が付着している
72	染付碗	口径：8.9　底径：3.4 器高：4.8	印判手	肥前 18C初	2区　12号墓	53	122	
73	鉄	残長：13.0 刃部長（推定5.8）	握部の断面がD字に近い	B　類	2区　13号墓	53		和紙に巻かれている裏面に粗い織布が付着
74	毛抜	最大残長：6.8 最大幅：1.1	中央部がやや幅広となる	A　類	2区　13号墓	53		破損、和紙に巻かれている、粗い織布が付着
75	鉄、毛抜、櫛	鉄全長：10.8 刃部長：4.3 毛抜・全長不明・幅：1.0	鉄小型、握り部の断面は長方形	C　類	2区　25号墓	53		全部、まとめて頭陀袋に入れられていたものであろう
76	毛抜	全長：8.4　体部の幅：1.0	複数の櫛の木質が残る	A　類	2区　29号墓	53	121	和紙、繊維が見える
77	鉄製角釘	全長：6.6　頭部一辺：0.8	基部と先端部に木質残る直交する	〃	2区　25号墓	53		
78	鉄、毛抜	鉄全長：13.6　刃部長：5.6 毛抜先端幅：1.0　残長：3.8	鉄は細い造り	鉄B類 毛抜A類	2区　26号墓	53	121	裏に粗い織布がみられる

Tab. 4　遺　物　一　覧　表④

No.	名　称	法　　量（cm）	形　態　・　特　徴　な　ど	型　式	出土区・遺構	Fig・PL		備　　考
79	鋏 六道銭	全長:11.1　中央部幅: 2.6		C　類	2区　29号墓	53	121	櫛は2箇所痕跡あり 裏には目の粗い織布付着、六道銭　6枚
80	染付碗	口径: 9.9　底径: 4.8 器高: 5.8	椿文・見込銘有	肥　前 18C中	2区　29号墓	53	122	
81	鋏、毛抜、横櫛、六道銭	鋏全長:13.9 刃部長: 5.9 毛抜全長:8.6　幅　:0.95	鋏は一部和紙に巻かれていたか、和紙少量残存	鋏B類 毛抜A類	2区　27号墓	53	121	セットで袋に入れられていたらしい
82	鋏、毛抜、六道銭、横櫛	鋏長:12.1　毛抜長: 9.0 幅　: 0.9	銹着が激しく細かなところが分からない 毛抜は和紙に巻かれている	鋏B類 毛抜A類	2区　35号墓	54	121	セット
83	櫛	残幅: 5.5　残高: 3.7 厚さ: 0.8	解櫛		2区　35号墓	54		ツゲか？乾燥のせいか弯曲している、裏面に粗い織布付着
84	鋏、横櫛	全長:15.2　刃部長: 6.0	重量感のある造り	B　類	2区　36号墓	54	121	櫛歯の痕跡、粗い織布付着
85	銅製飾金具	幅　: 1.25　残長: 4.4 厚さ:0.025　釘長: 1.0	花弁を表わしたものか唐草状になっている、芯に5個の細かい突起あり、地文は梨地		2区　36号墓	54	121	銅板打出し
86	鋏	残長:12.5　刃部長(5.8)	細身の造り、先端部欠損	B　類	2区　39号墓	54		櫛歯の痕跡、和紙に巻かれ袋に入れられる
87	鋏、櫛	全長:16.4　刃部長: 6.3	大型、掘り部の断面は長方形	A　類	2区　44号墓	54	121	鋏は、和紙で巻かれさらに櫛を挟み再度和紙で巻かれている
88	煙管	全長: 3.9　径　: 1.4 高さ: 1.7　火回径: 1.45	真鍮製、雁首89と対		2区　44号墓	54	121	
89	煙管	全長: 9.9　径　: 1.4 内径: 1.0	吸口、真鍮製、竹製羅宇残存		2区　44号墓	54	121	
90	毛抜	全長: 7.2　先端幅: 1.15 厚さ: 0.115	銅製銅板を折り曲げて製作、先端部斜に調整	C　類	2区　47号墓	54	121	銅製は本例のみ
91	鋏	全長:16.1　刃部長: 6.4	鋏は和紙に巻かれ頭陀袋に入れられていたとみられる	A　類	2区　58号墓	54	121	横櫛も伴うか
92	毛抜	全長:7.8　体部の幅:1.0	和紙に巻かれ頭陀袋に入れられていたと考えられる	A　類	2区　69号墓	54		
93	銅環	外径: 1.8　環体径: 0.15	数珠の付属品		2区　69号墓	54	121	サビが付着
94	毛抜	残存長: 7.0 本来は10cm程度か	断面がカマボコ状を呈する体部を持つ、先端部は撥形に広がる	B　類	2区　49号墓	54	121	和紙に巻かれ頭陀袋に入れられていたものとみられる
95	鋏	全長:13.0　刃部長: 5.8	和紙に巻かれている、片方の刃部折損	〃	2区　69号墓	54	121	
96	染付碗	口径:10.6　底径: 4.3 器高: 6.0	外面鶴と日輪・見込銘有	肥　前 19C前	2区　60号墓	54		
97	染付皿	口径: 9.8　底径: 4.6 器高: 2.35	外面折松葉文、内面印判手	肥　前 18C前	2区　74号墓	54	122	
98	青磁染付蓋	つまみ径: 3.8　口径:10.6 器高: 3.1	内面草花文、銘「大明宣化年制」	肥　前 18C中	2区　54号墓	54	122	
99	染付碗	口径:10.2　底径: 4.0 器高: 5.9	草花文	肥　前 19C前	2区　79号墓	54	122	
100	櫛	幅　: 8.0　高さ: 2.3 最大厚: 0.6	解櫛、カシ材か、雑な作り面取りもない 裏に櫛歯の切り込み基準のあたり線あり		2区　79号墓	54		
101	染付蓋	つまみ径: 3.8 口径: 9.3 器高: 2.1	見込釉カキトリ	肥　前 19　C	2区　79号墓	54	122	
102	毛抜	全長: 9.2　体幅: 1.0 厚さ: 0.2	粗い織の布痕付着、袋に入れられたものか	A　類	2区　90号墓	54		本来は完形、体部の残りの破片はあるが部分的に接合しない
103	鋏	全長:12.4　刃部長: 5.2	裏に櫛の圧痕あり	B　種	2区　90号墓	54		毛抜と袋に入れられる
104	染付碗	口径: 9.4　底径: 4.4 器高:5.3	二重網目文	肥　前 18C中	2区　97号墓	54		

Tab. 4 遺　物　一　覧　表⑤

No.	名　称	法　　量（cm）	形　態　・　特　徴　な　ど	型　式	出土区・遺構	Fig・PL		備　　考
105	白磁皿	口径：9.95　底径：4.4 器高：3.15	体部下半ヘラケズリ、見込釉カキトリ	肥前？	2区　97号墓	54	122	
106	鋏	刃部側残長：7.1 刃部長：6.6　基部残長：6.7	接合しない、櫛の痕跡あり、推定全長16.5cm	A　類	2区 101号墓	55		新しい破損有、本来は完形の可能性大
107	毛抜	全長：8.1　体幅：1.0	内面赤漆塗の可能性あり、櫛と織布が付着、106とセット	A　種	2区 101号墓	55		
108	鋏、毛抜、櫛	鋏全長：16.9　刃部長：7.0 毛抜全長：10.4　体幅：1.0 基部：0.9	毛抜の間に櫛を入れている織布付着、毛抜は折損	鋏A類 毛抜A類	2区 105号墓	55	121	
109	毛抜	残長：6.9　残幅：1.0 厚さ：0.25	内面に赤漆を塗る、毛抜の先端部あり、本来は完形であったか	A　種	2区 118号墓	55		櫛歯、粗い織布付着、鋏の基部あり
110	鉄製角釘	全長：3.7　頭径：0.45	上部本質幅 0.7、下部本質幅 2.75	C　類	2区 132号墓	55		
111	染付碗	口径：11.9　底径：5.0 器高：6.1	丸文、見込五弁花文、銘有	肥　前 18C中	2区　97号墓	55		
112	染付碗	口径：11.2　底径：5.7 器高：5.65	広東碗、笹文、見込銘有、ハリの痕跡	肥　前 19C前	2区　97号墓	55		
113	土師器皿	口径：6.0　底径：4.8 器高：1.0	色調：赤茶褐色、焼成：良好、底部糸切		2区　97号墓	55		
114	白磁紅皿	口径：5.3　底径：1.9 器高：2.1	タコ唐草文	肥　前 18C後	2区 137号墓	55		
115	染付碗	口径：10.2　底径：4.3 器高：5.8	色調：灰色、灰白色不透明釉、山水文	肥　前 18C初	2区 123号墓	55	122	
116	染付碗	口径：10.8　底径：4.5 器高：6.2	山水文、見込銘有	肥　前 19C前	2区　97号墓	55		
117	染付皿	口径：10.6　底径：7.7 器高：2.5	外面唐草文、蛇目凹形高台	肥　前 18C中	2区 142号墓	55		
118	染付蓋	口径：9.7　つまみ径：4.6 器高：2.3	内面「寿」銘有	肥　前 19C前	2区 145号墓	55		
119	染付碗	口径：10.2　底径：5.7 器高：6.05	広東碗、東花文、見込銘有	肥　前 19C前	2区 145号墓	55		
120	染付碗	口径：11.2　底径：3.8 器高：4.8	型紙摺、見込釉カキトリ	肥　前 19C後	2区 147号墓	55	122	
121	煙管	全長：5.4　高　：1.8 雁首径：1.25　火皿径：0.85	真鍮製、雁首、火皿部が小さく立ち上がる		2区 148号墓	56		
122	煙管	全長：5.7　径　：1.0 吸口径：0.5	真鍮製、吸口、小松筋を施す、121と対		2区 148号墓	56		
123	土師器皿	口径：6.0　底径：3.8 器高：1.1	色調：茶褐色、胎土：精良、焼成：良好		2区 153号墓	56		
124	白磁紅皿	口径：4.8　底径：1.7 器高：1.7	貝肋状文	肥　前 18C末	2区 127号墓	56		
125	毛抜	全長：8.8　厚さ：0.25 体部幅基部：1.3 先端：1.2	全体に幅広く先端部がやや狭くなる。櫛歯付着	A　類	2区 161号墓	56	121	
126	鋏、毛抜、櫛	鋏全長：6.9　刃部長：2.7 毛抜全長：6.4　体幅：0.55	鋏はミニチュア、櫛は毛抜の間にはさむ、粗い織布付着	鋏D類 毛抜D類	2区 161号墓	56	121	一括して銹着
127	鉄製角釘	頭径：0.9×0.7　残長：3.4	木目直交、基部側の木目幅1.3cm	A　類	2区 161号墓	56		
128	鉄製角釘	頭径：0.9×0.5　残長：2.9	木目直交、基部側の木目幅1.2cm	〃	2区 161号墓	56		
129	鉄製角釘	頭径：1.2×0.9　残長：3.2	木目直交、基部側の木目幅1.2cm	〃	2区 161号墓	56		
130	鋏、毛抜、横櫛、六道銭	鋏全長：12.2　刃部長：4.5 毛抜全長：8.8　幅：1.0	粗い織布付着、一括して頭陀袋に入れたと考えられる	鋏B類 毛抜A類	2区 162号墓	56	121	

Tab. 4 遺　物　一　覧　表⑥

No.	名　称	法　　量（cm）	形　態　・　特　徴　な　ど	型　式	出土区・遺構	Fig・PL		備　　考
131	煙管雁首	全長：7.0　最大径：1.0 火皿径：1.7	竹製羅宇残存、羅宇径 0.8cm、真鍮製、132と対		2区 102号墓	56		羅宇は先端を尖らせる
132	煙管吸口	全長：7.8　最大径：1.0	〃		2区 162号墓	56		
133	青磁香炉	口径：9.3　底径：3.4 器高：4.6	内面、底面露胎、釉調は淡い緑灰色、不透明、三足付	肥前18C後	2区 150号墓	56		
134	染付碗	口径：12.0　底径：6.7 器高：6.5	広東碗、山水文、見込昆虫文	肥前19C前	2区 153号墓	56		
135	染付碗	口径：11.5　底径：5.5 器高：6.4	広東碗、タコ唐草文、見込昆虫文	肥前19C前	2区 153号墓	56		
136	染付碗	口径：10.2　底径：4.5 器高：6.7	富士山、鷹、茄子、文、見込銘有	肥前18C後	2区 153号墓	56	122	
137	染付碗	口径：11.7　底径：5.7 器高：6.2	広東碗	肥前19C前	2区 154号墓	56		
138	煙管	雁首長：5.0 径：1.2 火皿径：1.0 吸口長：7.4 径：1.1 吸口端部：0.7 高さ：1.7	竹製羅宇残る、径0.85cm、吸口に粗い織布が残る		2区 154号墓	56		羅宇は破損しているが同一個体、真鍮製
139	染付碗	口径：9.5　底径：4.5 器高：6.0	型紙摺	肥前19C後	2区 154号墓	56		
140	鉄製剃刀	残長：6.9　厚さ：0.5 高　：1.7　刃幅：4.6			2区 179号墓	56		
141	刀子柄	全長：6.4　高さ：2.1 幅　：1.3	骨製、沈線で連続山形文、その間を細線でうめる		2区 179号墓	56		
142	白磁紅皿	口径：4.5　底径：2.3 器高：1.6	貝肋状文	肥前19C前	2区 179号墓	56		
143	鉄製角釘	全長：6.4	直交する木質残存、基部側の幅1.9cm	A　類	2区 204号墓	56		
144	鉄製角釘	残長：4.1	直交する木質残存	〃	2区 204号墓	56		
145	鋏、毛抜	鋏全長：9.2　刃部長：4.0 毛抜全長：5.6 基部体幅：0.9　先端：1.1	櫛の痕跡、裏面に粗い織布付着	鋏C類 毛抜D類	2区 204号墓	56		
146	鉄製角釘	全長：3.4	木質直交、基部側の木質幅 2.0cm	C　類	2区 219号墓	56		
147	鉄製角釘	全長：3.8	木質直交、基部側の木質幅 2.0cm	〃	2区 219号墓	56		
148	煙管雁首	全長：5.9　径　：0.85 火皿径：1.7　高　：1.9	竹製羅宇残存、径 0.6、真鍮製		2区 233号墓	56	121	
149	煙管吸口	全長：6.4　径　：1.0 吸口端部：0.5	竹製羅宇残存、径0.7、148と対、真鍮製		2区 233号墓	56	121	
150	鋏	全長：17.2　刃部長：6.8	和紙に巻かれている粗い織布付着、大型で重厚な作り	A　類	2区 233号墓	57	121	横櫛の一部付着
151	染付碗	口径：10.5　底径：3.2 器高：6.3	格子文、見込銘有	肥前19C前	2区 164号墓	57		
152	染付皿	口径：9.2　底径：3.3 器高：2.2	見込釉掻き取り	肥前19C前	2区 164号墓	57		皿で実測したが蓋と考えられる
153	染付杯	口径：8.1　底径：2.8 器高：3.1	格子文	肥前18C後	2区 173号墓	57		
154	染付碗	口径：10.1　底径：4.7 器高：6.4	富士山なすび文、見込銘有	肥前18C後	2区 173号墓	57		
155	鋏、毛抜、六道銭、横櫛	鋏全長：17.3　刃部長：6.9 毛抜全長：9.9　体幅：1.0	鋏は和紙で巻かれる、粗い織布付着、一括して副葬	鋏A類 毛抜A類	2区 243号墓	57	121	
156	鋏、毛抜	鋏長：6.3　刃部長：2.0 毛抜全長：6.6　体幅：0.6	ミニチュア、鋏には刃が付かないか、毛抜内面に赤漆塗られる	鋏D類 毛抜D類	2区 249号墓	57	121	櫛の木質付着

Tab. 4 遺　物　一　覧　表⑦

No.	名　称	法　量（cm）	形態・特徴など	型　式	出土区・遺構	Fig・PL		備　考
157	鉄製角釘	残長：2.8	木質残存、幅1.3cm	C　類	2区 249号墓	57		
158	鉄製角釘	残長：1.7	木質残存、幅1.5cm	〃	2区 249号墓	57		
159	白磁紅皿	口径：4.2　底径：1.2 器高：1.4	貝肋状文	肥　前 14C前	2区 249号墓	57		
160	白磁紅皿	口径：4.5　底径：1.3 器高：1.4	貝肋状文	肥　前 19C前	2区 250号墓	57		
161	白磁紅皿	口径：4.9　底径：1.8 器高：1.5	貝肋状文	肥　前 18　C	2区 252号墓	57		
162	染付碗	口径：10.6　底径：5.9 器高：5.9	広東碗、山水文	肥　前 19C前	2区 191号墓	57	122	
163	染付碗	口径：10.5　底径：5.9 器高：6.0	広東碗、草花文	肥　前 19C前	2区 249号墓	57	122	
164	染付碗	口径：9.85　底径：5.9 器高：6.0	広東碗、山水文	肥　前 19C前	2区 250号墓	57	122	
165	染付碗	口径：10.1　底径：4.3 器高：6.2	一重網目文、見込銘有	能古焼 か	2区 205号墓	57	122	
166	鉄製環頭釘	全長：4.2　環径：1.5 環体幅：1.3	板材に2本2.8cm間隔で打ち込む、残存木質2.3cm		5区 262号墓	57		
167	土師器皿	口径：不明　底径：5.5 残高：0.7	胎土に金雲母をやや多く含む底部糸切		5区 262号墓	57		
168	銅製飾金具	残高：4.3　幅　：1.3	銅鋲留、市松文の型打木質部残長6.3cm幅1.6cm		5区 278号墓	57	121	木釘残る、残長1.4、径0.3cm、断面六角形
169	銅製飾金具	残長：4.4　幅　：1.35+0.65	銅鋲留、鋲長1.0cm頭略方形0.3～0.4cm、木質中央部に木釘あり鋲間隔2.5～2.8cm		5区 278号墓	57	121	市松文の型打
170	銅製飾金具	金具残長：2.4　残幅：1.0	木質残長9.1cm、残幅1.2cm、銅製の鋲留木釘2本残る		5区 278号墓	57		銅板は腐飾、文様は不明
171	板材	残長：12.7　残幅：1.8 厚さ：0.6 木釘孔径：0.4～0.5	柾目材、化粧箱か		5区 294号墓	57		
172	小柄	残長：17.2　柄長：9.8 幅　：1.5　厚さ：0.5	刃部背厚0.3、刃部幅1.3、先端部欠失、柄は基部を銅板で巻く		5区 294号墓	57	121	銅板厚0.1cm弱
173	早桶底板	推定底径：52.0　厚さ：1.5	板目材、竹釘の痕跡あり		5区 280号墓	57		松材か
174	染付紅皿	口径：4.5　底径：2.2 器高：1.5	見込折松葉文	肥　前 18C後	5区 304号墓	58	122	
175	染付紅皿	口径：4.5　底径：2.0 器高：1.8	見込折松葉文	〃	5区 304号墓	58	122	
176	染付碗	口径：8.8　底径：3.6 器高：4.5	印判手	肥　前 18C前	5区 327号墓	58	122	
177	鉄製環頭釘	残長：3.4　環頭径：1.2	木質部残る		5区 311号墓	58	121	
178	鉄製環頭釘	残長：2.8　環頭径：1.2	木質部残る		5区 311号墓	58	121	
179	鉄製環頭釘	残長：4.0　環頭径：1.3	木質部残る		5区 354号墓	58		2本が1組となる
180	鉄製角釘	頭部：0.7×0.5　残長：3.0	断面略方形、縦方向の木質残存	B　類	5区 357号墓	58		先端折損
181	鉄製角釘	頭部：0.7×0.5　全長：4.3	断面略方形、直交方向で木質が残る	〃	5区 357号墓	58		
182	鉄製角釘	頭部：0.7×0.5　全長：4.6	断面略方形、直交方向で木質が残る、基部側の木質幅1.8cm	〃	5区 357号墓	58		

Tab. 4 遺　物　一　覧　表⑧

No.	名　称	法　　量（cm）	形　態　・　特　徴　な　ど	型　式	出土区・遺構	Fig・PL		備　　考
183	鉄製角釘	残長：5.0 頭径(略方形)：0.8×1.2	先端部に木質残る、L字形に曲る	A　類	5区 361号墓	58		
184	鉄製角釘	頭残長：2.1　体残長：3.3 頭径：0.7×1.2 略方形	基部に木質少し残る、L字形に曲る	〃	5区 360号墓	58		
185	煙管	全長：22.9 雁首長：6.0 径：1.1 火皿径：1.1 高：1.8 吸口長：6.7 径：1.0 端部：0.7	羅宇は竹製全長14.7cm、径0.85、吸口及び雁口に彫金細工		5区 360号墓	58	121	真鍮製
186	木製房飾か？	長径：3.5　短径：3.0 高さ：2.6　芯長：1.5 芯径：0.65　孔径：0.4	組合式で芯を差し込む		5区 360号墓	58	121	
187	鉛製飾金具	長径：3.3　短径：2.0 厚さ：0.1	裏に幅2㎜の取付金具付く、規矩文と青海波、連続山形文		5区 360号墓	58		
188	吊下金具	幅：2.1　高さ(環含む)1.5 環径：0.5	銅製、吊下げ環は下から挿入、体部に径0.15㎜の穿孔4個		5区 360号墓	58		使用は逆方向の可能性あり
189	染付碗	口径：10.9　底径：4.1 器高：5.8	外面山水文、見込銘有	肥　前 19C前	5区 360号墓	58	122	
190	土師器皿	口径：7.0　底径：5.1 器高：2.2	色調：くすんだ茶褐色、胎土：精良、焼成：良好、底部糸切		5区 362号墓	58		
191	煙管雁首	全長：5.4　火皿径：1.5 最大径：1.3　高さ：2.1	真鍮製、羅宇結合部鉄巻竹製羅宇残存、羅宇径0.8cm		5区 364号墓	58		
192	煙管吸口	全長：8.3　羅宇側径：1.2 吸口側径：1.0	真鍮製羅宇結合部鉄巻羅宇残存径0.8cm		5区 364号墓	58		192と対
193	横櫛	残長：2.3　残幅：2.1 厚　：0.3	小型ミニチュアか		5区 364号墓	58		
194	真鍮製金具	上の部材：6.3×0.7×0.3 下の部材：6.5×0.75×0.25 推定遊環径：1.4	何かと組み合わせて使用されると考えられるが木質などは残っていない		5区 364号墓	58	121	
195	木製房飾か？	長径推定：4.4　短径：3.6 高さ：2.6	芯長1.7、芯底径1.2、上径1.0 孔径0.6cm、乾燥していびつ		5区 364号墓	58	121	
196	鉄製環状金具	外径：2.3　環体幅：0.3強 環体厚：0.25	断面は楕円形、数珠の付属品か		5区 364号墓	58	121	
197	白磁紅皿	口径：4.2　底径：2.3 器高：2.05	菊花文、花弁が大きい	肥　前 18　C	5区 384号墓	58		
198	染付紅皿	口径：4.4　底径：2.1 器高：1.6	見込菊花文	肥　前 18　C	5区 384号墓	58		
199	鉄製金具	残長：4.8 幅：1.3 高さ：2.0	左から右に円状になっている方形孔2箇所あり、一方に固定のクサビあり		5区 393号墓	58		
200	鉄製金具	残高：3.7　残幅：4.1 厚さ：0.2	木質付着		5区 393号墓	58		
201	鉄製環頭釘	全長：4.0　環径：1.1	木質部一部残る		5区 393号墓	58		
202	煙管	残長：21.2 雁首長：5.7 径：1.1 高：2.6 火皿径：1.6 吸口残長：3.2 径：1.1	真鍮製、竹製羅守残存全長16.5、径0.85cm		5区 410号墓	58	121	雁首と羅宇の固定に稲穂の一部使用
203	煙管雁首	余長：4.7　最大径：1.0 高さ：1.65　火皿径：1.6	真鍮製、竹製羅宇残存径0.7径		5区 412号墓	58		
204	煙管吸口	全長：4.7　最大径：0.9 吸口径：0.5	真鍮製、竹製羅宇残存径0.7cm、203と対		5区 412号墓	58		
205	煙管雁首	余長：3.6　最大径：1.2 高さ：1.6　火皿径：1.0	真鍮製、竹製羅宇残存羅守結合部に7個の円文		5区 439号墓	58		
206	煙管吸首	全長：5.0　最大径：1.15 吸口径：0.8	真鍮製、竹製製羅宇残存径0.75cm、羅宇結合部に7個の円文		5区 439号墓	58		
207	煙管雁首	全長：4.1　最大径：0.75 高さ：1.3　火皿径：0.9	真鍮製、羅宇結合部は断面六角形、全体に金色、七度焼		2区 164号墓	58		羅宇残存、径0.6cm、208と対
208	煙管吸口	残長：5.7　径　：0.75	真鍮製、羅宇結合部は断面六角形、全体に金色、七度焼		2区 164号墓	58		羅宇残存、径0.6cm、吸口端部折損

Tab. 4　遺　物　一　覧　表⑨

No.	名　称	法　量（cm）	形態・特徴など	型　式	出土区・遺構	Fig・PL		備　考
209	土師器 皿	口径:10.5　底径: 6.7 器高: 1.3	色調：暗茶褐色、胎土：精良、焼成：良好 底部糸切		5区 376号墓	58	122	
210	土師器 皿	口径: 9.4　底径: 6.5 器高: 1.9	色調：明茶褐色、胎土：精良、焼成：良好 底部糸切		5区 376号墓	58		
211	土師器 皿	口径: 8.5　底径: 6.1 器高: 1.3	色調：淡茶灰色、胎土：2～4㎜の石英・長石粒含む、焼成：不良、底部ヘラ切りか		5区 383号墓	58	122	
212	土師器 皿	口径: 8.2　底径: 6.3 器高: 1.1	色調：明茶褐色、胎土：精良、焼成：良好 底部糸切		5区 418号墓	58		
213	土師器 皿	口径: 7.3　底径: 5.8 器高: 1.2	色調：暗茶褐色、胎土：精良、焼成：やや不良、底部糸切の後板状圧痕		5区 429号墓	58		
214	土師器 皿	口径: 6.6　底径: 4.6 器高: 1.0	色調：暗茶褐色、胎土：精良、焼成：やや不良、底部糸切		5区 429号墓	58		
215	土師器 皿	口径: 7.7　底径: 5.6 器高: 1.1	色調：茶褐色、胎土：精良、焼成：良好 底部糸切か		5区 437号墓	58		
216	土師器 皿	口径: 6.0　底径: 2.3 器高: 1.5	色調：茶褐色、胎土：精良、焼成：良好、 底部糸切		5区 437号墓	58		
217	甕棺、蓋 板	現在長:39.9　厚さ: 1.5 復元径: 4.8	板目材、甕の内口径にピッタリ合うよう整形されている		5区 406号墓	58		
218	陶器灯明 皿	口径: 8.0　底径: 3.9 器高: 2.35	色調：茶褐色、胎土：やや粗い、焼成：良好、底部露胎、糸切	高取系か	5区 454号墓	59	122	
219	陶器灯明 皿	上皿径: 5.8　下皿径: 8.6 底径: 4.7　器高: 3.4	色調：暗茶褐色、胎土：精良、焼成：良好、内面露胎	18C高取系か	5区 454号墓	59	122	
220	染付紅皿	口径: 5.9　底径: 3.0 器高: 3.3	外面笹ノ葉	肥前 18C後	5区 454号墓	59	122	
221	櫛	全長: 4.1　高さ: 2.8 厚　: 0.065	鼈甲製、非常に薄いのでミニチュアか、飾櫛か		5区 454号墓	59		
222	白磁紅皿	口径: 4.5　底径: 1.4 器高: 1.6	見肋状文	肥前 19C前	5区 475号墓	59		
223	土師器 皿	口径: 8.2　底径: 7.6 器高: 1.5	色調:淡茶褐色、胎土:0.5～4㎜の石英・長石粒を僅かに含む、焼成：良好、底部糸切		5区 485号墓	59		
224	土師器 皿	口径:不明　底径: 6.0 残高: 0.6	色調：茶褐色、胎土：精良、焼成：良好 底部糸切		5区 485号墓	59		
225	煙管雁首	全長: 4.9　最大径: 1.3 火皿径: 1.1　高さ: 1.6	真鍮製、羅宇結合部鉄巻、竹製羅宇残存、径0.8cm		5区 495号墓	59		
226	煙管吸口	全長: 8.5　最大径: 1.3	真鍮製、羅宇結合部鉄巻なし、竹製羅宇残存、径0.8cm		5区 495号墓	59		225と対
227	土師器 皿	口径: 9.6　底径: 6.6 器高: 1.7	色調：茶褐色、胎土：精良、焼成：良好 底部糸切		5区 504号墓	59		
228	土師器 皿	口径: 9.5　底径: 7.6 器高: 1.4	色調：淡茶褐色、胎土：精良、焼成：良好 底部糸切		5区 504号墓	59	122	
229	染付紅皿	口径: 4.9　底径: 2.6 器高: 1.6	内面菊花型押、見込呉須	肥前 17C後	5区 525号墓	59		
230	鉄製角釘	頭径:0.85～0.95 残長: 4.7	直交する木質が残る、基部側の幅2.3cm	B　類	5区 506号墓	59		
231	鉄製角釘	頭径:0.8×0.5　残長: 4.4	直交する木質が残る。基部側の幅2.1cm	〃	5区 506号墓	59		
232	鉄製角釘	頭径:0.75×0.6　残長: 4.0	直交する木質が残る。基部側の幅1.1cm	〃	5区 506号墓	59		
233	鉄製角釘	頭径:0.8×0.45　残長: 3.6	直交する木質が残る。基部側の幅1.1cm	〃	5区 506号墓	59		
234	鉄製角釘	全長: 3.1	木目直交、基部側1.5cm、切釘	C　類	5区 509号墓	59		

Tab. 4 遺　物　一　覧　表⑩

No.	名称	法量(cm)	形態・特徴など	型式	出土区・遺構	Fig・PL		備考
235	鉄製角釘	残長: 3.0	木目直交、基部側の木質厚1.5cm、切釘		5区 509号墓	59		
236	鉄製角釘	全長: 3.0	木目直交、基部側の木質厚1.5cm、切釘		5区 509号墓	59		
237	鉄製角釘	残長: 1.7	木質残存、切釘か		5区 509号墓	59		
238	土師器皿	口径: 6.4 底径: 3.6 器高: 1.5	色調:茶褐色、胎土:精良、焼成:良好 底部糸切		5区 560号墓	59		
239	白磁盃	口径: 8.1 底径: 3.5 器高: 3.5		肥前19C後	5区 560号墓	59		
240	染付碗	口径:10.0 底径: 4.0 器高: 5.8	型紙摺、網目に亀、内面宝輪繋文、見込円文あり	肥前19 C	5区 560号墓	59		内底面ハリの痕跡5個
241	土師器皿	口径: 7.5 底径: 5.5 器高: 1.3	色調:明茶褐色、胎土:石英・長石粒を含む、焼成:良好、底部糸切		5区 548号墓	59	122	
242	土師器皿	口径: 8.8 底径: 6.0 器高: 1.2	色調:淡茶褐色、胎土:精良、焼成:良好 底部糸切		5区 557号墓	59		
243	陶器灯明皿	口径: 7.4 底径: 4.4 器高: 1.9	色調:茶灰色、胎土:精良、焼成:良好 外面露胎		5区 557号墓	59		
244	土師器皿	口径: 7.5 底径: 5.8 器高: 1.4	色調:明茶褐色、胎土:1mm以下の石英・長石粒含む、焼成:良好、底部糸切、灯明皿に使用か		5区 567号墓	59	122	口縁部一部黒変
245	土師器皿	口径: 7.9 底径: 6.0 器高: 1.1	色調:明茶褐色、胎土:精良、焼成:良好、底部糸切		5区 567号墓	59	122	
246	土師器皿	口径: 7.0 底径: 4.9 器高: 1.5	色調:明茶褐色、胎土:精良、焼成:良好、底部糸切		5区 567号墓	59	122	
247	染付器皿	口径: 5.45 底径: 1.7 器高: 3.0	草花文	肥前18 C	5区 567号墓	59	122	
248	染錦大皿	口径:46.0 底径:24.2 器高: 6.6	花蝶文、花唐草文、底部針支え、角銘あり	肥前17C後	5区 447号墓	59	122	
249	染付大皿	口径:30.4 底径:17.5 器高: 6.0	輪花状口縁、松鶴文、墨弾技法、底部針支え	肥前17C後	5区 457号墓	59	122	
250	六道銭	6枚	永楽通宝1、乾隆通宝1、文銭1、新寛永3		2区 154号墓		121	
251	数珠一式		Tab. 6 数珠玉計測一覧表参照		2区 186号墓		121	
252	鳩笛	全長: 7.75 幅 : 3.9 高さ: 4.5	淡黄緑色薄い透明釉		2区 253号墓		122	同様なものがもう1個出土
253								
254								
255								
256								
257								
258								
259								
260								

※陶磁器については佐賀県立九州陶磁資料館 大橋康二氏の業績を参考にした。

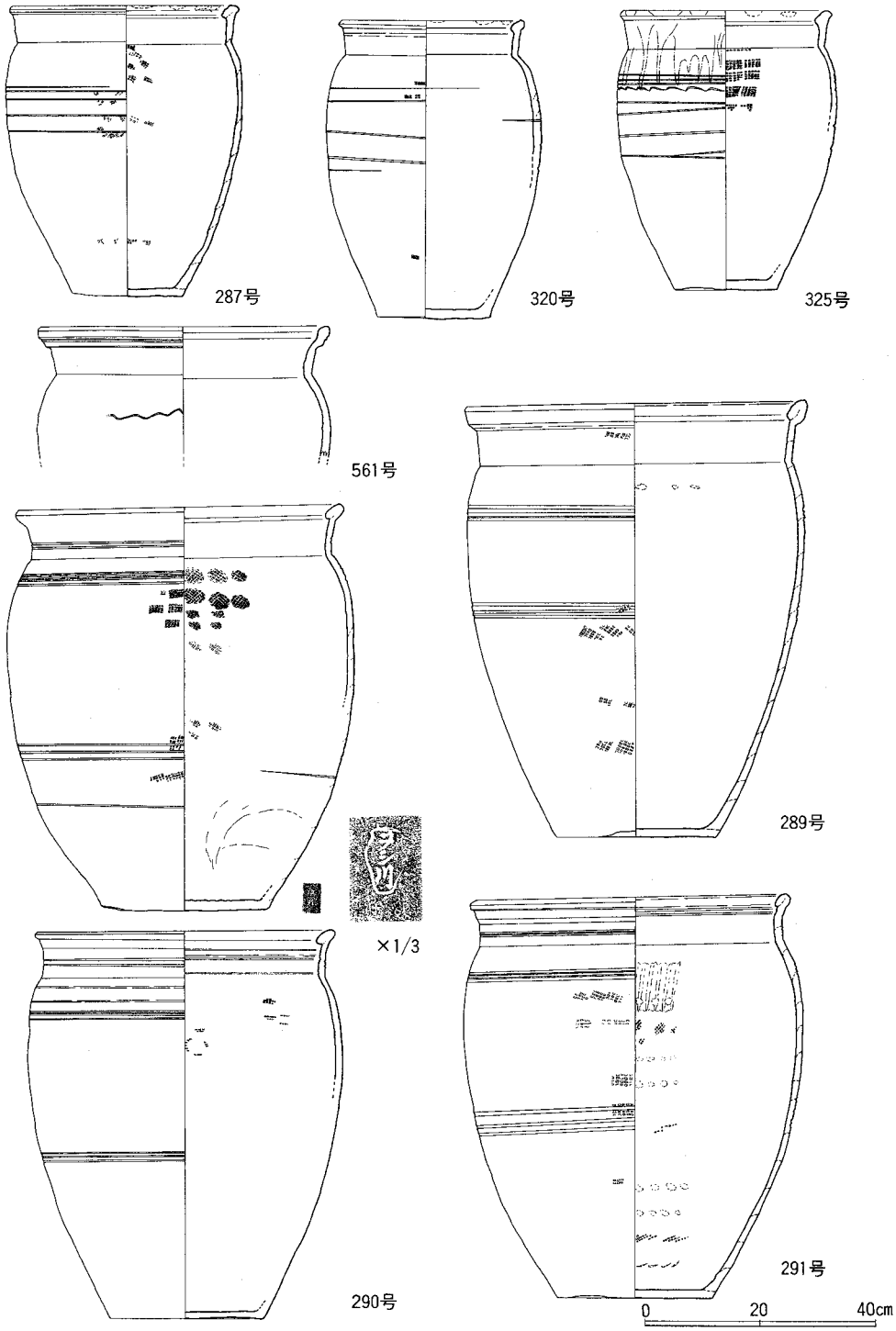


Fig. 60　近世墓甕棺実測図(1)（1/12）

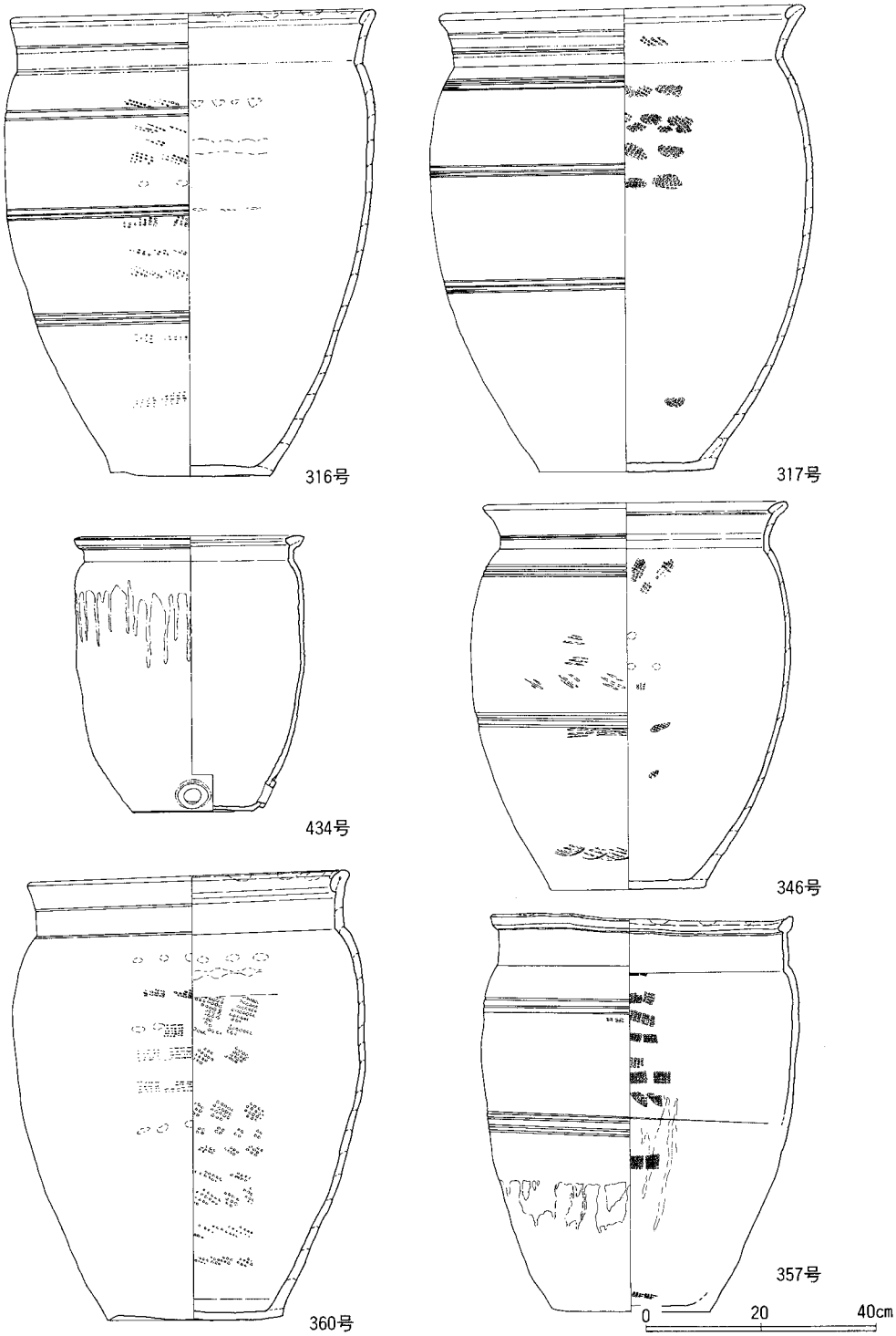


Fig. 61　近世墓甕棺実測図(2)（1/12）

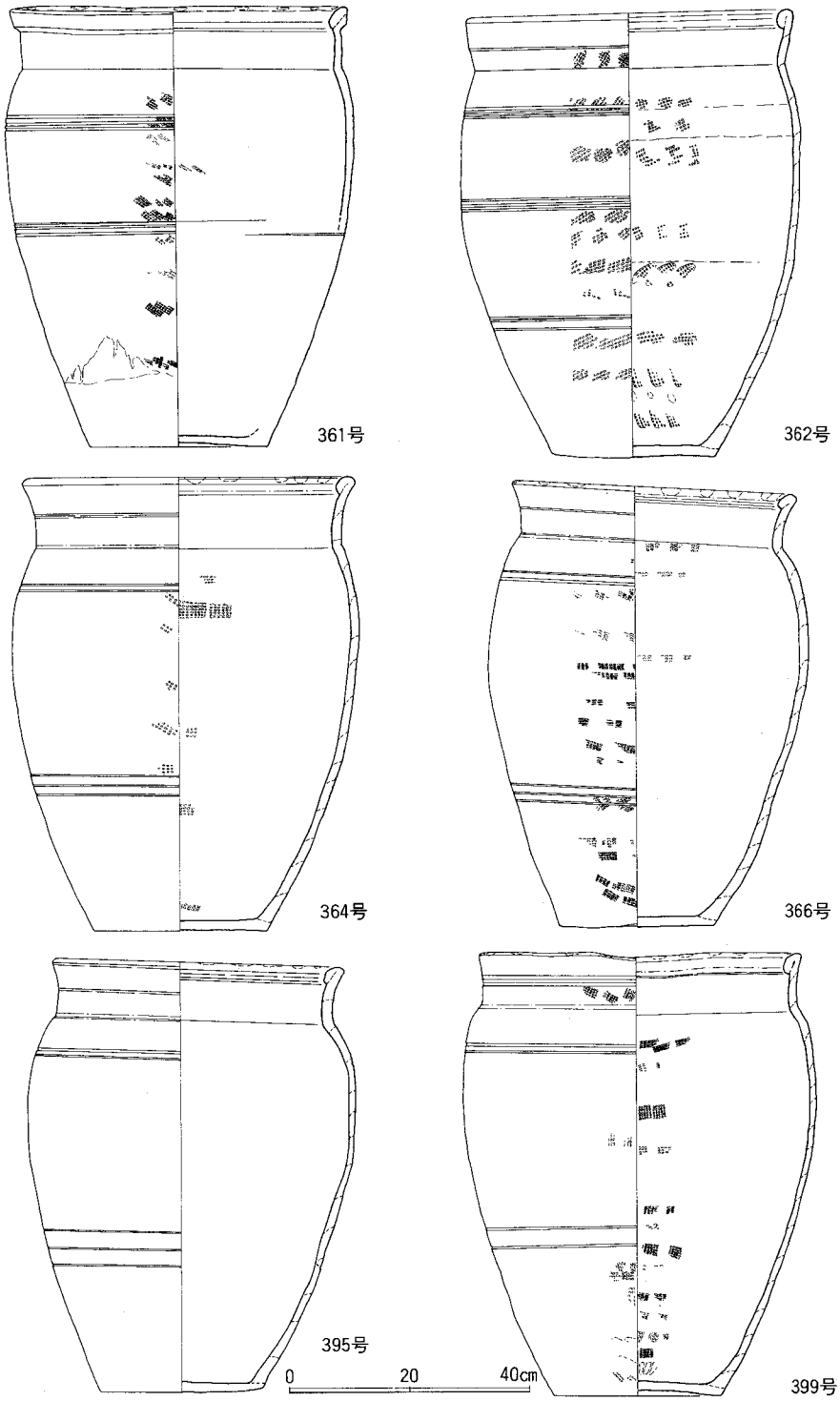


Fig. 62　近世墓甕棺実測図(3)（1/12）

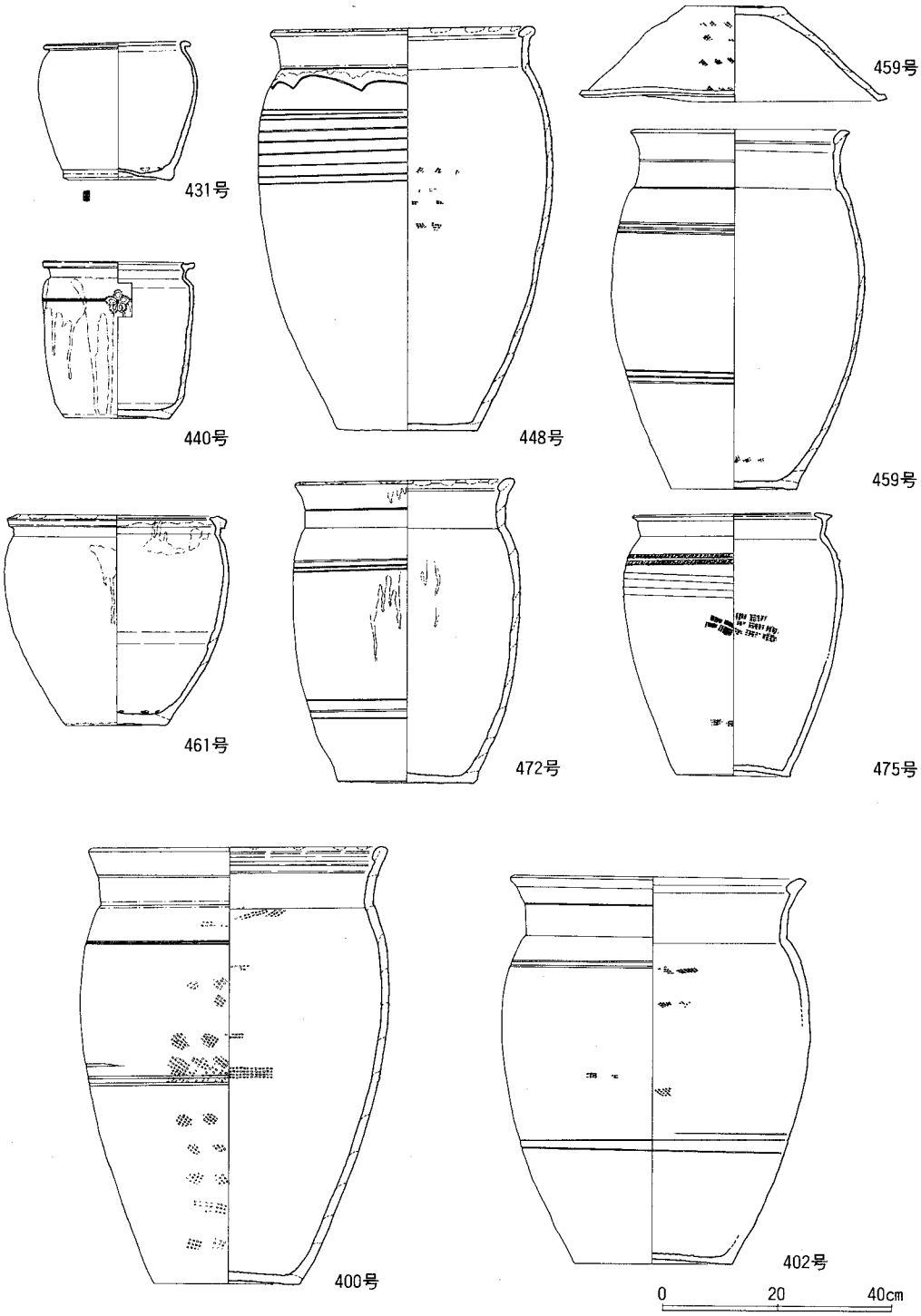


Fig. 63　近世墓甕棺実測図(4)（1/12）

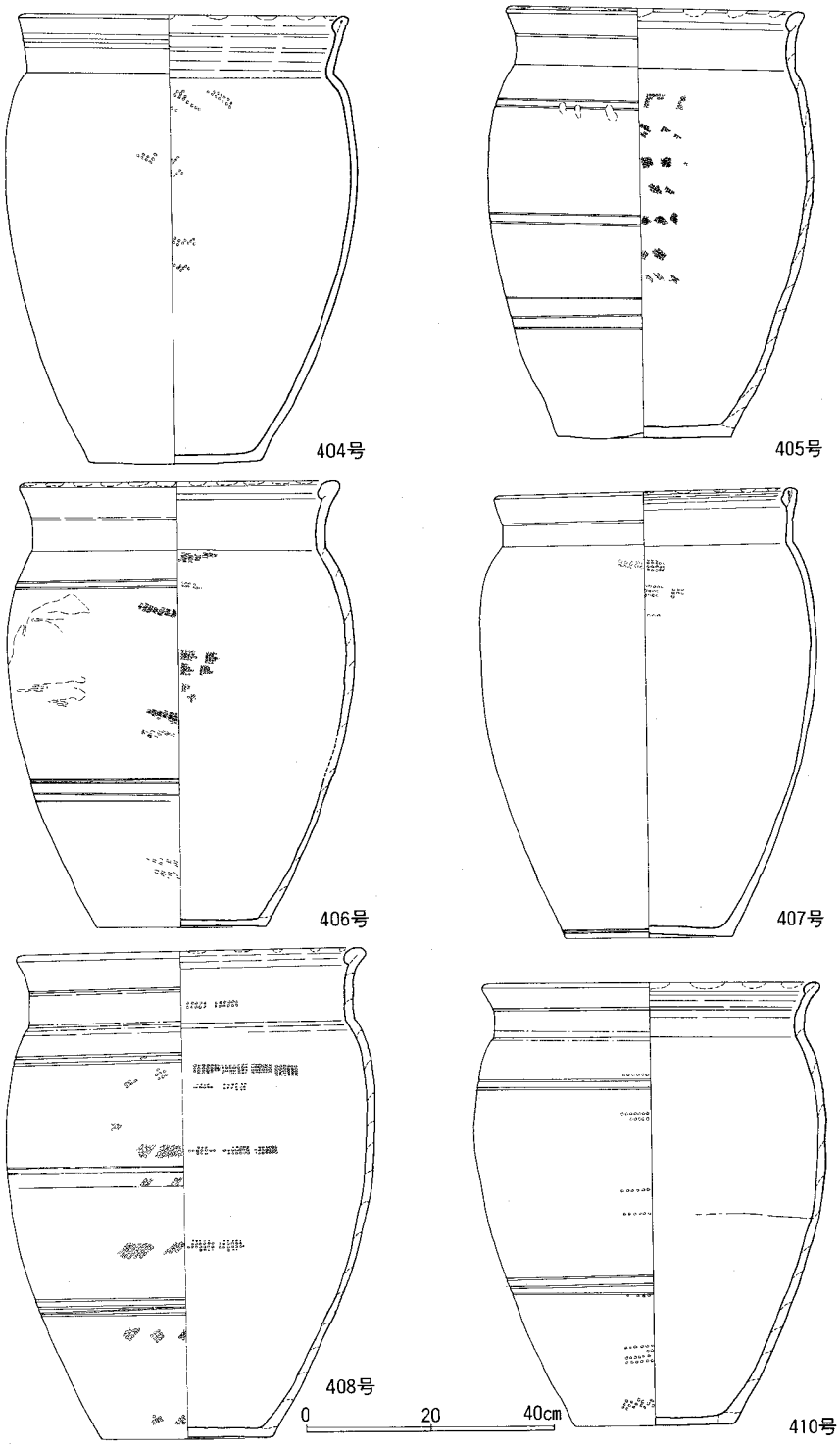


Fig. 64　近世墓甕棺実測図(5)（1/12）

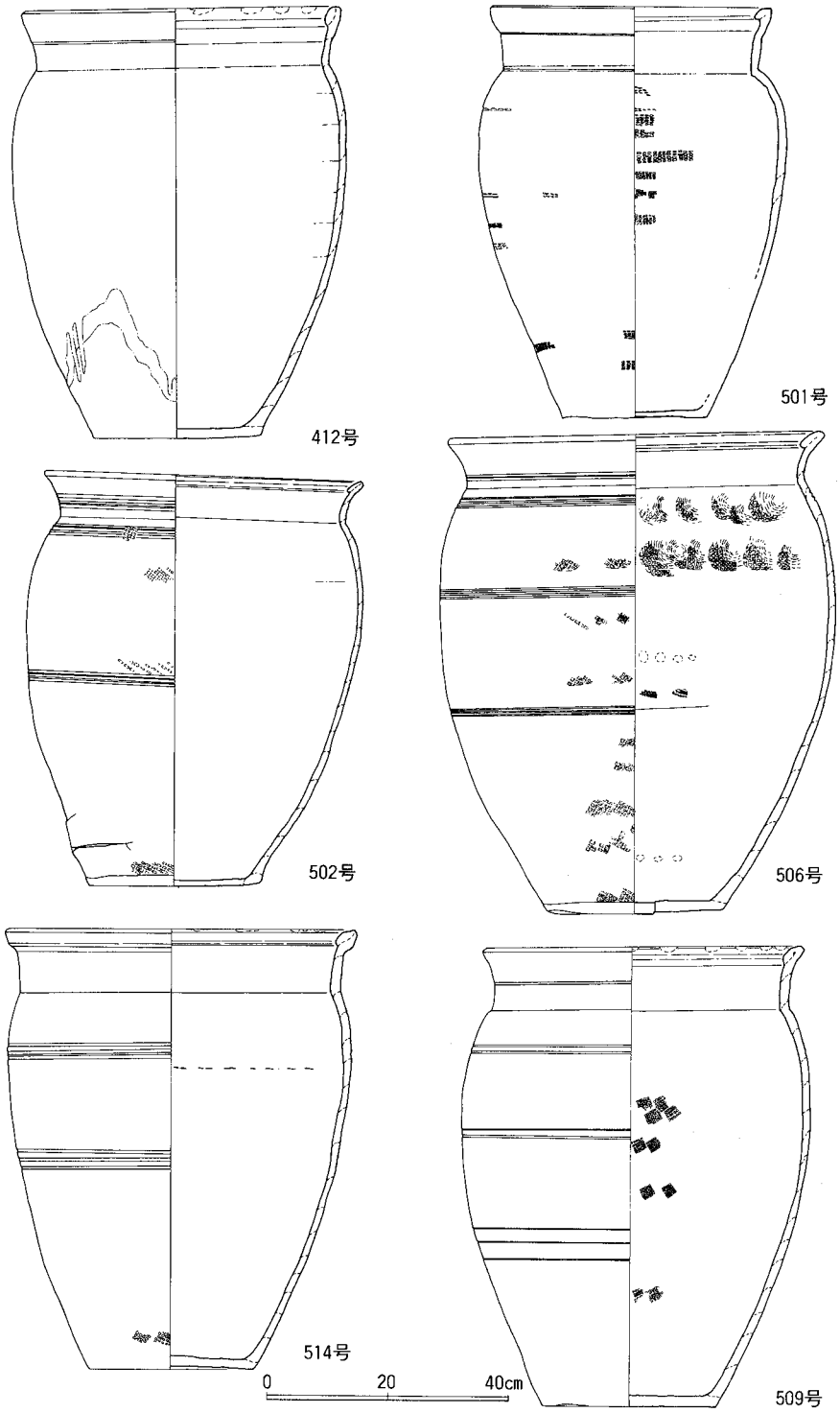


Fig. 65　近世墓甕棺実測図(6)（1/12）

Tab. 5 近世墓甕棺一覧表①

号数	法量（cm）						釉色調	沈線など	調整・特徴など	胎土	焼成	Fig	PL	備考
	口径	頸径	胴径	底径	頸長	器高								
271	53.3〜56.1	51.5	59.1	28.0〜28.6	9.0	69.9〜71.0	明茶褐色	頸部2本 胴上部4本 胴下螺旋状沈線3段＋1本	内外面とも格子叩き後ナデ	精良	良好	60	128	内面釉薬螺旋状塗り口縁内面露胎、外底面3箇所窪む
287	39.6	37.2	40.5	19.3	6.5	50.4	くすんだ淡茶褐色	胴上螺旋状沈線4段＋1本	格子叩き後ナデ 外面粗いカキ目	〃	〃	60	128	口縁内面露胎、口縁に目跡、外底面4箇所窪む
289	54.0〜58.4	53.6	57.9	27.2	11.0	76.5	暗茶褐色やや緑色味	胴上3本 胴中央3本	格子叩き後ナデ	〃	〃	60	128	外底面3箇所窪む
290	51.8	49.2	54.5	26.0	8.5	67.8	茶褐色	頸部2本 胴上5本 胴中央3本	格子叩き後ナデ		〃	60	128	頸部内面に沈線4本あり「ヲシ川」刻印
291	47.8〜55.2	52.5	58.5	26.4	8.3	69.6〜70.9	暗茶褐色	頸部2本 胴上3本 胴中央3本	格子叩き後ナデ 外面下半カキ目	精良	〃	60	128	内面釉薬螺旋状塗り口縁に目跡、外底面3箇所窪む
316	44.8〜62.8	59.4	63.5	27.4	9.5	80.9〜82.2	くすんだ暗茶褐色	胴上2本 胴中央3本 胴下3本	格子叩き後ナデ	〃	〃	61	128	口縁及び頸部の一部露胎、外底面3箇所窪む
317	63.0〜64.0	57.2	66.2	29.5〜30.0	9.9	80.6〜82.0	茶褐色〜暗茶褐色	頸部3本 胴上2本＋螺旋状沈線2段、胴中央、胴下と同じ	格子叩き後ナデ 粗いカキ目	〃	〃	61	128	内面釉薬螺旋状塗り外底面3箇所窪む
320	30.8	30.0	37.2	19.7	6.1	50.8	暗茶褐色	胴上螺旋状沈線3段、胴中央螺旋状沈線3段	格子叩き後ナデ		〃	60	128	口縁露胎、目跡あり外底面3箇所窪む
325	36.4	33.7	37.7	17.6	6.2	48.7	暗茶褐色	胴上3本＋波状沈線1本＋螺旋状沈線2段、胴中央螺旋状沈線3段	格子叩き後ナデ		〃	60	128	口縁目跡あり 外底面3箇所窪む
346	52.2〜56以上	46.3	55.0	26.2〜26.6	8.4	67.7〜68.0	灰緑味を帯びた褐色	頸部2本 胴上3本 胴中央3本	格子叩き後ナデ	精良	〃	61	128	外底面3箇所窪む
357	47.7〜51.8	50.0	54.6	27.3	8.6	68.5〜70.3	茶灰色〜茶褐色	胴上螺旋状沈線3段、胴中央螺旋状沈線4段	格子叩き後ナデ		〃	61	128	口縁部露胎、日跡15個外底面3箇所窪む
360	46.8〜55.4	53.2	60.6	30.0	10.0	79.0	くすんだ暗茶褐色		格子叩き後ナデ	精良	〃	61	128	口縁部露胎、日跡あり、外底面4箇所窪む
361	51.0〜55.5	52.3	57.0	29.2	10.0	73.1〜74.3	くすんだ茶褐色	胴上3本 胴中央螺旋状3段	格子叩き後ナデ		〃	62	129	胴下半釉かけ残し口縁部目跡17個あり
362	47.5〜54.0	51.5	56.4	27.0〜27.5	9.1	74.0〜75.0	くすんだ暗茶褐色	胴上3本 胴中央3本 胴下螺旋状3段	格子叩き後ナデ	2〜3㎜大の赤色粒子含む	やや不良	62	129	口縁部露胎 外底面3箇所窪む
364	51.0〜54.5	50.4	57.0	28.3〜28.5	11.6	76.0〜76.2	光沢ある黄褐色	胴上2本 胴下3本	格子叩き後ナデ 外面カキ目	精良	良好	62	129	口縁と頸部の一部露胎日跡あり、外底面施釉横にして釉がけ
366	47.4	43.5	53.1	25.4	9.0	72.6〜75.1	光沢ある暗茶灰色	胴上2本 胴下3本	格子叩き後ナデ 外面カキ目	やや粗い	〃	62	129	口縁及び頸部の一部露胎目跡あり、底面3箇所窪む
395	44.4〜48.2	46.0	54.0	26.4〜26.8	9.5	71.3〜73.0	くすんだ暗茶褐色	胴上2本 胴下3本	格子叩き後ナデ 外面カキ目	精良	〃	62	129	口縁及び頸部の一部露胎目跡あり
399	44.8〜52.9	52.0	58.0	27.4	8.7	73.5〜74.6	光沢ある暗茶灰色	頸部2本 胴上2本 胴下2本	格子叩き後ナデ 外面粗いカキ目	〃	〃	62	129	口縁及び頸部の一部露胎目跡あり
400	48.5〜50.6	47.2	53.2	25.4	10.5	77.0〜77.5	暗茶褐色	胴上2本、胴中央螺旋状沈線3段	格子叩き後ナデ 外面カキ目	〃	〃	63	129	口縁及び頸部の一部露胎目跡あり、焼成前ヒビ補修
402	51.3	45.5	53.6	27.3	11.0	68.4〜68.9	光沢ある明黄茶褐色	胴上2本 胴下螺旋状3段	格子叩き後ナデ		〃	63	129	口縁部露胎
404	50.4〜53.0	49.5	56.5	27.6	9.5	73.0〜74.1	くすんだ暗褐色	頸部2本	格子叩き後ナデ 内底面叩き後ナデ	精良	〃	64	129	口縁に目跡あり横にねかせて施釉
405	47.9	45.4	52.4	27.7	9.5	69.5〜71.0	茶褐色	胴上2本 胴中央2本 胴下3本	格子叩き後ナデ 外面粗いカキ目	やや粗い	〃	64	129	口縁に日跡あり、外底面3箇所窪む焼成前ヒビ補修

Tab. 5 近世墓甕棺一覧表②

号数	法量（cm）						釉色調	沈線など	調整・特徴など	胎土	焼成	Fig	PL	備考
	口径	頸径	胴径	底径	頸長	器高								
406	51.0	47.1	55.5	27.0	11.0	72.6	茶褐色	胴上2本 胴下螺旋状4段	格子叩き後ナデ		良好	64	129	口縁露胎、目跡22個横方向に釉ダレ
407	45.0 〜 48.5	46.7	53.7	26.6	9.0	72.5 〜 73.3	光沢ある暗茶褐色	底部付近に螺旋状細沈線3段	格子叩き後ナデ 内面上半カキ目	赤色粒子混入	〃	64	130	口縁に目跡、外底面に釉がかかる
408	55.0 〜 55.8	52.3	59.1	27.6 〜 28.0	11.5	79.5 〜 80.0	光沢ある黄褐色	胴上2本 胴中央螺旋状3段 胴下4段	格子叩き後ナデ 外面上半カキ目	精良	〃	64	130	口縁及び頸部の一部露胎目跡あり、外底面3箇所窪む
410	50.3 〜 54.6	50.2	56.5	25.8	8.8	72.4 〜 72.8	灰緑色	胴上2本 胴下3本	格子叩き後ナデ	精良	良好	64	130	頸部露胎、口縁部目跡あり
412	47.3 〜 52.0	47.9	54.4	27.5	9.6	71.4 〜 72.2	くすんだ茶褐色		格子叩き後ナデ 内面カキ目	石英・長石粒少し含む	やや不良	65	130	口縁に目跡、胴下半に釉かけ残しあり
431	25.3	23.1	27.1	18.7		24.0 〜 24.5	光沢ある茶褐色		内外面ヨコナデ 外底面ヘラケズリ	精良	良好	63		底面に今の刻印あり
434	39.6	36.0	39.3	20.8		48.5	灰緑色に濃茶青灰灰白色の三色		回転ナデ 注口付	〃	〃	61	128	三色の釉は流しがけ
440	26.1	23.5	26.0	17.8		27.7	灰緑色に濃茶青灰灰白色の三色	胴上に2本 花弁の貼付文	回転ナデ 内底部に同心円叩き	〃	〃	63	129	三色の釉は流しがけ
448	45.4	43.0	50.8	24.2	7.0	70.8 〜 71.5	くすんだ暗茶褐色	頸部1本 胴上半波状1本 螺旋状9段	格子叩き後ナデ	〃	〃	63	130	頸部の一部露胎、口縁に目跡あり
459 −1	53.4			17.0		15.9 〜 16.9	光沢ある暗茶褐色		格子叩き後ナデ 外面粗いカキ目	〃	〃	63	129	
459 −2	38.6	37.4	44.5	22.0	10.2	62.6	光沢ある茶褐色	頸部1本 胴上3本 胴下3本	格子叩き後ナデ 外面粗いカキ目	〃	〃	63	129	外底面施釉の後周縁を掻き取る
461	38.1	35.8	38.7	17.4		38.1	光沢ある黒茶色		回転ナデ	3〜4㎜の石英粒含む	やや不良	63	129	口縁釉掻き取り、露胎、外底露胎、内底に胎土目あり
472	38.3	35.0	39.3	24.0	8.2	53.0 〜 53.8	光沢ある暗茶褐色	頸部1本 胴上3本 胴下3本	格子叩き後ナデ	精良	良好	63	129	口縁部に目跡12個外底部4箇所窪む
475	35.0	32.6	38.5	19.8		45.5 〜 45.9	暗茶褐色	胴上刻目突帯2条 螺旋状沈線4段	格子叩き後ナデ	〃	〃	63		口縁上面露胎、底面窪み底
501	45.7	41.6	50.1	23.3	10.3	68.3 〜 68.7	茶褐色		格子叩き後ナデ		〃	65	130	頸部の一部露胎、外底部3箇所窪む口縁部肥厚
502	52.0 〜 53以上	46.6	54.8	27.0 〜 28.0	7.5	67.8 〜 69.3	暗紫褐色	頸部3本 胴上3本 胴中3本	格子叩き後ナデ	精良	〃	65	130	口縁部焼成前の補修痕あり、底部付近ケズリを施す
506	58.3 〜 61.6	55.5	64.5	28.4	8.6	79.2 〜 80.7	暗茶褐色	頸部2本 胴上3本 胴中3本 胴下3本	格子叩き後ナデ 外面粗いカキ目	〃	〃	65	130	内面は当具の年輪が残る外底面3箇所窪む
509	48.8 〜 52.8	49.2	57.3	28.2	9.2	76.5 〜 77.2	茶褐色	頸部1本 胴上2本 胴中2本 胴下3本	格子叩き後ナデ	〃	〃	65		口縁の一部露胎、目跡あり、外底面3箇所窪む
514	53.8 〜 57.0	52.2	56.1	26.0 〜 27.0	10.5	73.5 〜 73.7	暗灰緑色	胴上3本 胴中3本	格子叩き後ナデ 外面カキ目	〃	〃	65	130	口縁部に目跡あり
561	50.0 復元	43.9	50.4		8.5	残高 23.0	光沢ある茶褐色	口縁2本 胴上波状沈線1本	内横ナデ 外カキ目	3〜5㎜石英粒含む	〃	60		口縁肥厚、備前類似か釉に細黒斑が点在

Tab. 6 数珠玉計測一覧表①

号数	法量（径×厚㎜）	形態・特徴など	種類	材質	色調	備考
3－1	6.0, 4.0	扁円	成珠？	木	黒	鉄に銹着
2	6.0, 4.0	扁円	〃	〃	〃	〃
3	5.5, 4.0	扁円，破損	〃	〃	〃	〃
5－1	9.0, 5.0	円？両端破損	母珠？	木	茶	
7						現場で確認
9						〃
11－1	4.4, 3.8	楕円	成珠	ガラス	乳白色	鉄に銹着
2	3.8, 2.8	〃	〃	〃	黄緑	〃
27－1	6.2, 5.8	円	母珠	水晶	透明	
2	6.0, 5.4	〃	〃	〃	〃	
3	7.9, 7.8	〃	成珠	木	黒	
4	7.9, 8.0	〃	〃	〃	〃	
5	8.3, 7.9	〃	〃	〃	〃	
6	7.9, 6.6	楕円	〃	〃	〃	
7	5.8, 6.2	破損	〃	〃	〃	
8	6.4, 6.4	〃	〃	〃	〃	
9	7.4, 6.4	〃	〃	〃	〃	
10	6.4, 6.9	〃	〃	〃	〃	他破片26
48－1	6.5, 4.8	楕円	成珠？	ガラス	乳白色	
49－1	7.2, 6.0	〃	母珠	〃	〃	
2	5.8, 4.9	〃	四天珠？	〃	〃	
3	5.5, 4.6	〃	〃	〃	〃	
4	5.5, 3.5	〃	成珠	〃	エメラルドグリーン	
5	5.4, 3.5	〃	〃	〃	〃	
6	5.4, 3.2	〃	〃	〃	〃	
7	5.0, 3.6	〃	〃	〃	〃	
8	5.2, 2.8	〃	〃	〃	うす紫	
9	4.7, 3.3	〃	〃	〃	〃	
79－1	8.9, 2.4	扁平	母珠？	木	褐色	乾燥
2	7.0, 1.4	〃	成珠	〃	〃	〃
3	6.3, 1.4	〃	〃	〃	〃	〃
4	6.3, 1.4	〃	〃	〃	〃	〃
5	5.5, 1.4	〃	〃	〃	〃	〃
90－1	4.8, 3.7	楕円	成珠	ガラス	透明	
2	4.8, 3.7	〃	〃	〃	〃	
3	5.3, 3.7	〃	〃	〃	〃	
4	4.7, 3.7	〃	〃	〃	乳白色	
5	4.6, 5.0	水滴形	記子留？	〃	透明	
104－1	8.3, 6.2	楕円	母珠？	〃	褐色	
116－1	5.9, 4.6	〃	〃	〃	〃	
2	6.0, 4.4	〃	〃	〃	〃	
3	4.1, 2.5	〃	四天珠？	〃	〃	
4	4.1, 2.4	〃	〃？	〃	〃	
5	4.0, 3.5	〃	〃	〃	〃	
6	4.4, 2.2	〃	成珠	〃	〃	
116－7	4.3, 3.3	楕円	四天珠？	ガラス	褐色	
8	3.9, 2.0	〃	成珠	〃	〃	
9	4.7, 3.4	〃	〃	〃	白色半透明	
10	4.6, 3.0	〃	〃	〃	〃	
11	4.5, 2.6	〃	〃	〃	〃	
12	4.5, 2.6	〃	〃	〃	〃	
13	4.6, 3.0	〃	〃	〃	〃	
14	4.7, 3.2	〃	〃	〃	〃	
15	4.4, 3.0	〃	〃	〃	〃	
16	4.5, 3.5	〃	〃	〃	〃	
17	4.3, 2.3	〃	〃	〃	〃	
18	4.6, 2.8	〃	〃	〃	〃	
19	4.8, 2.7	〃	〃	〃	〃	
20	4.7, 3.0	〃	〃	〃	〃	
21	4.6, 2.7	〃	〃	〃	〃	
22	4.7, 2.7	〃	〃	〃	〃	
23	4.6, 3.1	〃	〃	〃	〃	
24	4.4, 2.6	〃	〃	〃	〃	
25	4.7, 3.0	〃	〃	〃	〃	
26	4.7, 2.4	〃	〃	〃	〃	
27	4.7, 3.0	〃	〃	〃	〃	
28	4.7, 2.9	〃	〃	〃	〃	
29	4.7, 3.0	〃	〃	〃	〃	
30	4.8, 3.0	〃	〃	〃	〃	
31	4.6, 3.9	〃	〃	〃	〃	
32	4.3, 2.9	〃	〃	〃	〃	
33	4.7, 2.8	〃	〃	〃	〃	
34	4.8, 3.0	〃	〃	〃	〃	
35	4.3, 3.0	〃	〃	〃	〃	
36	4.4, 2.8	〃	〃	〃	〃	
37	4.6, 3.1	〃	〃	〃	〃	
38	4.7, 2.7	〃	〃	〃	〃	
39	4.8, 2.8	〃	〃	〃	〃	
40	4.5, 2.7	〃	〃	〃	〃	
41	4.6, 3.2	〃	〃	〃	〃	
42	4.6, 3.2	〃	〃	〃	〃	
43	4.6, 3.2	〃	〃	〃	〃	
44	4.8, 3.4	〃	〃	〃	〃	
45	4.5, 2.7	〃	〃	〃	〃	
46	4.4, 3.0	〃	〃	〃	〃	
47	4.4, 3.1	〃	〃	〃	〃	
48	4.6, 3.3	〃	〃	〃	〃	
49	4.6, 3.0	〃	〃	〃	〃	
50	4.6, 2.9	〃	〃	〃	〃	
51	4.7, 3.6	〃	〃	〃	〃	

Tab. 6 数珠玉計測一覧表②

号数	法量（径×厚mm）	形態・特徴など	種類	材質	色調	備考
116－ 52	4.8, 4.0	楕円	成珠	ガラス	白色半透明	
53	5.0, 3.0	〃	〃	〃	〃	
54	4.8, 3.1	〃	〃	〃	〃	
55	4.6, 3.1	〃	〃	〃	〃	
56	4.5, 3.1	〃	〃	〃	〃	
57	4.6, 3.1	〃	〃	〃	〃	
58	4.5, 3.0	〃	〃	〃	〃	
59	4.5, 2.9	〃	〃	〃	〃	
60	4.5, 2.7	〃	〃	〃	〃	
61	4.5, 3.2	〃	〃	〃	〃	
62	4.8, 4.5	〃	〃	〃	〃	
63	4.6, 2.8	〃	〃	〃	〃	
64	4.5, 3.1	〃	〃	〃	〃	
65	4.6, 2.7	〃	〃	〃	〃	
66	4.6, 2.9	〃	〃	〃	〃	
67	4.5, 2.5	〃	〃	〃	〃	
68	4.4, 3.1	〃	〃	〃	〃	
69	4.6, 3.3	〃	〃	〃	〃	
70	4.1, 3.5	〃	〃	〃	〃	
71	4.1, 3.0	〃	〃	〃	〃	
72	4.6, 3.0	〃	〃	〃	〃	
73	4.5, 3.2	〃	〃	〃	〃	
74	4.0, 2.9	〃	〃	〃	〃	
75	4.5, 3.1	〃	〃	〃	〃	
76	4.2, 2.5	〃	〃	〃	〃	
77	4.2, 2.5	〃	〃	〃	〃	
78	4.6, 3.2	〃	〃	〃	〃	
79	4.5, 2.9	〃	〃	〃	〃	
80	4.7, 2.9	〃	〃	〃	〃	
81	4.6, 2.9	〃	〃	〃	〃	
82	4.6, 2.7	〃	〃	〃	〃	
83	4.6, 3.0	〃	〃	〃	〃	
84	4.4, 3.1	〃	〃	〃	〃	
85	4.2, 3.0	〃	〃	〃	〃	
86	4.4, 2.5	〃	〃	〃	〃	
87	4.4, 3.3	〃	〃	〃	〃	
88	4.4, 3.0	〃	〃	〃	〃	
89	4.5, 3.1	〃	〃	〃	〃	
90	4.5, 3.0	〃	〃	〃	〃	
91	4.1, 3.1	〃	〃	〃	〃	
92	4.5, 2.8	〃	〃	〃	〃	
93	4.7, 2.7	〃	〃	〃	〃	
94	4.5, 3.0	〃	〃	〃	〃	
95	4.5, 3.1	〃	〃	〃	〃	
96	4.5, 3.0	〃	〃	〃	〃	
116－ 97	4.4, 3.4	楕円	成珠	ガラス	白色半透明	
98	4.5, 3.1	〃	〃	〃	〃	
99	4.5, 2.6	〃	〃	〃	〃	
100	4.4, 3.3	〃	〃	〃	〃	
101	4.3, 2.7	〃	〃	〃	〃	
102	4.4, 2.9	〃	〃	〃	〃	
103	4.6, 3.1	〃	〃	〃	〃	
104	4.1, 3.3	〃	〃	〃	〃	
105	4.1, 3.0	〃	〃	〃	〃	
106	4.5, 2.9	〃	〃	〃	〃	
107	4.5, 2.8	〃	〃	〃	〃	
108	4.2, 2.7	〃	〃	〃	〃	
109	4.4, 2.9	〃	〃	〃	〃	
110	4.5, 3.3	〃	〃	〃	〃	
111	4.3, 2.7	〃	〃	〃	〃	
112	4.4, 2.9	〃	〃	〃	〃	
113	4.7, 3.1	〃	〃	〃	〃	
114	4.2, 2.6	〃	〃	〃	〃	
115	4.3, 2.4	〃	〃	〃	〃	
116	4.2, 2.5	〃	〃	〃	〃	
117	4.3, 3.0	〃	〃	〃	〃	
118	4.4, 2.4	〃	〃	〃	〃	
119	4.4, 2.5	〃	〃	〃	〃	
120	4.3, 2.5	〃	〃	〃	〃	
121	4.0, 2.2	〃	〃	〃	〃	
122	4.2, 2.9	〃	〃	〃	〃	
123	4.5, 2.9	〃	〃	〃	〃	
124	3.6, 2.4	〃	記子	〃	〃	
125	3.4, 2.6	〃	〃	〃	〃	
126	3.4, 2.5	〃	〃	〃	〃	
127	3.3, 2.0	〃	〃	〃	〃	
128	3.5, 2.6	〃	〃	〃	〃	
129	3.7, 2.6	〃	〃	〃	〃	
130	3.7, 3.0	〃	〃	〃	〃	
131	3.5, 2.4	〃	〃	〃	〃	
132	3.3, 2.1	〃	〃	〃	〃	
133	3.3, 2.9	〃	〃	〃	〃	
134	3.3, 2.4	〃	〃	〃	〃	
135	3.3, 1.9	〃	〃	〃	〃	
136	3.3, 2.3	〃	〃	〃	〃	
137	3.2, 2.5	〃	〃	〃	〃	
138	3.2, 2.5	〃	〃	〃	〃	
139	3.4, 1.9	〃	〃	〃	〃	
140	3.2, 2.0	〃	〃	〃	〃	
141	3.3, 2.2	〃	〃	〃	〃	

Tab. 6 数珠玉計測一覧表③

号数	法量(径×厚mm)	形態・特徴など	種類	材質	色調	備考
116−142	3.0, 2.1	楕円	記子	ガラス	白色半透明	
143	3.4, 2.1	〃	〃	〃	〃	
144	3.1, 1.9	〃	〃	〃	〃	
145	3.3, 2.1	〃	〃	〃	〃	
146	3.1, 2.1	〃	〃	〃	〃	
147	3.0, 2.2	〃	〃	〃	〃	
148	3.0, 2.6	〃	〃	〃	〃	
149	3.0, 2.3	〃	〃	〃	〃	
150	3.2, 2.4	〃	〃	〃	〃	
151	3.4, 2.2	〃	〃	〃	〃	
152	3.3, 2.1	〃	〃	〃	〃	
153	3.4, 2.0	〃	〃	〃	〃	
154	3.3, 1.9	〃	〃	〃	〃	
155	3.7, 2.5	〃	〃	〃	〃	
156	3.3, 2.0	〃	〃	〃	〃	
157	3.2, 2.0	〃	〃	〃	〃	
158	3.6, 2.1	〃	〃	〃	〃	
159	2.6, 1.8	〃	〃	〃	〃	
160	3.3, 2.4	〃	〃	〃	〃	
161	3.3, 2.2	〃	〃	〃	〃	
162	3.6, 2.7	〃	〃	〃	〃	
163	3.4, 2.5	〃	〃	〃	〃	
164	3.6, 2.2	〃	〃	〃	〃	
165	3.0, 2.1	〃	〃	〃	〃	
166	3.3, 2.2	〃	成珠	〃	〃	
167	3.5, 2.0	〃	〃	〃	〃	
168	3.3, 2.1	〃	〃	〃	〃	
169	3.3, 2.3	〃	〃	〃	〃	
170	3.3, 1.8	〃	〃	〃	〃	
171	3.4, 2.2	〃	〃	〃	〃	
172	3.1, 2.2	〃	〃	〃	〃	
173	3.4, 2.0	〃	〃	〃	〃	
174	3.2, 2.6	〃	〃	〃	〃	
175	3.2, 2.1	〃	〃	〃	〃	
176	3.4, 2.2	〃	〃	〃	〃	
177	3.2, 2.2	〃	〃	〃	〃	
178	3.5, 2.3	〃	〃	〃	〃	
179	3.5, 2.2	〃	〃	〃	〃	
180	3.0, 1.8	〃	〃	〃	〃	
181	3.2, 2.0	〃	〃	〃	〃	
182	3.4, 2.5	〃	〃	〃	〃	
183	3.5, 2.2	〃	〃	〃	〃	
184	2.9, 2.5	〃	〃	〃	〃	
185	3.3, 2.7	〃	〃	〃	〃	
186	3.2, 1.9	〃	〃	〃	〃	
116−187	3.3, 2.2	楕円	成珠	ガラス	白色半透明	
188	3.2, 2.4	〃	〃	〃	〃	
189	3.0, 2.2	〃	〃	〃	〃	
190	3.4, 2.6	〃	〃	〃	〃	
191	3.3, 2.2	〃	〃	〃	〃	
192	3.1, 1.9	〃	〃	〃	〃	
193	3.3, 2.1	〃	〃	〃	〃	
194	3.4, 2.5	〃	〃	〃	〃	
195	2.8, 2.1	〃	〃	〃	〃	
196	3.3, 2.4	〃	〃	〃	〃	
197	2.9, 2.2	〃	〃	〃	〃	
198	3.3, 3.3	〃	〃	〃	〃	
199	3.5, 3.3	〃	〃	〃	〃	
200	3.3, 3.0	〃	〃	〃	〃	
201	3.2, 2.9	〃	〃	〃	〃	
202	2.9, 2.8	〃	〃	〃	〃	
203	3.7, 2.8	〃	〃	〃	〃	
204	3.2, 2.7	〃	〃	〃	〃	
205	3.4, 3.0	〃	〃	〃	〃	
206	3.3, 2.7	〃	記子留	〃	白色	
207	3.9, 3.9	〃	〃	〃	〃	
208	3.6, 3.6	〃	〃	〃	〃	
209	3.4, 3.3	〃	〃	〃	〃	
210	4.2, 3.3	〃	成珠	〃	コバルトブルー	
211	4.4, 2.7	〃	〃	〃	〃	
212	4.2, 2.8	〃	〃	〃	緑	
213	4.3, 3.8	〃	〃	〃	〃	
214	4.1, 3.2	〃	〃	〃	〃	
215	4.6, 2.8	〃	〃	〃	〃	
216	3.7, 2.4	〃	〃	〃	〃	
217	4.2, 2.4	〃	〃	〃	〃	
218	4.3, 2.5	〃	〃	〃	〃	
219	3.9, 2.2	〃	〃	〃	〃	
220	4.3, 2.6	〃	〃	〃	〃	
221	3.9, 3.0	〃	〃	〃	〃	
222	4.5, 2.9	〃	〃	〃	〃	
223	4.0, 2.1	〃	〃	〃	〃	
224	3.8, 2.6	〃	〃	〃	〃	
225	4.1, 2.5	〃	〃	〃	〃	
226	4.1, 2.2	〃	〃	〃	〃	
227	4.6, 2.3	〃	〃	〃	〃	
228	3.9, 2.5	〃	〃	〃	〃	
229	4.7, 2.7	〃	〃	〃	〃	
230	3.7, 3.1	〃	〃	〃	〃	
231	4.1, 2.1	〃	〃	〃	〃	

Tab. 6 数 珠 玉 計 測 一 覧 表④

号 数	法 量 (径×厚mm)	形態・特徴など	種 類	材 質	色 調	備 考
116−232	3.8, 3.2	楕 円	成 珠	ガラス	緑	
233	4.1, 3.8	〃	〃	〃	〃	
234	4.0, 2.6	〃	〃	〃	〃	
235	4.1, 2.5	〃	〃	〃	〃	
236	4.3, 2.4	〃	〃	〃	〃	
237	4.4, 2.7	〃	〃	〃	〃	
238	4.6, 2.8	〃	〃	〃	〃	
239	4.6, 2.6	〃	〃	〃	〃	
240	4.2, 3.2	〃	〃	〃	〃	
241	3.4, 2.3	〃	〃	〃	〃	
242	4.5, 2.7	〃	〃	〃	〃	
243	4.4, 2.2	〃	〃	〃	〃	
244	4.0, 2.5	〃	〃	〃	〃	
245	4.0, 2.3	〃	〃	〃	〃	
246	3.7, 2.9	〃	〃	〃	〃	
247	4.4, 2.4	〃	〃	〃	〃	
248	4.0, 2.8	〃	〃	〃	〃	
249	4.8, 2.4	〃	〃	〃	〃	
250	4.0, 2.6	〃	〃	〃	〃	
251	4.2, 2.5	〃	〃	〃	〃	
252	4.2, 2.5	〃	〃	〃	〃	
253	4.1, 2.6	〃	〃	〃	〃	
254	4.3, 3.2	〃	〃	〃	〃	
255	4.0, 3.5	〃	〃	〃	〃	
256	4.0, 3.1	〃	〃	〃	〃	
257	3.9, 2.7	〃	〃	〃	〃	
258	4.0, 2.5	〃	〃	〃	〃	
259	4.0, 2.8	〃	〃	〃	〃	
260	4.4, 2.5	〃	〃	〃	〃	
261	4.1, 2.5	〃	〃	〃	〃	
262	4.1, 1.9	〃	〃	〃	〃	
263	4.4, 3.1	〃	〃	〃	〃	
264	4.2, 2.5	〃	〃	〃	〃	
265	4.3, 2.4	〃	〃	〃	〃	
266	3.8, 2.2	〃	〃	〃	〃	
267	4.2, 2.5	〃	〃	〃	〃	
268	4.8, 3.2	〃	〃	〃	〃	
269	4.8, 2.6	〃	〃	〃	〃	
270	4.2, 2.6	〃	〃	〃	〃	
271	3.9, 2.7	〃	〃	〃	〃	
272	4.8, 2.6	〃	〃	〃	〃	
273	4.7, 3.0	〃	〃	〃	〃	
274	3.9, 2.7	〃	〃	〃	〃	
275	3.9, 2.4	〃	〃	〃	〃	
276	4.1, 2.5	〃	〃	〃	〃	
277	4.7, 2.5	〃	〃	〃	〃	

号 数	法 量 (径×厚mm)	形態・特徴など	種 類	材 質	色 調	備 考
116−278	4.5, 2.5	楕 円	成 珠	ガラス	緑	
279	4.0, 2.5	〃	〃	〃	〃	
280	4.3, 2.8	〃	〃	〃	〃	
281	4.5, 2.9	〃	〃	〃	〃	
282	4.0, 3.1	〃	〃	〃	〃	
283	4.2, 2.5	〃	〃	〃	〃	
284	4.3, 3.1	〃	〃	〃	紺	
285	4.3, 2.5	〃	〃	〃	緑	
286	4.0, 2.4	〃	〃	〃	〃	
287	3.7, 3.2	〃	〃	〃	〃	
288	3.8, 2.7	〃	〃	〃	〃	
289	4.5, 2.5	〃	〃	〃	〃	
290	3.9, 2.3	〃	〃	〃	〃	
291	4.3, 2.7	〃	〃	〃	〃	
292	4.5, 2.5	〃	〃	〃	〃	
293	4.4, 3.7	〃	〃	〃	〃	
294	4.7, 2.9	〃	〃	〃	〃	
295	4.0, 2.7	〃	〃	〃	〃	
296	4.3, 2.8	〃	〃	〃	〃	
297	4.6, 2.1	〃	〃	〃	〃	
298	4.7, 2.9	〃	〃	〃	〃	
299	3.8, 2.5	〃	〃	〃	〃	
300	4.1, 2.7	〃	〃	〃	〃	
301	3.7, 3.5	〃	〃	〃	〃	
302	4.0, 2.2	〃	〃	〃	〃	
303	4.3, 2.6	〃	〃	〃	〃	
304	4.1, 2.6	〃	〃	〃	〃	
305	3.6, 3.0	〃	〃	〃	〃	
306	3.9, 2.8	〃	〃	〃	〃	
307	4.0, 2.2	〃	〃	〃	〃	
308	4.1, 2.7	〃	〃	〃	〃	
309	4.4, 2.3	〃	〃	〃	〃	
310	4.2, 2.4	〃	〃	〃	〃	
311	3.8, 2.1	〃	〃	〃	〃	
312	3.8, 2.9	〃	〃	〃	〃	
313	3.8, 2.7	〃	〃	〃	〃	
314	4.5, 2.8	〃	〃	〃	〃	
315	4.0, 2.6	〃	〃	〃	〃	
316	3.7, 2.5	〃	〃	〃	〃	
317	4.5, 2.8	〃	〃	〃	〃	
318	4.4, 2.6	〃	〃	〃	〃	
319	4.1, 3.3	〃	〃	〃	〃	
320	4.7, 2.2	〃	〃	〃	〃	
321	3.7, 2.4	〃	〃	〃	〃	
322	4.7, 2.6	〃	〃	〃	〃	
323	3.8, 2.5	〃	〃	〃	〃	

Tab. 6 数珠玉計測一覧表⑤

号数	法量（径×厚㎜）	形態・特徴など	種類	材質	色調	備考
116−324	4.2, 2.3	楕円	成珠	ガラス	緑	
325	4.4, 2.8	〃	〃	〃	〃	
326	4.6, 2.9	〃	〃	〃	〃	
327	4.0, 3.0	〃	〃	〃	〃	
328	4.3, 2.4	〃	〃	〃	〃	
329	4.2, 2.9	〃	〃	〃	〃	
330	3.9, 2.4	〃	〃	〃	〃	
331	4.1, 2.5	〃	〃	〃	〃	
332	4.0, 2.8	〃	〃	〃	〃	
333	4.7, 2.8	〃	〃	〃	〃	
334	4.2, 2.6	〃	〃	〃	〃	
335	4.9, 2.5	〃	〃	〃	〃	
336	4.1, 2.5	〃	〃	〃	〃	
337	4.2, 3.0	〃	〃	〃	〃	
338	4.1, 2.3	〃	〃	〃	〃	
339	4.6, 2.8	〃	〃	〃	〃	
340	4.6, 2.8	〃	〃	〃	〃	
341	4.3, 2.3	〃	〃	〃	〃	
342	4.0, 2.7	〃	〃	〃	〃	
343	4.2, 2.5	〃	〃	〃	〃	
344	4.5, 3.1	〃	〃	〃	〃	
345	4.1, 3.5	〃	〃	〃	〃	
346	4.5, 2.6	〃	〃	〃	〃	
347	4.5, 2.5	〃	〃	〃	〃	
348	4.6, 2.7	〃	〃	〃	〃	
349	4.2, 2.2	〃	〃	〃	〃	
350	3.9, 3.3	〃	〃	〃	〃	
351	3.8, 2.8	〃	〃	〃	〃	
352	3.6, 3.1	〃	〃	〃	〃	
353	3.8, 2.4	〃	〃	〃	〃	
354	4.0, 2.1	〃	〃	〃	紺	
355	3.8, 1.7	〃	〃	〃	〃	
356	3.7, 2.5	〃	〃	〃	〃	
357	3.6, 2.7	〃	〃	〃	〃	
358	3.8, 2.1	〃	〃	〃	〃	
359	3.9, 2.1	〃	〃	〃	〃	
360	3.9, 1.9	〃	〃	〃	〃	
361	3.9, 2.4	〃	〃	〃	〃	
362	4.5, 2.8	〃	〃	〃	〃	
363	3.8, 2.2	〃	〃	〃	〃	
364	4.0, 3.4	〃	〃	〃	〃	
365	3.9, 2.3	〃	〃	〃	〃	
366	4.0, 2.6	〃	〃	〃	〃	
367	3.7, 2.5	〃	〃	〃	〃	
368	3.7, 2.4	〃	〃	〃	〃	
369	3.8, 2.6	〃	〃	〃	〃	

号数	法量（径×厚㎜）	形態・特徴など	種類	材質	色調	備考
116−370	3.7, 2.3	楕円	成珠	ガラス	紺	
371	3.5, 2.7	〃	〃	〃	〃	
372	4.2, 2.4	〃	〃	〃	〃	
373	3.8, 2.7	〃	〃	〃	〃	
374	3.9, 2.4	〃	〃	〃	〃	
375	3.9, 3.2	〃	〃	〃	〃	
376	4.5, 3.3	〃	〃	〃	〃	
377	3.7, 3.2	〃	〃	〃	〃	
378	3.8, 3.1	〃	〃	〃	〃	
379	4.1, 3.4	〃	〃	〃	〃	
380	4.0, 3.6	〃	〃	〃	〃	
381	3.8, 4.0	〃	〃	〃	〃	
382	4.4, 5.4	〃	〃	〃	〃	
164− 1	16.2, 14.8	円	母珠	水晶	透明	
2	9.2, 8.3	楕円	母珠？	不明	茶色	
186− 1	10.3, 9.5	円	母珠	水晶	透明	
2	10.2, 9.6	〃	〃	〃	〃	
3	8.2, 5.2	楕円	成珠	木	こげ茶色	
4	6.7, 2.8	〃	〃	〃	〃	
5	7.2, 2.6	〃	〃	〃	〃	
6	7.2, 2.2	扁平	〃	〃	〃	乾燥
7	6.7, 3.4	楕円	〃	〃	〃	
8	7.2, 2.5	〃	〃	〃	〃	
9	7.2, 1.7	扁平	〃	〃	〃	乾燥
10	7.3, 4.3	楕円	〃	〃	〃	
11	7.1, 1.9	扁平	〃	〃	〃	乾燥
12	7.1, 2.9	楕円	〃	〃	〃	
13	7.2, 4.9	〃	〃	〃	〃	
14	6.3, 2.3	扁平	〃	〃	〃	乾燥
15	7.6, 3.9	楕円	〃	〃	〃	
16	7.8, 5.2	〃	〃	〃	〃	
17	7.7, 4.9	〃	〃	〃	〃	
18	7.2, 4.5	〃	〃	〃	〃	
19	6.9, 3.0	〃	〃	〃	〃	
20	7.7, 4.4	〃	〃	〃	〃	
21	7.7, 4.0	〃	〃	〃	〃	
22	7.0, 3.6	〃	〃	〃	〃	
23	7.9, 4.3	〃	〃	〃	〃	
24	7.6, 4.3	〃	〃	〃	〃	
25	7.5, 4.8	〃	〃	〃	〃	
26	7.9, 5.2	〃	〃	〃	〃	
27	7.5, 4.5	〃	〃	〃	〃	
28	7.5, 5.0	〃	〃	〃	〃	
29	7.4, 4.6	〃	〃	〃	〃	
30	6.9, 4.2	〃	〃	〃	〃	
31	7.9, 4.7	〃	〃	〃	〃	

Tab. 6 数珠玉計測一覧表⑥

号数	法量（径×厚mm）	形態・特徴など	種類	材質	色調	備考
186－ 32	7.1, 4.0	楕円	成珠	木	こげ茶色	
33	7.9, 5.0	〃	〃	〃	〃	
34	6.4, 2.1	〃	〃	〃	〃	
35	6.4, 4.4	〃	〃	〃	〃	
36	7.3, 4.8	〃	〃	〃	〃	
37	7.9, 4.8	〃	〃	〃	〃	
38	7.2, 3.2	〃	〃	〃	〃	
39	7.9, 4.9	〃	〃	〃	〃	
40	7.0, 2.5	〃	〃	〃	〃	
41	8.0, 5.0	〃	〃	〃	〃	
42	8.3, 4.8	〃	〃	〃	〃	
43	7.7, 4.6	〃	〃	〃	〃	
44	7.8, 4.8	〃	〃	〃	〃	
45	7.0, 1.8	扁平	〃	〃	〃	乾燥
46	7.2, 1.7	〃	〃	〃	〃	
47	5.6, 3.4	楕円	記子	〃	〃	
48	5.9, 3.4	〃	〃	〃	〃	
49	6.0, 3.8	〃	〃	〃	〃	
50	6.1, 2.7	〃	〃	〃	〃	
51	5.0, 3.9	〃	〃	〃	〃	
52	6.1, 3.8	〃	〃	〃	〃	
53	5.7, 1.9	〃	〃	〃	〃	
54	6.3, 2.4	〃	〃	〃	〃	
55	6.0, 2.2	〃	〃	〃	〃	
56	5.6, 2.4	〃	〃	〃	〃	
57	6.3, 2.2	〃	〃	〃	〃	
58	6.0, 2.5	〃	〃	〃	〃	
59	5.1, 2.1	〃	〃	〃	〃	
60	5.8, 2.0	〃	〃	〃	〃	
61	5.9, 1.9	〃	〃	〃	〃	
62	5.4, 1.8	〃	〃	〃	〃	
63	4.8, 7.5	水滴形	記子留	水晶	透明	
243－ 1	4.7, 3.8	楕円	母珠	ガラス	からし色	
2	4.7, 3.5	〃	〃	〃	緑	
3	3.5, 2.2	〃	四天珠	〃	黄緑	
4	3.6, 2.1	〃	〃	〃	〃	
5	3.9, 2.9	〃	〃	〃	〃	
6	3.2, 2.2	〃	〃	〃	〃	
7	4.7, 2.9	〃	成珠	〃	白色半透明	
8	4.6, 3.0	〃	〃	〃	〃	
9	4.5, 2.8	〃	〃	〃	〃	
10	4.8, 2.8	〃	〃	〃	〃	
11	4.9, 3.8	〃	〃	〃	〃	
12	4.5, 3.3	〃	〃	〃	〃	
13	4.6, 2.5	〃	〃	〃	〃	

号数	法量（径×厚mm）	形態・特徴など	種類	材質	色調	備考
243－ 14	4.9, 3.3	楕円	成珠	ガラス	白色半透明	
15	5.1, 4.1	〃	〃	〃	〃	
16	4.8, 3.5	〃	〃	〃	〃	
17	5.8, 2.8	〃	〃	〃	〃	
18	4.7, 3.3	〃	〃	〃	〃	
19	4.5, 3.6	〃	〃	〃	〃	
20	4.5, 2.8	〃	〃	〃	〃	
21	4.8, 2.8	〃	〃	〃	〃	
22	4.9, 2.8	〃	〃	〃	〃	
23	4.8, 3.1	〃	〃	〃	〃	
24	4.5, 2.9	〃	〃	〃	〃	
25	4.5, 3.1	〃	〃	〃	〃	
26	4.5, 2.8	〃	〃	〃	〃	
27	5.0, 2.8	〃	〃	〃	〃	
28	4.8, 2.7	〃	〃	〃	〃	
29	4.6, 3.4	〃	〃	〃	〃	
30	5.0, 3.3	〃	〃	〃	〃	
31	4.9, 3.4	〃	〃	〃	〃	
32	4.8, 4.1	〃	〃	〃	〃	
33	4.8, 3.6	〃	〃	〃	〃	
34	4.3, 2.3	〃	〃	〃	〃	
35	4.7, 3.1	〃	〃	〃	〃	
36	4.6, 3.4	〃	〃	〃	〃	
37	4.6, 4.0	〃	〃	〃	〃	
38	5.2, 3.0	〃	〃	〃	〃	
39	4.7, 3.2	〃	〃	〃	〃	
40	4.5, 3.2	〃	〃	〃	〃	
41	4.8, 4.2	〃	〃	〃	〃	
42	5.0, 3.5	〃	〃	〃	〃	
43	4.9, 3.3	〃	〃	〃	〃	
44	4.8, 3.3	〃	〃	〃	〃	
45	5.0, 3.9	〃	〃	〃	〃	
46	4.7, 3.5	〃	〃	〃	〃	
47	4.8, 3.7	〃	〃	〃	〃	
48	4.6, 3.3	〃	〃	〃	〃	
49	4.2, 3.2	〃	〃	〃	〃	
50	5.1, 3.1	〃	〃	〃	〃	
51	5.0, 3.8	〃	〃	〃	〃	
52	4.6, 2.6	〃	〃	〃	〃	
53	4.6, 3.1	〃	〃	〃	〃	
54	4.9, 3.4	〃	〃	〃	〃	
55	4.8, 3.2	〃	〃	〃	〃	
56	4.8, 3.5	〃	〃	〃	〃	
57	4.4, 3.1	〃	〃	〃	〃	
58	4.8, 3.6	〃	〃	〃	〃	

Tab. 6 数珠玉計測一覧表⑦

号数	法量（径×厚mm）	形態・特徴など	種類	材質	色調	備考
243－ 59	5.0, 3.8	楕円	成珠	ガラス	白色半透明	
60	4.9, 3.6	〃	〃	〃	〃	
61	4.8, 3.3	〃	〃	〃	〃	
62	4.6, 3.3	〃	〃	〃	〃	
63	4.8, 3.6	〃	〃	〃	〃	
64	5.3, 4.2	〃	〃	〃	〃	
65	4.6, 3.5	〃	〃	〃	〃	
66	4.8, 3.5	〃	〃	〃	〃	
67	4.7, 2.7	〃	〃	〃	〃	
68	4.7, 2.6	〃	〃	〃	〃	
69	4.4, 2.3	〃	〃	〃	〃	
70	3.9, 2.2	〃	〃	〃	〃	
71	4.4, 3.5	〃	〃	〃	〃	
72	4.8, 2.9	〃	〃	〃	〃	
73	4.6, 3.6	〃	〃	〃	〃	
74	4.0, 3.6	〃	〃	〃	〃	
75	4.1, 4.7	水滴形	記子留	〃	〃	
246－ 1	9.5, 8.0	円	母珠	〃	白色半透明	
2	8.7, 8.1	〃	〃	〃	スカイブルー	
3	7.0, 5.9	〃	四天珠	〃	白色半透明	
4	6.6, 5.4	〃	〃	〃	〃	
5	6.5, 5.7	〃	〃	〃	〃	
6	4.9, 3.3	楕円	成珠	〃	〃	
7	4.9, 3.2	〃	〃	〃	〃	
8	4.7, 3.0	〃	〃	〃	〃	
9	4.6, 3.4	〃	〃	〃	〃	
10	4.4, 2.8	〃	〃	〃	〃	
11	5.0, 3.3	〃	〃	〃	黄色	
12	5.1, 3.7	〃	〃	〃	〃	
13	4.8, 2.7	〃	〃	〃	白色半透明	
14	4.4, 2.7	〃	〃	〃	〃	
15	4.6, 3.1	〃	〃	〃	〃	
16	4.5, 3.5	〃	〃	〃	〃	
17	4.7, 3.3	〃	〃	〃	〃	
18	4.5, 2.8	〃	〃	〃	〃	
19	4.6, 2.7	〃	〃	〃	〃	
20	4.6, 2.9	〃	〃	〃	〃	
21	4.8, 2.7	〃	〃	〃	〃	
22	4.9, 3.6	〃	〃	〃	黄色	
23	4.1, 4.6	なつめ形	記子留	〃	白色半透明	
282－ 1	12.6, 10.7	楕円	母珠	〃	褐色	
2	7.5, 5.9	〃	四天珠	〃	〃	
3	7.1, 6.0	〃	〃	〃	〃	
4	7.1, 5.6	〃	〃	〃	ライトブルー	
5	6.5, 6.0	〃	〃	〃	〃	
282－ 6	6.6, 5.7	楕円	成珠？	ガラス	白色半透明	
7	7.3, 5.9	〃	〃	〃	〃	
8	5.1, 3.9	〃	記子	〃	〃	
9	4.8, 3.5	〃	〃	〃	〃	
10	4.7, 3.3	〃	〃	〃	〃	
11	4.6, 3.0	〃	〃	〃	〃	
12	4.8, 4.0	〃	〃	〃	〃	
13	4.9, 3.1	〃	〃	〃	〃	
14	4.6, 3.2	〃	〃	〃	〃	
15	5.2, 3.5	〃	〃	〃	褐色	
16	4.7, 3.0	〃	〃	〃	〃	
17	4.7, 3.2	〃	〃	〃	〃	
18	4.7, 3.3	〃	〃	〃	〃	
19	5.7, 3.2	〃	〃	〃	〃	
20	4.8, 3.6	〃	〃	〃	〃	
21	4.7, 3.1	〃	〃	〃	〃	
22	5.2, 3.5	〃	〃	〃	〃	
23	16.1, 13.7	元円形（乾燥により破損）	母珠	菩提樹の実	〃	乾燥
24	7.8, 4.4	楕円	成珠	木	〃	
25	7.7, 3.7	〃	〃	〃	〃	
26	7.5, 4.0	〃	〃	〃	〃	
27	6.3, 3.2	〃	〃	〃	〃	
28	7.8, 3.5	〃	〃	〃	〃	
29	7.5, 3.3	〃	〃	〃	褐色	
294－ 1	7.2, 3.9	〃	母珠	ガラス	白色半透明	
296－ 1	4.2, 2.8	〃	四天珠？	〃	紺	
2	3.7, 3.3	円	成珠	〃	白色半透明	
3	3.6, 3.4	〃	〃	〃	〃	
4	3.9, 2.2	〃	〃	〃	〃	
5	3.8, 2.6	〃	〃	〃	〃	
6	4.2, 2.8	〃	〃	〃	〃	
7	3.9, 3.1	〃	〃	〃	〃	
8	4.2, 3.2	〃	〃	〃	〃	
9	4.1, 2.7	〃	四天珠	〃	紺	
10	3.6, 3.0	〃	成珠	〃	白色半透明	
11	4.0, 3.2	〃	〃	〃	〃	
12	3.6, 3.5	〃	〃	〃	〃	
13	3.9, 3.2	〃	〃	〃	〃	
14	3.8, 3.4	〃	〃	〃	〃	
15	3.7, 3.7	〃	〃	〃	〃	
16	3.4, 3.3	〃	〃	〃	〃	
17	3.8, 3.7	楕円	〃	〃	〃	
18	3.9, 2.5	〃	〃	〃	〃	
19	4.0, 2.9	〃	〃	〃	〃	
20	3.7, 3.2	〃	〃	〃	〃	

Tab. 6 数 珠 玉 計 測 一 覧 表⑧

号 数	法 量 (径×厚mm)	形態・特徴など	種 類	材 質	色 調	備 考
296－ 21	4.0, 3.2	楕 円	成 珠	ガラス	白色半透明	
22	3.8, 2.8	〃	〃	〃	〃	
23	3.8, 3.5	〃	〃	〃	〃	
24	3.9, 3.6	〃	〃	〃	〃	
25	3.5, 3.9	〃	〃	〃	〃	
26	4.0, 3.6	〃	〃	〃	〃	
27	3.6, 3.9	〃	〃	〃	〃	
28	3.6, 3.1	〃	〃	〃	〃	
29	3.5, 3.0	〃	〃	〃	〃	
30	3.8, 3.4	〃	〃	〃	〃	
31	3.6, 3.5	〃	〃	〃	〃	
32	3.6, 3.1	〃	〃	〃	〃	
33	3.8, 3.0	〃	〃	〃	〃	
34	3.6, 3.5	〃	〃	〃	〃	
35	3.8, 3.1	〃	〃	〃	〃	
36	3.7, 3.2	〃	〃	〃	〃	
37	3.6, 3.2	〃	〃	〃	〃	
38	3.8, 3.3	〃	〃	〃	〃	
39	4.1, 3.4	〃	〃	〃	〃	
40	3.8, 3.1	〃	〃	〃	〃	
41	3.8, 3.5	〃	〃	〃	〃	
42	3.6, 3.3	〃	〃	〃	〃	
43	3.8, 3.1	〃	〃	〃	〃	
44	3.5, 2.9	〃	〃	〃	〃	
45	3.9, 2.6	〃	〃	〃	〃	
46	4.8, 3.6	〃	〃	〃	〃	
47	3.5, 3.4	〃	〃	〃	〃	
48	3.7, 3.2	〃	〃	〃	〃	
49	3.7, 3.6	〃	〃	〃	〃	
50	3.8, 3.3	〃	〃	〃	〃	
51	3.7, 2.8	〃	〃	〃	〃	
52	3.8, 3.2	〃	〃	〃	〃	
53	3.6, 2.9	〃	〃	〃	〃	
54	3.3, 3.4	〃	〃	〃	〃	
55	3.9, 3.1	〃	〃	〃	〃	
56	3.6, 2.8	〃	〃	〃	〃	
57	3.8, 3.2	〃	〃	〃	〃	
58	3.8, 3.4	〃	〃	〃	〃	
59	3.7, 3.4	〃	〃	〃	〃	
60	3.4, 3.2	〃	〃	〃	〃	
61	4.3, 3.1	〃	〃	〃	〃	
62	3.8, 2.9	〃	〃	〃	〃	
63	3.5, 3.9	〃	〃	〃	〃	
64	3.8, 3.4	〃	〃	〃	〃	
65	3.8, 2.4	〃	〃	〃	〃	
296－ 66	4.0, 3.3	楕 円	成 珠	ガラス	白色半透明	
67	3.5, 3.3	〃	〃	〃	〃	
68	3.8, 3.5	〃	〃	〃	〃	
69	4.0, 3.6	〃	記 子	〃	〃	
70	4.0, 3.4	〃	〃	〃	〃	
71	4.1, 2.8	〃	〃	〃	〃	
72	3.7, 3.1	〃	〃	〃	〃	
73	3.6, 3.4	〃	〃	〃	〃	
74	3.5, 3.4	〃	〃	〃	〃	
75	4.1, 3.4	〃	〃	〃	〃	
76	3.8, 3.8	〃	〃	〃	〃	
77	3.7, 3.9	〃	〃	〃	〃	
78	4.2, 3.6	〃	〃	〃	〃	
79	3.9, 3.2	〃	〃	〃	〃	
80	3.7, 3.2	〃	〃	〃	〃	
81	3.7, 3.2	〃	〃	〃	〃	
82	3.3, 3.8	〃	〃	〃	〃	
83	3.6, 3.7	〃	〃	〃	〃	
84	3.6, 3.5	〃	〃	〃	〃	
85	3.7, 2.8	〃	〃	〃	〃	
86	3.6, 3.3	〃	〃	〃	〃	
87	3.5, 3.3	〃	〃	〃	〃	
88	3.6, 3.5	〃	〃	〃	〃	
89	3.6, 3.7	〃	〃	〃	〃	
90	3.7, 3.4	〃	〃	〃	〃	
91	3.7, 3.4	〃	〃	〃	〃	
347－ 1	4.3, 2.9	楕 円	成珠？	ガラス	〃	
2	3.7, 2.3	〃	記子？	〃	ﾗｲﾄﾌﾞﾙｰ	
3	3.4, 2.0	〃	〃	〃	〃	
360－ 1	12.2, 9.8	〃	母 珠	〃	灰 色	
388－ 1	5.4, 3.3	〃	成 珠	〃	白色半透明	
2	5.0, 2.9	〃	〃	〃	〃	
391－ 1	8.2, 5.0	〃	母 珠	〃	〃	
437－ 1	6.2, 12.5	円柱形	成 珠	木	褐 色	
2	5.9, 11.2	〃	〃	〃	〃	
3	5.3, 11.6	〃	〃	〃	〃	
506－ 1	6.0, 5.2	楕 円	母 珠	ガラス	白色半透明	
2	5.0, 5.0	円	〃	〃	褐 色	
3	4.4, 2.4	楕 円	成 珠	〃	白 色	
4	4.3, 2.8	〃	〃	〃	〃	
5	2.9, 1.6	〃	記 子	〃	〃	
6	2.8, 1.4	〃	〃	〃	〃	
遺構確認－1	14.4, 13.3	円	母 珠	白 磁	〃	
2	9.2, 10.5	截頭円錐形	記子留	〃	〃	
3	8.1, 11.1	〃	〃	〃	〃	

Tab. 7 近　世　墓　碑　一　覧　表①

（原寸縦書）

区	墓碑銘（戒名・俗名・年号など）		法量（cm）				西暦	形態	材質	備考
	正面	側面・裏	全長	幅	厚	基部				
Ⅱ	上品 万治三子天 色相妙金禅定尼 四月廿九日		58	34	24	29	1660	A 略 楕 円	自然石 花崗岩	金→全
Ⅱ	上品 貞享四年 清誉浄貞信士昊位 卯六月二十二日		68	36	36	16	1687	A 略 倒 卵	自然石 花崗岩	
Ⅱ	キリーク 元禄四年 心慶妙三信女 三月七日	㊋ 席田群上臼井村平田利左衛門 妹	56	40	33	16	1691	A 倒 卵	自然石 花崗岩	席→㕓 キリークは薬研彫
Ⅱ	帰元 元禄五壬申年 正誉成覚信士 六月十七日	㊋ 平田利左衛門	70	39	33	24	1692	A 楕 円	自然石 花崗岩	五→五 壬→亚 成→戌
Ⅱ	? サ 元禄十一寅天 春山妙華信女烏位 四月九日		54	31	25	15	1698	A 楕 円	自然石 花崗岩	寅→賓 日→亦
Ⅱ	皈真 元禄十二夘天 貞誉妙松信女 十月十六日	㊋ ? ? 勉三郎 母	60	38	30	22	1699	A 略 倒 卵	自然石 安山岩	
Ⅱ	法名 元禄十四巳年 釈西林灵 三月廿三日		56	34	24	20	1701	A 楕 円	自然石 閃緑岩か	名→名
Ⅱ	キリーク 元禄十四年 光誉宗心 八月廿一日	㊋ ? 忠三郎	71	47	21	19	1701	A 略 卵	自然石 花崗岩	月→日 廿→汇？ 日→目
Ⅱ	キリーク 元禄十五午天 覺月妙照信女烏位 三月晦日		62	26	22	20	1702	A 長 楕 円	自然石 花崗岩	五→五 日→亦
Ⅱ	キリーク 宝永二酉天 □□智耿信女霊位 六月廿日		64	40	21	20	1705	A 楕 円	自然石 花崗岩	□→𡚁 □→屋？
Ⅱ	皈元 宝永六年 真誉是□信士 巳正月四日		64	43	28	23	1709	A 略 楕 円	自然石 閃緑岩か	
Ⅱ	皈空 厭誉妙欣	㊋ ? ? ? 諸兵衛 母	54	39	28	19		A 楕 円	自然石 花崗岩	年号なし
Ⅱ	キリーク 正徳元卯年 雲誉宗白信士 十一月廿日	㊧ 平田諸兵衛	57	34	26	14	1711	A 楕 円	自然石 花崗岩	
Ⅱ	キリーク 正徳三巳年 覚誉寿清信女 七月五日	㊨ 平田諸兵衛 妻	52	31	24	12	1713	A 略 楕 円	自然石 花崗岩	五→五
Ⅱ	享保元丙申天 浄誉清心信女 七月廿八日	㊋ 佐七 母	51	34	13	18	1716	A 略 倒 卵	自然石 安山岩	日→亦
Ⅱ	享保七寅年 廓誉雪然信士 十二月十八日	㊋ 平田久七 年五十三	52	36	21	16	1722	A 楕 円	自然石 花崗岩	然→然 久→久
Ⅱ	キリーク 享保十巳年 光誉明智信女 九月十三日		59	40	20	19	1725	A 楕 円	自然石 閃緑岩か	
Ⅱ	享保十三申年 清誉浄閑信士 五月廿九日	㊨ 平田治右衛門	67	50	31	18	1728	A 略 楕 円	自然石 花崗岩	
Ⅱ	キリーク 享保十四酉年 観誉妙般信女 九月二日	㊋ 平田市次郎 妻 八十三	66	49	26	24	1729	A 略 倒 卵	自然石 花崗岩	妻→㚔
Ⅱ	享保十六亥年 通誉達道信士 十二月十日		61	22	19	22	1731	A 略 長 方	自然石 閃緑岩か	
Ⅱ	キリーク 享保十七午年 進誉浄精居士 六月十二日	㊋ 平田市次郎 歳九十	67	43	35	26	1732	A 長 楕 円	自然石 花崗岩	精→精
Ⅱ	キリーク 享保廿年 法誉受忍信女 八月六日	㊋ ? ? 平田市兵衛 妻	48	36	24	18	1735	A 楕 円	自然石 花崗岩	

Tab. 7 近　世　墓　碑　一　覧　表②

区	墓碑銘（戒名・俗名・年号など）		法量（cm）				西暦	形態	材質	備考
	正面	側面・裏	全長	幅	厚	基部				
Ⅱ	キリーク　享保弐拾年 松誉浄貞信士 二月十六日		83	48	18	41	1735	A 略三角	自然石 花崗岩	
Ⅱ	元文二巳年 得誉妙忍信女 十月廿七日弥市母		60	35	17	27	1737	A 略三角	自然石 閃緑岩か	弥→冰？ 忍→忍
Ⅱ	延享元申子年 感譽妙應信女 八月廿一日	裏　又七　母	51	31	17	25	1744	A 長楕円	自然石 閃緑岩か	
Ⅱ	延享四年 因誉縁流信士 正月廿九日	裏　平田久□衛門	61	46	20	22	1747	A 略菱形	自然石	久→久
Ⅱ	寛延元戊辰 鏡誉浄圓信士 十一月十三日		58	30	21	19	1748	A 長楕円	自然石 花崗岩	
Ⅱ	キリーク請花　寛延二巳天 蘭残成月信女 九月十二日		54	24	17	21	1749	A 略長方	自然石 花崗岩	
Ⅱ	寛延三午年 覺誉正順信士 八月廿七日	裏　平田又五良	65	44	23	22	1750	A 略卵形	自然石 閃緑岩か	
Ⅱ	寛延四年 善誉譲念信士 十一月廿八日	裏　西田忠蔵	47	38	18	16	1751	A 倒卵	自然石 花崗岩	譲→謙 蔵→萱？ 10月27日から宝暦元年
Ⅱ	宝暦二年 性誉法須居士 九月二十九日	裏　平田利左衛門	69	48	32	29	1752	A 楕円	自然石 安山岩	性→姓 基部に矢の跡
Ⅱ	宝暦六丙子 浮譽智浩信女 九月二十六日	裏　治兵衛　妻	49	36	22	15	1756	A 略楕円	自然石 花崗岩	
Ⅱ	宝暦七年 月誉妙影信尼 八月二日		47	37	13	14	1757	A 略卵形	自然石 花崗岩	誉→誉
Ⅱ	宝□□□ 念譽宗宙 寸信士 正月六日		47	37	24	－		A 略倒卵	自然石 花崗岩	宝暦か 専→由寸 二行書のためか
Ⅱ	明和五天 釈觸誉蒙光 六月廿五日	裏　年□□ 欠損	57	24	17	24	1768	B 丸頭方柱	加工石 礫岩	五→五
Ⅱ	安永五丙申歳 仁誉崇徳居士 九月初七日	裏　平田喜三次	68	44	30	20	1776	A 略方形	自然石 安山岩	誉→譽
Ⅱ	安永五丙申天 汰雲性月信女 三月廿七日	左　平田久七　妻	60	41	18	41	1776	A 略方形	自然石 閃緑岩か	性→性？ 妻→妻
Ⅱ	安永九子 幽誉了玄居士 三月六日	裏　平田市兵衛	53	28	14	13	1780	A 略長楕円	自然石 緑色片岩	
Ⅱ	安永九子天 珎雨華香信女 五月朔日		45	30	20	12	1780	A 略楕円	自然石	珎→珍
Ⅱ	天明二年 梅顔了白信士 寅正月八日	裏　平田長蔵	41	36	22	17	1782	A 略卵形	自然石 花崗岩	
Ⅱ	天明二寅年 根誉妙善信女 三月十二日	裏　西田忠次　母	54	37	24	23	1782	A 略三角	自然石 閃緑岩か	
Ⅱ	延誉量寿無心居士	裏　天明二年寅 五月廿九日 平田文次郎	64	28	22	－	1782	A 略長方	自然石 安山岩	
Ⅱ	天明二年 民誉貞仁善女 寅九月廿六日	裏　□□次 妻	42	26	16	13	1782	A 長楕円	自然石 花崗岩	誉→譽 貞→真？
Ⅱ	天明二寅年 義譽了仁居士 十月廿七日	裏　平田市次	43	31	14	11	1782	A 略卵形	自然石 安山岩	

Tab. 7 近　世　墓　碑　一　覧　表③

区	墓碑銘（戒名・俗名・年号など）		法量（cm）				西暦	形態	材質	備考
	正面	側面・裏	全長	幅	厚	基部				
Ⅱ	天明三年 稲誉清月浄雲居士 卯九月廿八日	裏　平田□兵衛	43	35	25	16	1783	A 略卵形	自然石 花崗岩	誉→譽 □→宇？
Ⅱ	天明五巳年 □誉峯山信士 十二月二十五日	裏　西田善次	62	30	28	17	1785	A 略三角	自然石 閃緑岩か	□→破損
Ⅱ	天明八申年 進誉妙接信女	裏　平田半次					1788		加工石 礫岩	破損墓
Ⅱ	真誉照月信士	裏　西田次平	60	42	22	35		A 略長方	自然石 安山岩	誉→譽 照→照 平号なし
Ⅱ	寛政□酉年 □□□□□士 三□十日	裏　平田治右衛門	61	42	27	24	1789	A 楕円	自然石 安山岩	表面剝落
Ⅱ	寛政四壬子年 光譽遍月貞照善女 八月二十五日	裏　文次ふ妻	35	26	25	－	1792	A 倒卵	自然石 花崗岩	妻→妻
Ⅱ	露光童子	裏　寛政八辰年 七月廿五日 平田幸治良	33	20	16	9	1796	A 楕円	自然石 花崗岩	
Ⅱ	得誉了忍信士	裏　享呼元酉年 平田次作	48	28	26	20	1801	A 略長楕円	自然石 安山岩	得→得 誉→誉
Ⅱ	本譽願雲信士	右　享和二戌年 裏　西田清光？ 左　五月初六日	59	24	18	24	1802	B 丸頭方柱	加工石 花崗岩	正面銘帯幅18cm
Ⅱ	寶譽妙勝信女	裏　享和三亥年四月八日 西田忠治　妻	48	32	21	28	1803	A 長方形	自然石 安山岩	亥→亥 妻→妻
Ⅱ	享和三亥年 廓譽了慶信士 十二月初五日	裏　善兵衛	46	31	19	25	1803	A 略長方	自然石 花崗岩	
Ⅱ	享和四子年 称誉念教信士 正月十九日		38	23	14	13	1804	A 略楕円	自然石 花崗岩	2月11日から文化元年
Ⅱ	智鏡理貞信女	裏　文化三寅年 四月廿九日 善六　妻	59	36	23	30	1806	A 不整楕円	自然石 花崗岩	妻→妻 貞→貞
Ⅱ	文化三寅年 感應道喜信士 十月十九日	裏　平田弥市	43	27	17	15	1806	A 長楕円	自然石 安山岩	弥→彌？
Ⅱ	文化四卯年 孝譽宗慶信士 五月廿九日	裏　俗名 久七	45	29	16	18	1807	A 長楕円	自然石 安山岩	久→久
Ⅱ	文化四卯年 清岳浄專信士 七月初八日	裏　俗名 平田 甚六	60	40	15	16	1807	A 不整菱形	自然石 安山岩か	日→亦
Ⅱ	光岸妙慶信女	右　文化四卯年 左　十月廿九日	56	24	17.5	24	1807	B 丸頭方柱	加工石 花崗岩	岸→岸 正面銘帯幅18cm
Ⅱ	文化四卯年 覚了童子 十一月七日	裏　□助子	35	27	16	－	1807	A 楕円	自然石 安山岩	覚→覺 □→[illegible]？ 助→助
Ⅱ	鏡誉智泓信女	裏　文化五辰三月廿九日 平田仁助　妻	49	32	24	26	1808	A 略三角	自然石 安山岩	誉→譽 五→五 妻→妻
Ⅱ	文化九申年 榮譽妙昌信女 八月廿九日	裏　市三良 妻	45	29	19	17	1812	A 長楕円	自然石 安山岩	
Ⅱ	文化十年 了元童子 酉八月廿八日	裏　□助子	33	23	16	－	1813	A 楕円	自然石 安山岩	□→[illegible] 助→助
Ⅱ	文化十四丑年 春應了頌信士 正月十六日	裏　西田忠蔵	47	30	18	－	1817	A 略三角	自然石 緑色変岩	丑→丑

Tab. 7 近　世　墓　碑　一　覧　表④

区	墓碑銘（戒名・俗名・年号など）		法量（cm）				西暦	形態	材質	備考
	正面	側面・裏	全長	幅	厚	基部				
Ⅱ	随誉義観信士	裏 文政三辰十二月十二日 西田忠治	52	34	30	20	1820	A 長方形	自然石 安山岩	誉→譽
Ⅱ	文政三辰年 理屋智光信女 十二月十九日	裏 平田次三郎 妹	35	20	12	13	1820	A 長楕円	自然石	
Ⅱ	文政五年 恵照童女 午七月廿六日	裏 □助子	30	24	13	—	1822	A 楕円	自然石 安山岩	照→照 □→德 助→助
Ⅱ	清譽貞音信女	裏 文政五午年 平田市治 妻 十一月十一日	46	36	21	22	1822	A 楕円	自然石 安山岩	清→清 五→五 妻→妻
Ⅱ	文政六未年 傳誉了覚信士 九月十二日	裏 平田惣吉	54	28	25	20	1823	A 長方形	自然石 安山岩	誉→譽 覚→覺
Ⅱ	文政八酉年 光岸妙壽信女 七月廿五日	裏 西田弥助 母	51	25	16	20	1825	A 略長方形	自然石 緑色変岩	岸→岸 弥→弥 助→助
Ⅱ	冬譽善貞信女	裏 文政十三寅年上臼井邑 十二月上七日平田市次 母	53	33	18	27	1830	A 略長方形	自然石 緑色変岩	貞→貞
Ⅱ	天保七申年 貞譽妙證信女 九月廿九日	裏 久助 母	51	30	18	25	1836	A 略長方形	自然石 安山岩	貞→貞
Ⅱ	善誉悟道信士	裏 天保十亥年 十一月十一日 平田半次	50	36	23	24	1839	A 略長方形	自然石 緑色変岩	誉→譽 悟→悟
Ⅱ	専譽受樂信士	裏 天保十亥年 十二月十八日 善市良	63	24.5	18	24.5	1839	B 丸頭方柱	加工石 花崗岩	受→受 正面銘帯幅18cm
Ⅱ	光誉實林信士	裏 天保十一年子二月廿九日 平田仁助	53	39	27	34	1840	A 略方形	自然石 安山岩	誉→譽 助→助
Ⅱ	一譽専念信女	裏 天保十一子年 六月七日 平田次助母	39	27	16	20	1840	A 略楕円	自然石 安山岩	
Ⅱ	弘化二巳年 幽譽法岸信士 七月十一日	裏 平田久助 墓	55	39	25	27	1845	A 略卵形	自然石 花崗岩	岸→岸 助→助 墓→墓
Ⅱ	幽譽法岸信士	裏 弘化二年巳 七月十九日 平田久助 三十三才	61	26.5	21	26.5	1845	C 圭頭方柱	加工石 緑色変岩	法→法 岸→岸
Ⅱ	心譽妙光信女	裏 弘化三年丙午 二月二九日上臼井村 平田市次 妻	55	36	24	21	1846	A 略楕円	自然石 緑色変岩	臼→臼
Ⅱ	知散童女	裏 弘化三年五月十八日 九才 弥作 娘	41	28	23	13	1846	A 卵形	自然石 安山岩	
Ⅱ	即譽得生信士	裏 嘉永二酉年 平田市次 四月六日	52	33	29	25	1849	A 略長方形	自然石 安山岩	
Ⅱ	嘉永四亥年 法岸妙達信女 八月廿九日	裏 西田弥助 妻	40	28	24	16	1851	A 卵形	自然石 安山岩	岸→岸
Ⅱ	嘉永五子年 徳誉本然信士 二月十七日	裏 西田儀七 七十八	49	33	27	29	1852	A 略長方形	自然石 安山岩	誉→譽 然→然
Ⅱ	圓岳壽仙信士	裏 嘉永六丑歳 正月六日 西田彌助	41	34	18	16	1853	A 卵形	自然石 安山岩	圓→圓
Ⅱ	伐山見道信士	裏 嘉永六年丑六月五日 井尻村 長澤市治	50	33	18	26	1853	A 略楕円	自然石 安山岩	澤→澤
Ⅱ	徳岸明道信士	裏 嘉永六丑年 八月六日 平田次エ門	53	26	25	21	1853	A 長楕円	自然石 安山岩	岸→岸 徳→徳

Tab. 7 近　世　墓　碑　一　覧　表⑤

区	墓碑銘（戒名・俗名・年号など）		法量（cm）				西暦	形態	材質	備考
	正面	側面・裏	全長	幅	厚	基部				
Ⅱ	嘉永六丑年 露吟童子 九月廿二日		36	26	17	19	1853	A 楕円	自然石 安山岩	
Ⅱ	光譽明貞信女	裏 安政三年辰十一月廿五日 平田仁助 妻	50	33	27	25	1856	A 略卵形	自然石 安山岩	貞→貞
Ⅱ	寛譽春山信士	裏 安政四巳年 三月二十日　平田治助	50	31	21	18	1857	A 長楕円	自然石 花崗岩	
Ⅱ	讃譽貞鏡信女	裏 安政六未歳 五月六日　西田儀七 妻	42	31	21	29	1859	A 長方形	自然石 花崗岩	妻→妻
Ⅱ	安政六未年 麗光童女 九月十九日	裏 俗名　甚治 娘	25	18	18	11	1859	A 卵形	自然石 花崗岩	
Ⅱ	心譽勇山信士	裏 萬延二酉歳 正月六日　俗名　伊助	53	48	28	35	1861	A 略卵形	自然石 安山岩	2月19日から文久元年
Ⅱ	短夢童女	裏 萬延二酉年 三月十六日　平田市作 娘	33	21	20	—	1861	A 楕円	自然石 安山岩	夢→夢 2月19日から文久元年
Ⅱ	西岸智生信士	裏 文久元酉年 九月六日　西田藤市	58	43	20	26	1861	A 略卵形	自然石 安山岩	岸→岸
Ⅱ	德譽壽仙信士	裏 文久二戌年 正月廿三日　西田善六	60	38	30	31	1862	A 略三角	自然石 安山岩	德→德
Ⅱ	文久二年 勇蓮童子 亥六月廿六日	裏 平田市右ヱ門 長男 吉太郎	35	21	18	15	1862	A 楕円	自然石 安山岩	文久二年は戌年 亥年は文久三年
Ⅱ	善譽心道信士	裏 文久三亥年 九月廿七日　西田善平	62	30	30	28	1863	A 略長方形	自然石 安山岩	
Ⅱ	實譽春山信士	裏 文久四子年 二月二十一日　平田喜平	46	38	25	18	1864	A 略方形	自然石 緑色変岩	2月20日から元治元年
Ⅱ	? 麗顔□□□□ 破損	裏 文久四子年 五月二十二日　平田源助娘	49	30	12	18	1864	A 長楕円	自然石 緑色変岩	源→源 2月20日から元治元年
Ⅱ	珠光童女	裏 文久四子年 七月二十三日　平田市作娘	32	24	14	16	1864	A 卵形	自然石 安山岩	2月20日から元治元年
Ⅱ	慶應二寅年 念譽妙忍信女 四月十三日	裏 平田市平 妻	51	32	26	22	1866	A 長楕円	自然石 安山岩	
Ⅱ	最譽妙勝信女	裏 慶應二寅年 九月二十二日　平田甚次母	51	38	18	23	1866	A 楕円	自然石	
Ⅱ	巒光信女	裏 慶應三夘年 三月二十七日　西田弥作	38	30	16	19	1867	A 楕円	自然石 安山岩	
Ⅱ	轉壽童女	裏 慶應四辰年 正月二十日　平田市作 娘	31.5	21	13	—	1868	A 倒卵	自然石	9月8日から明治元年
Ⅱ	南無妙法蓮華経十六 日佛	裏 西田内	27	19	12	13		A 楕円	自然石 安山岩	
Ⅱ	無　銘		43	26	14	17		A 圭頭方形	自然石 安山岩	
Ⅴ	皈　本	延宝二年 釈尼妙金灵位 寅二月四日	66	47	28	30	1674	A 卵形	自然石 花崗岩 （緑斑）	尼→尼 延→延
Ⅴ	皈　真	天和元年 釈心西灵位 酉七月廿九日	66	43	28	26	1681	A 楕円	自然石 花崗岩 （緑斑）	基部に矢の痕あり

Tab. 7 近　世　墓　碑　一　覧　表⑥

区	墓碑銘（戒名・俗名・年号など）		法量（cm）				西暦	形態	材質	備考
	正面	側面・裏	全長	幅	厚	基部				
V	バ　ク 天和四年 心誉妙專信女灵 六月廿五日		61	41	20	27	1684	A 長楕円	自然石 花崗岩 （緑斑）	2月21日から貞享元年 基部に矢の痕あり
V	歸　真 貞享四年 釋宗顯灵位 卯二月五日	㊋　古賀立右衛門	62	46	21	41	1687	A 略三角	自然石 花崗岩 （緑斑）	顯→顯
V	歸　命 釈尼妙閑示亟位	㊋　貞享四年 卯二月五日	58	45	17	34	1687	A 卵形	自然石 花崗岩	示亟→不退か
V	歸　一 元禄五壬申天 釈尼妙因不退位 三月四日		60	32	26	16	1692	A 長楕円	自然石 花崗岩 （緑斑）	
V	皈　本 元禄六年 釈尼妙知灵位 酉八月十七日		49	35	18	23	1693	A 楕円	自然石 花崗岩 （緑斑）	
V	法　名 元禄十年 釈秋月灵位 丁丑十月廿一日		62	36	26	26.5	1697	A 略三角	自然石 花崗岩 （緑斑）	基部に矢の痕あり
V	元禄十三天 教心信士 辰二月廿三日		54	33	27	29	1700	A 長楕円	自然石 花崗岩 （緑斑）	教→敎
V	皈　一 正徳三天 釈教夢之 八月十一日		51	35	20	13	1713	A 略卵形	自然石 花崗岩 （緑斑）	夢→夢
V	皈　真 享保二丁酉天 釈善空灵 十二月三日				23		1717	A 不整楕円	自然石 閃緑岩	
V	皈　元 享保三年 釈露清灵 戌八月廿六日		67	40	27	33	1718	A 略長方形	自然石 花崗岩 （緑斑）	基部に矢の痕あり
V	□保戌？四年 釋尼妙偿 □□二月十六日		65	35	23	—	1719 ？	A 略三角	自然石 花崗岩	年号がはっきりしない
V	法　名 享保四巳亥天 釈意閑灵位 十一月廿六日		53	40	21	17	1719	A 倒卵	自然石 閃緑岩か	
V	皈　本 享保五年 釋休西信士正定 七月廿九日	㊋　仲木為吉 父	57	40	24	18	1720	A 倒卵	自然石 閃緑岩か	
V	享保八卯年 釈尼妙喜灵 三月十七日		58	34	29	20	1723	A 略卵形	自然石 花崗岩 （緑斑）	
V	享保十二丁未天 釈尼妙慶灵 五月二日		58	33	21	17	1727	A 長楕円	自然石 閃緑岩か	
V	法名釈尼妙希不退位 地蔵菩薩請花線彫 享保十四酉八月廿九日		47	32	18	17	1729	A 楕円	自然石 花崗岩	
V	歸　元 享保十四年 釋尼妙秋信女灵 酉ノ八月三十日		61	44	22	17	1729	A 楕円	自然石 花崗岩 （緑斑）	妙→妙か
V	享保十八年 釈宗善灵 正月十三日		37	25	22	15	1733	A 略長方形	自然石 花崗岩 （緑斑）	
V	享保十八天 釈伏本之位 巳正月廿九日		44	26	17	9	1733	A 略長方形	自然石 閃緑岩か	享保18年は丑年
V	享保十八年 釈元利笹見位 二月二日		55	36	26	15	1733	A 長楕円	自然石 閃緑岩	
V	皈　元 享保十八天 妙善女之 丑二月八日	㊋　源市 母	58	44	23	23	1733	A 略方形	自然石 安山岩	丑→ㄛ 源→原
V	法　名 享保十八天 秀恩之 巳三月十九日	㊋　横瀬源市	52	44	26	27	1733	A 卵形	自然石 花崗岩 （緑斑）	享保18年は丑年 瀬→汢？

Tab. 7 近世墓碑一覧表⑦

区	墓碑銘（戒名・俗名・年号など） 正面	側面・裏	法量（cm） 全長	幅	厚	基部	西暦	形態	材質	備考
V	享保十八天 釈常心之位 巳四月六日		46	33	21	14	1733	A 楕円	自然石 閃緑岩か	享保18年は丑年
V	享保十八丑年 釋尼妙説信女 五月十五日		67	31	19	26	1733	A 略長方形	自然石 花崗岩	説→說
V	享保十八年 釋壽慶不退位 八月廿一日	裏 古賀助次郎	62	50	28	21	1733	A 略卵形	自然石 花崗岩	慶→𢡱
V	享保二十卯年 釋祐清信士 三月二十五日	右 中木藤吉	48	38	27	18	1735	A 楕円	自然石 花崗岩	
V	法名 享保二十年 釋祐清信士 卯六月八日		47	32	24	12	1735	A 長楕円	自然石 花崗岩	
V	元文六年 釋惠照不退位 正月三日	裏 仲木善蔵	54	36	22	21	1741	A 略卵形	自然石 花崗岩 （緑斑）	照→照 善→善 蔵→蔵 2月27日から 寛保元年
V	寛保二年 釈春夢童士 二月十九日		52	31	19	19	1742	A 略三角	自然石 花崗岩 （緑斑）	
V	皈元 寛延二巳天 釋尼妙永位 七月八日	裏 古賀源作 母 行年六十七	57	39	34	21	1749	A 略倒卵	自然石 花崗岩	源→原 作→作
V	宝暦六子天 釈尼妙顕 八月十六日		37	27	19	16	1756	A 楕円	自然石 花崗岩	顕→顯
V	皈元 宝暦八寅年 釈惠順之 六月廿八日	裏 古賀平六	68	45	25	27	1759	A 長楕円	自然石 花崗岩	惠←恵
V	宝暦十二年 釈妙保灵 十月七日		42	30	18	16	1762	A 略楕円	自然石 閃緑岩か	
V	明和四年 釈道西灵 二月二十四日	裏 仲木善太郎	41	26	20	15	1767	A 略三角	自然石 花崗岩	善→善
V	明和七年 釈西心灵 寅四月廿四日	右 中木善助	49	31	21	13	1770	A 長楕円	自然石 花崗岩	
V	皈元 明和九年 釈尼妙圓 七月三日		51	36	26	17	1772	A 卵形	自然石 花崗岩	11月16日から 安永元年
V	法名 明和九年 釈尼妙岸 八月十五日		48	39	30	17	1772	A 卵形	自然石 花崗岩	法→法 11月16日から 安永元年
V	天明元天 釈淨玄灵 五月三日仲木善七		44	28	28	12	1781	A 倒卵	自然石 花崗岩 （緑斑）	
V	天明五巳年 釈妙教信女 二月十日		48	27	21	23	1785	A 略長方形	自然石 花崗岩	
V	天明五巳己年 釈宗順信士 四月十日	裏 俗名 古賀助次郎	47	41	28	18	1785	A 不整卵形	自然石 花崗岩	天明5年は乙巳 賀→賀 信→信
V	天明五巳己年 即馨善心信士 四月十七日		61	26	18	26	1785	C 圭頭方柱	加工石 礫岩	天明5年は乙巳 正面銘帯幅20cm
V	天明六午年 釈壽菴不退位 八月十四日	裏 俗名 涼作	50	32	26	14	1786	A 不整楕円	自然石 花崗岩	涼→涼 作→作
V	法名 天明六年 釈教扨？信士 九月廿四日		51	25	21	12	1786	A 略長方形	自然石 花崗岩	
V	天明七年 釈祐玄居士 八月三日	裏 古賀長右エ門	44	26	18	—	1787	A 略三角	自然石 緑色変岩	玄→玄 長→長

Tab. 7 近　世　墓　碑　一　覧　表⑧

区	墓碑銘（戒名・俗名・年号など） 正面	側面・裏	法量（cm） 全長	幅	厚	基部	西暦	形態	材質	備考
V	皈元 寛政三年 理月貞産信女 正月廿六日		54	35	33	16	1791	A 卵形	自然石 花崗岩	
V	釋教祐居士	㊨ 寛政六年　源七 父 ㊧ 七月七日　半次郎	57	22	—	22	1794	B 丸頭方柱	加工石 礫岩	正面銘帯幅 16cm
V	寛政六寅年 釋達道信士 八月廿一日		46	36	20	14	1794	A 略長方形	自然石 花崗岩	達→[illegible]
V	寛政八辰年 釋教善 八月十二日		57	29	20	29	1796	B 丸頭方柱	加工石 礫岩	裏銘不明 粗い加工 再加工品か
V	法名 寛政十一年 釈妙閑信女 四月十五日		39	32	24	14	1799	A 略楕円	自然石 花崗岩	
V	釋道哲居士	㊨ 文化三寅年　幸吉 父 ㊧ 五月廿三日　源七	56	22	16	22	1806	B 丸頭方柱	加工石 礫岩	哲→[illegible] 正面銘帯幅 15cm
V	法諱 文化四年 釋尼妙哲不退位 十月廿日	㊥ 古賀長右エ門 妻	35	30	22	16	1807	A 卵形	自然石 花崗岩	不→[illegible]
V	文化五辰年 釋尼妙□□ 七月十二日		54	27	17	27	1808	B 丸頭方柱	加工石 礫岩	文→[illegible] 左側面に矢の痕あり、 粗い加工
V	文化六巳年 釈早幼童士 八月十七日	㊥ ? 作吉	37	31	18	16	1809	A 卵形	自然石 花崗岩	幼→[illegible]
V	釋妙範尼	㊨ 文化六巳年 ㊧ 八月廿日□□	57	21	15.5	21	1809	B 丸頭方柱	加工石 礫岩	正面銘帯幅 14cm
V	釋 寶居士　嘉永二酉年五月三十三日　善四郎　父善三 貞女　文化九戌年四月十三日　善三　妻 妙然信士　嘉永五子歟二月十七日　善四郎 妙山信士　嘉永五酉年五月十七日　善四郎　弟文右エ門 妙真信女　慶應三年九月廿九日　やす		114	60	28	52	1849 1812 1852 1849 1867	D 略三角	自然石 緑色変岩	文化九年は申年 俗名は２行に分けて書 かれているものがある
V	文政六未年 釋妙智信女 六月三日		45	33	17	20	1823	A 卵形	自然石 花崗岩 （緑斑）	
V	釋慧澄信士	㊨ 天保十二年 ㊥ 庄屋　古賀善助 行年　七十九 ㊧ 丑九月六日	60	25	18	25	1841	B 丸頭方柱	加工石 花崗岩	正面銘帯幅 18cm
V	釋貞壽信女	㊨ 天保十三年 庄屋　古賀茂市 妻 ㊥ 行年　四十二 ㊧ 寅正月三日	51	21.5	17	21.5	1842	B 丸頭方柱	加工石 花崗岩	貞→[illegible] 正面銘帯幅　15.5cm
V	釋信樂信士	㊨ 嘉永三年 ㊥ 古賀幸吉 ㊧ 九月十四日	55	23	16	23	1850	B 丸頭方柱	加工石 砂岩	正面銘帯幅17cm
V	釋妙順信女	㊥ 嘉永四亥年正月十三日	46	26	18	17	1851	A 不整楕円	自然石 砂岩	
V	灌名 釈流灌善士	㊥ 嘉永五子年 古賀又作 五月十五日	54	40	24	40	1852	A 不整楕円	自然石 安山岩	灌→法 銘は朱塗
V	釋梧[illegible]信士	㊥ 安政三辰年 十月廿日 善作	58	36	27	28	1856	A 略長方形	自然石 花崗岩 （緑斑）	
V	法名 釋教行信士	㊥ 安政六未年 古賀徳次 九月六日	53	40	20	31	1859	A 不整楕円	自然石 安山岩	徳→[illegible]
V	灌名 釋妙空善女	㊥ 文久二戌年 五月二日 古賀伊平　養母	54	37	19	32	1862	A 略長方形	自然石 安山岩	灌→法 妙→妙 文→[illegible]
V	法名 釋性[illegible]信士	㊥ 文久二戌年五月七日 古賀興平父興作	78	46	25	34	1862	A 略長方形	自然石 緑色変岩	文久→[illegible] 興→[illegible]
V	光顔蓮上遊女	㊥ 慶應三卯十二月□□ おりつ	57	24.5	20	24.5	1867	B 丸頭方柱	加工石 砂岩	正面銘帯幅20cm

Ⅳ 小　　結

席田青木遺跡第１次調査で出土した遺構数はFig. １～３に示すとおりである。その中でも弥生時代に属する墳墓は、石蓋土壙墓を除いて160基である。それらが第１区から第６区まで微地形で区分した丘陵頂部に分布するのである。最初に土壙墓が作られ、その後甕棺墓が作られるようになる。土壙墓と甕棺墓の組み合わせで、各区のグルーピングを行うと、第１区と第６区はそれぞれ１群、第２区は２群、第３区は７群、第４区は３群、第５区は４群に細分できる。これらの各群に細分したひとつのグループは５・６基から10基前後の数になり、単位集団の墓地群である可能性が高い。時期的な関係で看てみると、各区とも中期前半から中葉にかけて一斉に墓地が造営されている。席田青木遺跡に墓地を造営した集団の数が最も多くなるのがこの時期である。そして、この時期に第４区では大型の墓壙を持った甕棺墓が出現するのである。つまり、第４区のＫ－100は大型の墓壙を持ち、甕と甕とを組み合わせる特別な墓として作られたものであろう。周りには他の墳墓は作られず、やや空間をおいて土壙墓・木棺墓が北側に配置されている。東側及び西側には小児甕棺墓と土壙墓が配列される。副葬品こそ無かったが、内面には赤色顔料がまかれ、他とは隔絶した墳墓として造営されているということは明らかである。席田青木遺跡の弥生墳墓において赤色顔料が棺内で検出されたのは160基の内３基のみである。しかも３基とも第４区に埋葬された墳墓である。第４区に埋葬された集団は他の集団よりも上位に位置づけられる集団であり、Ｋ－100に埋葬された人はその中でも中心となる人物であった可能性が高い。

もともと、席田青木遺跡の墳墓の出現は、他の遺跡に比べると新しい時期からであり、甕棺墓が作られ始めるのが中期前半の新しい段階である。しかも、第３区の北側に造墓した集団は最後まで甕棺を使用せず土壙墓のまま造墓を続けている。全体としては低調な勢力の集団墓と考えられるが、低調な勢力は低調な勢力なりに特定の集団を生み出して、しかも特別な墳墓まで造営しているのである。このことは、弥生中期社会の階層がかなり低いところまで序列化されていたことを物語るものであろう。今回の調査結果は、弥生社会の構成を考える上できわめて示唆的な内容であった。弥生中期以降、第１区と第４区、第６区は造墓が停止し、第２・３区、第５区はそのまま造墓を続けており、第３区では後期初頭まで引き継がれる。弥生中期後半に社会的な再編成が行われたためであろうか。弥生中期後半には１km南の席田大谷遺跡や久保園遺跡などが隆盛をきわめるようになり、広い範囲での検討が必要になろう。

第２区と第５区では近世墓の調査を実施した。これまでにも、博多天福寺調査（博多22次）や、最近では、上月隈遺跡（市報第257集）の調査などが実施され、近世墓の実態が徐々にではあるが明らかになりつつある。今回、これらの成果をもとに、①調査近世墓の埋葬氏族、菩提寺が明らかなこと、②墓地全体が調査できるため、墓の変遷を明らかにできること、③転がっていた

墓石に古いものがあり、いつから墓石が使用されはじめたか検討できること、④調査前に改葬時の甕が転がっており、叩き調整が観察され幾つかのタイプが存在すること、産地が検討できるのではないかということ、⑤工事によって改葬された近世墓は人骨の残りが良かったため、調査区域内の近世人骨も良く残っていると想定され、これまで研究された都市部の天福寺人骨と、比較検討できる可能性が高いのではないかという理由で、調査を進めた。

調査の結果、予想以上の成果を得ることができた。墓壙は、切り合い関係、配列の状態、副葬品、埋葬形態などから、①長方形墓壙に長方形の木棺を使用し、北頭で顔を西に向ける右側臥屈葬、②やや小型で長さの短い長方形墓壙に木棺を使用し、仰臥屈葬するもの、③円形墓壙に早桶を使用し、座葬するもの、④円形墓壙に甕を使用し、座葬するものへと変化している。右側臥屈葬の①は中世末から17世紀中葉、②は17世紀前半から17世紀後半、③は17世紀後半から18世紀中葉、④は18世紀前半から19世紀という時期が想定できる。墓石の使用は17世紀後半から始まり、円形墓壙の出現と共に組み合わさって構成されるものとみられる。墓石そのものも時代と共に変化している。初めは花崗岩の自然石が使用されるが、時代が新しくなると緑色変岩も使用され、礫岩などの加工した墓石も出現する。しかし、自然石の墓石は明治、大正まで引き継がれ、江戸後期からは安山岩が多用されるようになる。

第2区の近世墓地形成は、4箇所で先ず開始される。3号・4号墓周辺、229号・251号墓周辺、256～260号墓周辺、261号墓（1基のみ）などである。長方形墓壙と円形墓壙に早桶を用いるタイプが組み合わさる。その後、256～260号墓周辺と261号墓は墓地の形成を終了し、前記2グループはそのまま継続する。長方形墓壙の周辺には、円形墓壙で早桶を用いる墓が順次列を成して造営される。さらに、円形墓壙で甕を用いる墓が周辺に列を成して分布し、古い墓の間隙にも造墓されるようになる。第2区の頂上部は主にふたつのグループの墓地によって形成され、結果的には方形の墓群となっている。

第5区も同じ様な墓地の形成が行われている。先ず、丘陵頂部の北側に右側臥屈葬で長方形墓壙を持つ古い墓群（288、293～297号墓など）が並び、丘陵周縁部にも同時期の墓群が配列されている。また、もうひとつのグループが西側段の下に配列されている。その後、丘陵頂部の古い墓群の内側に長方形墓壙で仰臥屈葬の墓群が作られている。これらは方位にややバラつきがある。長方形墓墳の周辺には円形墓壙で早桶を使用する墓が列を成して配列され、さらに古い墓の間隙に甕を用いる円形墓壙の墓が配列されている。特に甕を用いる墓は、丘陵頂部の中心と西側の段下に集中し、切り合いが激しい。

近世墓の中でも新しい時期の棺は甕を用いるが、甕の中にも幾つかのタイプがある。口縁端部は全て内側に折り曲げ、頸部に沈線を有し口縁部が強く外反するもの、外反が少なく台形状に肥厚した口縁を有するもの、外反が少なく頸部に段を有するものなどがある。時期が新しくなると口縁部が立ち、器高が高くスマートになる。今後さらに検討を加えたいと考えている。

「席田青木遺跡１」1993　福岡市教育委員会
福岡市埋蔵文化財調査報告書　第356集

席田青木遺跡の六道銭

櫻　木　晋　一
九州帝京短期大学

席田青木遺跡の六道銭

櫻　木　晋　一
九州帝京短期大学

本遺跡の２区・５区を合わせると、少なくとも768枚の銭貨が出土している（表１）。銹着などにより正確な枚数が数えられないものも存在し、一遺跡から出土した銭貨としてはかなりの枚数にのぼっている。そして、その約93％にあたる713枚の銭貨は、改葬墓も含めた墓壙から出土したもので、六道銭とよばれている銭貨である。表採などの遺構に伴わない銭貨の中にも、布が付着していることや銹着状態などから、六道銭が攪乱をうけて移動したものであると思われるものも存在し、本遺跡の出土銭貨は概ね六道銭として使用されたものであると考えることができる。九州内に所在する六道銭出土遺跡のなかでは、北九州市小倉北区京町遺跡[1]に次ぐ数量の多さである。

六道銭とは、俗に三途の川の渡し賃と考えられており、死者を葬る際に棺内あるいは墓壙内に副葬した銭貨のことである。この六道銭については鈴木公雄教授や筆者の一連の研究[2]によって、徐々にではあるがその実態が明らかになりつつある。六道銭を副葬する習慣は、遅くとも室町時代後半以降には存在し、江戸時代には広汎に行なわれていた。特に仏教が行政組織の末端に組み込まれ葬式仏教化していくなかで、六道銭を副葬する習慣は定着していくようである。現在でも、寛永通宝６枚が紙に印刷されたものを棺桶のなかに入れる習慣が各地に残っており、これは六道銭副葬の習俗のなごりであると考えることができる。また、六道銭の枚数は６枚が一般的であるが、必ずしも６枚とは限らず、鹿児島県のように７枚組が最も多い地域も存在する。[3] この６枚の意味は、六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人道・天上）と関連付けて考えられている。

福岡市内で総数100枚以上のまとまった六道銭が出土した遺跡としては、博多22次（天福寺）調査[4]・上月隈遺跡[5]が知られている。本遺跡は上月隈遺跡と距離的にも近く、両遺跡が城下町福岡や商業都市博多近郊の農村墓地として共通性をもつのかといった点や、都市部の墓地との地域差は存在するのかなどといった点での比較研究が今後の課題として残る。また、被葬者の階層や宗派などによって葬制の差が生じるのかといった問題も今後の課題である。

まず、２区・５区両区の近世墓から出土した六道銭の枚数について考察する。少なくとも135基分の六道銭が出土しており、一遺跡からの六道銭出土墓数としては、現在のところ福岡市内では最多である。改葬墓も多く存在し、それらを正確に把握し取り除くことによって、正確な副葬率を求めることができるが、かなり高い六道銭の副葬率であると思われる。発掘時から、人骨・六道銭などの遺物の調査・取り上げについては、発掘調査担当者によって細心の注意が払われていたので、本遺跡に関してはサンプリングエラーはほとんど考慮しなくてよいと考えている。一

基あたりの出土枚数は6枚組が72基（52.9%）で最も多く、全国的傾向と一致する。5区355号墓の1枚は明らかに1枚のみでの副葬であるのと、5区514号墓は銹着状態から7枚組であることは間違いないので、必ずしも6枚組とは限らない。しかし、過半数を超えるものが6枚組であることから、6枚という数がかなり強く意識されていたことはうかがえる。出土枚数が最も多い例として、2区164-2号墓の15枚が存在するが、これは現物を観察した限りではひとまとまりのものであるとは考えられず、5区387号墓の12枚〈図3〉が最多であると思われる。387号墓の12枚は全てが銹着して出土しており、副葬当初から12枚であったことを確認できる。関東地方などでもみられる6枚の倍数で副葬されている例である。[6)]

次に銭貨の組合せに注目して、墓の造営期を考察することにする。そのさい、寛永通宝鋳造以前の渡来銭、寛永13年（1636）初鋳の古寛永通宝、寛文8年（1668）初鋳のいわゆる文銭、元禄10年（1697）初鋳の新寛永通宝、元文4年（1739）初鋳の鉄を素材とする寛永通宝鉄銭の5つに大別する。渡来銭は8枚しか出土しておらず、その内3枚は清の銭貨である。従ってこの3枚は中世の渡来銭と区別して考えなければならない。残りの5枚の渡来銭も必ず新寛永通宝を伴っていることから、18世紀以降の墓と考えられ、わずかばかり流通市場に残存していた渡来銭が混入したものだと思われる。5枚の内訳は祥符元宝2枚・皇宋通宝1枚・永楽通宝1枚・不明1枚である。5区500号墓の不明銭は拓影を載せているが、寛永通宝でないことは確認できる。渡来銭のみの組合せが存在しないことから、寛永通宝鋳造以前の17世紀初期までの墓は、調査区域内には存在していない可能性が高い。古い時期のものとしては、2区47号墓、2区238号墓〈図2〉や5区298号墓、5区500号墓〈図2〉が新寛永通宝を伴っていないので、この墓群中では古い時期のものであると考えられる。しかし、古寛永通宝のみで構成されているものも存在しないことから、1668年以降に墓地が造営され始めたと推定できる。また、鉄銭が総数で115枚出土しており、その割合が15.0%と高いことから、近世後期の墓が主体の墓地であるといえる。特に、2区と5区を比べたとき、5区の方が古寛永通宝や文銭の割合が低く鉄銭の割合が高いことから、近世でも新しい時期の墓が多いと推測できる。最新銭として昭和2年の一銭硬貨が出土していることから、昭和初期までこの墓地が営まれていたことを、出土銭貨から確認することができる。大半の銭貨の組合せは、素材が銅・鉄であることを含めさまざまな寛永通宝が混合している状態なので、六道銭に使用する銭貨を恣意的に選別したとは考えられず、この埋葬された銭貨は埋葬当時の流通銭貨の反映であると考えられる。

背「元」（摂津高津銭、1741年初鋳）〈図1〉、マ頭通（「通」字の旁上部がコではなくマとなっているもの）〈図1～3〉などの寛永通宝が確認できた。マ頭通については、通の字が潰れたりして読めないものも存在するので、実際はこれ以上存在すると考えられ、この事実は九州における寛永通宝の流通の特色の一つであると考えている。これらの寛永通宝は関西で鋳造されたと考えられているものであり、銭貨流通圏を知るうえで重要である。

清朝の銭貨では、康熙通宝・嘉慶通宝・乾隆通宝がそれぞれ１枚ずつ出土している。流通が禁止されている渡来銭、それも鎖国体制下で隣国の銭貨が流入してきていることはこれらの出土から明らかである。天福寺でも康熙通宝が２枚出土しており、北部九州の出土銭貨に清銭がしばしば見られることから、大陸に近いという地理的要因が存在すると考えられる。

銭貨そのものではないが、孔に紐の痕跡の残っているもの、布で包んであるもの、紙で包んであるものなど、さまざまな副葬形態が存在する。また、６枚を単純に重ねて紐で縛ったものばかりではなく、１枚・２枚単位で紐がかけてあり、最後に６枚を縛った上で布で包んだものも存在した。さらに、ハサミ・ケヌキやキセルなどとの組合せ、紙・布など素材とその包み方などの状況観察は、六道銭を副葬するさいの状態を復元する手がかりとなり、その意味付けなど今後の民俗学研究課題の一つである。

以上、出土銭貨について気付いた点を簡単に述べてきたが、六道銭の数量が多いことや遺物の取り上げの精度が高かったことから、本遺跡は出土銭貨研究上貴重な遺跡であるということができる。

注

1) 京町遺跡の六道銭については、現在北九州市教育委員会と北九州市教育文化事業団で報告書を作成中であり、詳細についてはその報告書を参照されたいが、墓壙から出土した銭貨だけでも1,000枚以上である。

2) 鈴木公雄：「出土六道銭の組合せからみた江戸時代前期の銅銭流通」『社会経済史学』53－６，1988。「出土六道銭の枚数と墓の保存状態」『考古学の世界』新人物往来社、1991。「多数の銭貨を有する六道銭について」『史学』62－３、1993。「渡来銭から古寛永通宝へ――出土六道銭からみた近世前期銭貨流通史の復元――」『論苑考古学』天山舎、1993など。

櫻木晋一：「17・８世紀における寛永通宝の流通状況」『史学』59－１、1990。「九州における六道銭研究の現状と課題」『九州帝京短期大学紀要』２、1990など。

3) 櫻木晋一：「前畑遺跡の出土銭貨と鹿児島県下の出土六道銭」鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書52『前畑遺跡』1990。

4) 櫻木晋一：「博多22次（天福寺）と箱崎・馬出遺跡群の出土六道銭」『福岡県地域史研究』９、1990。

5) 福岡市教育委員会：『上月隈遺跡』1991。

6) 東京都港区教育委員会：『増上寺子院群』1988。

表１　席田青木遺跡出土銭貨一覧表

青木遺跡２区

遺構No.	総数	渡	古	文	新	鉄	不明	近代	備考
002	7		5		2				５枚銹着，布
003	6		2		4				６枚銹着，マ頭通１
005	6		3		3				６枚銹着，布
006	4			1	3				マ頭通１
007	3		3						
009	6		1	1	4				４枚銹着，マ頭通１
011	6		1		5				５枚銹着
012	6		3		3				６枚銹着，マ頭通１
013	6	1	2		3				祥符元宝１，布
015	6		1			1	4		塊
016改－１	6		3		1	2			６枚銹着
016改－２	4				4				布，紙
025	5			2	3				布
026	6		1		5				マ頭通１
027	4		2		2				ハサミに付着，布
029	7			1	5	1			毛抜きに付着，布
031改	3			1	2				マ頭通１
035	1						1		１枚以上
036	4		1		3				
039	6		3		3				４枚，２枚銹着，布
044	5				5				マ頭通２
047	7		4	3					６枚銹着
049	6		2		4				６枚銹着
051改	5				3	1	1		４枚銹着
064	2		1	1					２枚銹着
069	6		1		5				４枚銹着
079	2						2		
080	6		1		1	3	1		背「元」１，布
082	2				1	1			
090	6		1		5				３枚，２枚銹着，マ頭通２，布
097改－１	6				6				６枚銹着，マ頭通１
097改－２	7				1	1	5		
097改－３	5		1		4				５枚銹着，布
101	6		1	2	3				布
104	6		1	1	4				５枚銹着，マ頭通１，布

青木遺跡２区

遺構No.	総数	渡	古	文	新	鉄	不明	近代	備考
105改	6			3	3				マ頭通１，ハサミに付着
113改	2				2				２枚銹着
115	6		1		5				４枚，２枚銹着，マ頭通３
118	6		2	1	3				４枚銹着，布
123改	3					3			
127改	6			2	4				６枚銹着，マ頭通１，紐
133改	1				1				
136改	3				3				
147	6				2		4		
148改	10		3		6		1		マ頭通１
149改	7		5		2				
154改－１	6	2		1	3				永楽通宝１，乾隆通宝１，布，紐
154改－２	5						5		
159	4				4				２枚，２枚銹着，布，紐
161－１	6				6				６枚銹着，ハサミの先端に付着，マ頭通３
161－２	6					3	3		ハサミの根元に付着
162－１	6		2		4				６枚銹着
162－２	1						1		
163改	2		1		1				
164－１	6						6		布，塊
164－２改	15		4		7	1		3	布，一銭３（大正11年１・大正12年１・昭和２年１）
167改	5				2	3			塊
179改	6				6				背「元」１
183改	1				1				
186	6		1	3	2				布
192改	6					3	3		
204改	6				2	4			
207改	2		1		1				
219	6		2	1	3				６枚銹着
222	6		2		4				６枚銹着
231改	3		1		2				マ頭通１
233	5				5				背「元」２
237	5						5		５枚銹着
238	6		2	4					３枚，２枚銹着
243	6			1	5				６枚銹着，布

青木遺跡２区

遺構No.	総数	渡	古	文	新	鉄	不明	近代	備考
249	4		1		1	2			布
250	6						6		塊
251	6		2	1	3				６枚銹着，マ頭通１，布
252	6		2	1	3				
遺構検	5				3	2			
遺構検	5				5				
採　集	6		1		4		1		４枚，２枚銹着，布
採　集	4			1		2	1		３枚銹着
総　計	403	3	77	32	205	33	50	3	

青木遺跡５区

遺構No.	総数	渡	古	文	新	鉄	不明	近代	備考
265	6	1	2		3				永楽通宝１，６枚銹着，マ頭通１，布
271	6		1	1	4				マ頭通１，布
280	6				6				
289	6					1	5		塊
298	6		5	1					６枚銹着
305	6	1	1	1	3				祥符元宝１，マ頭通３
313	6		2	1	3				マ頭通１
317	6					3	3		６枚銹着
320	6		1	1	3	1			背「元」１
321	5		1	1	3				
324	6		1		5				背「元」１
332	6		1	1	4				
336	6		3		3				
346	5						5		
355	1				1				布
357	5					2	3		塊
360	4						4		４枚以上
361	6				5	1			６枚銹着，マ頭通１
364－１	1					1			
364－２	6				2	1	3		６枚銹着
366	1					1			
382	6		2	1	3				６枚銹着，背「元」２

青木遺跡５区

遺構No.	総数	渡	古	文	新	鉄	不明	近代	備考
387	12		4	2	6				12枚銹着，マ頭通１
392	6					5	1		６枚銹着
395	2		2						
399	6					5	1		６枚銹着
400	3						3		塊
402	6						6		塊
403	6		1		2	3			布
404	6						6		６枚銹着
405	4					4			塊
406	5					5			塊
407	5					2	3		塊
408	6					4	2		塊
415改	10					6	4		
418改	6					6			
423改	4					2	2		４枚銹着
428改	6		1		1	4			６枚銹着
429改	3			1	1		1		３枚銹着
437－１	3						3		
437－２	6		1	1	4				布
437－３	6		1		1		4		６枚銹着，紐
437－４	6						6		６枚銹着，紙，布
437－５	10		1		8		1		
439改	3					2	1		塊
448	8				1	6	1		５枚銹着
454	4		1	1	2				
456	6					4	2		布
458改	6		1		4	1			６枚銹着，布
475	5				5				
495	6					3	3		６枚銹着
497	2		2						２枚銹着
500	6	2	3	1					６枚銹着，皇宋通宝１
501	5		1		1		3		
502	6				2	2	2		６枚銹着，布
506	4				2	2			４枚銹着
509	6		1		5				５枚銹着

青木遺跡５区

遺構No.	総数	渡	古	文	新	鉄	不明	近代	備考
514	7		1		6				7枚銹着
548	6				3	1	2		布
552	6						6		布，塊
567	5		1		4				
下段南	6	2		1	3				6枚銹着，嘉慶通宝1，康熙通宝1
下段南	10		1		1	2	6		
西段下	6					2	4		6枚銹着
西段下	13		1	2	6		4		マ頭通1
総計	365	6	44	17	116	82	100	0	

＊「布」とあるのは、「布が付着」
＊「紙」とあるのは、「紙が付着」
＊「紐」とあるのは、「孔に紐が残存」
＊「塊」とあるのは、「剝ぎ取りをしていない」

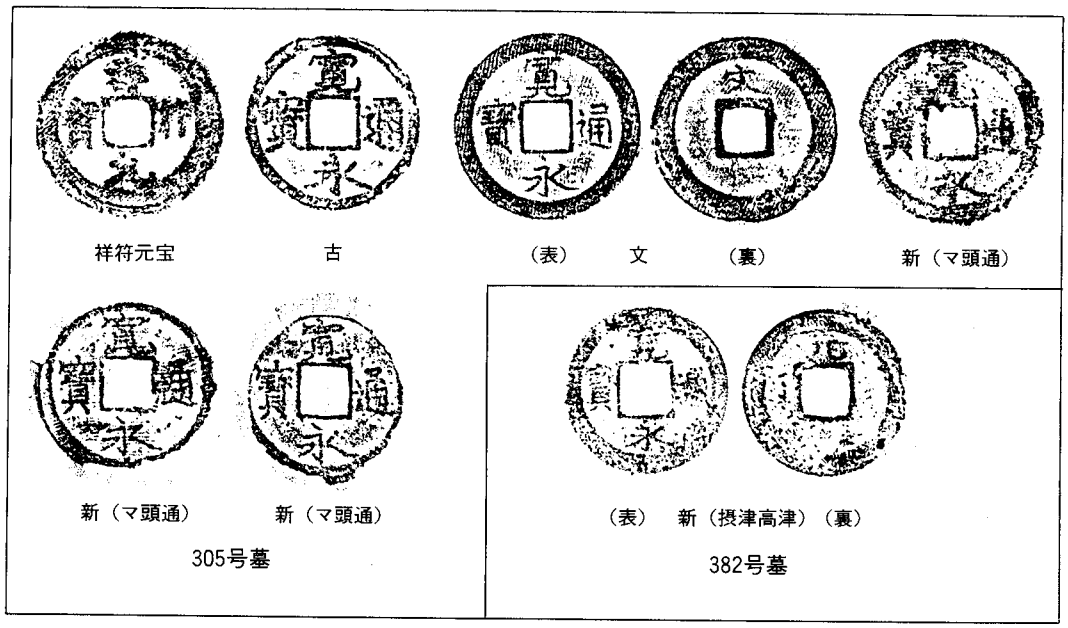


図１　出土銭貨拓影(1)　原寸

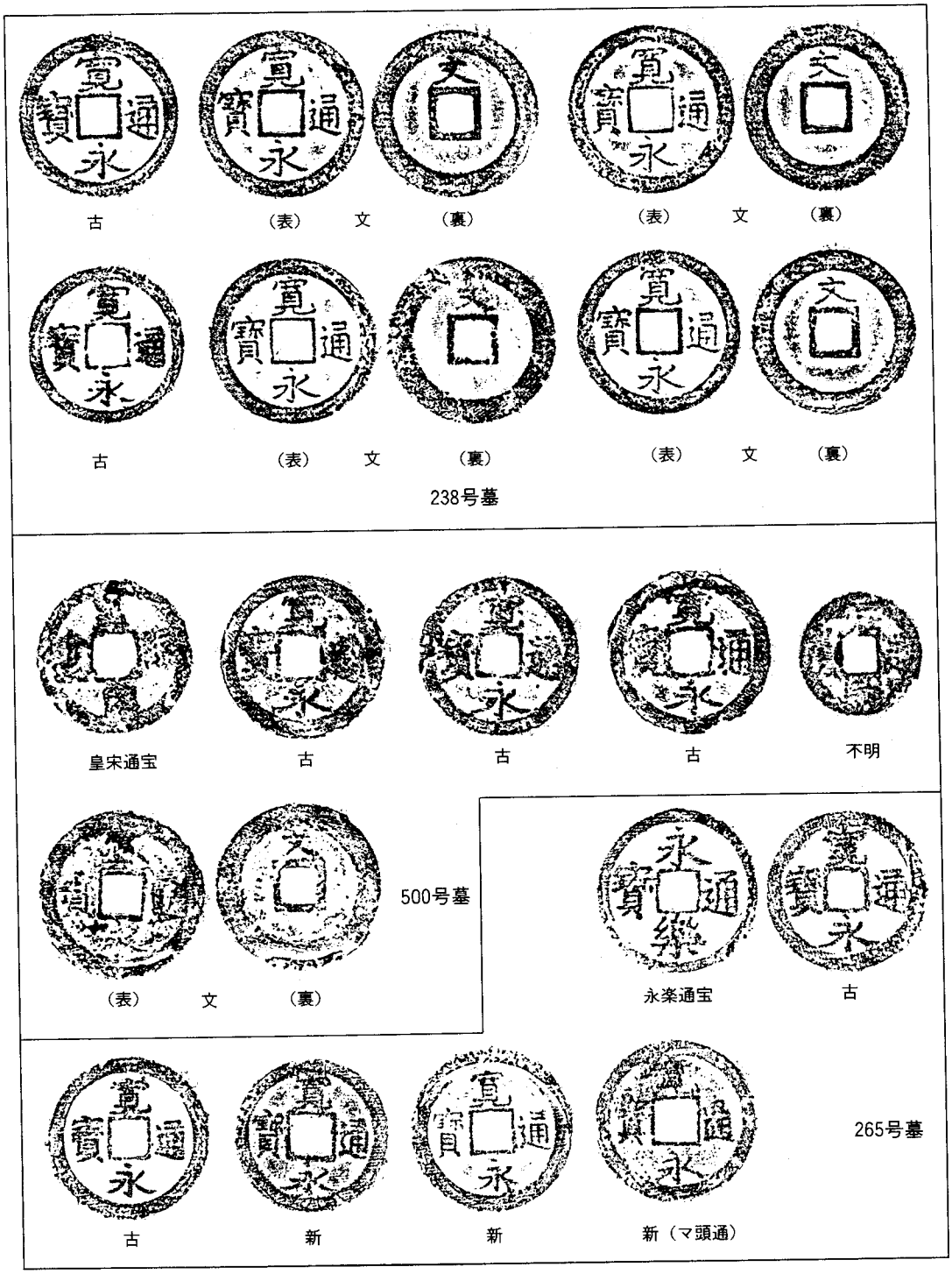


図2　出土銭貨拓影(2)　原寸

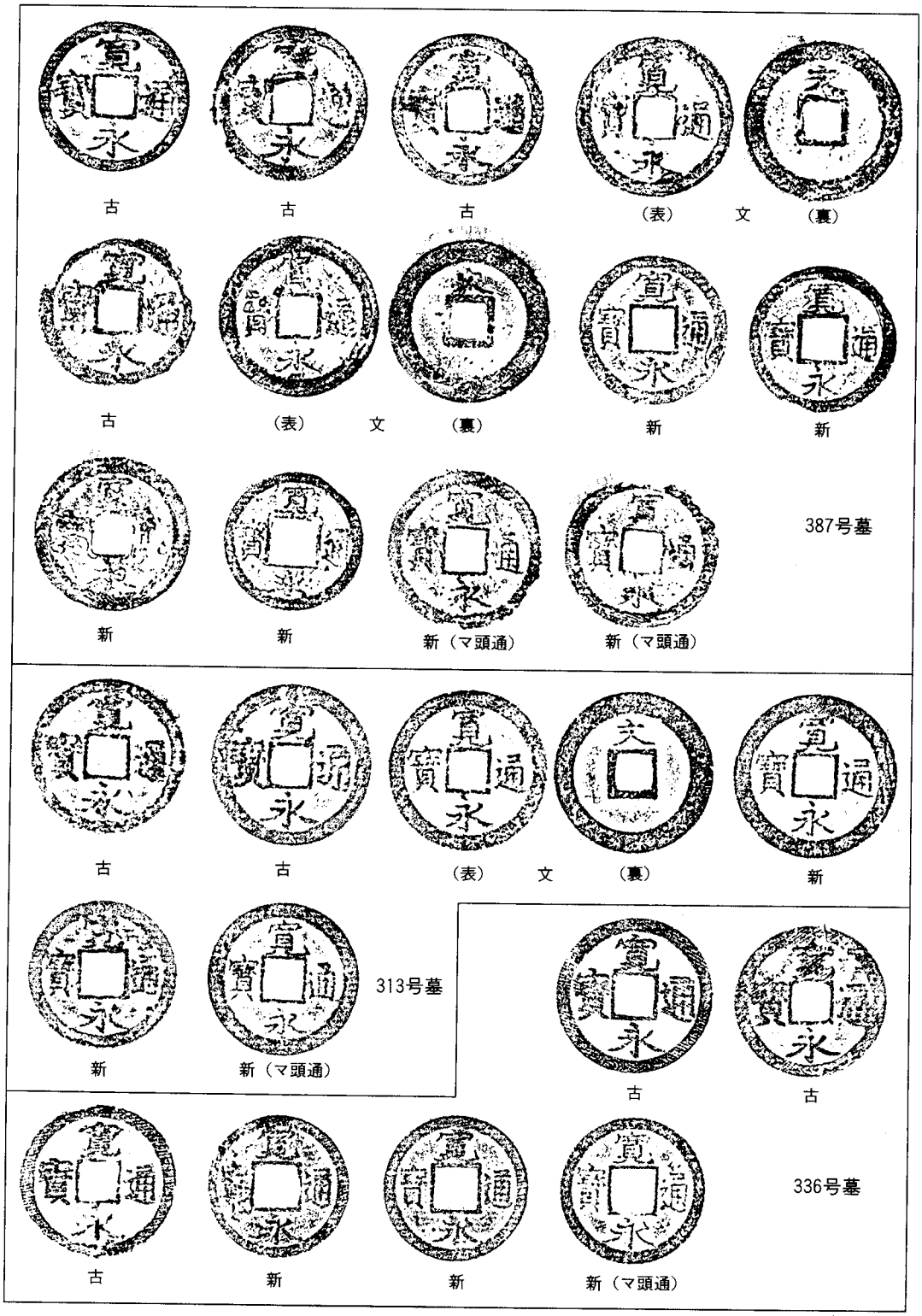


図3　出土銭貨拓影(3)　原寸

「席田青木遺跡１」1993　福岡市教育委員会
福岡市埋蔵文化財調査報告書　第356集

福岡市席田青木遺跡出土の弥生・近世人骨

中　橋　孝　博

九州大学医学部第二解剖

福岡市席田青木遺跡出土の弥生、近世人骨

中　橋　孝　博
九州大学医学部第二解剖

は　じ　め　に

福岡市南部、空港東側に広がる丘陵地帯は、金隈遺跡や月隈遺跡等、これまでも多くの遺構、遺物が発見された有数の遺跡密集地域である。1992年度、福岡市教育委員会によって区画整理に伴う事前発掘調査が実施され、その一角の青木地区から新たに弥生時代、及び近世期の墓地群が検出された。弥生時代の墓地の多くは後世の墓地造成のため破壊され、一部の人骨しか遺存していなかったが、近世期の墓地群からは比較的保存良好な江戸時代人骨が多数回収された。先に報告した同じ丘陵のやや南部、上月隈から出土した近世人骨（中橋、1991）等と同様、商都博多とその近郊に生きた人々の形質を窺う上で貴重な資料となろう。以下に出土人骨を精査した結果を報告する。

遺跡・資料・方法

席田青木遺跡は、福岡市博多区空港前５丁目から青木地区にかけての丘陵上に見いだされた集団墓地遺跡である。弥生時代の墓としては、ほぼ中期頃を中心とした甕棺墓116基の他、土壙墓40基、木棺墓１基が検出された。さらに一部この弥生墓地の上に重なるような状況で、江戸時代の木棺、早桶、甕棺墓等が計500基余り出土した。こうした状況のため、弥生墓の多くは後世の攪乱を受けて原形をとどめるものが少なく、人骨としても僅かに６体（表１）が回収されたに過ぎない。近世墓に関しても、かなり改葬された墓が多いが、それ以外では特に早桶、甕棺から、六道銭や櫛、毛抜き等の副葬品と共に大量（235体、表３、表13）の出土を見た。

所属時代は、弥生時代の甕棺人骨に付いては、その型式編年からほぼ弥生時代中期後半、土壙墓については中期前半と考えられている。また、近世人骨の所属時期は、ほぼ江戸時代全般にわたっており、埋葬施設として、古い方から木棺（～17世紀末）→早桶（17世紀末～18世紀中ごろ）→甕棺（18世紀後半～19世紀）の順に変化することが確認されている。

埋葬姿勢は、別項に表示されている様に、木棺墓では北頭位の右側臥が、早桶や甕棺では西方に顔を向けた座葬が比較的多かった。ただ、別方向、別姿勢で葬られた例も少なくなく、それほど厳密な規定はなかった模様である。

人骨の計測はMartin（1957）、鈴木（1963）、Howells（1973）らに従い、性判定は筆者らの判別関数法（Nakahashi & Nagai、1986；中橋、1988）を随時援用した。

Ⅰ 弥 生 人 骨

出土人骨を表1に一覧する。詳しい分析、観察が可能なのは、K－77号（男性・熟年）人骨のみで、他は一部の破片を遺すのみである。

表1　青木遺跡出土弥生時代人骨

保存（○：良好、△：不良、×：破片のみ）

番　号	性別	年齢	時　代	埋葬	保存	抜歯	備　考
K－18	不明	成人	中期後半	甕棺	×	不明	
K－38	男性	成人	中期後半	甕棺	×	不明	
K－43	女性	熟年	中期後半	甕棺	△	不明	
K－72	不明	成人	中期後半	甕棺	×	不明	
K－77	男性	熟年	中期後半	甕棺	○	無し	
D－30	（女性）	（若年）	中期前半	土壙	×	不明	

K－77号男性人骨の計測結果を表2に、頭部写真を図版1に示した。

脳頭蓋の諸径が男性としては小さく、特に頭高の低さが目立つ。しかし、顔面部には明らかな高顔傾向が見られ、扁平性もかなり強い。眼窩、鼻型にも高眼窩、狭鼻傾向が明らかであり、全

表2　主要頭蓋計測値の比較（男性）

		席田青木（弥生）	北九州[1]（弥生）		土井ケ浜[2]（弥生）		西北九州[3]（弥生）		広田*（弥生）		津雲・吉胡[4]（縄文）		西南日本[5]（現代）	
			N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
1	頭蓋最大長	179	118	183.7	52	182.8	21	182.8	26	166.0	60	184.2	108	181.4
8	頭蓋最大幅	137	117	142.4	54	142.6	20	144.9	25	147.2	62	144.9	108	139.3
17	Ba－Br 高	131	101	137.7	43	134.7	15	134.6	17	130.7	26	135.5	108	139.3
8/1	頭長幅示数	76.5	104	77.7	48	78.1	20	79.2	25	89.0	55	78.7	108	76.6
17/1	頭長高示数	73.2	91	75.3	42	73.7	15	74.2	17	78.7	25	73.3	108	76.9
17/8	頭幅高示数	95.6	91	97.0	43	94.3	14	93.1	17	88.5	26	93.6	108	100.1
45	頬骨弓幅	138	103	140.0	27	139.4	12	138.4	7	137.7	16	141.0	106	134.5
46	中顔幅	100	114	104.7	37	103.4	17	105.0	10	99.6	31	103.8	107	99.9
47	顔高	119	80	123.8	36	123.4	14	117.1	11	109.9	25	115.7	66	122.2
48	上顔高	74	114	74.8	35	72.4	17	68.1	12	62.9	28	66.3	92	71.8
47/45	顔示数(K)	86.2	71	88.4	24	88.5	12	84.6	7	79.9	10	80.4	64	91.4
47/46	顔示数(V)	119.0	74	118.4	34	119.3	14	111.8	9	111.2	18	110.4	65	122.2
48/45	上顔示数(K)	53.6	95	53.3	21	51.9	12	49.3	7	45.6	10	47.0	90	53.5
48/46	上顔示数(V)	74.0	105	71.5	31	70.0	17	64.8	10	63.7	22	63.1	91	71.8
51	眼窩幅(左)	40	89	43.2	38	42.7	15	43.1	9	43.4	40	43.2	108	43.0
52	眼窩高(左)	34	93	34.5	40	34.2	15	32.8	9	31.8	38	33.2	108	34.4
52/51	眼窩示数(左)	85.0	86	79.9	38	80.1	15	76.2	8	74.2	32	77.5	108	80.2
54	鼻幅	25	117	27.1	38	27.1	16	27.8	12	25.9	36	26.5	108	25.9
55	鼻高	51	116	52.8	39	53.1	16	51.0	12	45.5	30	48.1	108	52.2
54/55	鼻示数	49.0	113	51.4	37	51.0	16	54.4	11	56.4	27	54.7	108	49.8
72	全側面角	84	85	84.5	34	83.6	15	82.0	7	84.1	19	81.5	92	83.8
74	歯槽側面角	75	83	69.8	35	71.0	－	－	6	66.0	20	70.1	107	70.7

＊：広田＋鳥ノ峯

1）中橋・永井（1989），2）金関・他（1960），3)内藤（1971），4)清野・宮本（1925），金高（1928），5）原田（1954）

体として、先年、同丘陵の南部から大量に発掘された金隈弥生人集団（中橋、他、1985）等との強い類似性が認められる。

なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。

Ⅱ 近 世 人 骨

出土人骨を表3に一覧した。出土総数は235体を数える。埋葬施設として3種類、つまり木棺、早桶、甕棺が検出されているが、残念ながら時代的に最も古い木棺からの保存良好な人骨資料は小数に限られ、計測、観察に共し得たのは早桶と甕棺出土の人骨が大半を占めている。

表3 青 木 遺 跡 近 世 人 骨

保存（○：良好，△：不良，×：一部のみ）

番号	区	性	年齢	棺	保存	身長(cm)	備考	番号	区	性	年齢	棺	保存	身長(cm)	備考
1	Ⅱ	♂	成人	早桶	×	?		59	Ⅱ	?	小児	早桶	×	?	
2	〃	♂	熟年	〃	△	?		64	〃	♂	熟年	〃	×	?	
3	〃	♀	〃	木棺	×	?		65	〃	♀	老年	カメ	△	?	
4	〃	♂	成年	〃	△	?		69	〃	♂	熟年	早桶	△	?	
5	〃	♂	熟年	早桶	○	159		79	〃	♂	老年	カメ	○	162.1	
6	〃	♀	〃	カメ	×	?		80	〃	?	幼児	早桶	×	?	5～6才
7	〃	♂	〃	早桶	○	156.9		82	〃	♂	老年	カメ	△	154.3	
8	〃	♂	成人	〃	×	?		90	〃	♂	〃	早桶	△	?	
9	〃	♂	熟年	〃	×	?		100	〃	♀	熟年	〃	×	?	
10	〃	♂	〃	カメ	△	157.2		101	〃	♀	成年	〃	×	?	
11	〃	♀	若年	早桶	×	?		104	〃	♂	熟年	〃	○	161.4	
12	〃	♀	成年	〃	○	141.9		115	〃	?	幼児	〃	×	?	
13	〃	?	小児	〃	△	?	7～8才	118	〃	♀	熟年	〃	○	141.7	
15	〃	♀	老年	〃	○	?		123下	〃	♀	老年	〃	△	?	
20	〃	?	幼児	カメ	×	?	1才位	142	〃	♂	成人	カメ	×	?	
25	〃	♂	老年	〃	△	160.1		144	〃	?	幼児	〃	×	?	2～3才
26	〃	♀	熟年	早桶	×	?		147	〃	♀	老年	〃	○	153.9	左膝関節症
27	〃	♀	老年	カメ	○	?		157	〃	?	幼児	〃	×	?	2～3才
29	〃	♀	成年	早桶	△	146.1		159	〃	?	乳児	〃	×	?	
35	〃	♂	熟年	カメ	×	?		161	〃	♂	熟年	〃	○	155.7	
36	〃	♂	〃	早桶	○	161.1		162	〃	♂	成年	早桶	△	160.1	
39上	〃	?	幼児	?	×	?	1～2才	169	〃	♂	熟年	〃	○	160.9	
39下	〃	♀	熟年	早桶	△	154.3		178	〃	?	幼児	〃	×	?	3才位
44	〃	?	小児	〃	△	?		185	〃	♀	成人	—	×	?	
45	〃	?	熟年	〃	×	?		186	〃	♀	熟年	カメ	×	?	
47	〃	♀	成人	〃	×	?		191	〃	(♂)	成年	〃	△	155.4	
48	〃	♀	〃	〃	×	?		204	〃	♀	熟年	〃	×	?	
49	〃	♂	熟年	〃	△	165.7		219	〃	♂	〃	〃	○	158.4	
54	〃	?	乳児	〃	×	?		222	〃	♂	成人	早桶	×	?	
58	〃	♂	成年	〃	○	158.6		233	〃	♂	熟年	〃	○	155.1	

番号	区	性	年齢	棺	保存	身長(cm)	備考	番号	区	性	年齢	棺	保存	身長(cm)	備考
237	Ⅱ	♀	老年	カメ	×	?		298	〃	♀	熟年	木棺	×	?	
238	〃	♀	熟年	早桶	×	?		303	〃	♂	成人	早桶	×	?	
243	〃	♀	〃	〃	△	146.6		304	〃	♀	〃	早桶?	×	?	
246	〃	♀	成年	〃	△	?		305	〃	?	〃	木棺	×	?	
249	〃	?	幼児	カメ	×	?	2～3才	307	〃	?	若年	〃	×	?	
250	〃	♀	熟年	〃	△	?		308	〃	♀	熟年	〃	△	?	
251	〃	♀	成年	木棺	○	145.4		310	〃	♀	成年	〃	×	?	
								311	〃	♀	熟年	〃	△	147.1	
262	Ⅴ	♀	成人	木棺	×	?		312	〃	♀	〃	〃	×	?	
263	〃	♀	熟年	〃	×	?		314	〃	♂	成人	〃	×	?	
264	〃	♂	成年	〃	×	?		316	〃	♂	成年	〃	○	167.0	
265	〃	♀	熟年	早桶	×	?		317	〃	♀	熟年	カメ	○	152.4	
266	〃	♀	成人	木棺	×	?		318	〃	♂	〃	木棺	×	?	
267	〃	?	熟年	〃	×	?		319	〃	♀	〃	〃	×	?	
268	〃	♂	〃	〃	×	?		320	〃	?	幼児	カメ	×	?	
269	〃	♀	成人	〃	×	?		321	〃	♀	成年	早桶	○	151.6	
270	〃	♂	成年	早桶	○	?		322	〃	♂	〃	〃	○	160.9	
271	〃	♂	老年	カメ	○	158.4		323	〃	?	幼児	〃	×	?	
272	〃	♀	〃	早桶	×	?		324	〃	♂	熟年	〃	×	?	
273	〃	♀	熟年	木棺	×	?		325	〃	?	幼児	カメ	×	?	
274	〃	♂	〃	早桶	×	?		326	〃	♂	熟年	早桶	△	156.3	
275	〃	♂	〃	木棺	×	?		328	〃	♂	成人	早桶?	×	?	
276	〃	♂	〃	〃	×	?		329	〃	♂	〃	〃	×	?	
277	〃	♀	老年	早桶	×	?		331	〃	♂	老年	早桶	△	161.4	
278	〃	♂	熟年	木棺	×	?		332	〃	♀	熟年	〃	×	?	
279	〃	♀	老年	早桶	○	150.6	脊椎病変	333	〃	♀	〃	〃	×	?	
280	〃	♂	熟年	〃	○	164.8		334	〃	♂	〃	〃	○	158.8	
281	〃	♂	〃	〃	△	?		335	〃	♂	成年	木棺?	×	?	
282	〃	♀	老年	〃	×	?		336	〃	♀	熟年	早桶	○	143.4	
283	〃	♂	熟年	木棺	×	?		337	〃	♂	〃	〃	△	?	
284	〃	?	成人	〃	×	?		338	〃	♀	〃	〃	×	?	
285	〃	♀	〃	〃	×	?		339	〃	?	小児	木棺	×	?	
286	〃	♂	熟年	〃	×	?		340	〃	?	成人	〃	×	?	
287	〃	?	幼児	カメ	△	?		342	〃	♂	〃	〃	×	?	
288	〃	♂	熟年	木棺	△	?		344	〃	♂	熟年	〃	×	?	
289	〃	♂	〃	カメ	○	161.6		346	〃	♀	老年	カメ	○	?	
290	〃	♂	〃	〃	×	?		347	〃	♂	熟年	木棺	×	?	
291	〃	♂	〃	〃	×	?		348	〃	♀	〃	〃	×	?	
292	〃	♂	老年	木棺	△	161.4	左橈骨病変	350	〃	♂	〃	〃	×	?	
293	〃	♀	熟年	〃	×	?		351	〃	♂	〃	〃	×	?	
294	〃	♂	成年	〃	×	?		352	〃	♀	〃	〃	×	?	
295	〃	♂	熟年	〃	×	?		353	〃	?	〃	〃	×	?	
296	〃	♀	〃	〃	△	?		354	〃	♂	〃	〃	△	?	
297	〃	♂	成年	〃	△	158.8		355	〃	?	幼児	〃	×	?	

番号	区	性	年齢	棺	保存	身長(cm)	備考	番号	区	性	年齢	棺	保存	身長(cm)	備考
356	V	♂	老年	木棺	×	?		410	V	♀	成人	カメ	×	?	
357	〃	♂	成年	カメ	○	160.5	両下腿病変	412	〃	♂	熟年	〃	○	162.1	
358	〃	♂	老年	早桶	△	?		414	〃	?	成人	?	×	?	
359	〃	♀	〃	〃	△	?		423	〃	♂	〃	カメ	×	?	
360	〃	♂	〃	カメ	○	167.4		432	〃	♂	熟～老	〃	×	?	
361	〃	♂	〃	〃	×	?		439	〃	♀	成人	〃	×	?	
362	〃	♀	成年	〃	○	148.6		448	〃	♀	熟年	〃	△	?	
363	〃	♀	熟年	木棺	△	152.2		450	〃	?	幼児？	早桶	×	?	
364	〃	♂	〃	カメ	○	162.9		454	〃	?	幼児	早桶？	×	?	
365	〃	♂	〃	木棺	×	?		456	〃	♀	熟年	カメ	×	?	
366	〃	♂	成年	カメ	×	?		472	〃	?	幼児	〃	×	?	
367	〃	♀	成人	木棺	×	?		475	〃	?	〃	〃	×	?	
369	〃	♀	熟年	〃	×	?		476	〃	♀	老年	早桶	○	?	
373	〃	♀	〃	〃	×	?		477	〃	♂	熟年	木棺	×	?	
374	〃	♀	成年	〃	×	?		478	〃	♂	〃	〃	×	?	
375	〃	♀	熟年	木棺？	×	?		481	〃	♂	成人	早桶	×	?	
376	〃	♀	成年	木棺	×	?		489	〃	♂	熟年	早桶？	×	?	
377	〃	♂	〃	早桶	△	162.1		495	〃	♀	〃	カメ	×	?	
378	〃	?	幼児	〃	×	?		500	〃	♂	〃	早桶	○	159.4	
379	〃	♂	熟年	木棺	△	160.5		501	〃	♀	成年	カメ	○	146.1	
380	〃	?	若年	早桶	×	?		502	〃	?	若年	〃	×	?	
381	〃	?	成人	?	×	?		503	〃	♂	熟年	早桶	×	?	
382	〃	♂	老年	早桶	×	?		504	〃	♂	老年	木棺	×	?	
383	〃	♂	熟年	木棺	×	?		505	〃	♂	成人	〃	×	?	
387	〃	♀	〃	早桶	×	?		506	〃	♀	老年	カメ	○	149.5	左膝関節症
388	〃	♀	成人	〃	×	?		507	〃	♂	〃	早桶	○	156.3	
391	〃	♀	熟年	木棺	×	?		508	〃	♂	熟年	木棺？	×	?	
392	〃	♀	成年	早桶	×	?		509	〃	♀	老年	カメ	○	144.2	
393	〃	♀	熟年	〃	×	?		511	〃	♀	成人	木棺	×	?	
394	〃	?	乳児	?	×	?		512	〃	♀	熟年	〃	×	?	
395	〃	♀	老年	カメ	△	?		513	〃	?	小児	早桶？	×	?	
396	〃	♀	成人	木棺	×	?		514	〃	♂	成年	カメ	○	162.9	右上腕骨折
397	〃	?	〃	木棺？	×	?		515	〃	♀	成年	木棺	×	?	
398	〃	♂	熟年	早桶	○	161.6		516	〃	♂	成人	木棺？	×	?	
399	〃	♀	〃	カメ	○	146.2		517	〃	♂	〃	〃	×	?	
400	〃	♀	成年	〃	○	147.2		519	〃	?	幼児	早桶？	×	?	4～5才
401	〃	♂	〃	早桶？	×	?		520	〃	?	成人	木棺	×	?	
402	〃	♂	熟年	カメ	○	154.3		521	〃	?	小～若	〃	×	?	
403	〃	♂	〃	早桶？	×	?		523	〃	♀	熟年	〃	×	?	
404	〃	♂	老年	カメ	△	?		524	〃	♀	〃	早桶	×	?	
405	〃	♀	〃	〃	×	?		548	〃	?	小児	〃	×	?	
406	〃	♂	熟年	〃	△	?		556	〃	?	小児？	〃	×	?	
407	〃	♀	〃	〃	△	?		566	〃	?	〃	?	×	?	
408	〃	♂	老年	〃	×	?		567	〃	?	幼児	早桶	×	?	

2－1　頭　蓋　形　質

計測結果を表４に、また男女の主要比較群と共にそれぞれ表５，６に示した。

（脳頭蓋）

男女とも長頭傾向が明らかである。図１にも示したように、吉母浜中世人（中橋・永井、1985）程の強度の長頭ではないが、現代人（原田、1954）とは確差が認められ、同時代人でもこの点に

表４　席田青木遺跡出土江戸時代人骨・頭蓋計測値

Martin No.		男性 N	Mean	S.D.	Max.	—	Min.	女性 N	Mean	S.D.	Max.	—	Min.
M 1	頭最大長	32	184.4	3.8	193	—	168	26	176.9	5.7	189	—	168
M 8	頭最大幅	32	139.4	5.1	152	—	129	28	133.0	5.1	143	—	123
M 17	Ba－Br 高	29	138.1	4.0	149	—	131	24	132.4	4.2	140	—	125
M 8/1	頭長幅示数	32	75.6	2.5	81.0	—	70.5	25	75.1	3.8	84.0	—	66.1
M 17/1	頭長高示数	29	74.9	2.3	81.4	—	71.6	23	75.1	2.3	79.9	—	71.4
M 17/8	頭幅高示数	29	99.2	4.1	107.2	—	91.3	23	100.6	4.5	113.6	—	94.0
M 5	頭基底長	30	102.7	5.0	115	—	94	22	98.0	4.8	104	—	86
M 9	最小前頭幅	32	94.4	4.9	105	—	85	24	92.1	4.0	100	—	86
M 11	両耳幅	26	128.5	4.3	140	—	122	19	120.7	5.1	129	—	112
M 12	最大後頭幅	24	110.5	4.4	116	—	99	23	107.1	5.6	118	—	98
M 23	頭蓋水平周	29	525.4	12.1	555	—	507	22	504.7	13.8	536	—	480
M 24	横弧長	29	313.6	10.6	338	—	295	22	305.5	9.7	325	—	285
M 25	正中矢状弧長	22	382.0	12.3	406	—	365	20	368.1	11.7	389	—	345
M 40	顔長	19	103.5	5.3	115	—	91	11	96.5	7.1	109	—	84
M 43	上顔幅	30	105.6	4.0	114	—	100	19	100.6	4.0	108	—	95
M 44	両眼窩幅	27	98.8	3.7	108	—	92	16	94.6	4.7	104	—	89
M 45	頬骨弓幅	31	137.8	4.9	150	—	130	23	128.4	4.7	139	—	121
M 46	中顔幅	28	101.6	4.9	113	—	93	20	95.8	6.0	110	—	86
M 47	顔高	22	122.5	7.8	135	—	103	12	114.9	6.8	124	—	102
M 48	上顔高	27	72.4	4.4	82	—	65	14	67.6	3.7	75	—	61
M 47/45	顔示数(K)	19	89.4	5.4	96.9	—	75.2	11	89.8	4.2	94.7	—	82.3
M 47/46	顔示数(V)	20	120.4	7.9	136.8	—	99.0	12	120.9	7.6	136.0	—	108.0
M 48/45	上顔示数(K)	23	53.0	3.0	58.0	—	47.4	11	52.8	2.7	57.3	—	48.5
M 48/46	上顔示数(V)	23	71.6	4.2	82.1	—	62.5	12	71.0	4.2	79.1	—	63.0
M 51	眼窩幅(左)	29	42.4	2.1	47	—	39	19	41.3	2.4	45.0	—	37
M 52	眼窩高(左)	29	33.7	1.8	37	—	31	19	33.6	1.7	37	—	30
M 52/51(L)	眼窩示数(左)	29	79.4	3.6	86.0	—	72.3	19	81.5	3.6	86.8	—	75.0
M 54	鼻幅	30	26.8	1.7	30	—	23	25	25.8	2.0	30	—	22
M 55	鼻高	33	50.9	3.2	57	—	45	24	49.0	2.9	54	—	44
M 54/55	鼻示数	30	52.9	4.2	62.2	—	45.6	24	52.8	3.8	59.6	—	44.9
M 50	前眼窩間幅	34	19.3	1.8	23.0	—	15.5	23	17.4	2.6	24.0	—	13.5
M F	鼻根横弧長	34	21.4	1.9	26	—	17	23	19.3	2.6	26	—	16
M 50/F	鼻根彎曲示数	34	90.2	3.8	97.7	—	84.5	23	90.1	4.6	96.8	—	77.8
M 57	鼻骨最小幅	34	8.0	1.8	12.2	—	5.2	25	7.6	2.1	11.3	—	3.4
M 72	全側面角	18	84.2	3.7	92	—	78	10	84.7	2.7	89	—	79
M 73	鼻側面角	17	87.7	3.6	93	—	82	10	89.8	3.3	96	—	83
M 74	歯槽側面角	17	71.3	5.8	86	—	59	10	68.5	4.1	74	—	61
H. VRR	Vertex Rad.	27	125.7	4.0	133	—	119	23	123.0	4.3	133	—	114
H. NAR	Nasion Rad.	27	95.5	4.1	104	—	88	23	92.2	4.0	98	—	83
H. SSR	Subsp Rad.	21	97.0	5.5	109	—	86	13	90.3	5.1	98	—	81
H. PRR	Prosth Rad.	17	104.4	6.4	118	—	92	9	96.6	4.1	103	—	90

表5　主要頭蓋計測値の比較（男性）

		席田青木（近世）		天福寺[1]（近世）		桑島[2]（近世）		吉原[3]（近世）		湯島[4]（近世）		吉母浜[5]（中世）		西南日本（現代）	
		N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
1	頭蓋最大長	32	184.4	38	182.6	13	180.1	31	178.1	92	183.5	16	181.8	108	181.4
8	頭蓋最大幅	32	139.4	38	138.6	13	131.0	31	140.6	92	141.1	17	136.2	108	139.3
17	Ba－Br 高	29	138.1	33	139.2	11	135.9	25	138.3	91	138.5	17	139.4	108	139.3
8/1	頭長幅示数	32	75.6	37	76.0	13	72.7	30	79.2	92	77.0	16	74.9	108	76.6
17/1	頭長高示数	29	74.9	33	76.2	11	75.5	24	78.0	91	75.6	16	76.8	108	76.9
17/8	頭幅高示数	29	102.7	33	100.8	11	104.6	24	98.8	91	98.2	17	102.5	108	100.1
45	頬骨弓幅	31	137.8	25	136.4	5	126.3	11	132.8	81	136.4	18	135.2	106	134.5
46	中顔幅	28	101.6	24	101.8	7	101.1	22	99.9	91	101.6	19	100.3	107	99.9
47	顔高	22	122.5	14	126.9	4	122.4	—	—	4	123.5	11	117.3	66	122.2
48	上顔高	27	72.4	18	74.5	7	70.5	12	68.4	65	71.8	16	69.8	92	71.8
47/45	顔示数(K)	19	89.4	13	93.2	2	93.7	—	—	4	91.7	11	86.4	64	91.4
47/46	顔示数(V)	20	120.4	13	123.9	3	115.8	—	—	—	—	11	116.5	65	122.2
48/45	上顔示数(K)	23	53.0	17	54.4	5	55.4	6	51.4	56	53.0	16	51.7	90	53.5
48/46	上顔示数(V)	23	71.6	17	73.1	7	70.2	10	67.7	64	70.9	16	69.8	91	71.8
51	眼窩幅(左)	29	42.4	24	42.6	7	40.9	23	42.0	95	43.3	18	42.0	108	43.0
52	眼窩高(左)	29	33.7	24	34.1	8	34.4	23	33.7	95	35.1	18	34.4	108	34.4
52/51	眼窩示数(左)	29	79.4	23	80.9	6	83.6	23	80.1	95	81.6	18	82.1	108	80.2
54	鼻幅	30	26.8	24	26.5	8	25.9	23	26.7	93	25.1	17	26.0	108	25.9
55	鼻高	33	50.9	24	52.9	8	50.5	25	52.0	93	53.6	16	51.4	108	52.2
54/55	鼻示数	30	52.9	24	50.1	8	51.3	23	51.8	91	48.7	16	50.5	108	49.8
72	全側面角	18	84.2	16	83.2	7	80.4	9	80.9	71	85.1	15	82.5	92	83.8
74	歯槽側面角	17	71.3	16	67.0	8	64.5	9	68.8	71	68.4	14	65.2	107	70.7

1)　中橋(1987)，　2)　脇(1970)，　3)　欠田(1959)，　4)　森田・河越(1960)，　5)　中橋・永井(1985)

表6　主要頭蓋計測値の比較（女性）

		席田青木（近世）		天福寺（近世）		桑島（近世）		湯島（近世）		吉原（近世）		吉母浜（中世）		西南日本（現代）	
		N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
1	頭蓋最大長	26	176.9	38	174.7	4	172.6	60	173.2	13	169.5	26	176.4	42	172.8
8	頭蓋最大幅	28	133.0	38	133.5	4	128.5	60	136.8	16	136.3	26	132.0	42	133.8
17	Ba－Br 高	24	132.4	35	132.7	4	132.0	59	134.1	10	132.8	25	133.0	42	131.5
8/1	頭長幅示数	25	75.1	38	76.5	4	74.4	60	79.0	13	81.1	26	74.9	42	77.5
17/1	頭長高示数	23	75.1	35	76.1	4	76.5	59	77.5	9	77.9	25	75.4	42	76.2
17/8	頭幅高示数	23	100.6	35	99.4	4	102.9	59	98.1	9	97.0	25	100.7	42	98.4
45	頬骨弓幅	23	128.4	30	126.5	—	—	44	125.9	—	—	26	128.3	42	124.3
46	中顔幅	20	95.8	25	95.5	2	91.6	54	95.1	—	—	27	98.6	42	93.6
47	顔高	12	114.9	15	115.9	2	117.7	3	119.0	—	—	18	111.5	10	113.0
48	上顔高	14	67.6	22	68.8	2	71.4	38	68.3	—	—	19	65.5	48	68.6
47/45	顔示数(K)	11	89.8	15	91.1	—	—	—	—	—	—	18	86.3	10	90.5
47/46	顔示数(V)	12	120.9	15	120.9	2	128.6	—	—	—	—	18	111.5	10	118.3
48/45	上顔示数(K)	11	52.8	22	54.3	—	—	32	54.5	—	—	22	51.6	40	55.1
48/46	上顔示数(V)	12	71.0	22	71.8	2	78.0	35	72.3	—	—	22	66.5	40	73.2
51	眼窩幅(左)	19	41.3	30	40.5	2	39.8	54	41.7	9	39.8	25	41.1	42	40.7
52	眼窩高(左)	19	33.6	30	34.3	2	34.7	54	35.3	9	33.0	25	33.9	42	34.0
52/51	眼窩示数(左)	19	81.5	29	84.8	2	87.3	54	84.7	9	83.1	26	82.7	42	83.7
54	鼻幅	25	25.8	26	25.3	2	24.2	52	24.6	7	25.4	125	25.9	42	25.2
55	鼻高	24	52.8	28	49.9	2	49.9	52	50.4	7	48.3	125	48.6	42	48.7
54/55	鼻示数	24	52.8	26	51.0	2	48.4	50	49.2	7	53.2	125	53.5	42	51.9
72	全側面角	10	84.7	18	82.5	2	76.9	46	83.7	—	—	22	82.8	40	82.8
74	歯槽側面角	10	68.5	17	65.0	2	63.7	46	67.1	—	—	22	61.8	40	67.1

於いて、特に畿内（欠田、1959）や東京出土の江戸時代人（森田・河越、1960）とは明確な違いを見せている。また、頭高はかなり高く、熊本県の桑島江戸時代人（脇、1970）を除いて、同時代や後世の集団と大差は無い。その他、頭水平周が男女とも（男：525.4、女：504.7mm）かなり大きい点が目立つ。

（顔面頭蓋）

頬骨弓幅など、顔面幅径は現代人に較べて比較的大きく、天福寺江戸時代人（中橋、1987）等と類似する。しかし高径の大きさはさ程でもなく、各顔面、上顔示数はやや小値をとって、図1に見るように、博多の天福寺と山口県の吉母浜中世人のほぼ中間的な傾向を窺わせる。また、眼窩はやや小さく、鼻型では男女とも現代人よりやや広鼻に傾く。鼻根部の扁平性は中世人に似て著しく扁平だが（鼻根彎曲示数－男：90.2、女：90.1）、歯槽部の突顎性は男女とも弱く、中世人とは明確な違いを現している。

表7　上　肢　骨　計　測　値（男性）

		席田青木（近世）			天福寺（近世）		桑島[1]（近世）		江戸[2]（近世）		吉母浜（中世）		九州[3]（現代）	
		N	M	S.D	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
上腕骨														
1	最大長	18	296.6	15.1	21	296.9	10	293.6	—	296.8	14	295.8	106	295.3
2	全長	16	292.6	15.0	19	293.3	10	293.0	—	292.8	14	291.6	106	290.6
5	中央最大径	30	24.1	1.8	22	22.9	14	20.8	—	22.7	20	22.6	106	21.9
6	中央最小径	30	18.6	1.6	22	17.7	14	15.9	—	17.7	20	17.6	106	16.9
7	骨体最小周	28	67.1	4.4	22	63.8	14	62.4	—	63.5	20	62.5	106	61.8
7a	中央周	30	70.0	4.6	22	66.5	14	67.0	—	69.4	20	66.1	106	63.7
6/5	骨体断面示数	30	77.3	5.8	22	77.6	14	76.5	—	78.3	20	78.1	106	79.1
7/1	長厚示数	17	22.6	1.5	16	21.3	10	21.6	—	21.4	14	21.4	106	20.9
橈骨														
1	最大長	19	231.4	14.3	23	228.5	—	—	—	224.2	17	228.0	64	219.9
2	機能長	14	215.9	15.5	23	212.2	—	—	—	210.8	16	213.6	64	208.2
3	最小周	26	44.9	3.2	23	42.2	—	—	—	41.6	20	41.9	63	40.1
4	骨体横径	27	18.3	1.6	23	17.5	—	—	—	16.6	20	16.9	63	16.0
4a	骨体中央横径	22	16.9	1.7	23	15.7	—	—	—	15.6	20	15.5	63	15.2
5	骨体矢状径	27	13.2	0.9	23	12.6	—	—	—	11.9	20	12.1	63	11.7
5a	骨体中央矢状径	22	13.3	0.9	22	12.6	—	—	—	12.0	20	11.9	63	11.9
3/2	長厚示数	14	20.4	1.3	21	19.8	—	—	—	19.8	16	19.8	61	20.4
5/4	骨体断面示数	27	72.6	3.4	23	72.0	—	—	—	71.8	20	71.6	60	71.4
5a/4a	中央断面示数	22	78.8	5.4	22	80.3	—	—	—	77.5	20	77.5	40	77.9
尺骨														
1	最大長	15	249.8	12.1	18	244.6	—	—	—	242.1	14	247.4	62	236.2
2	機能長	13	222.6	12.1	18	214.6	—	—	—	211.2	12	217.5	64	209.2
3	最小周	18	40.4	2.3	20	37.5	—	—	—	36.4	17	37.5	65	35.8
11	矢状径	30	13.6	1.0	24	13.1	—	—	—	12.8	19	12.8	63	12.8
12	横径	30	17.6	1.7	24	17.0	—	—	—	16.2	19	17.6	64	16.5
3/2	長厚示数	12	18.3	1.0	18	17.5	—	—	—	17.2	11	17.9	63	17.0
11/12	骨体断面示数	30	77.7	7.2	23	77.9	—	—	—	79.0	19	73.7	63	74.9

1）立志(1970)，2）遠藤・他(1967)，3）専藤(1957)，溝口(1957)

2－2　四肢骨形質

計測結果を表7－10に示した。

（上肢骨）

男女とも現代人（専頭、1957；溝口、1957）に較べてやや長く、特に前腕にその傾向が明らかである。同時代の博多の天福寺や東京の江戸時代人（遠藤、他、1967）と比較しても、幾分上回る傾向が見られる。骨幹諸径での比較関係でも同様で、青木江戸時代人の上肢骨は全体的に江戸時代人としては長く、頑丈な特徴を持つといえよう。なお、骨幹の断面形状に扁平性等は認められず、比較群との間にこの点での大きな差は見られない。

（下肢骨）

現代人（阿部、1955；鑄鍋、1955）との比較関係では、上肢と同様、長・幅径とも明らかに上

表8　上肢骨計測値（女性）

		席田青木（近世）			天福寺（近世）		桑島（近世）		江戸（近世）		吉母浜（中世）		九州（現代）	
		N	M	S.D	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
上腕骨														
1	最大長	7	284.9	10.2	19	273.7	6	268.6	－	269.7	19	270.0	36	271.7
2	全長	5	281.0	11.9	15	271.4	6	266.4	－	266.0	18	267.4	36	268.6
5	中央最大径	17	21.6	1.7	20	20.3	7	18.0	－	19.6	28	19.9	36	19.8
6	中央最小径	17	16.2	1.9	20	15.5	7	13.8	－	14.9	28	14.8	36	14.8
7	骨体最小周	17	59.1	5.3	21	56.0	7	55.3	－	54.1	28	54.1	36	54.8
7a	中央周	17	62.1	5.5	20	59.3	7	57.9	－	56.9	28	57.3	36	56.9
6/5	骨体断面示数	17	75.2	6.1	20	75.9	7	76.7	－	76.6	28	74.1	36	75.3
7/1	長厚示数	7	20.8	2.2	17	20.7	6	20.7	－	20.1	19	20.0	36	20.2
橈骨														
1	最大長	6	206.2	8.9	12	197.9	－	－	－	199.8	18	206.0	12	199.9
2	機能長	6	192.8	9.0	11	183.5	－	－	－	188.9	18	193.1	12	187.0
3	最小周	11	40.2	2.5	16	35.7	－	－	－	34.5	27	34.6	12	34.7
4	骨体横径	15	16.2	1.5	16	15.3	－	－	－	14.4	27	15.1	12	14.5
4a	骨体中央横径	8	15.8	0.9	14	14.0	－	－	－	13.5	27	13.4	12	13.5
5	骨体矢状径	15	11.5	0.8	16	10.3	－	－	－	9.8	27	10.1	12	9.7
5a	骨体中央矢状径	8	11.6	0.5	14	10.2	－	－	－	10.0	27	10.1	12	9.7
3/2	長厚示数	5	20.8	1.8	11	19.4	－	－	－	18.3	18	17.9	11	18.1
5/4	骨体断面示数	15	71.8	8.8	15	67.4	－	－	－	68.4	27	67.3	10	68.3
5a/4a	中央断面示数	8	73.9	4.2	14	73.2	－	－	－	74.6	27	75.3	13	73.9
尺骨														
1	最大長	4	223.7	7.9	11	211.1	－	－	－	223.4	20	222.4	12	215.0
2	機能長	3	195.7	9.9	11	184.3	－	－	－	195.7	22	196.7	12	189.2
3	最小周	5	36.4	1.8	12	32.4	－	－	－	31.5	25	32.5	12	32.1
11	矢状径	17	11.9	2.0	17	11.2	－	－	－	10.5	28	10.8	12	10.9
12	横径	17	16.2	1.5	17	14.3	－	－	－	14.1	28	14.9	12	13.9
3/2	長厚示数	3	18.8	1.4	11	17.6	－	－	－	16.1	22	16.7	12	16.8
11/12	骨体断面示数	17	73.7	7.5	17	79.0	－	－	－	75.1	28	72.8	12	77.5

回っているが、同時代人と比較して、特に下腿骨の長径では逆に天福寺等より短く、大腿や上肢で見られた傾向とは異なっている。ただ、骨幹の幅、周径はかなり大きく、男性では大腿骨や脛骨の長厚示数は比較群中の最高値となっている。また、断面形状において、男女とも大腿骨中央部の示数が小さく（前後に比較的薄い）、男性ではさらに骨体上部にも中世人に似た扁平性が見られるなど、近隣の博多の天福寺江戸時代人とはかなり違った特徴も窺われた。

2－3　推　定　身　長

大腿骨最大長にピアソンの推定式を適用して求めた推定身長を表11に示す。男性160.3cm、女性148.6cmとなり、同丘陵の弥生時代人とは較ぶべくもないが、天福寺を始めとした近、中世の比

表9　下　肢　骨　計　測　値（男性）

		席田青木（近世）			天福寺（近世）		桑島（近世）		江戸（近世）		吉母浜（中世）		九州[1]（現代）	
		N	M	S.D	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
大腿骨														
1	最大長	31	419.6	17.1	20	415.2	11	419.8	－	413.8	18	419.1	59	406.5
2	自然位長	13	418.0	19.5	18	410.0	11	416.7	－	410.3	15	418.1	59	403.2
6	中央矢状径	40	28.1	1.7	17	27.7	16	27.1	－	28.3	19	28.1	59	26.5
7	中央横径	40	29.0	1.9	17	26.9	16	25.2	－	27.4	19	27.7	59	25.6
8	中央周	39	89.4	4.9	17	85.4	14	84.0	－	87.2	19	87.8	59	82.4
9	骨体上横径	38	33.8	1.9	14	30.4	14	30.2	－	30.7	19	32.1	59	29.4
10	骨体上矢状径	38	25.7	1.7	14	26.3	14	23.3	－	27.8	19	24.1	59	24.3
8/2	長厚示数	12	21.5	1.1	13	20.5	11	20.3	－	21.3	14	21.2	59	20.4
6/7	中央断面示数	40	97.0	6.7	17	104.1	16	107.9	－	103.9	19	101.3	58	103.8
10/9	上骨体断面示数	38	76.2	5.1	14	86.7	14	77.3	－	91.2	19	76.1	58	82.8
脛骨														
1	全長	21	330.3	19.2	13	339.5	12	333.4	－	327.1	12	341.9	61	320.3
1a	最大長	24	337.0	17.8	16	340.1	12	339.5	－	331.2	11	348.0	60	326.9
8	中央最大径	26	30.2	2.2	14	29.4	16	27.5	－	28.9	20	29.6	61	27.8
8a	栄養孔位最大径	34	34.4	2.8	15	33.7	－	－	－	32.9	20	33.8	60	30.6
9	中央横径	26	22.7	2.1	14	21.9	17	20.4	－	21.6	20	21.6	61	21.1
9a	栄養孔位横径	34	24.9	2.6	15	24.1	－	－	－	23.7	20	24.0	61	23.7
10	骨体周	25	83.0	5.0	14	80.4	17	80.5	－	79.4	20	80.8	62	78.4
10a	栄養孔位周	32	93.0	6.5	15	91.3	17	89.7	－	89.3	20	90.8	61	88.9
10b	最小周	29	76.0	4.5	15	73.7	17	73.3	－	70.8	20	74.5	60	71.3
9/8	中央断面示数	26	75.4	6.1	14	74.8	17	74.2	－	74.9	20	73.0	61	76.1
9a/8a	栄養孔位断面示数	34	72.3	5.6	15	71.9	－	－	－	72.2	20	71.0	60	77.5
10b/1	長厚示数	19	23.0	1.2	8	21.3	12	22.5	－	21.7	12	22.0	60	22.4
腓骨														
1	最大長	6	333.0	23.0	12	335.3	5	332.6	－	327.2	10	335.0	58	322.9
2	中央最大径	24	15.2	1.8	13	14.3	15	14.5	－	15.3	17	16.1	59	14.5
3	中央最小径	24	11.2	1.3	13	10.8	15	10.7	－	11.0	18	10.8	59	10.0
4	中央周	24	43.7	3.9	13	40.5	15	44.4	－	43.4	17	44.8	59	41.5
4a	最小周	14	38.0	3.9	10	35.9	13	38.4	－	36.3	19	37.3	59	35.6
3/2	中央断面示数	24	74.2	9.2	13	75.5	15	74.2	－	72.1	17	68.0	59	69.5
4a/1	長厚示数	6	11.1	1.1	7	11.1	5	11.9	－	11.1	11	11.5	58	11.1

1）阿部(1955)，鑄鍋(1955)

表10 下 肢 骨 計 測 値（女性）

		席田青木（近世）			天福寺（近世）		桑島（近世）		江戸（近世）		吉母浜（中世）		九州（現代）	
		N	M	S.D	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M
大腿骨														
1	最大長	15	389.1	18.3	18	380.6	7	397.7	—	377.9	25	378.0	13	380.1
2	自然位長	5	388.4	19.1	16	376.7	7	393.1	—	374.4	24	375.8	13	375.9
6	中央矢状径	25	24.8	1.6	21	23.6	7	24.5	—	24.8	28	23.3	13	23.6
7	中央横径	25	26.6	1.7	21	24.0	7	23.4	—	24.1	28	24.8	13	23.2
8	中央周	23	80.5	4.5	21	75.2	7	75.8	—	76.9	28	76.1	13	74.2
9	骨体上横径	25	30.2	2.6	17	27.7	7	26.9	—	26.5	28	29.1	13	27.5
10	骨体上矢状径	25	23.0	2.2	17	22.7	7	20.8	—	25.5	28	20.9	13	21.3
8/2	長厚示数	3	21.2	0.7	15	19.8	7	19.3	—	20.5	24	20.4	13	19.8
6/7	中央断面示数	25	93.6	6.9	21	98.7	7	104.6	—	103.1	28	94.5	13	102.0
10/9	上骨体断面示数	25	77.0	14.5	17	82.3	7	77.9	—	97.3	28	72.0	13	77.1
脛骨														
1	全長	8	309.1	14.3	15	301.8	5	319.0	—	301.5	16	309.2	14	301.0
1a	最大長	10	314.0	12.7	15	305.6	5	324.5	—	305.8	17	313.8	14	306.6
8	中央最大径	10	26.1	2.1	17	24.4	6	26.2	—	25.3	26	26.1	14	24.7
8a	栄養孔位最大径	19	29.5	3.2	19	27.8	—	—	—	28.8	25	29.7	14	28.1
9	中央横径	10	20.1	1.6	17	18.6	6	18.1	—	18.9	26	18.3	14	18.8
9a	栄養孔位横径	19	21.6	2.8	19	20.7	—	—	—	21.2	25	20.0	14	21.1
10	骨体周	9	72.2	5.2	17	67.5	6	74.9	—	70.0	26	70.3	14	70.1
10a	栄養孔位周	19	80.6	8.2	19	76.5	6	81.8	—	78.1	25	78.3	14	78.2
10b	最小周	15	66.1	4.7	17	62.7	6	69.4	—	63.7	25	64.9	14	63.6
9/8	中央断面示数	10	77.1	4.2	17	76.9	6	69.6	—	72.4	26	70.4	14	76.3
9a/8a	栄養孔位断面示数	19	73.5	6.0	19	75.0	—	—	—	73.6	25	67.4	14	74.9
10b/1	長厚示数	6	21.4	1.0	14	21.2	5	22.0	—	21.1	16	20.6	14	21.2
腓骨														
1	最大長	2	323.0	9.0	6	300.0	4	315.2	—	296.1	13	304.7	14	300.6
2	中央最大径	7	15.1	1.6	11	12.8	5	13.2	—	12.8	23	13.7	14	12.9
3	中央最小径	7	11.3	1.6	11	9.2	5	8.9	—	9.4	23	9.7	14	8.6
4	中央周	7	42.7	3.6	11	36.6	5	42.1	—	37.3	22	39.2	14	36.8
4a	最小周	5	34.2	3.1	8	32.9	5	36.0	—	31.9	22	33.0	14	32.3
3/2	中央断面示数	7	74.8	9.5	11	71.9	4	67.5	—	73.9	23	71.3	14	67.6
4a/1	長厚示数	2	11.0	1.0	5	11.0	5	11.4	—	10.7	13	11.1	10	10.8

較群よりは高く、江戸時代人としてはやや高身長の集団といえる。

表11 推定身長の比較

（cm）

	男性 N	男性 M	女性 N	女性 M
席田青木（近）	30	160.3	15	148.6
上月隈（近）[1]	8	158.9	1	137
天福寺（近）	24	159.4	20	146.5
桑島（近）	10	158.8	5	150.4
粒江（近）[2]	—	158.4	—	—
江戸（近）	95	159.1	45	146.4
吉母浜（中）	18	159.7	22	146.5
材木座（中）[3]	10	159.7	3	146.9
金隈（弥）	17	162.7	17	151.3
西南日本（現）	37	157.7	10	146.3

1） 中橋(1991)， 2） 渡辺・他(1982)， 3） 鈴木(1956)

2－4　病　変　例

病変例を表12に示す。

表12　骨　病　変　例

番　号	性別	年齢	部　位	病　変
K－147	女性	老年	左膝	膝関節症
K－279	女性	老年	脊椎	骨粗しょう症に因る楔状椎
K－292	男性	老年	左橈骨	不整な骨増殖、肥厚
K－357	男性	成年	左右下腿骨	不整な骨増殖、肥厚
K－506	女性	老年	左膝	膝関節症
K－514	男性	成年	右上腕骨	変形治癒骨折

注目すべき病変例として、まず、K－279号、老年女性の胸、腰椎に見られた、楔状椎が上げられる（図版参照）。骨粗しょう症によって椎体が脆弱化した結果、ヘルニアの一種であるシュモール結節（椎間板の髄核が椎体内に脱出）が形成され、椎体前部が上下に潰された形となって、腰椎部の彎曲が全体的に正常とは逆の後方に突の変形を来している。こうした病変の結果、生前、この老婆はかなり腰を曲げた姿勢を余儀なくされていたと推測される。いわゆる骨粗しょう症は現代でも熟、老年女性で特に問題になっている病変だが、当例はその江戸時代における一例となるものである。

また、K－292号、老年男性の左橈骨に著明な骨増殖、肥厚が認められた。右前腕には変化は見られない。偏側ではあり、また下腿やその他の部位にも変化は認められないことから、梅毒などの感染症の可能性は低い。橈骨は全体的に変形が著しく、数カ所に瘻孔が形成されている。また、同側の尺骨の骨幹に骨折を疑わせる肥厚が認められることから、一応、前腕骨折を端緒とした、化膿性骨髄炎が疑われる。レントゲン等による詳しい診断結果については稿を改める予定であるが、いずれにしろ、抗生物質の普及した現代では稀な病態といえよう。

2－5　埋葬者の死亡年齢構成

表13に、人骨の性・年齢構成を示した。やや男性数が上回っているが、骨の遺存状況や、改葬の事実からみて、特に不自然な偏りとは言い難い。問題は、未成人死亡者の割合である。235体の出土総数の内、ここでは僅かに36体（15％）が数えられたに留まり、後世の明治時代の比較的正確な人口調査結果でも最低40％を未成人死亡者が占めることを考え併せると、異常に低い比率となっている。また、未成人死亡者の内訳について特にこの構成表で目立つのは、幼児数（20体）に較べて、乳児死亡者数の少なさである。乳児期は一般的に最も死亡率が高く、明治時代でも幼児死亡者数の1.6～1.7倍に達し、未開社会になるほど、その死亡率は高くなるとされている（水

表13　席田青木遺跡出土近世人骨

年齢		男性	女性	不明	計	
未成人	乳児	—	—	3	3	
	幼児	—	—	20	20	
	小児	—	—	8	8	
	若年	—	1	4	5	(36)
成人	成年	16	14	0	30	
	熟年	55	43	3	101	
	老年	16	17	0	33	
	不明	14	14	7	35	(199)
計		101	89	45	235	

島，1962；鬼頭，1986)。改葬や骨の遺存していない墓の存在を考慮してもなお、不自然な比率であることは否めない。

こうした結果からいえることは、当時この墓地を営んだ江戸時代の集団では、幼児以降（1歳以上）の子供は埋葬することがあっても、まだ赤ん坊の乳児期に死亡した場合はこの墓地に殆ど埋葬していない、ということである。また、幼児以降の年齢層についても、埋葬されるのは恐らく半数か3分の1以下に留まったものと推測される。当時の子供の死者に対する社会通念、扱い方の一端を窺う意味で興味深い。

Ⅲ　総括・考察

1992年度の福岡市教育委員会による発掘調査によって、同市博多区空港前の席田青木遺跡から、弥生人骨6体と、近世人骨計235体が出土した。人骨についての人類学的な検討結果は以下のように概括される。

（弥生人）

- 弥生人骨は高顔性が明らかで、金隈弥生人等、周辺地域から大量に出土している、いわゆる「渡来系」弥生人との強い類似性が認められる。
- 風習的抜歯の痕跡は認められない。

（近世人骨）

- 脳頭蓋は全体的にサイズが大きく、かなりの長頭性と高頭傾向が認められる。
- 顔面部は現代人よりは広顔で、博多の天福寺江戸時代人ほどの強度の高顔傾向は見られない。眼窩は小さく、やや広鼻に傾く。鼻根は扁平性が強く、歯槽性突顎は弱い。
- 四肢は全体的に近世人としてはやや長く、頑丈であり、特に上肢にその傾向が強い。骨幹断面形状に目立った特徴はないが、ただ、男性大腿骨の骨体上部にやや扁平性が認められる。

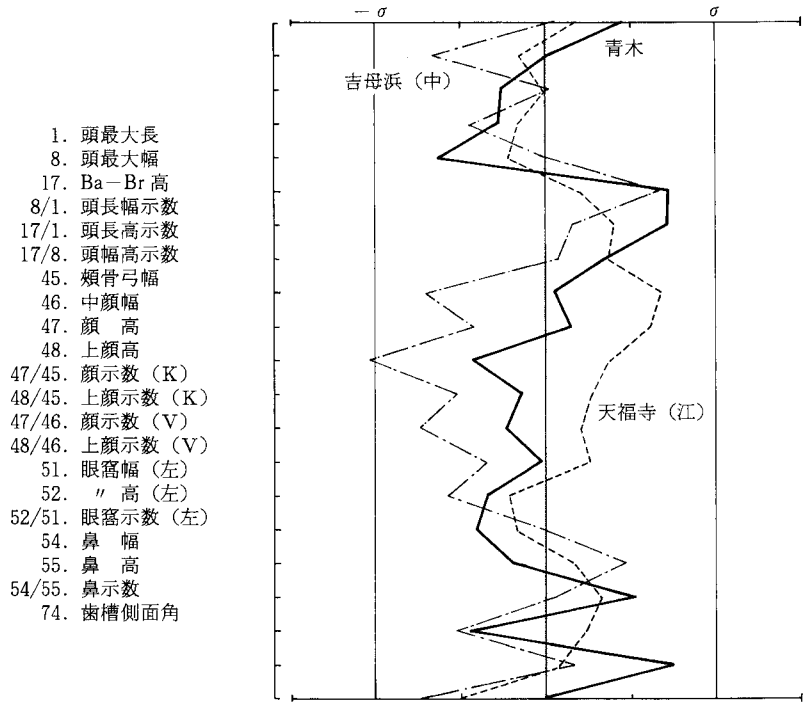


図1　偏　差　折　線（基準線：西南日本現代・男性）

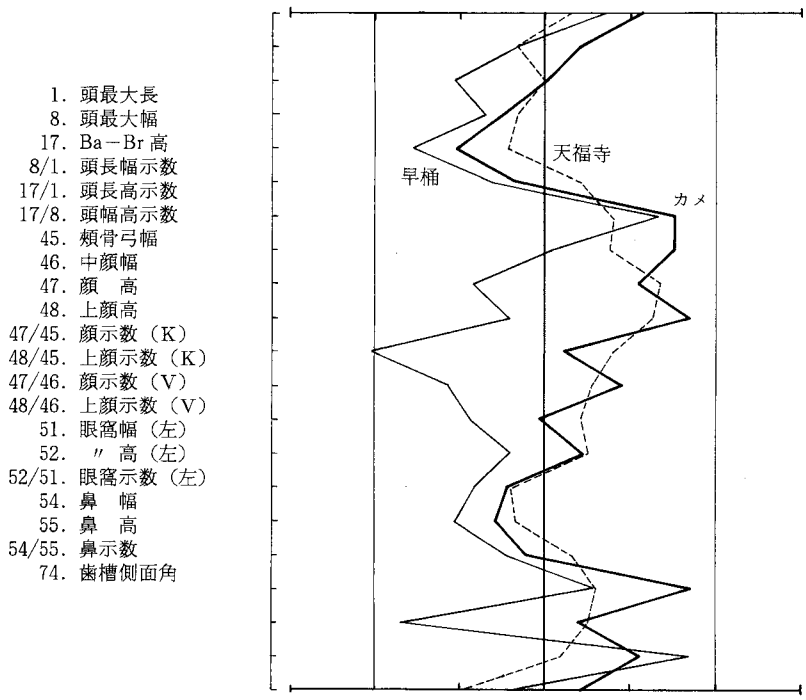


図2　偏　差　折　線（基準線、西南日本現代・男性）

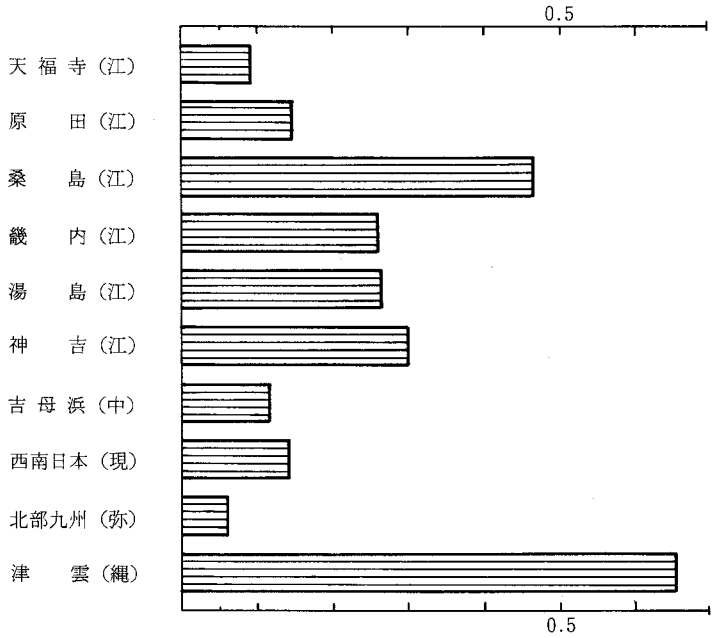


図３　ペンロースの形態距離（男性、頭蓋９項目）

• 推定身長は、男性160.3、女性148.6cmで、共に近世人としてはやや高身長集団である。

青木近世人に見られた特徴で注目したいのは、まずかなりの長頭傾向を見せる点である。天福寺近世人に関しても指摘したように、畿内や東京とは異なり、この北部九州では少なくとも明治、大正頃まで、中世以降の長頭傾向を残しており、今回の結果もそうした地域性を確認させるものである。

また、青木の顔面において、特にその高顔性が天福寺ほどではなく、図１に見るように、ちょうど中世人と天福寺の中間的傾向を見せる点も興味深い。青木遺跡近世人からのペンロースの形態距離を求めた結果（図３）に示されたように、全体的な傾向としては、かなり明らかな地域性が見られ、天福寺や吉母浜中世人、あるいは北部九州弥生人とも近い関係を示す一方で、畿内や関東の同時代人とは大きな隔たりを見せている。しかし、図４の主成分分析の結果では、ペンロースの距離で近く出た天福寺等とは、その内容において必ずしも同質ではなく、むしろかなり中世人的な傾向を含んでいることが示されている。地理的には近接しながらも、都市住人と非都市住人との間にこのような差異が改めて確認されたことは、近世以降の急激な形態変化の要因を探る上で一つの手がかりとなろう。

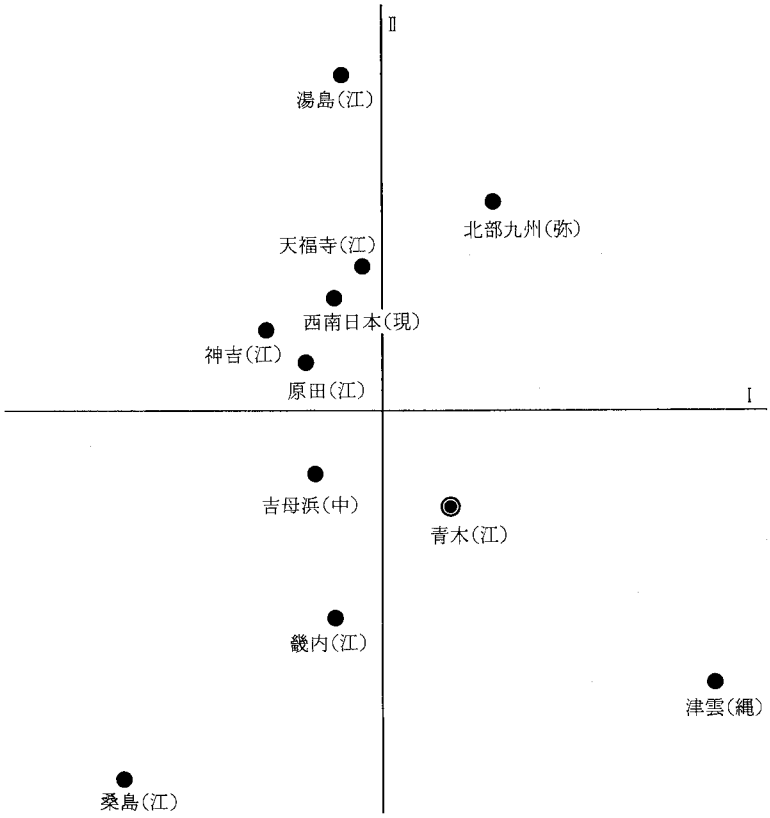


図4　主成分分析（男性、頭蓋9項目）

さらにこの点に関して、青木近世人を時代的に古い早桶の被葬者と新しいカメ棺とで分離して比較してみると、図2に見るように明らかな時代差が見いだされた。つまり後世のカメ棺人の方が天福寺近世人に近づく変化傾向を見せ、中世人的特徴がこの博多近郊の農村でもかなり急速に現代人的特徴へと変化しつつあったことが示されている。ヒトの形質に変化を与える要因は実に多岐にわたっており、その内実の解明は容易ではなかろうが、形態学における課題として、今後ともさらに資料を充実させ、まずは変化の実態をより詳細に明らかにしていく必要があろう。博多とその周辺地域は、そうした問題を考えていく上で、貴重な知見をもたらすものと期待される。

文　　献

阿部英世（1955）：「現代九州人大腿骨の人類学的研究」、人類学研究２。

遠藤萬里、北条輝幸、木村賛（1967）：「四肢骨」　増上寺徳川将軍墓とその遺品・遺体（鈴木、他、編）、東京大学出版界。

原田忠昭（1954）：「現代西南日本人頭骨の人類学的研究」、人類学研究１。

Howelles, W. W.（1973）：Cranial variation in man. Pap. Peabody Mus. Archaeol. Ethnol., vol. 67, Harvard Univ.

池田次郎（1988）：「吉備地方海岸部の縄文時代人骨」、考古学と関連科学（鎌木義昌先生古希記念論集）

鑄鍋命達（1955）：「九州人下腿骨の研究」、人類学研究２。

金関丈夫・永井昌文・佐野一（1960）：「山口県豊浦郡豊北町土井ケ浜遺跡出土弥生式時代人頭骨について」、人類学研究７。

欠田早苗（1959）：「畿内人頭骨の人類学的研究」　人類学輯報、25。

河越逸行（1957）：「湯島無縁坂出土の江戸時代人頭蓋骨の人類学的研究」、慈恵会医大解剖業績16。

鬼頭宏（1983）：「日本二千年の人口史」、PHP 研究所。

金高勘次（1928）：「吉胡貝塚人骨の人類学的研究」、人類学雑誌43。

清野謙次・宮本博人（1926）：「津雲貝塚人人骨の人類学的研究、第２部、頭蓋骨の研究」、人類学雑誌41。

Martin－Saller（1957）：Lehrbuch der Anthropologie. Bd. I. Gustav Fischer Verlag. Stuttgart.

溝口静男（1957）：「現代九州日本人前腕骨の人類学的研究」　人類学研究４。

水島治夫（1962）：「生命表の研究」、生命保険文化研究所。

森田茂・河越逸行（1960）：「湯島無縁坂出土の江戸時代人頭蓋骨の人類学的研究補遺」、人類学雑誌67。

内藤芳篤（1971）：「西北九州出土の弥生時代人骨」、人類学雑誌79。

中橋孝博（1987）：「福岡市天福寺出土の江戸時代人頭骨」、人類学雑誌95。

中橋孝博（1988）：「古人骨の性判定法」、日本民族・文化の生成（永井昌文教授退官記念論文集）、六興出版。

中橋孝博（1991）：「福岡市上月隈遺跡出土人骨（近世・弥生）」、福岡市埋蔵文化財調査報告書257。

中橋孝博・永井昌文（1985）：「山口県吉母浜遺跡出土人骨」、吉母浜遺跡、下関市教育委員会。

Nakahashi, T. and M. Nagai (1986) : Sex assessment of fragmentary skeletal remains. J. Anthrop. Soc. Nippon, 94.

中橋孝博・永井昌文（1989）：「弥生人の形質」、弥生文化の研究Ⅰ、雄山閣

中橋孝博・土肥直美・永井昌文（1985）：「金隈遺跡出土の弥生時代人骨」史跡金隈遺跡、福岡市埋蔵文化財調査報告書123。

立志悟郎（1970）：「熊本県牛深市桑島出土の江戸時代人、上肢骨の人類学的研究、下肢骨の人類学的研究」、熊本医学会雑誌40。

佐藤亮（1960）：「東京都台東区神吉町から出土した江戸時代人頭骨の人類学的研究」　慈恵会医大解剖業績23。

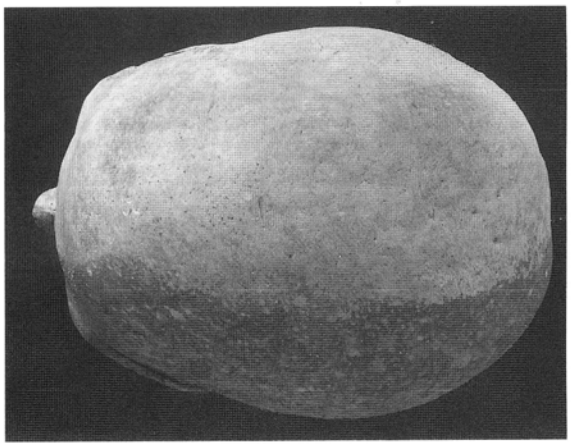
専頭時義（1957）：「現代九州日本人上腕骨の人類学的研究」、人類学研究４。

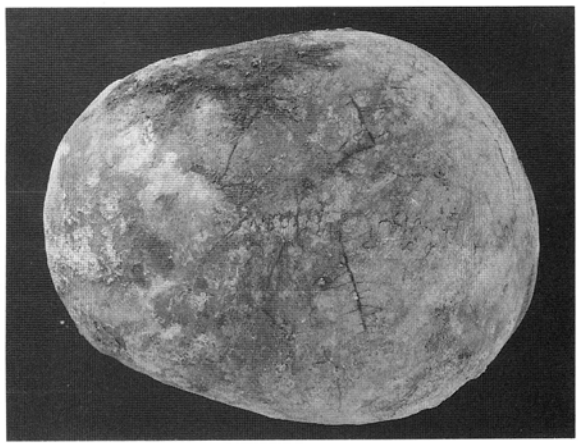
鈴木尚（1956）：「鎌倉材木座発見の中世遺跡とその人骨」、岩波書店、東京。

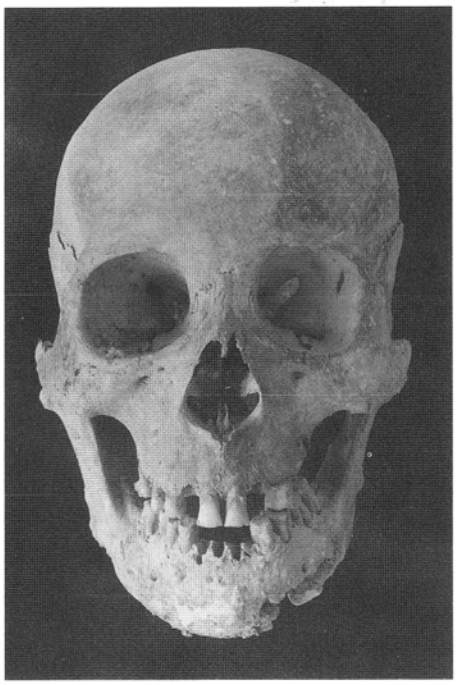
鈴木尚（1963）：「日本人の骨」、岩波新書477。

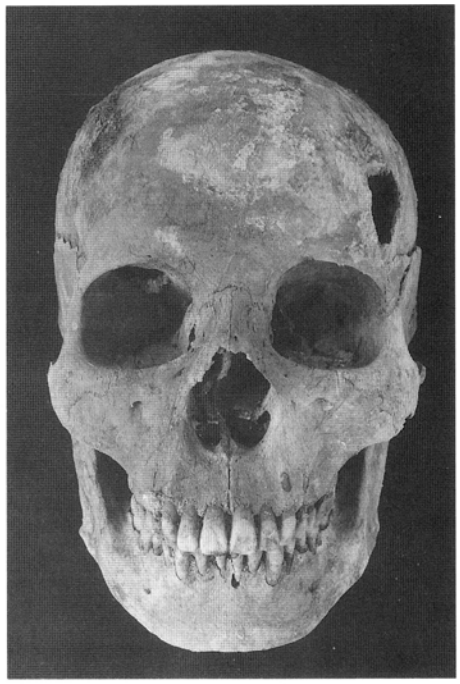
脇達也（1970）：「熊本県牛深市桑島出土の江戸時代人頭骨の研究」、熊本医学会雑誌44。

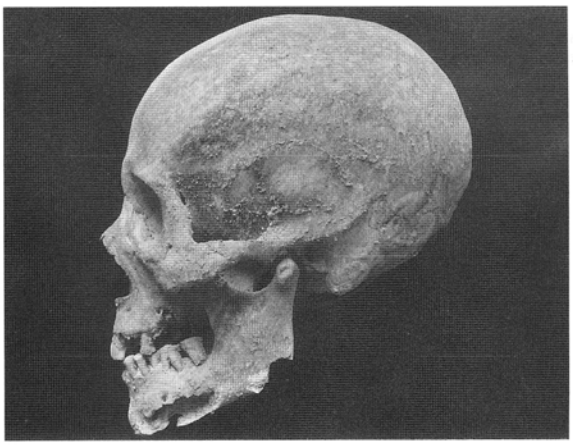
渡辺聡子・和田洋・欠田早苗（1982）：「倉敷市粒江遺跡出土の江戸時代人頭蓋の研究」、人類学雑誌90。



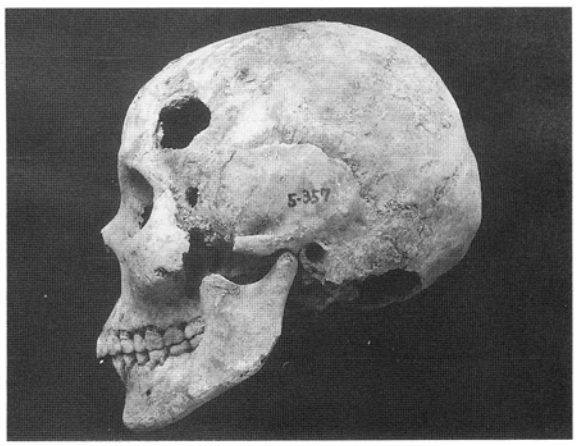






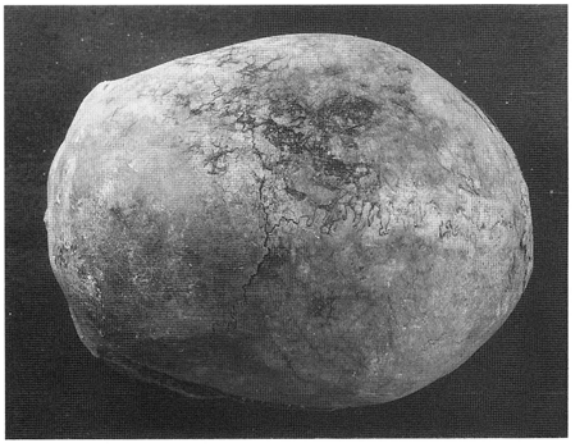


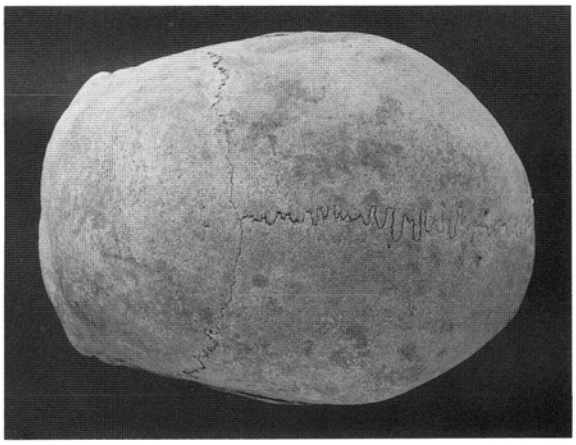
（弥生時代）　K－77号（♂・熟年）

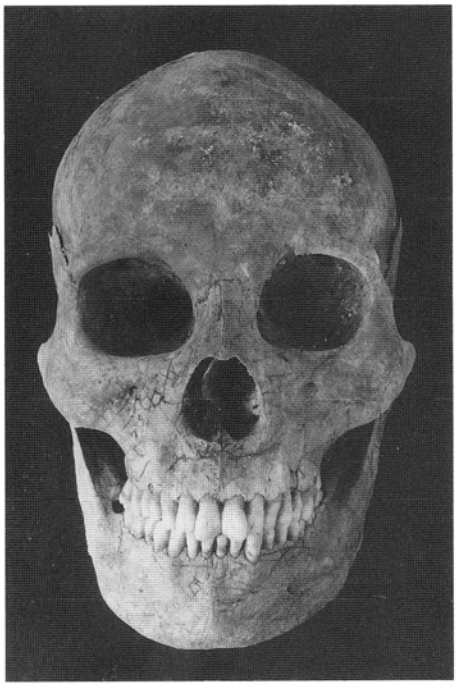


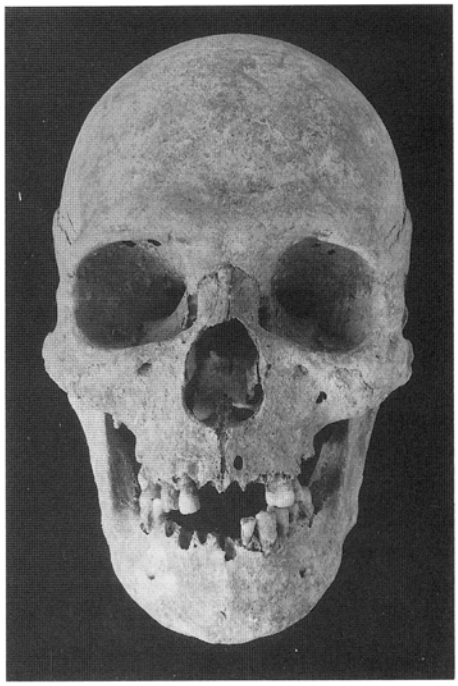
（江戸時代）　357号（♂・成年）

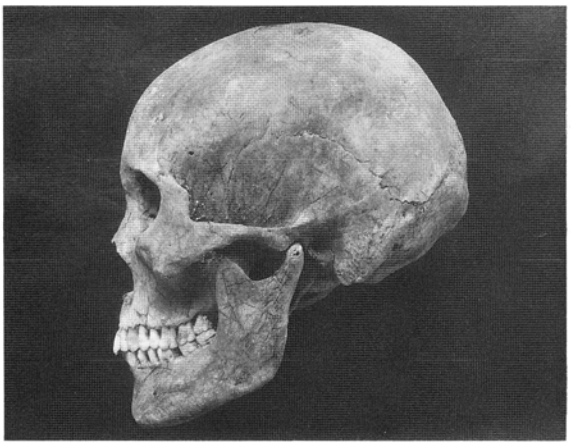
図版 2



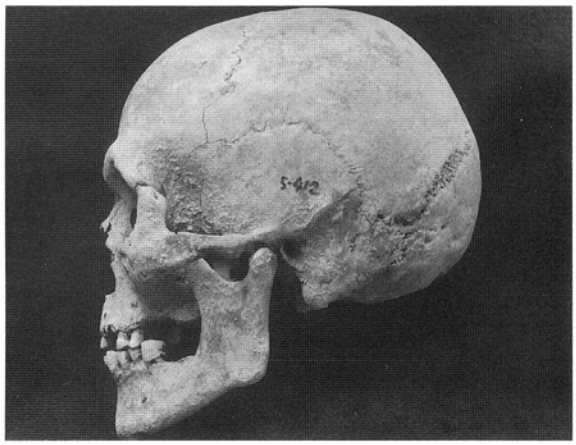




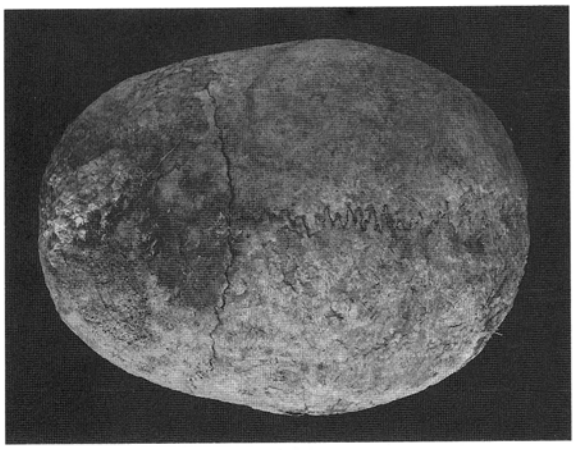


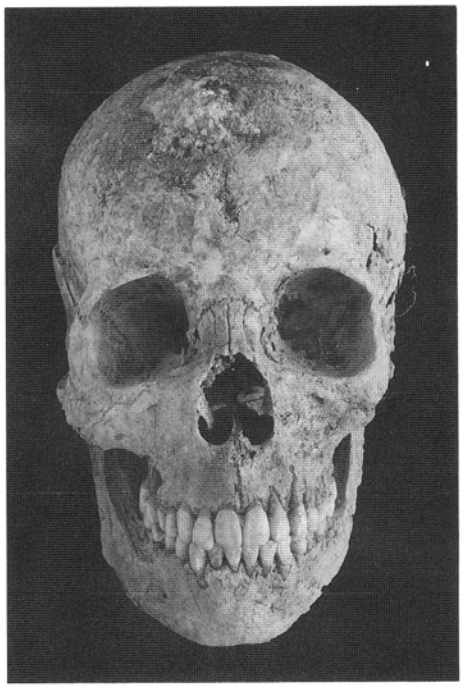


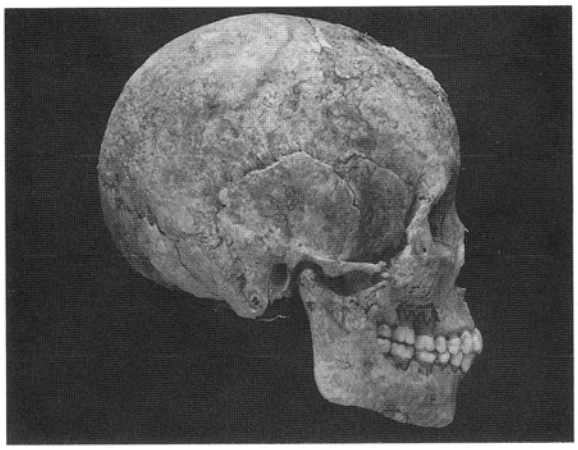
（江戸時代）　500号（♂・熟年）



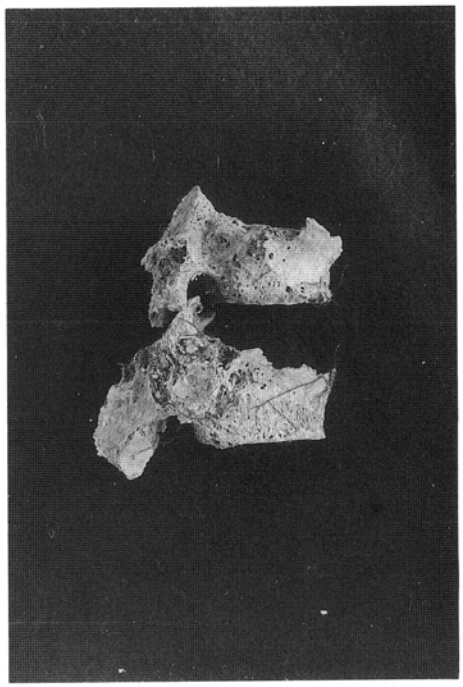
（江戸時代）　412号（♂・熟年）



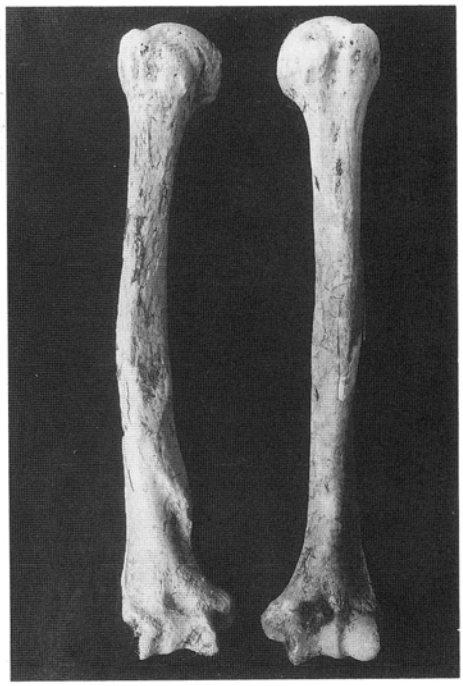




（江戸時代）　12号（♀・成年）



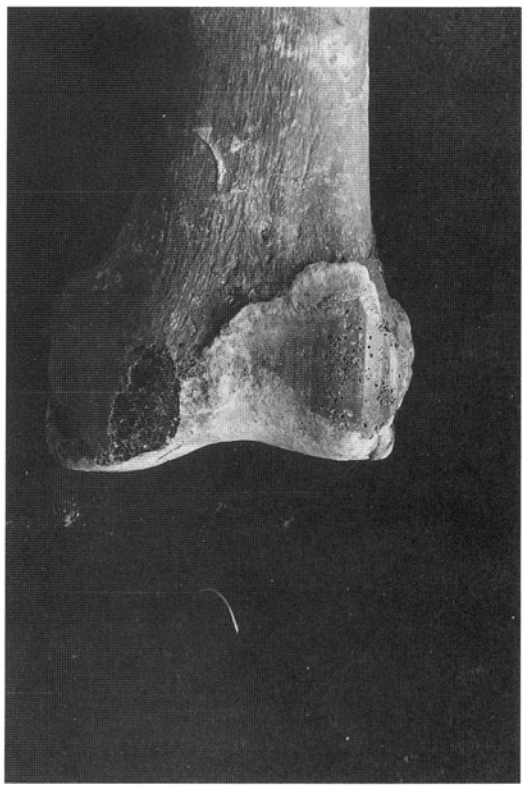
279号（♀・老年）
楔　状　椎



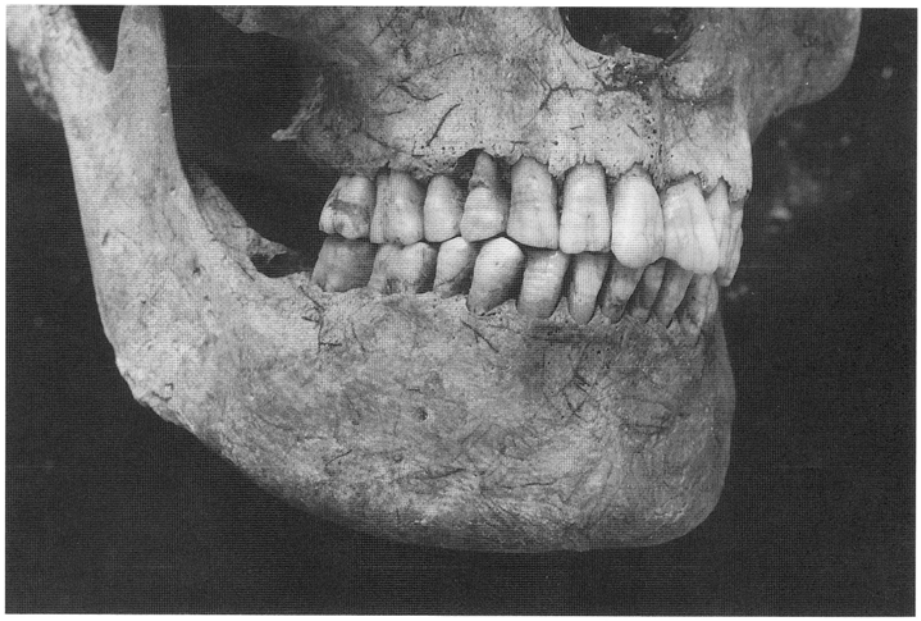
514号（♂・成年）
右上腕骨骨折

図版 4

292号（♂・老年）左橈骨病変



147号（♀・老年）膝関節症



316号（♂・成年）エナメル質減形成